

Fig.118 SD388-2～4区・土層ベルト出土土器 (1/4)

SD471 (Fig.94、PL.58) 高所部O-24区で検出した小溝。長さ7m、最大幅1.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黒色粘土で地山ブロックを含む。

出土遺物 (Fig.120-131・133) 弥生時代前期前半の土器や黒曜石剣・石庖丁片などが出土。

349は突帯文の深鉢で、外面貝殻条痕、内面は工具ナデかケズリ調整。夜臼II b期のもの。350は上げ底の底部で中期前半の城ノ越期もの。ナデ調整で外面指押え痕が残る。

451は管状土鍤片。残存長2.6cm、径1.9cm、孔径0.6cmを測る。ナデ調整で、孔は植物の茎などで開けたものか、孔がやや曲がる。

S16は石庖丁未製品片。粗削加工段階の厚み7mmの薄板で、直径約1cmの未開通の孔が残る。泥岩か砂岩系の変成岩か。

SD481 O-23区で検出した東西方向の小溝。長さ10m、幅1m、深さは最大20cmを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.120・134、PL.106) 弥生土器や古墳時代土師器、黒曜石剥片などが出土している。351は古墳時代前期の上師器鉢。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

S30は凹基の石鏡。縦身長2.9cm、幅1.9cm、厚み0.2cmを測る。両側に細かい二次調整が入る。石材はサヌカイト。

SD482(PL.58) SD481の北側で東西方向に平行する溝。長さ9m、幅0.8~1.8m、深さ0.35mを測る。埋土は黒色粘土である。SD471・481と平行しており第3面と同じように重機のキャタピラ痕の可能性がある。前期の土坑SK517と重複する。

出土遺物(Fig.121、PL.92) 弥生時代前期から中期の上器や黒曜石の剥片が出土している。前期の遺物はSK517からの可能性がある。

352~354は前期板付I式期の壺。352は小型壺。口縁部は肥厚する。内外面へラミガキ調整。353・354は中型の壺で、別々の破片であるが、同形態と思われる。頸部と胴部に段を持つ。外面へラミガキ、内面はナデ又は板ナデ調整。355は壺か甕の円盤貼り付けの底部。外面には木の葉圧痕が残る。356・357は甕。356は板付I式期の小型甕。口端部にはヘラによる刻目が付く。内外面の調整はナデ。357は板付II式期の甕。口端部は平坦で、下端に刻目が付く。358~361は突帯文土器の夜臼IIb期の甕。358は口縁部に刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。359は口縁部と胴部に1条ずつ刻目突帯を巡らす。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。いずれも刻目はハケ目工具による。360は内傾する口縁部で刻目突帯が付く。外面貝殻条痕、内面はナデ調整。361は内側に屈曲する胴部で復元胴径は19.5cmを測る。屈曲部には刻目突帯が1条巡る。外面は貝殻条痕、内面はナデ調整。刻目はハケ目工具によるものが358・359、ヘラによるものが360・361である。362は口縁部が肥厚する小型の浅鉢。外面はへラミガキと板ナデ、内面はナデとミガキ調整。363は高杯。口縁部が底部から段をつけて外反して開く。内外面へラミガキ。364は縁端部が外反する脚部。外面ハケ目、内面ナデ調整。

SD493(PL.58) 調査区P-24区で検出した小溝。全長6m、最大幅1m、最大深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトで、下層に灰オリーブ粘土を混入する。

出土遺物(Fig.121) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土するが、前期のものが多い。

365は土師器の高杯脚部。やや摩滅するが内外面はへラミガキ調整。366は突帯文土器の夜臼IIb式の深鉢。口縁の突帯はハケ目工具による刻目。内外面ハケ目調整。367は甕の底部。外面ハケ目、内面はナデ調整。368は甕の胴部片。屈曲部にヘラによる刻目が付く。外面ハケ目でススが付着し、内面ハケ後ナデ調整。

SD497 P-Q-24区で検出した小溝。SD444の延長上にあるので、同一の遺構の可能性がある。SK496に切られる。規模は幅12m、幅0.4~1.2mを測り、深さは浅く最大で5cmである。埋土は黒褐色粘土である。

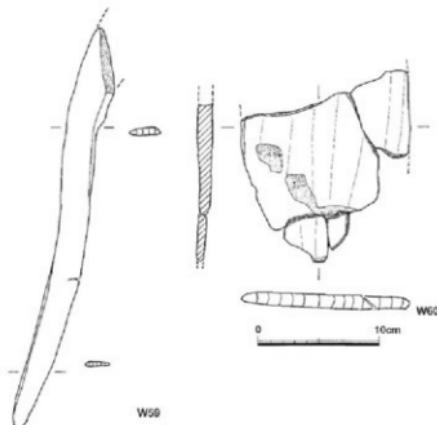


Fig.119 SD388出土木製品 (1/4)

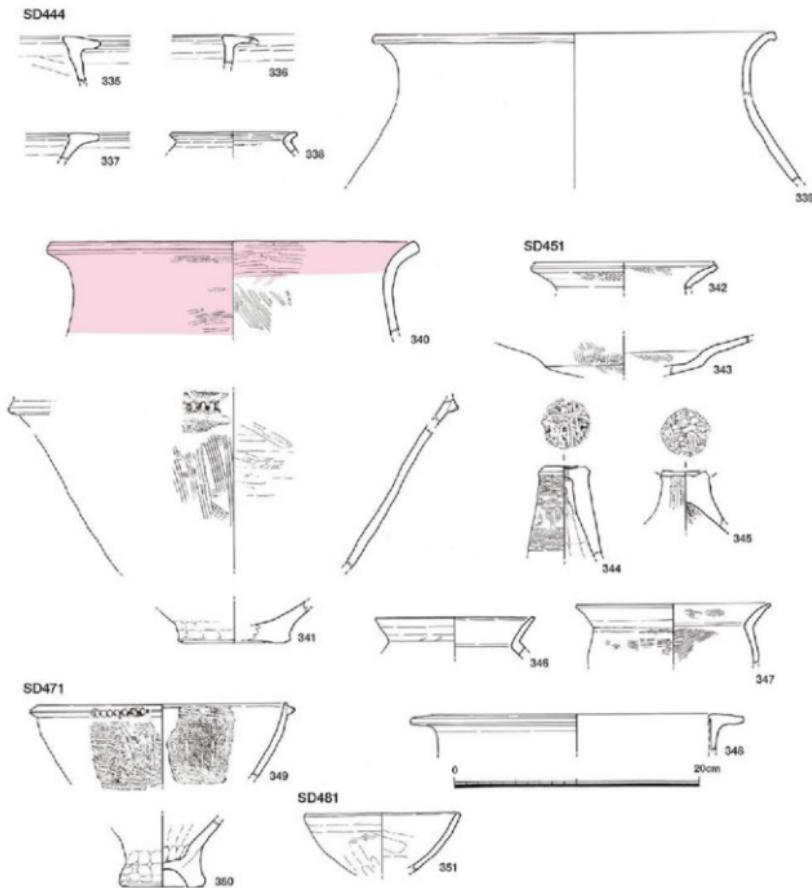


Fig.120 SD444・451・471・481出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.121、Pl.92) 弥生時代前期から中期にかけての土器が出土。出土量は少ない。

369・370は甕の底部。369は底部が厚手で平底。369はやや上げ底。調整は外面ハケ目、内面はナデ。370の外面にはヘラ刻みで文様が入る。

SD506 Q-23～R-23区で検出した略北方向に延びる小溝。高所部周辺を巡る溝で、西側はSD369に切られ、また柱穴と切り合う。確認長は12.5m以上、幅は0.3～0.5m、深さは最大で5cm位である。埋土は黒褐色粘土である。SD507と合流するが、切り合い関係はわからなかった。SD506がSD510につながる可能性が強いことや、遺物がSD507より新しい時期のものを含むことから、SD507より新しいと考える。

SD482

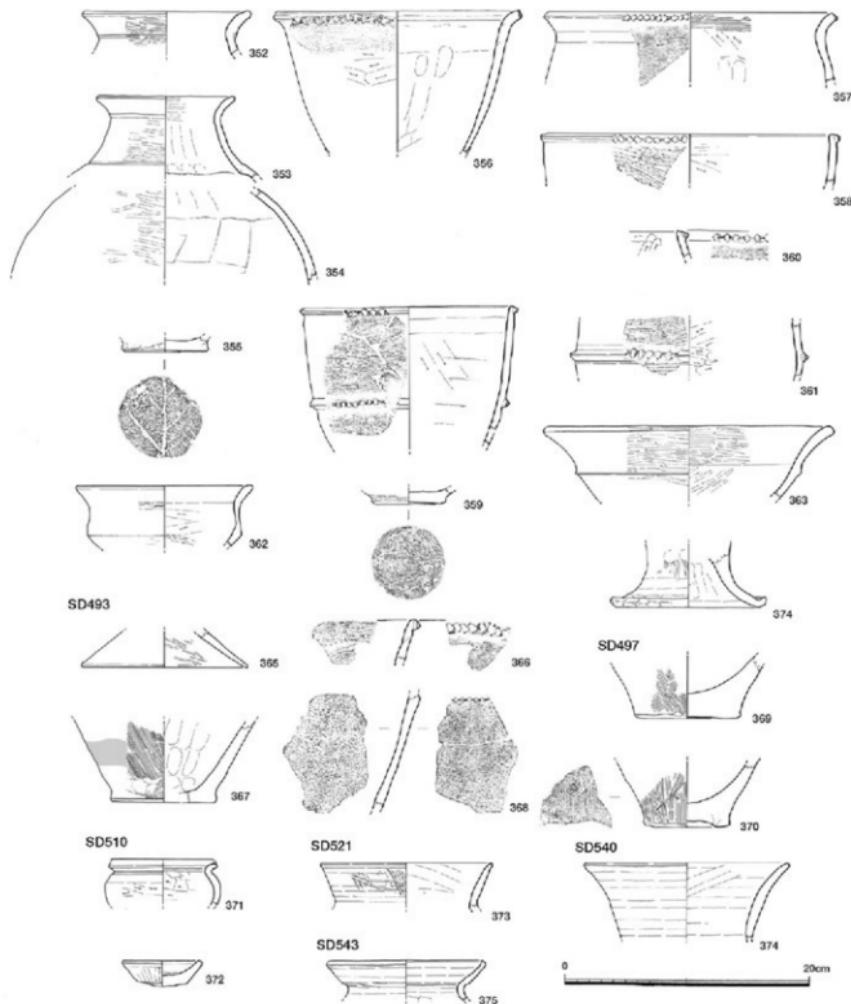


Fig.121 SD482・493・497・510・521・540・543出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.122・133・134、PL.92・107) 弥生時代前期から後期、古墳時代前期の土器や、石窓丁、黒曜石剥片や図示していないが袋状鉄斧と思われる鉄片が出土している。

376～379は、刻目突帯文土器の夜臼IIb式の甕。いずれも口縁部に棒状工具による刻目突帯が付

く。口縁部は375が直立、377・379がやや内傾する。378は脣部片で、屈曲部には刻目突帯が付く。外面調整は376・378はハケ目で、377・379は貝殻条痕。内面調整はナデ。380・381は板付I式の甕口縁部。如意形の口縁端部には刻目が付く。内外面ハケ目後ナデ調整。外面下半は摩滅する。382～385は前期の高坏。382は口縁部で、口縁部外面は細かなハケ目、体外面と口縁内面はヘラミガキ、体内面はナデ調整。383・384は大型の脚部で、外面ヘラミガキ、内面はハケ目後ナデとナデ調整。いずれも外面に黒斑がある。385は坏と脚の接合部。三角突帯が巡る。ヘラミガキとナデ調整。386は古墳時代前期の二重口縁甕。口縁部内外面はヘラミガキ調整。387は弥生時代後期中墳の複合口縁甕口縁部。口縁部はヨコナデ、頸部外面は粗いハケ目、内面はハケ目後ナデ調整。388は土師器の小型の鉢。内外面摩滅が進むがヘラミガキ調整。

S24は扁平な隅丸長方形形状の磨石である。縦長12.7cm、横長8.2cm、最大厚4.5cmを測る。全面使用などで摩滅し、上面は使用擦痕、底面と下小口部には敲打痕が残る。S25は石鎌片。残存長8.2cm、幅4.4cm、厚み0.4cmを測る。表面の剥落はひどい。石材は砂岩。S32は半円形を呈す小型の不明石器。縦長1.2cm、横長2.0cm、厚み0.3cmを測る。全面丁寧な調整を加える。黒曜石で、何かの組み合せ石器か。突堤文期以前のもの。

SD507(Fig.123, PL.56) 調査区中央部SD505の南西側で、SD506に北側で接する北西から南東方向に主軸を取る、長方形プランの溝状遺構である。規模は長さ6.84m(SD506との合流部迄では約9m)、幅は1.17m、深さ最大0.21mを測る。遺構は3ヶ所柱穴で切られる。埋土は西側壁際に粘性を持つ褐灰色土が流れ込んだ後、下層の黒褐色土、上層のややしまりが弱い黒色土の順に堆積している。

出土遺物(Fig.124・125・131・133, PL.92・93・95) 底面付近からまとまって刻目突帯文甕を中心に多くの遺物が出土した。主な遺物の出土位置は遺構図上に示した。

389～403は刻目突帯文土器の甕。389～395・398・402は屈曲型二条突帯文甕、397・399・400は小型の1条突帯文甕、396は1条突帯文甕、403は突帯文甕底部である。二条突帯文甕は器形が屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるものの(389～391)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(391・392・394)、屈曲部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がるものの(393・394・402)など若干違いがある。しかし、口縁端部に接するように突帯を貼り付け、突帯やや深めから中程の深さに棒状工具を押し付けて刻目をつける点で共通性が高い。また、基本的に外面横方向の貝殻条痕調整を施し、軽く上からナデを加え、内面は横方向の貝殻条痕調整後、丁寧にナデを加える。屈曲部内面には粘土紐接合の痕跡が残り、屈曲部まで一旦成形・調整をした後、それより上部が成形されたことが分かる。突帯の貼り付け位置と調整の特徴は他の突帯文甕にも共通する。このように共通の特徴を持つものが多いが、中には393・397・399のように調整・胎土等で他と異なるものも少量存在する。393は他の突帯文土器が貝殻条痕によって調整されるのと同じ手法で横方向にハケ目調整を連続的につける。397は外面縱方向のハケ目調整、内面横方向のハケ目調整調整を施し、突帯の刻目突帯貝殻縫縫を押し当ててつける。色調も他より黄色み少し強く、弥生土器的な色調を呈す。399は胎土が緻密で、白っぽく堅緻に焼き上げられ他と比べ異質な土器である。底部から口縁部まで直線的に開き、口縁端部外面に非常に薄く突帯を貼り付け、内側を強くヨコナデして外反口縁のような形狀を作る。内外面貝殻条痕調整後、胴下部以外丁寧なヨコナデにより条痕がきれいに消される。外面口縁部下は上から下に板状工具によるナデが加えられ、工具の当たり痕が残る。唐津市の菜畑遺跡でこれに近い土器が一定量出土しており、その方面からの搬入品の可能性がある。404は完形の如意形口縁の甕。面取りしない薄い口縁部に端部全面に刻目を付け、胴があり張らず板付I式甕の範疇でとらえられよう。外面は右下から左上へのハケ目調整を連続的につけ、内面は斜め方向

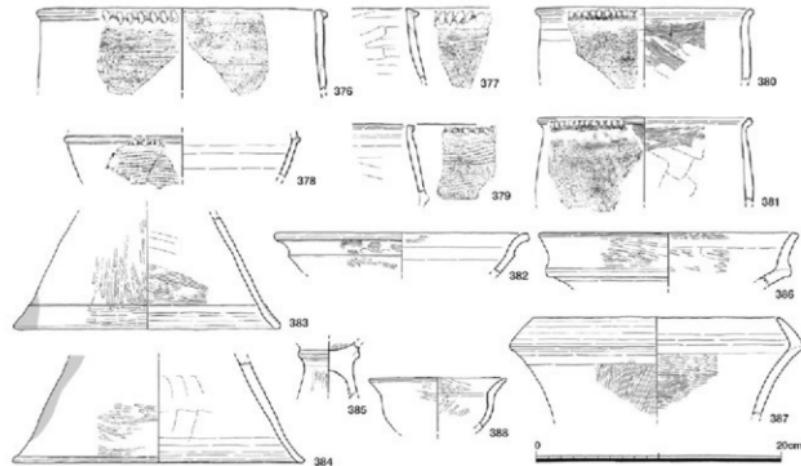


Fig.122 SD506 出土土器 (1/4)

のハケ目調整後ナデを加える。口縁部内面はヨコナデによって調整される。器面が薄く、色調も黄橙色で、胎土に石粒を多く含み、同じ遺構から出土した突帯文土器とはかなり異なる。405は如意形口縁部の口縁部の破片であり、摩滅が激しい。口縁端部全面にヘラにより丁寧に深く刻目を施す。406は大型の精製深鉢で、胴上部で屈曲させ、外反しながら口縁部に至る。口縁部外側に粘土を薄く貼り付け肥厚させ、下に段を付ける。口縁部外表面はヨコハケ、それ以下はナデ後粗くヘラミガキ、内面は丁寧な横方向のヘラミガキを施す。407は完形の丹塗り大型壺。口縁部は外反させて、端部を丸く収めて肥厚させない。頸・胴部間に薄く段が付けられ、副部は大きく外面に張り出す。外面はハケ目調整後ヘラミガキを施され、底部付近は縱方向のハケ目調整が残る。外面全面及び内面口縁部3cm程に丹塗りが施される。408は大型壺の底部で、円盤貼付形に成形する。409は精製小型壺の口縁部で、口縁・頸部間に横方向の次線を施す。内外面横方向のヘラミガキを施す。410は精製小型壺の底部から胴下部で、底部は円盤貼付形に成形する。411は高壺、壺部上部で屈曲し、口縁部にかけて外反する。壺部と脚部の間に三角突帯を貼り付ける。外面ハケ目後ナデ消し、上から横方向のヘラミガキを施す。壺部内面はナデ後ヘラミガキ。脚部内面は指でナデ上げる。412は高壺の脚部で外面は縱方向のナデ、内面は横方向のナデ。脚部先端部は内外強いヨコナデが加えられる。脚部と壺部間に指押え痕が残り、411のような突帯は付けられない。413は丹塗りの大型壺の胴部で、頸・胴部間に薄く段があり、胴部は丸みを持って外側に張る。外面は横方向のハケ目後ナデ消し、粗く横方向のミガキを加える。内面は頸部が横方向のハケ目、胴部が横から斜め方向のハケ目で、部分的にナデ消される。内外面共に頸・胴部間で調整の方向が変わっており、胴部まで成形・調整後に頸部の成形を行ったことが分かる。(所)

452は土製筋鍾車で。直径5.5cm、厚さ1.5cm、孔径は0.45cmを測る。丁寧なミガキ仕上げである。

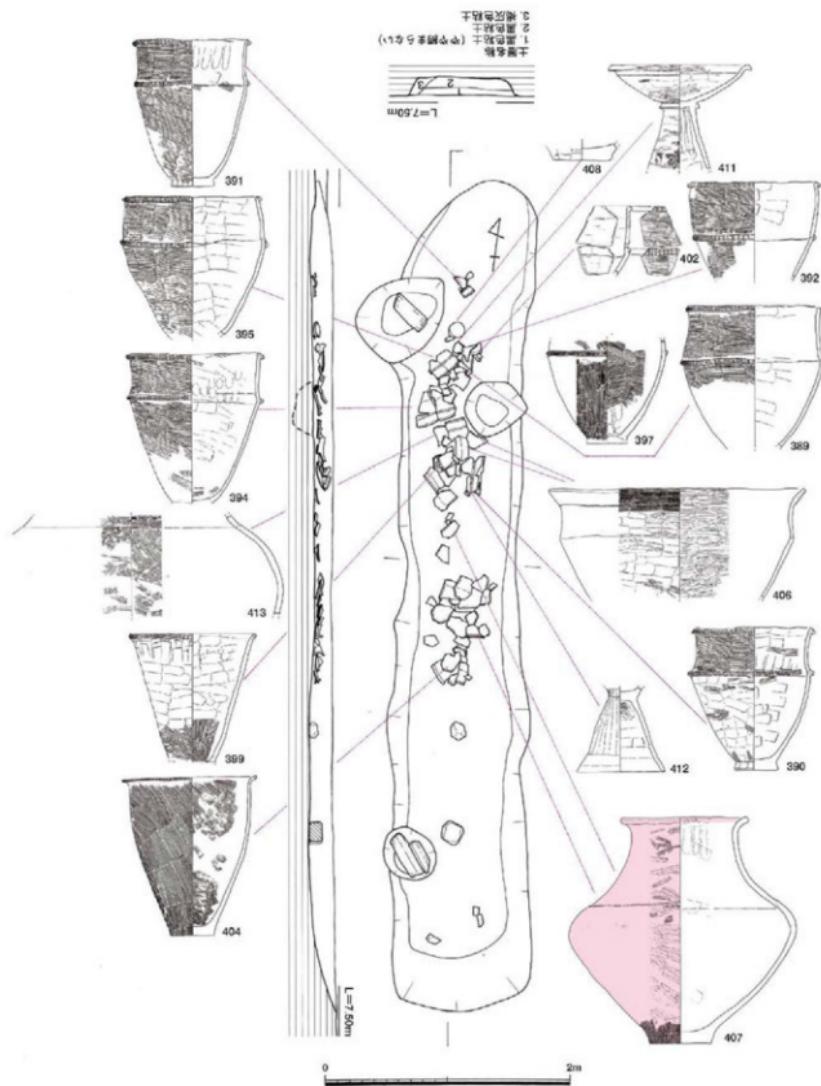


Fig.123 SD507 (1/40)

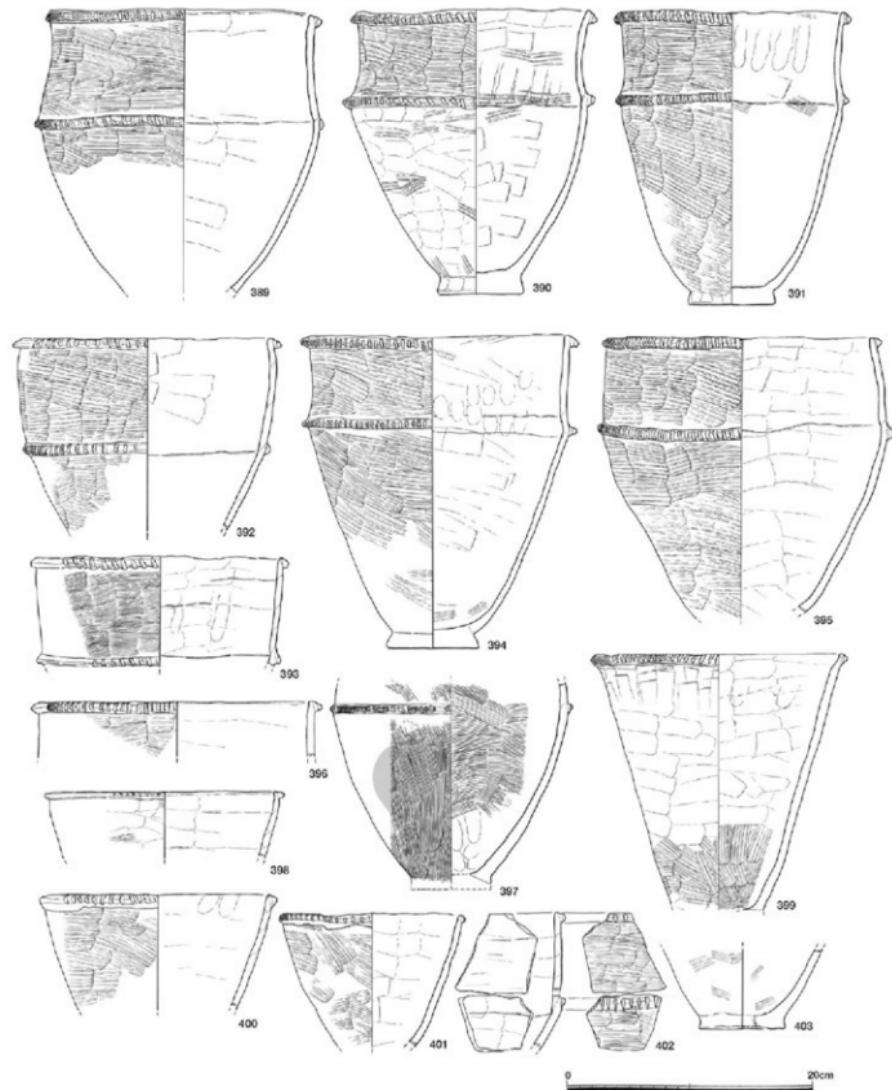


Fig.124 SD507出土土器 ① (1/4)

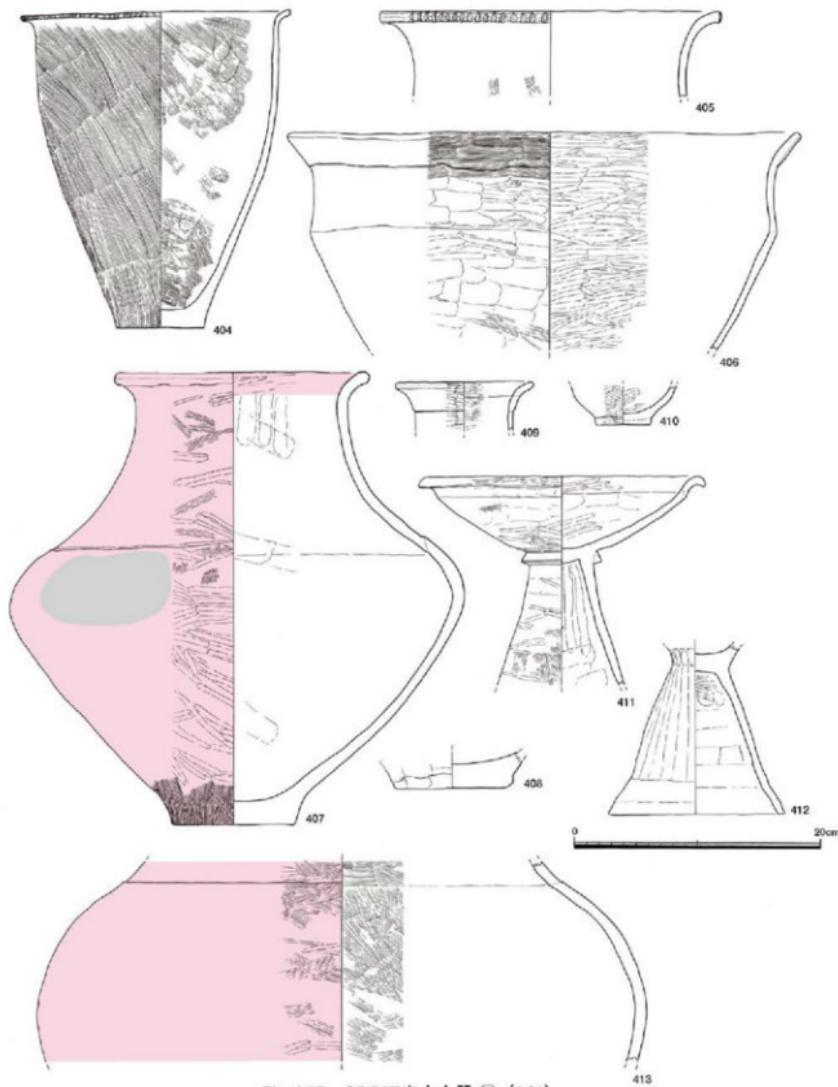


Fig.125 SD507出土土器②(1/4)

S33は上部が丸く、下部が尖る剥片。断面三角を呈す。全長3.9cm、幅2.9cm、厚さ1.1cmを測る。剥離面はかなり風化が進んでおり、時期的には古いか。

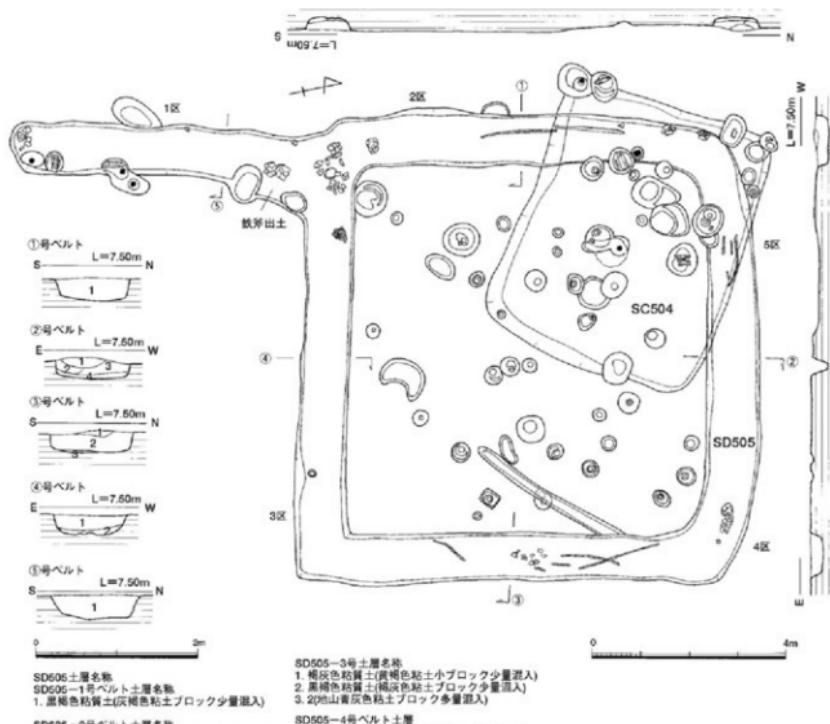


Fig.126 SD505 (1/100・1/60)

SD510(PL.58) S-21区～R-19区上で検出した蛇行する南北方向の小溝。北はSD369に切られる。規模は幅0.4m前後、深さは浅く7cm前後である。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.121) 弥生時代中期から古墳時代前期の土器が出土した。

371は古墳時代前期の土師器壺。瀬戸内系と思われ、口縁部は屈折して上方に立ち上がる形態。外面から口縁部内面はヨコナデ、内面はヘラケグリ調整。372は弥生時代後期と思われる小型鉢。口縁部外面はヘラミガキ、内面はナゲ調整。

SD521 SD369南西端から南西方向に延びる小溝。確認規模は9m、幅は0.3～0.8m、深さは浅く2～7cmを測る。埋土は黒灰色粘土で下部に砂を含む。

出土遺物(Fig.121) 弥生時代中期から後期の土器が出土している。

373は後期の甕口縁部。外面ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ調整。

SD540出土遺物(Fig.121) 弥生時代後期から古墳時代初めの土器が出土。

374は弥生時代後期の壺。調整はヨコナデ。

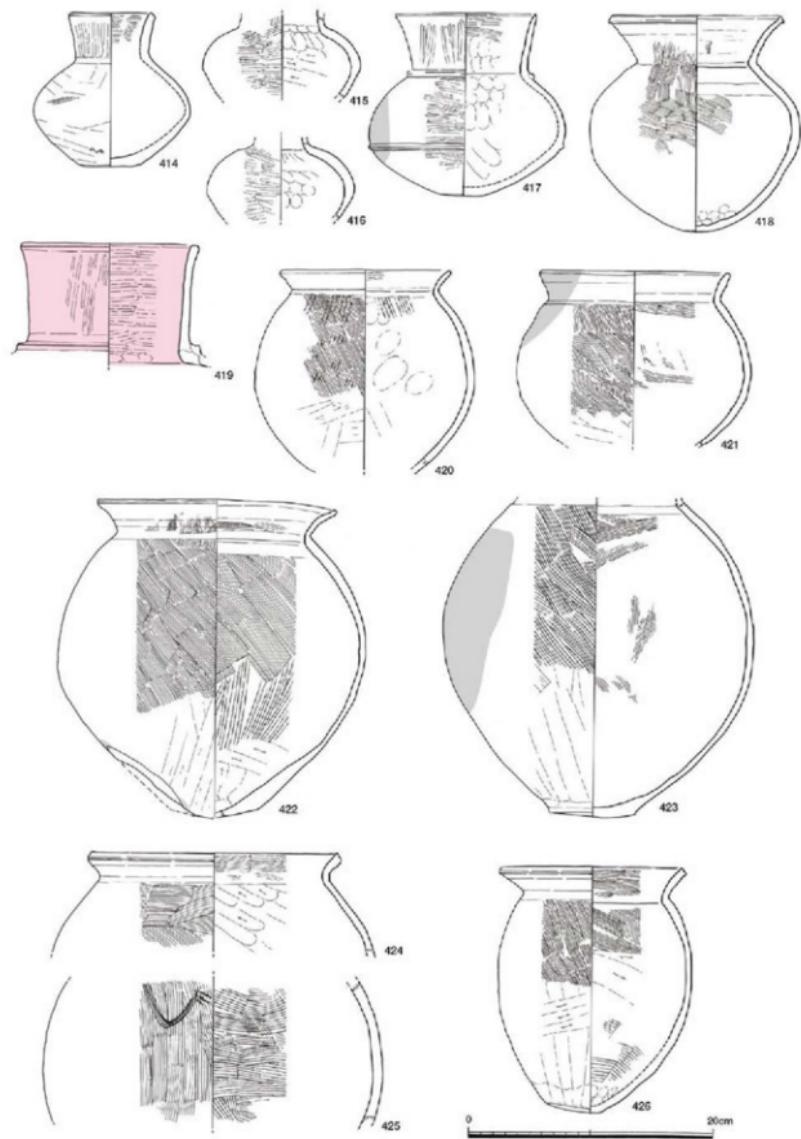


Fig.127 SD505出土土器 ① (1/4)

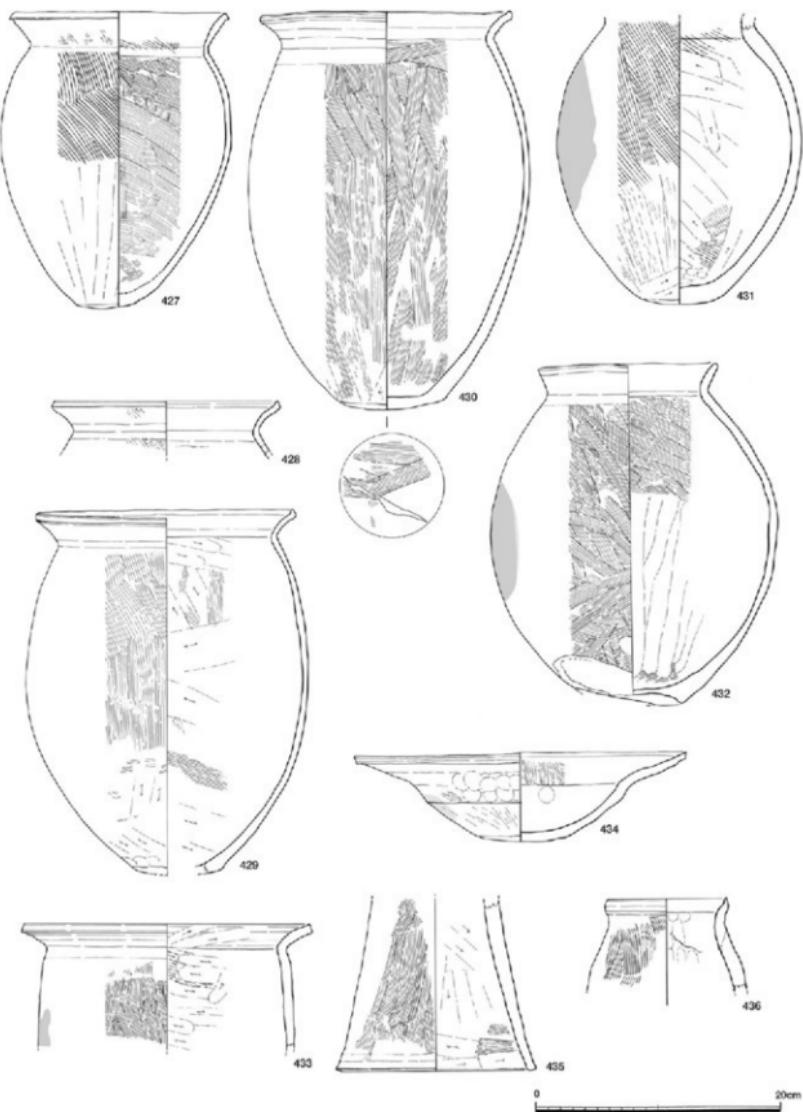


Fig.128 SD505出土土器② (1/4)

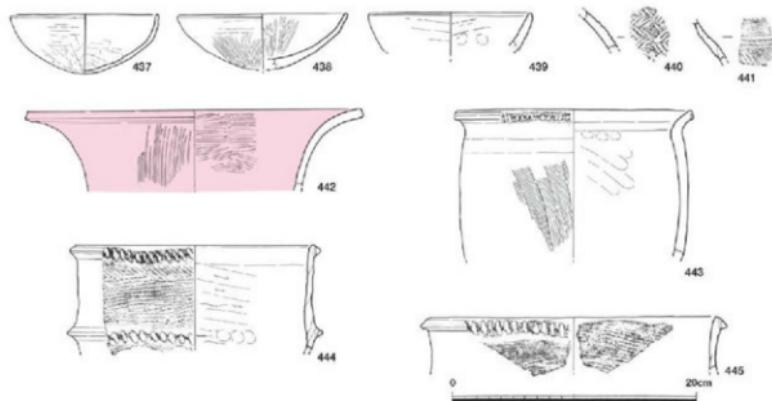


Fig.129 SD505出土土器 ③ (1/4)

SD543出土遺物 (Fig.121) 弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土。

375は前期の布留式上器の小型甌。調整はヨコナナデ。

SD602出土遺物 (Fig.133) S26は叩き石で長方形を呈する。縦長13.8cm、横長8.6cm、最大厚4.0cmを測る。上底面と上下小口面に使用による敲打痕が残る。石材は砂岩。

方形周溝状遺構

SD505 (Fig.126, PL.57・58) 高所部のP-23・Q-23区で検出した遺構で、一辺が8.5~9.5mを測る方形に開む溝とその西側から6m程延びる溝で構成される。溝幅と深さは方形部で0.85~1mと0.2~0.25m、張り出し溝で1.1mと0.4mを測る。溝の断面形は箱型もしくは逆台形で、底面はほぼ平坦である。北東隅でSC504に切られる。方形溝内には明確にそれに伴う遺構などは確認出来なかつたが、柱穴などが検出された。埋土は黒褐色粘質土が主体で、下層部分は地山粘土ブロックを混入する。特に南東側溝底には小枝や葉などを含む植物層が薄く堆積していた。

出土遺物 (Fig.127~130・133・ 134、PL.94・95・106・107)

134、PL.94・95・106・107) 弥生時代後期の完形品を含む土器や鉄製品・石製品などが、四隅を中心とまとめて出土した。遺物から遺構の時期は弥生時代後期後半か。

414~419は甌である。419以外は小型甌。414はほぼ完形で、算盤形の脇部から直立気味に開く形態。調整は口縁部外面はヘラミガキ、脇部上半はハケ後ナデ、下半から底部はナデで、口縁部内面はハケ目後ナデ。415~

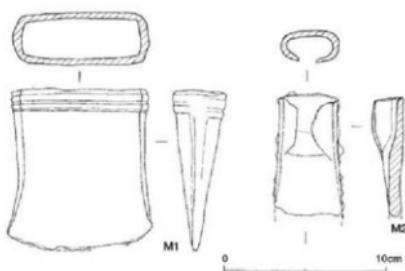


Fig.130 SD505出土鉄製品 (1/3)

416は414と同形態の胴部片。外面へラミガキ、内面はナデ調整である。417も413とほぼ同形態であるが、頭部と胴部中央下部に1条ずつヘラによる貼付の刻目突起が巡る。調整は、外面は口縁部から胴部下半上部まではヘラミガキ、下半から底部はナデ、内面は口縁部ハケ目後ヨコナデ、胴部はナデ。胎土に金雲母粒をわずかに含む。418はやや長胴の胴部から「く」字状に外反する口縁、底部は丸底気味。調整は外面は口縁部ヨコナデで、下半から頭胴部上半は細かいタテハケ目、胴部中央はヨコハケ、胴部下半は丁寧なナデ。内面は口縁部から胴上半はヨコハケ後ナデ、胴部下半はナデ。外底部黒斑がある。419は頭部に三角突起が付く直口壺の口縁部。内外面丁寧なヘラミガキ。胴部内面はナデ調整。赤色顔料が内外塗布されていたが、口縁内面に残る。420~433は甕。420・421は胴部が丸い小型甕。外面の調整は420が口縁部ヨコナデ、胴部上半タタキ後ナナメハケ目、下半がナデ。内面は口縁部ヨコハケ後ナデ、頭部内面タテハケ目後ナデ、胴部内面は丁寧なナデで当て具楕の窪みが残る。421は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面はタテ・ナナメハケ目、胴部内面はハケ目後ナデ。420の外面はススが付着し、421には黒斑がある。422・423は中型で胴部が張る形態。422は口縁部が外反するが、歪みが有る。調整は口縁部内外面ハケ目後ヨコナデ、胴部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、底部はナデ。胴部内面はハケ目で、下半部のハケ目は粗い、内底部はナデ。423の調整は外面上半ハケ目、下半は板ナデ、内面はハケ目かハケ目後ナデ。黒斑がある。424は口縁部で口端部は平坦。調整は口縁部外面はヨコナデ、胴部はハケ目。口縁部内面はハケ目後ヨコナデ、内面はナ

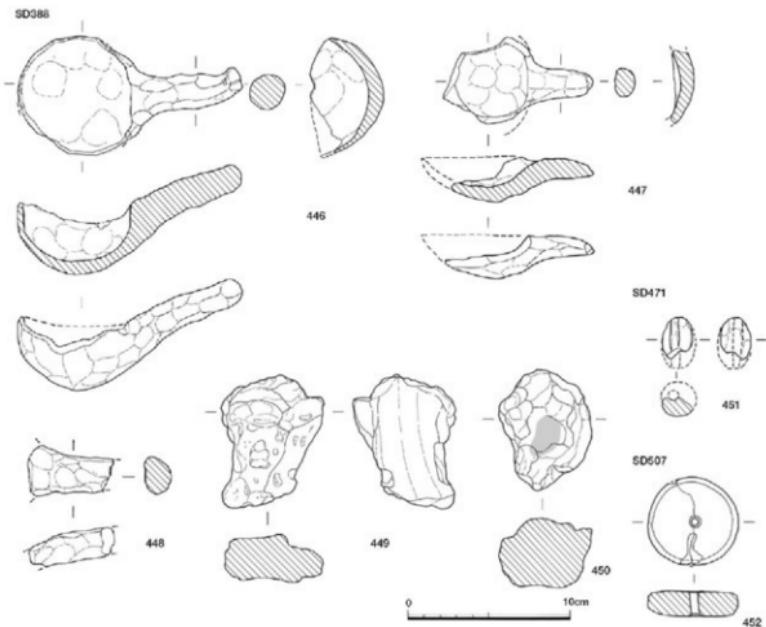


Fig.131 SD388・471・507出土土製品 (1/3)

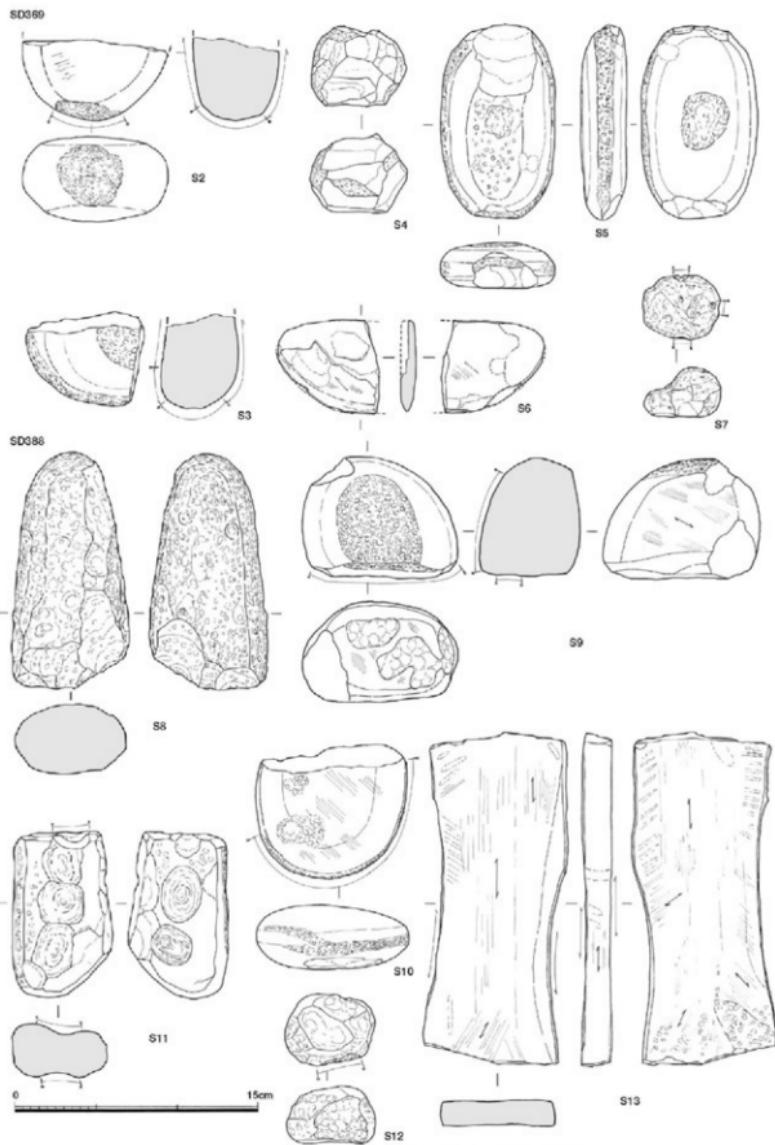


Fig.132 SD369・388出土石器・石製品 (1/3)

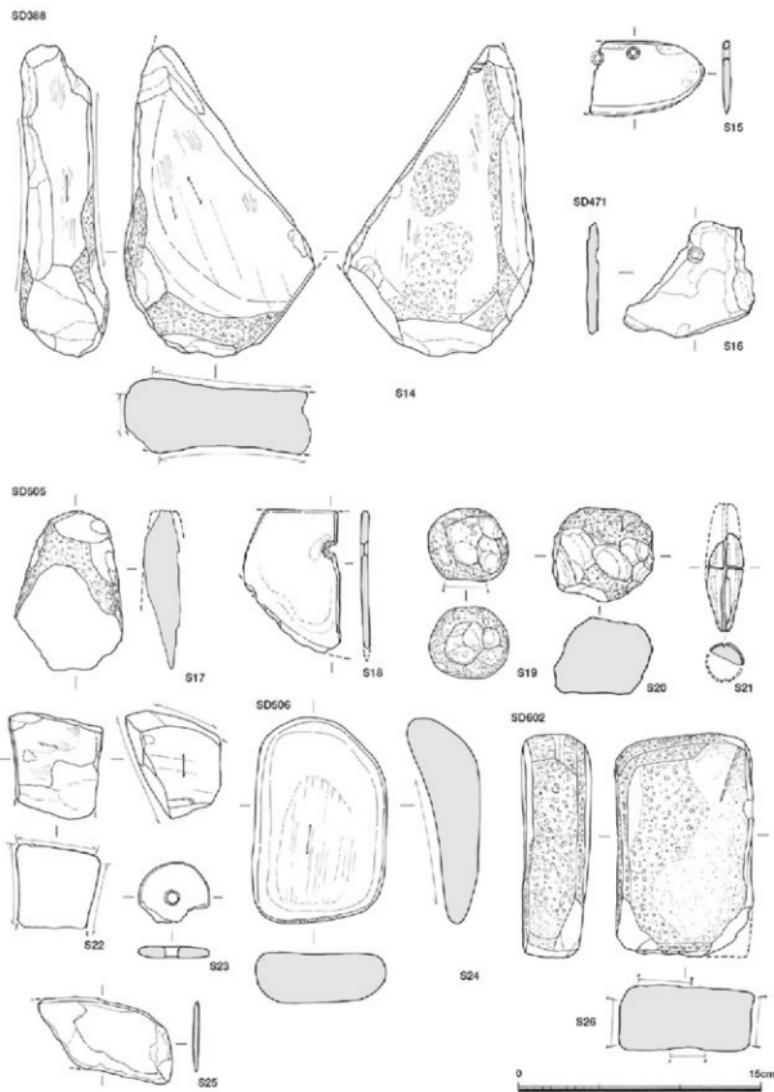


Fig.133 SD388・471・505・506・602出土石器 (1/3)

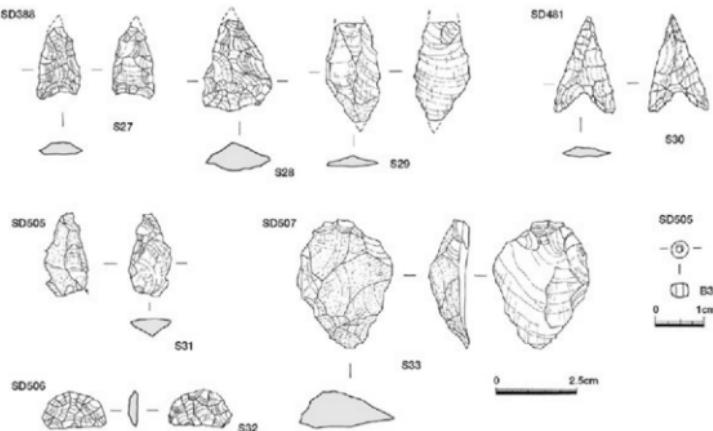


Fig.134 SD388・481・505～507出土石器 (2/3) ・出土玉 (1/1)

デ。425は脣部片。内外面ハケ目調整で、外面には鉤状の平行沈線と3本並行する線刻がある。426～434は長脣甌で凸レンズ状の底部を持つ。426～428は小型甌。426・427はほぼ完形。いずれも調整は外面は口縁部ハケ目後ナデ、脣部上半はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、内面は口縁部ハケ目後ナデ、脣部は426の上半がハケ目、下半がハケ目後ナデ、427がハケ目で軽くナデる。外面上半にはススが付着する。428は口縁部で、口縁端部が上方に内屈する。外面ハケ目後ナデ。内面はナデ調整。429・430は中型で長脣甌である。429の口縁は428と同形態。調整は外面口縁部はヨコナデ、頭部から脣部中頃まではハケ目後ナデ、下半はタタキ後ナデ、底部はナデ、内面は口縁から頭部までがヨコナデ、脣部下半迄がハケ後丁寧なナデ、下半から内底がナデである。430はやや歪むがほぼ完形。調整は口縁部外面はヨコナデ、脣部から底部外面はハケ目後ナデ。外面ススが付着する。431は口縁を欠くが器壁が厚手である。外面は脣部中央迄粗いハケ目後ナデ、下半迄は粗いハケ目後板ナデ、外底はナデ、内面頭部は粗いハケ目、脣部内面はナデ、下半はハケ目後ナデ。432は底部を欠く。調整は口縁内外面ヨコナデ、脣部外面はハケ目、下半はハケ目後板ナデ、タタキ痕が残る。脣部内面上半はハケ目、中央から下半はハケ目後板ナデ。底にはハケ目が残る。431・432共外面に黒斑がある。433は口縁部。調整は口縁部外面ヨコナデ、脣部外面ハケ目後ナデ、脣部内面上半はハケ目後ナデ、その下はナデ。外面黒斑がある。434は鉢。丸味を持った底部から屈曲して口縁部が聞く形態。調整は外面は口縁から底部迄ナデ、内面はナデで、口縁部はヨコナデ後ヘラミガキ。外面黒斑とタタキ痕が残るか。435・436は器台。435は脣脚部で、外面はハケ目、内面はナデ調整で、脚櫛にはハケ目が残る。436は口縁部。口縁部内外面はヨコナデ、外面はハケ目、内面はナデでシボリ痕が残る。437～439は同形態の楕形の鉢。437の口縁部外面はヨコナデ調整。438・439の外面はナデ調整。440・441は前期の壺の脣肩部細片。440はナデ調整で無軸の羽状文を施す。441は3条の平行沈線と山形文が入る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。442は須玖II式の丹塗りの広口壺口縁部。外面丁

寧なナデ、内面はヘラミガキ。外面の赤色顔料はほとんど剥落する。443は前期板付II式の甕で、口縁部内外面はナデ、胴部外面はハケ目後ナデ、内面はナデ調整。444・445は夜臼IIb式期の刻目凸帯文土器の甕口縁部。444は口縁部と胴屈曲部に2条、445は口縁部に1条の貼付割目突端が巡る。444の外面は貝殻条痕で、内面はナデ調整。445は内外面貝殻条痕で、外面は条痕後ナデを加える。

S17は磨製石斧の欠損品。残存長9.75cm、最大幅6.5cmを測る。表面の欠損は著しい。S18は三角形を呈する大型の石庖丁片。厚みは0.4cmを測る。研磨仕上げであるが欠損風化が著しい。石材は泥岩か。S19は麻石又は石彈。直徑5cm弱の石材を叩き使用し、敲打痕が残る。石材は頁岩である。S20は有溝石錐片。残存長6cm、残存径2.1cmを測る。表面は丁寧な削り。S22は磁石片。上・底面、左右両側面と上小口面が砥面。S23は1/3が欠けた筋錐車である。直徑4.3cm、孔径0.9cmを測る。表面は平滑に仕上げる。S31は二次調整が加えられた削片。全長2.5cm、幅1.4cm、厚み0.6cmを測る。片面は風化の古い削離面である。腰岳産と思われる黒曜石である。

M1・2は袋状鉄斧。M1は鋲造鉄斧で、刃部がやや欠損するがまさかり形を呈す。全長10cm、刃幅8.8cmを測る。基部には二条の突帶が巡り、断面は両端が棱を持つ長方形を呈す。M2は鋒がひどく刃部は欠損する。袋部は折り曲げて作り出す。全長7.5cm、刃幅は4.1cm、袋部の幅は3.6cm、高さ1.9cmを測る。

B3は上層から出土したガラス小玉。直徑3.5mm、高さ3mm、孔径1.5mmを測る。色調はスカイブルーを呈す。

④ 土坑(SK)

SK384(PL.59) M-N-22-23区で調査区東壁にかかる土坑。東から西方向に主軸を取る不整梢円形プランの土坑で、規模は長軸長6.4m以上、短軸長3.6m、深さは最大で約1.6mを測る。湧水が激しく底面は軟弱である。南隅をSD388に切られる。遺構は第III面で検出した。上面は黄褐色粗砂疊に暗灰色粘土ブロックを含み、下層は湧水でグライ化した灰色粘土で、壁の崩落土を混入していた。

出土遺物(Fig.136-155-156, PL.97-107-108) 上層から最下層まで弥生時代前期から古墳時代前期にかけての遺物を含み、古墳時代前期のものが中心である。土器の他に黒曜石剝片2点が出土した。

453・457は高環の脚部。454・455は壺台の脚部で、いずれも脚部中程に焼成前穿孔が施される。古墳時代前期に位置づけられる。456は弥生時代前期の高環脚部。458は古墳時代前期の鉢。459は古墳時代前期の壺口縁部で、内外横ナデ調整。460・461は古墳時代前期の楕。460は外面丁寧な横ナデ、内面細かいハケメ調整。461は外面ナデ、内面丁寧なナデ。462は手捏ねの小型の鉢完形品、外面は指で押さえられた後、工具によりナデされる。463は古墳時代前期の鉢で、外面胴部上半は斜め方向のハケメ調整、胴部下半は下から上へのヘラケズリ。内面胴部は細かい斜め方向のハケメ。頭部がすぼまり、口縁部外面横ナデ調整、内面横方向ハケメ調整により、口縁部が外反するように成形される。464は古墳時代前期の壺で、外面胴部下半はナデ、胴部上半は斜め方向のハケメ、頭部は上から下へのハケメ調整を施す。内面胴部はハケメ後ナデ調整。頭部ですぼまり、「く」の字形に屈曲して口縁部は外反する。口縁部外面は横ナデ調整、内面は横方向ハケメ後ナデ調整。465は古墳時代前期の甕の口縁部で、頭部がすぼまり、「く」の字形に屈曲し口縁部が外反する。内外横ナデ調整。

S34は砥石。一部欠損するが撥形を呈す形態。総長23.25cm、最大幅は14.4cm、厚みは1.9~3cmを測る。上・底面と左右側面は砥面として使用。上下両小口面は粗削調整面。使用擦痕が明瞭に残

る。石材は目の細かい砂岩である。仕上げ砥石か。

B4はガラス小片。直径4mm、高さ0.4mm、孔径は1mmである。

SK448(Fig.135、PL.59) N-25区で検出した土坑。南北長1.16m、東西長1.08mを測る隅丸方形プランで、深さは最大0.32mを測る。埋土は上層が明緑灰色地山粘土ブロックを混入した黒色粘土、中層が黒色粘土と明緑灰色地山粘土の混合、下層が明緑灰色地山粘土に黒褐色粘土ブロックが混じる。北側一部は上層まで堆積後、掘削され黒褐色粘土層と黒色粘土と黒褐色粘土の混合層が入る。貯蔵穴と考えられる。

出土遺物(Fig.136) 弥生時代前期から中期までの土器小片が少量出土した。

466は円盤貼付形の小型壺の底部。外面底に木葉压痕がつく。弥生時代前期のものである。

SK459 M-25区調査区東壁で検出され、東側の調査区外に続く。主軸は北東から南西方向に取り、楕円形状プランを呈する。規模は長軸長1.12m、短軸長0.46mを、深さは最大で0.39mを測る。埋土は黒色腐殖粘土である。

出土遺物(Fig.136) 弥生前前期の土器小片が少量出土。

467は弥生前前期の壺の破片。二本の横走する沈線の下に三本の沈線からなる山形文を施す。摩滅するが丹塗磨研を施したようである。

SK460(Fig.137、PL.59) M-N-25・26区で検出した土坑。主軸をほぼ北から南に取り、平面形は長軸方向に長い、不整椭円形を呈す。規模は長軸長7.48m、短軸長1.54mを測る。深さは最大0.24mを測る。南北がテラス状にやや高くなる。埋土は上層が黒色粘土、下層が炭化物を含む黒色粘土、最下層が暗オリーブ灰色粘土。土器は大部分上層の中程からまとまって出土した。出土地点がはっきりしているものについては、図面上で示した。

出土遺物(Fig.138-139・154・155・156、PL.97・108) 刻目突帯文期・弥生前前期半～中葉の土器が多量に出土し、刻目突帯文甕と如意型口縁甕が共に出土している。他に黒曜石剥片なども出土した。

468～470は屈曲型二条突帯文甕で、全て屈曲部内面に粘土紐の接合痕が残り、疑口縁を呈す。468は屈曲部でほとんど屈曲せず、わずかに外側に開きながら口縁部に至る。外面は横方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後、横方向にナデる。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。469・470は屈曲部からやや内湾しながら口縁部に至る。469は外面貝殻条痕調整、屈曲部以下は強い横方向のナデにより条痕が消される。内面はナデ調整。刻目は棒状工具を押しつけ深く刻む。470は内外面横方向のナデ調整。刻目は棒状工具を突帯中程まで押しつける。471は突帯文甕口縁部破片。外面貝殻条痕調整、内面ナデ調整。刻目ハケメ工具を押し付ける。472・473は如意型口縁の板付式甕。472は外面縱方向のハケメ調整後、横方向の丁寧なナデによってハケメを消す。内面は横方向の丁寧なナデ調整。刻目はヘラ状工具により密に口唇部全面に付けられる。473は外面縦から斜め方向のハケメ調整後、ナデにより大部分消される。内面は縦ハケメ後、丁寧なナデ消し。口縁外反部の内面には横方向の細かいハケメがはっきり残り、口縁先端部内面には強い横ナデが加えられる。横方向の強いハケメを一周させて口縁を外反させ、その後横ナデによって、口縁先端部の形を整えたと考えられる。471・472共に口唇部全面に刻目をつけ、口縁部の器面も比較的薄いが、胴部が少し張るなど古式的板付I式甕よりは若干新しい特徴を持つ。474は胴上部に段を持つ如意型口縁甕で、段は粘土帯を外傾に接合した接合面を用いて作り、直下に縱方向のハケメを上から下に付けることで、段を強調する。外面はハケメ調整後、ナデ。内面はナデ調整。内外面の口縁先端部は強い横ナデにより整形される。刻目は口唇部全面にハケメ工具により密につけられる。475は板付式甕の底部～胴下部。外面ハケメ

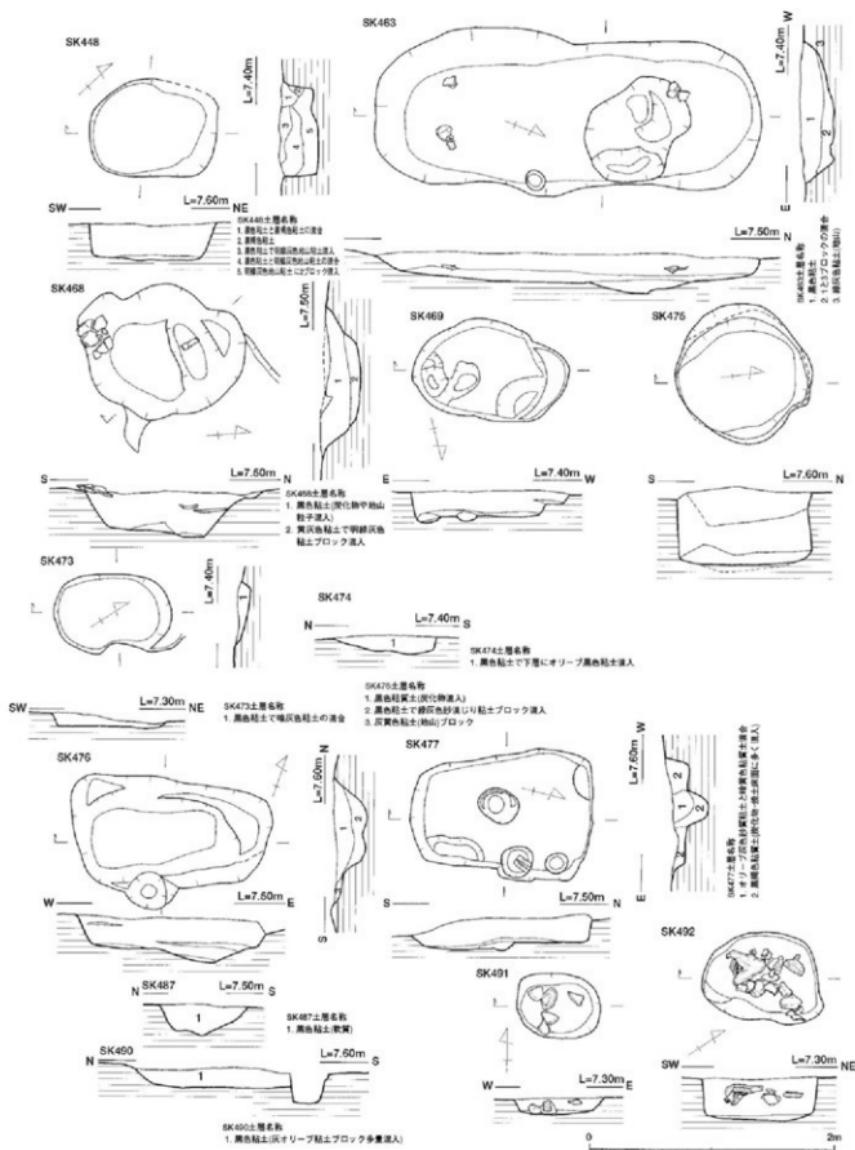


Fig.135 SK448・463・468・469・473～477・487・490～492 (1/40)

後ナデ、内面ナデ調整。476は大型の深鉢。外面は貝殻条痕調整を、ミガキに近い粗めのナデ調整。内面は粗くナデした後、横方向のミガキ調整。内外面口縁先端部3cm程横ナデにより整形。477は同一個体を考えられる弥生前期の高杯の杯部と脚部。杯部上部で屈曲し、外反しながら口縁先端に至る。外面ハケメ調整後、ミガキ調整。内面は杯部はミガキ、脚部はナデ。478は丹塗磨研の精製深鉢。口縁は外反し、胴部に屈曲部を設け、そこに細くて深い刻目を密に施す。479は浅鉢あるいは高杯の口縁部。胴上部で屈曲させ、口縁部まで外反する。口唇部には横方向の一条の凹線に入る。内外面ミガキ調整。480は深鉢、胴上部に粘土帯を外側にかぶせることで段を成形。内外面ミガキ調整。481は深鉢口縁部。内外面ミガキ調整。482は精製小型壺の口縁部破片。口縁・頸部間に粘土帯の外傾接合面を用いて薄く段をつける。483は小型の精製の鉢。口縁部下の外面上に上から下にハケメ工具で調整することで、口縁先端部をわずかに屈曲・外反させる。内外面ナデ後ミガキ調整。484は精製のミニアチュア土器。内外面横方向のミガキ調整。内面底付近が赤っぽくなり、赤色顔料が付着した痕跡と考えられる。485は精製の小型壺口縁部破片。口縁・頸部間に粘土帯が段状になる。内外面ヘラミガキ。486は中型壺の頸部間の破片。外面に4本の沈線が横走する。内面には粘土帯を内傾に接合した段が残る。487は黒色磨研の精製中型壺の胴上部。頭・胴部間に4本、胴部最大径部付近に2本の沈線を横走させ、その間に4本の平行沈線による複線弧状文をつける。頭・胴部間の内面には粘土帯接合の段が残る。外面は丁寧な横方向のミガキ調整。内面は横方向のナデ、頭部は横方向のミガキが入る。488・489は弥生前期の中～大型の壺の底部。488は外面ハケメ後ミガキ、内面横方向のハケメ後ナデ調整。489は内外面粗いミガキ調整。

670は筋縫車片。丁寧な仕上げである。

S35は礫石又は石核。径6.5×7.9cm程の大きさの砾に打撃による剥離面がある。石材は火成岩系。S48・49は石鐵。S48は鍛身長2.7cm、幅2.2cm、厚み0.5cmを測る。全体に雑な調整。S49は鍛身長3.45cm、幅2cm、厚み0.4cmを測る。基部はやや四凹基気味である。いずれも石材は黒曜石である。

SK462 O-24・25区にかかり、SK463の東側で検出した。柱穴SP95とSP151に切られる。主軸をほぼ北から南方向に取り、北側が狭くなる瘤円形形状を呈す。規模は長軸長1.48m、短軸長0.70mを測る。深さは最大9cm程である。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.140) 弥生時代前期から後期の土器が出土した。

490は弥生後期の鉢。外面縦方向ハケメ後ナデ調整。内面縦方向ハケメ後ナデ調整。頭部で屈曲させ、内外面を丁寧に横ナデすることで口縁部を外に開く。

SK463(Fig.135, PL.60) O-25・26区にかかって検出した。主軸はほぼ北西から南東方向に取り、瘤円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.34mを測る。北よりに直径0.85m程の不整円形の凹みがあり、深さ0.32mを測り、他は深さ0.23m程である。埋土は上層が黒色粘土、前述の凹みを含む下層は黒色粘土と緑灰色地山粘土ブロックの混合層である。

出土遺物(Fig.140・154, PL.97) 弥生時代前期の土器が多く出土し、黒曜石片も少量出土した。491は刻目突帯文甌口縁部破片。内外面横方向にナデ、刻目は棒状工具を突帯中程の深さまで押しつける。492は小型の刻目突帯文の鉢で、内外ナデ調整、刻目はヘラにより突帯中程の深さまで刻む。493は如意型口縁甌で、外面縦方向ハケメ後ナデ、内面は横方向のナデ調整で、内外面口縁先端付近は横ナデにより整形される。刻目はハケメ工具を口唇全体に押し当てて連続的に押し引きしてつける。494は弥生前期の甌の底部。495は口縁を粘土帯の縦目により肥厚させる鉢の口縁部破片。496は高杯の脚先端部で、先端部外面2.5cm程を粘土を貼り付けて肥厚させる。

671は棒状の土製品片。残存長3.0cm、断面は円形で径は0.9cm×0.85cmを測る。表面は傷みが

進むがナデか。把手などの一部か。

SK468(Fig.135) O-24区、SK463の南東側で検出した。南北方向にやや長い橢円形のプランで、長軸長1.38m、短軸長1.12m、深さ最大0.37mを測る。埋土は上層が炭化物や地山粒子を少量含む黒色粘土、下層が明緑灰色粘土ブロックを含む黄灰色粘土である。500は上層直上から、497は上層下部から出土した。

出土遺物(Fig.140・155、PL.107) 弥生時代前期を主体として前期から中期の土器片が多量に出土し、サスカイト剝片や黒曜石剝片も出土した。

497は弥生時代前期の壺の口縁部破片。口縁外側に粘土の下部を指で押さえつけた貼り付け、肥厚させる。口縁全面に細い棒状工具を押しつけて刻目をつける。外面横方向の細かいハケメ調整を施す。498は精製の浅鉢の口縁部で、内外丁寧に横方向のナデ調整を行う。499は大型の壺の口縁部で、口唇部に横方向の凹線を施す。内外ヘラミガキ調整。500は丹塗の大型壺の口縁部破片で、口唇部に横方向の凹線を施す。503と同一個体と考えられる。501は弥生時代前期の丹塗の大型壺の底部で、外面ヘラミガキ調整、内面ナデ調整。502は円盤貼付形の弥生時代前期の精製小型壺の底部である。外面横方向のヘラミガキ、内面ナデ調整。503は丹塗りの大型壺の肩上部で、頸・胴部間の内外面に薄く稜がつく。外面は横方向のヘラミガキ、内面胴部は粗いハケメ後粗くナデ、頸・胴部間は丁寧なナデ、頸部が横方向の細かいハケメが施される。

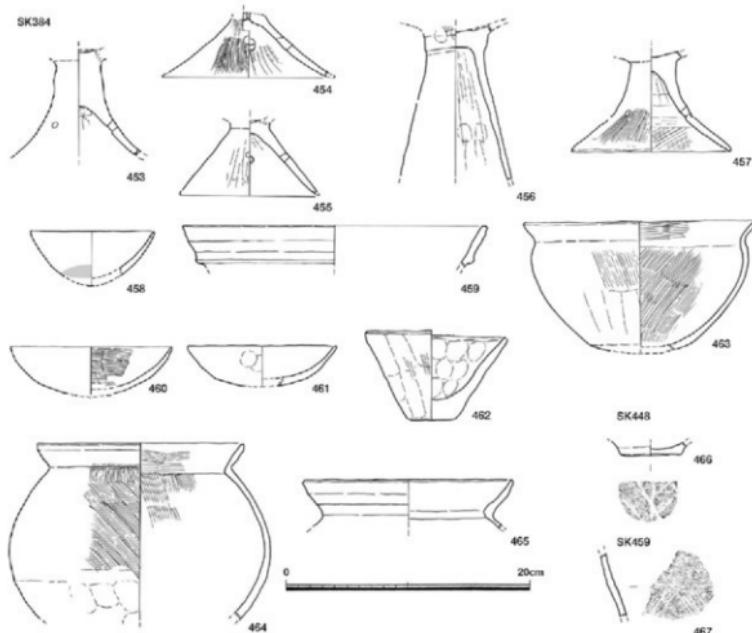


Fig.136 SK384・448・459出土土器 (1/4)

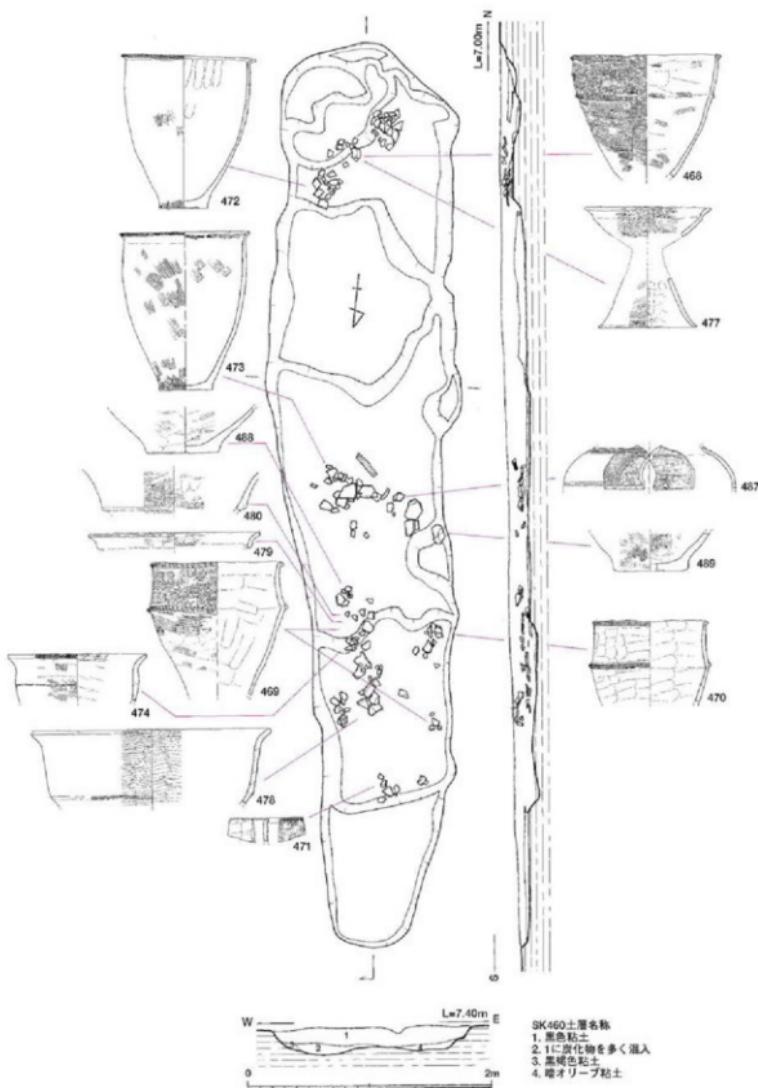


Fig.137 SK460 (1/40)

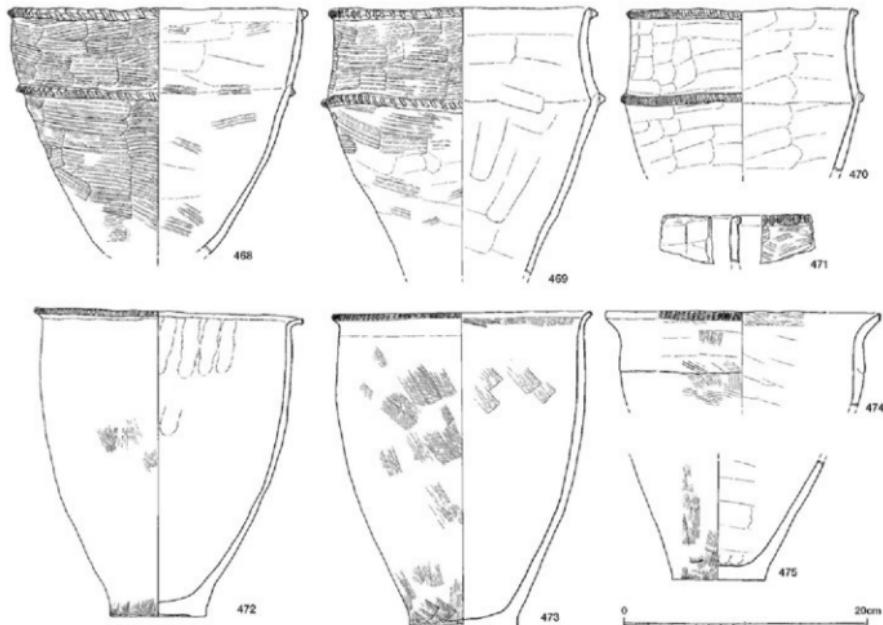


Fig.138 SK460出土土器① (1/4)

S36は挿入柱状片刃石斧片。欠損が著しい。成形の敲打痕が残るが、研磨仕上げ。石材は頁岩。

SK469(Fig.135, PL.60) O-P-25区にかかる、SK463の西側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、梢円形プランを呈し、規模は長軸長1.30m、短軸長0.83mを測る。北西側がテラス状に高くなり、南東側に三ヶ所程凹む部分がある。深さは最大0.25mを測る。埋土は上層が灰黄色地山粘土ブロックが少量混入した黒色粘土、下層が上層と暗オリーブ灰色粘土の混合層である。

出土遺物 突帯文甕口縁部破片、弥生時代前期の高坏、弥生前期の精製小型壺の口縁先端部破片など、弥生時代前期の土器が少量、黒曜石剥片が1点出土した。

SK473(Fig.135) P-25区東側、SK463の北側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、梢円形プランを呈し、規模は長軸長0.96m、短軸長0.65m、深さ最大0.11mを測る。埋土は黒色粘土と暗灰色粘土の混合である。

出土遺物 条痕調整の施された副部破片が1点出土した。

SK474(Fig.135) N-25区、SK460によって切られる。主軸を東から西方向に取り、梢円形プランを呈す。規模は長軸長さ2.90m、短軸長0.84m、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土で、最下層はオリーブ黒色粘土である。

出土遺物 条痕調整の副部破片が7点、弥生土器細片が少量出土した

SK475(Fig.135, PL.60) N-23区、SK488の北側、SK517の東側で検出した。直径1.15m程

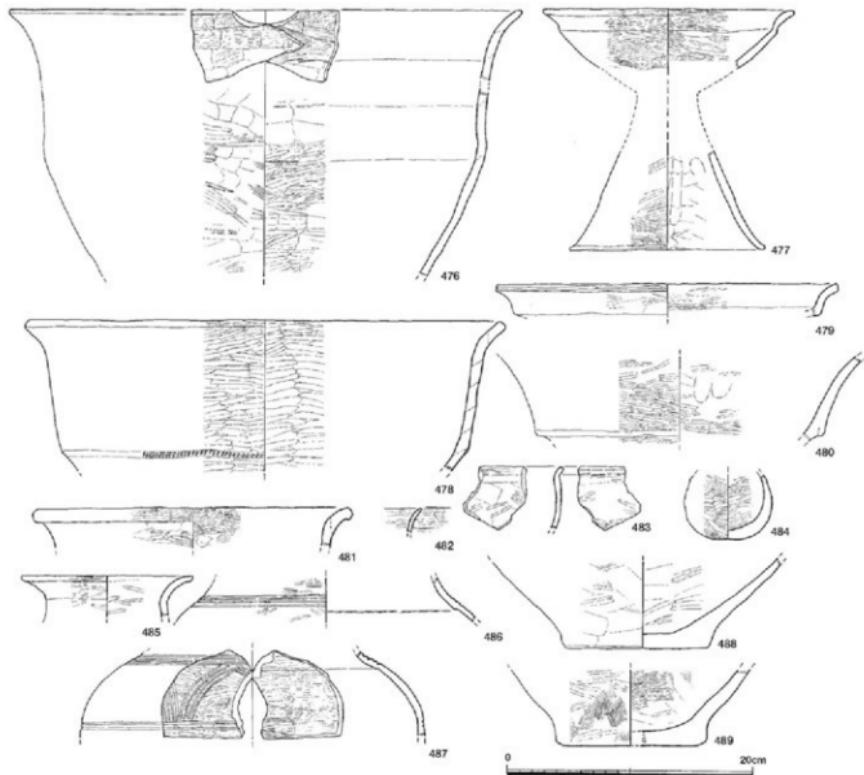


Fig.139 SK460出土土器②(1/4)

の円形プランを呈し、深さ最大0.63mを測る。埋土は黒色粘土ブロックと暗灰褐色粘土地山ブロックと緑灰色砂混じり粘土ブロックの混合で、一気に埋められたようである。壁は直または上が窄まり気味に立ち上がり、貯蔵穴と考えられる。

出土遺物(Fig.155) 弥生時代後期の甕、中期の甕の底部、突帯文土器口縁部小片、丹塗磨研壺破片など、弥生時代前期～後期の上器破片が少量出土で、時期を判断できる上器はない。

S37は叩石。拳大の大きさで、縦長11.5cm、横幅7.5cm、高さ5.1cmを測る。上下両小口部と底面に使用による敲打痕が明瞭に残る。石材は花崗岩であるが質は脆い。

SK476(Fig.135) N-22区で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.63m、短軸長0.93m、深さは最大0.36mを測る。東側は柱穴によって切られる。埋土は上層が炭化物を含む黒色粘土、下層は緑灰色砂混じり粘土を含む暗めの黒色粘土層である。

出土遺物 弥生時代中期後半の広口壺口縁部破片や刻目突帯文土器破片、弥生土器破片などが少

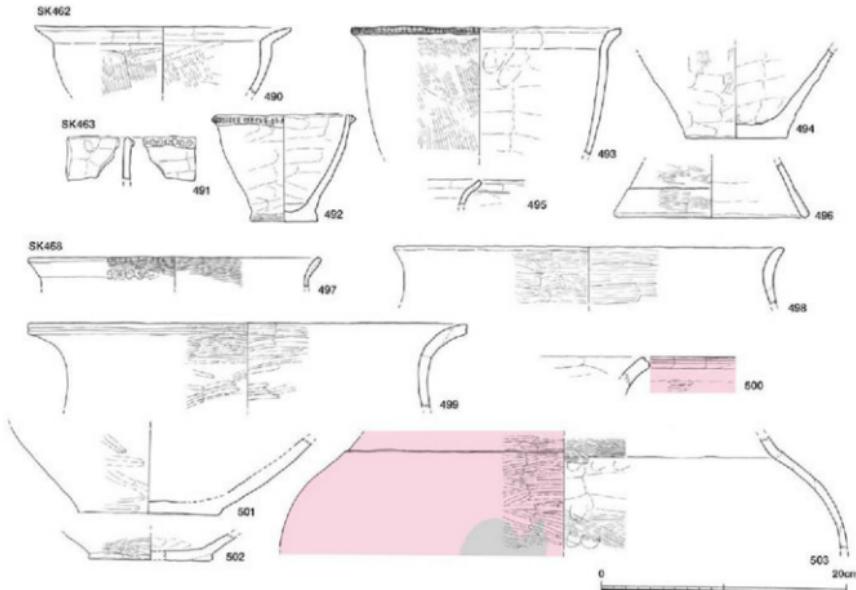


Fig.140 SK462・463・468出土土器(1/4)

量出土した。他に砥石破片1点、黒曜石剥片1点が出土した。

SK477(Fig.136) O-20区、SK500の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈す。規模は長軸長1.50m、短軸長1.01mを測る。底面は複数の柱穴によって切られる。深さは0.21mを測る。埋土はオリーブ灰色砂混り粘土ブロックが混入した黒褐色粘土で、一部オリーブ灰色砂混り粘土と暗黄灰色粘土との混層が入る。床面近くに焦土、炭化物を多く含み、東側床面からは炭化米が出土している。

出土遺物 中期以降の弥生土器の小片が少量、黒曜石片1点が出土した。

SK487(Fig.135) N-27区で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、不整梢円形プランを呈す。規模は長軸長1.70m、短軸長0.62m、深さ最大0.25mを測る。埋土は黒色粘土で、遺物は出土しなかった。

SK488(Fig.141、PL.60) O-23区、SK495の東側で検出した。主軸を東から西方向に取り、不整梢円形プランを呈す。規模は長軸長4.02m、短軸長0.98m、深さは最大0.44mを測る。埋土は黒色粘土である。内部から前期の甕を中心とする土器が多量出土した。廃棄土坑か。

出土遺物(Fig.142~144・156、PL.98・99・108) 刻目突帯文甕を主体として前期にかけての土器が多く出土し、完形に復元できるものも多い。また黒曜石剥片が多量に出土し、炭化物も少量出土した。

504~528は刻目突帯文甕で、504~515は屈曲型二条突帯文甕、516~518は砲弾型一条突帯文甕、519~526は突帯文土器口縁部破片、527・528は突帯文甕の底部である。屈曲型二条突帯文甕

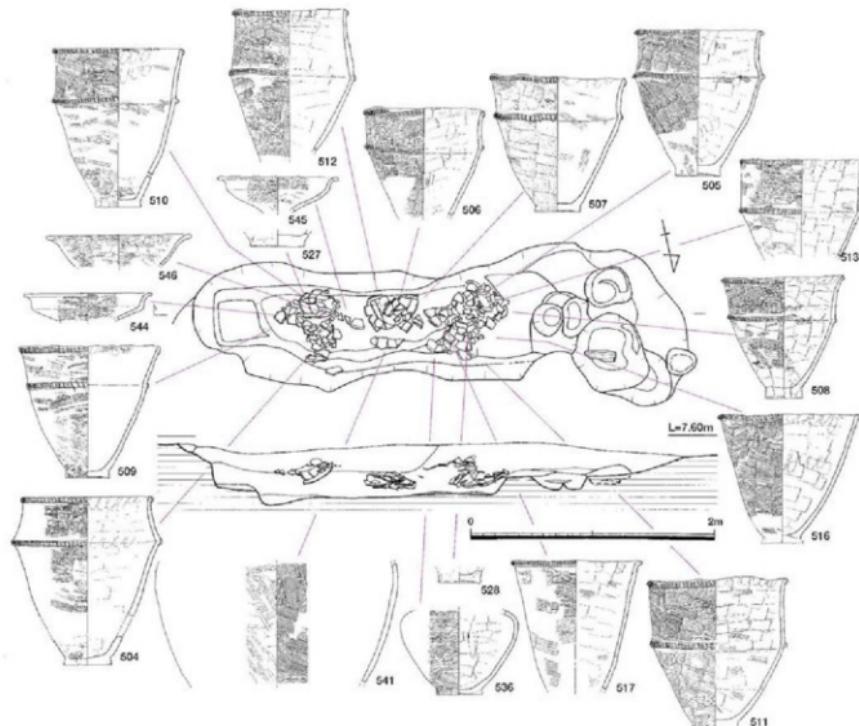


Fig.141 SK488 (1/40)

については、器形は屈曲部から内傾して口縁部に立ち上がるるもの(520)、屈曲部からやや内湾気味に垂直方向に立ち上がるるもの(505-506-507-514)、内湾しながら外に少し開くもの(508-509)、ほとんど屈曲せず口縁部に至るもの(510)、屈曲部から口縁部まではほぼ垂直に立ち上がるもの(511・513・515)、屈曲部からやや内側に向けて口縁部まで立ち上がり、屈曲部から口縁部までの長さが長いもの(512)など、非常に器形がヴァリエーションに富む。突帯文深鉢の突帯は全て口縁端部に接するようにつけられ、棒状工具を押しつけて深くまたは突帯の中程の深さまで刻目をつけるもののがほとんどである。517-522-524はヘラ状工具により鋭く浅い刻目をつける。基本的に外表面は横方向の貝殻条痕調整を施し、胴下部には上からナデ調整が行われる。内面は貝殻条痕調整後丁寧にナデ消すか、横方向のナデ調整を施す。515の1点のみハケメ調整が施される突帯文土器があり、外間に縱方向のハケメ、内面に横方向のハケメ調整が行われる。2~3cm程の粘土紐を内傾に接合しながら積み上げた痕跡が内面や断面から確認できる。特に屈曲型二条突帯文深鉢の屈曲部内面にははっきりと粘土紐の縦ぎ目の痕跡が残り、屈曲部で一度粘土紐の輪積みを止め、胴部の調整を行った後に

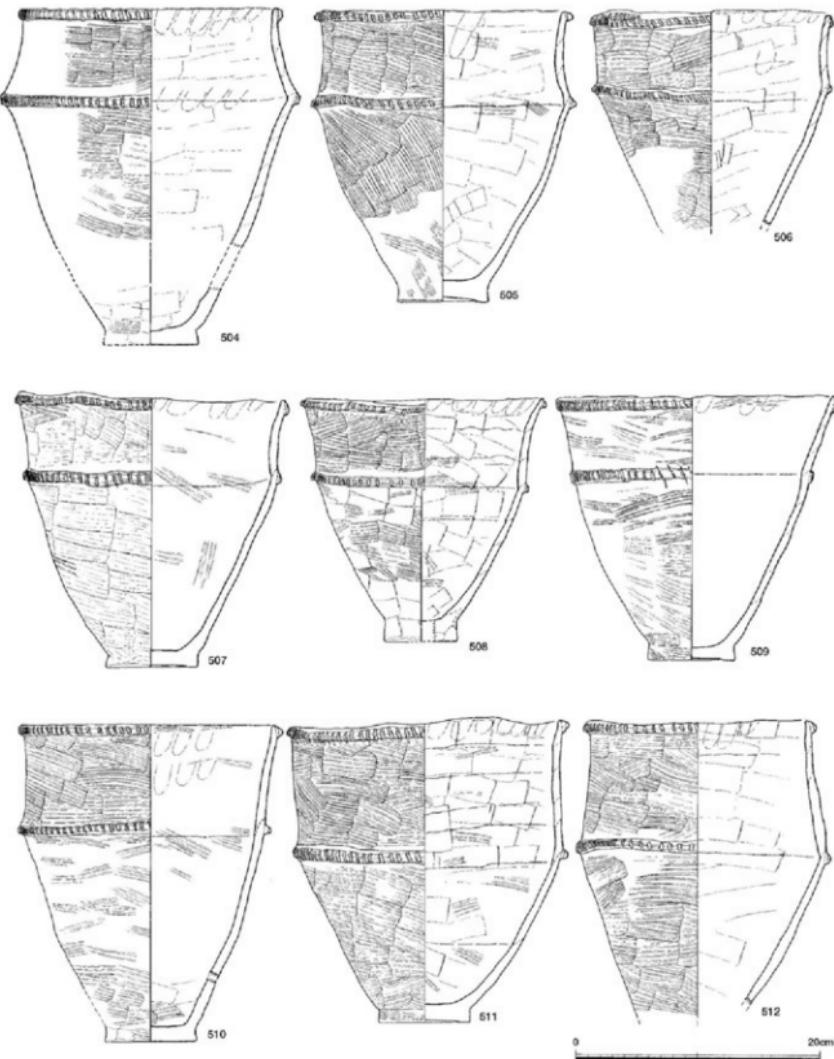


Fig.142 SK488出土土器① (1/4)

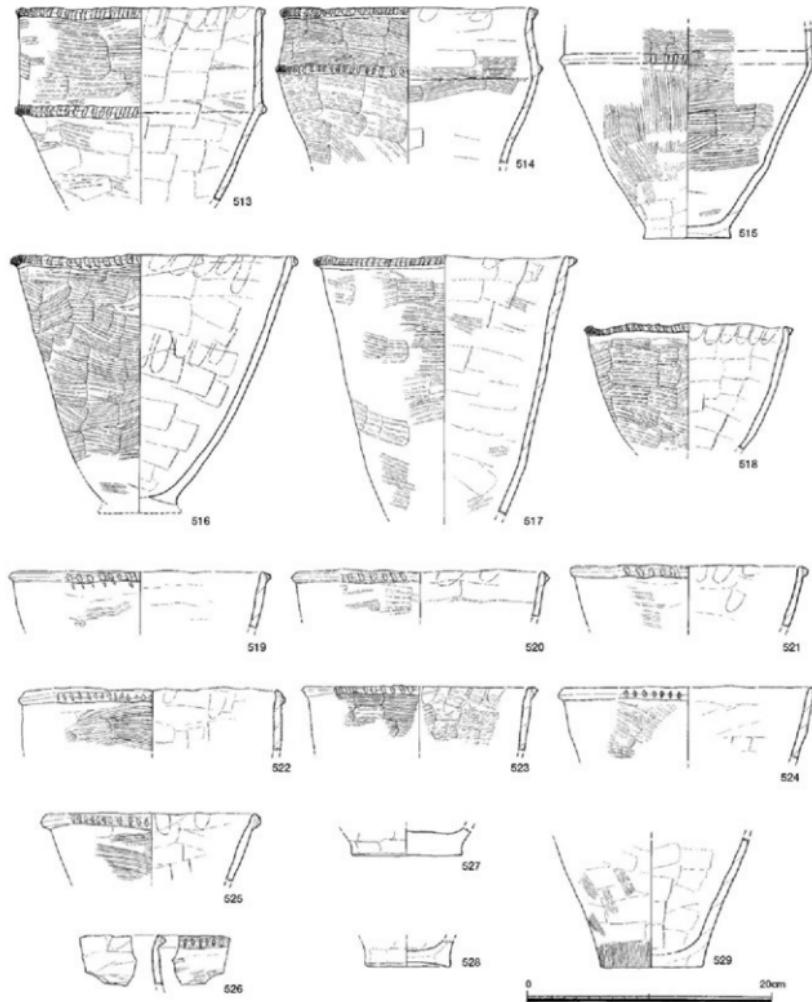


Fig.143 SK488出土土器 ② (1/4)

さらに上の粘土縁を積み上げたと考えられる。529は弥生土器の甌の底部～胴下部で、弥生時代前期のものか。530～541は弥生時代前期の甌で、基本的に外面はヘラミガキを施す。530・531は粘土を貼り付けることにより肥厚させられた口縁部破片。532は丹塗の大型甌の口縁部破片で、口唇部に

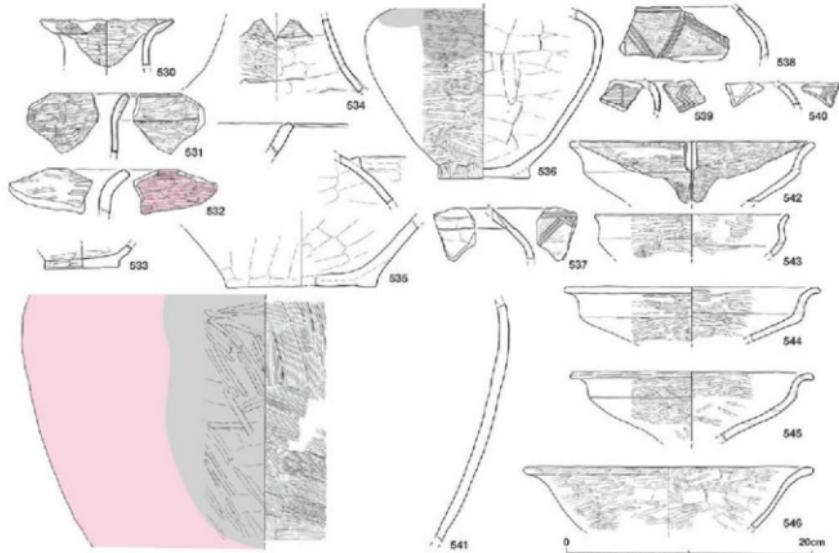


Fig.144 SK 488出土土器 ③ (1/4)

一条の凹線が入る。533は精製小型壺の底部で、円盤財付形を呈する。534は精製の小型壺の頸部。535は同一個体と考えられる大型壺の口縁部破片、頸・胴部間破片、底部で、頸・胴部間に三角形の突蒂を貼り付ける。時期は他の土器よりはやや新しい弥生時代前期後半である。536は小型壺の頸・胴部間から底部で、外面へラミガキ内面板状工具によるナテ調整。537～540は小型壺の胴上部破片で外面はヘラミガキ調整後、沈線による文様がつけられる。537は頸・胴部間内面に粘土帯接合時の段が残る。538は黒色磨研される。541は丹塗の大型壺の胴部で、外面は斜め方向のヘラミガキを施す。内面は下半は横方向のハケメ、上半は縦方向のハケメ調整で、大型壺がある程度の高さまで粘土帯を積み上げた後、器面調整を行い、さらに粘土帯を積み上げ器面調整を行うという工程を繰り返すことで製作されたことがわかる。542～546は弥生時代前期の浅鉢もしくは高坏の破片であるが¹、底部もしくは脚部まで残存するものはなく542・543はどちらの可能性もある。544～546は口縁部への立ち上がり方から高坏と判断される。542は精製の黒色磨研土器である。543は内外面へラミガキ調整が施される。544・545は胴上部で屈曲させ大きく外反しながら口縁部に立ち上がる弥生時代前期前半の高坏の特徴を持つ。両者とも内外面横方向のヘラミガキを施す。546は胴上部に屈曲部を持たず、口縁が分厚くなりながら外反するという544・545よりやや新しいとされる特徴を持ち、内外面へラミガキ調整が施される。

S50～52は石鏡。いずれも基部は平基。鏡身長は2.6cm～2.8cm、幅1.45～1.85cm、厚みは0.35～0.4cmを測る。いずれも剥片を両側から丁寧に二次調整を加える。S50-51の基部は一部欠損する。石材は黒曜石である。

SK490(Fig.135) O-21区で検出し、SK597により西側を切られる。主軸を北東から南西方向に取り、中央が少しづぶれる不整梢円形プランを呈する。規模は長軸長4.4m以上、短軸長最大2.10m、深さ最大0.15mを測る。複数個の柱穴によって切られる。埋土は灰オリーブ粘土ブロックが混じった黒色粘土である。

出土遺物 弥生時代前期の甕口縁部、前期の壺口縁部及び胴部など、弥生時代前期中頃から後半の土器片が多く出土し、黒曜石やサスカイト剥片が少量出土した。

SK491(Fig.135、PL.61) N-25区、SK468の東側で検出した。東西にわずかに長い梢円形プランで、長軸長0.69m、短軸長0.53m、深さ0.13mを測る。底にはこぶし大の砾石が2点出土。埋土は黒色粘土である。

出土遺物 弥生時代前期後半の甕や壺などの破片が少量出土した。

SK492(Fig.135、PL.61) 調査区やや北より、SD505の西側で検出した。主軸を東北から南西方向に取り、梢円形プランを呈す。長軸長0.95m、短軸長0.72m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色粘土が主体で、オリーブ灰色砂質粘土を混入する。貯藏穴と考えられる。

出土遺物(Fig.146) 弥生時代中期及び後期の甕の口縁部や布留式土器の口縁部片など弥生時代中期から古墳時代前期の土器片が多く、黒曜石剥片・石核が少量出土した。

547は弥生時代後期の甕の口縁部。548は鉢の口縁部で、内外面とも横方向のナデ調整後、縱方向のミガキを施す。

SK494(PL.61) O-23区のSD505の東側で検出した。不整円形プランを呈し、柱穴や造構が重複するようである。規模は1.56m×1.38m、深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.146) 弥生時代前期～中期の土器片が多量に、又黒曜石石核が少量出土した。

549は弥生時代前期の中型壺の口縁部破片で、外側に粘土を貼り付け口縁を肥厚させる。550は弥生時代前期の中型壺の底部破片。551・552は刻目突帯文深鉢口縁部破片。553は突帯文深鉢底部破片。554・555は弥生時代の甕の底部破片。

SK495(Fig.145、PL.61) O-23区のSK494の北側で検出した。主軸を北から南方向に取り、隅丸長方形プランを呈する。底面は北側がテラス状で南側が一段深くなる。規模は長軸長3.16m、短軸長1.52m、深さ最大0.58mを測る。埋土は最上層が明緑灰色粘土ブロック地山、上層が黒色粘土、中層が暗い黒色粘土、下層は黒色粘土が砂っぽくなり灰を薄く含み、最下層は明緑灰色砂質粘土ブロックで黒色粘土と暗灰黄色地山粘土ブロックを混入する。さらにその下に東側から明緑灰色地山粘土を薄く縦状に挟む黒色粘土が入り込む。

出土遺物(Fig.146・154・155、PL.99・108) 弥生時代前期から後期迄の土器が出土するが、時期は中期であろう。

556～565は刻目突帯文甕で、556は屈曲型二条突帯文甕口縁部破片、563・565は同じく胴部破片、557～562・564は突帯文甕口縁部破片である。突帯は口縁端部に接するように貼り付け、刻目は棒状工具を押しつけてつける。内外面、貝殻条模またはナデ調整が基本である。558のみ内面に横方向のハケメ調整を施す。566～568は如意型口縁甕の口縁部である。566はハケメ状工具により口唇全面に刻目をつける。外面上から下へのハケメ、内面横方向のハケメ後口縁部は丁寧に横ナデを加える。外反も緩く、板付I古式甕の特徴を示す。567は口唇全面、568は口唇や下気味にヘラによる刻目をつけ、口縁付近内外から横ナデを加える。569・570は弥生時代前期前半の壺である。569は黒色磨研の精製小型壺の胴部破片。頸・胴部間に三本、胴中部に一本以上の平行沈線を横走させ、その間に三本の沈線からなる複線弧状山形文を施す。頸・胴部間の内面には粘土帶接

合時にできた段が残される。570は丹塗の大型壺の頭部である。外面全面と内面の口縁部から頸部中程まで丹塗が施されたよう。外面は横方向のヘラミガキ調整。内面は頸部中程以下横方向のハケメ調整、その上部は横方向のハケメ後横方向のヘラミガキ調整である。571～574は弥生時代中期の甕であり、571は「く」字形口縁、572・574は逆L字形口縁で574は口縁先端が下に垂れ下がる。571・572は中期前半、574は中期後半に位置づけられる。573は中期の甕底部である。575は高环の坏部と脚部の連結部、576は弥生時代後期の甕の底部である。

673は焼けた粘土塊。縱幅4.5cm、横長9.3cm、厚さ3.85cmを測る。指押え仕上げで、ヘラによる切込みや、焼けた黒化した部分がある。

S38は刃部が三角形を呈す石庖丁片。残存長9.5cm、最大幅5.1cm、厚さ0.4cmを測る。径0.7cmの孔が1ヶ所残る。S39は大型の剥片。縱長13.6cm、横最大幅6.05cmを測る。明瞭な使用痕や二次調整は認められない。石材はサスカイトである。S40はスクレーパーか。縱長7.95cm、横幅3.6cmを測る。断面三角を呈する長方形の剥片の側面に二次調整を加え、刃部を作り出す。石材は硅岩。

SK496(Fig.145、PL.61) 調査区や北より、SD505の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長0.98m、短軸長0.64m、深さ0.34mを測る。埋土は黒色粘土と青灰色シルト粘土ブロックの混合である。貯蔵穴と考えられる。

出土遺物(Fig.146・155) 弥生時代中期の甕小片が少量出土した。

577は弥生時代中期前半の逆L字形の甕口縁部で、578は弥生時代中期初頭から前半の甕の底部である。

S41は礫石で、丸みを持つ円礫を利用したもの。径は6.6cm×4.9cm、高さは4.3cmを測る。叩き使用痕が明瞭に残る。石材は緑泥片岩か。

SK500(Fig.145、PL.62) P-21区のSC532の南東側で検出した。主軸を北から南方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長4.55m、短軸長1.17m、深さ最大0.22mを測る。埋土は上層が淡黄色粘質土、下層が黒色粘質土で、下層の直上から出土する土器が多い。中央部から北部は柱穴に切られる。

出土遺物(Fig.147・148・154・155、PL.99・100・108) 突帯文期・弥生時代前期前半の土器片が多量出土した他、黒曜石及びサスカイトの剥片・石核が少量出土した。

579～592は刻目突帯文の甕で、全て屈曲形二条突帯文甕になる。器形は屈曲部からあまり内汚せずあるいはわずかに内汚しながら垂直方向に立ち上がるものがほとんどで、583のみ屈曲部から口縁部にかけて外側に開く。基本的に外面は横方向の貝殻調整を施した後、ナデを加え、内面は貝殻条痕後ナデるか、直接ナデ調整を加える。584のみ屈曲部以下に縱方向のハケメを施し、屈曲部上部及び内面には横方向の貝殻条痕調整を施す。口縁部突帯は全て口縁端部に接するように貼り付けられ、刻目は全て棒状工具により突帯中程の深さ又は深く刻まれる。内面に粘土紐の接合痕を残すものが多く、2～3cmの粘土紐を内傾接合で積み上げながら成形されたことがわかる。特に屈曲部内面にははつきりと粘土紐の接合痕が残り、屈曲部までの成形後器面調整を行ない、さらに口縁部までの成形を行ったことがわかる。いずれも夜臼IIb式以降に位置づけられる。593は口縁がわずかに外反する甕で、口唇全面にヘラ状工具により刻目が付けられる。外面は下から上のハケメで口唇直下に強い横ナデが加えられる。内面は右下から左上への粗いハケメ後口縁先端部付近は目の細かい横方向のハケメ調整が施される。口縁が外反気味の板付粗型甕か。594～598は突帯文甕の底部と考えられ、台形状に下部が外側に張り出す。599～604は弥生時代前期の壺である。599は小型壺の口縁部で外面に粘土を貼り付けて肥厚させる。600は小型壺の頭部から胴上部の破片で、頭部内面には1cm強の粘土紐を積み

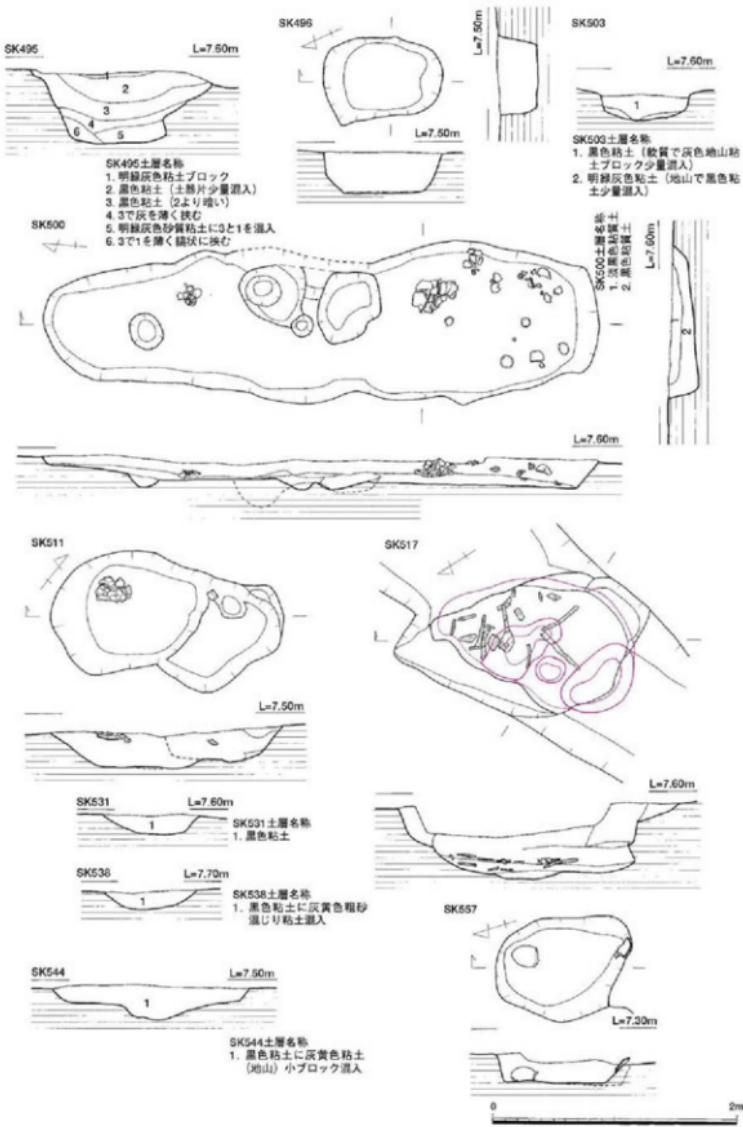


Fig.145 SK495・496・500・503・511・517・531・538・544・557 (1/40)

上げた痕跡が残り、特に頸・胴部間内面には粘土紐接合時の強い段が残る。601は小型壺の口縁部から頸部。602は小型壺の胴部で、前期に少量存在する算盤玉胴部の形態である。頸・胴部間内面に粘土紐接合の段が残る。頸部～胴上部には三本の平行弦線による複雑山形文を施す。603は中型、604は小型壺の底部で、共に円盤貼付形である。605は精製深鉢の口縁部破片で、口縁先端部外側に薄く粘土を貼り付ける。内外面横方向のヘラミガキを施す。606は浅鉢の口縁部破片で、内外面に黒色磨研を施す。607は黒色磨研の精製高杯で、内外面ストロークの短いミガキ調整を丁寧に施して仕上げる。晩期の黒色磨研の浅鉢に脚部を付けた形態で、浅鉢から高杯への変化の過程を示す資料である。

672は2ヶ所孔のある前期の壺の胴部片を利用した土製品。外面はヘラミガキ、内面はナデ。孔は両側からの穿孔である。

S42は石鎚を再利用した敲石か。横長7.45cm、縱幅4.9cm、厚み1cm以上を測る。左側面に叩の使用痕が残る。石材は泥岩か。

SK501 O-24区、SK468を切る。直径約1.3m、深さは最大0.32mを測る円形プランの土坑である。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.148) 608は弥生時代中期の中型壺の底部である。遺物の出土はこれのみである。

SK502 P-21区、SK500の東側で検出された。主軸を北から南に取る梢円形プランの土坑であ

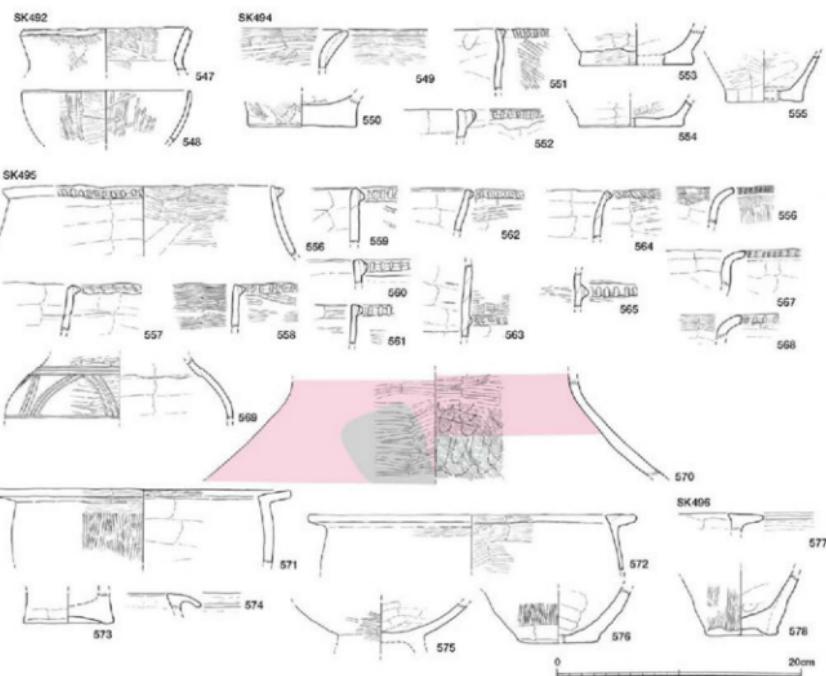


Fig.146 SK492・494~496出土土器 (1/4)

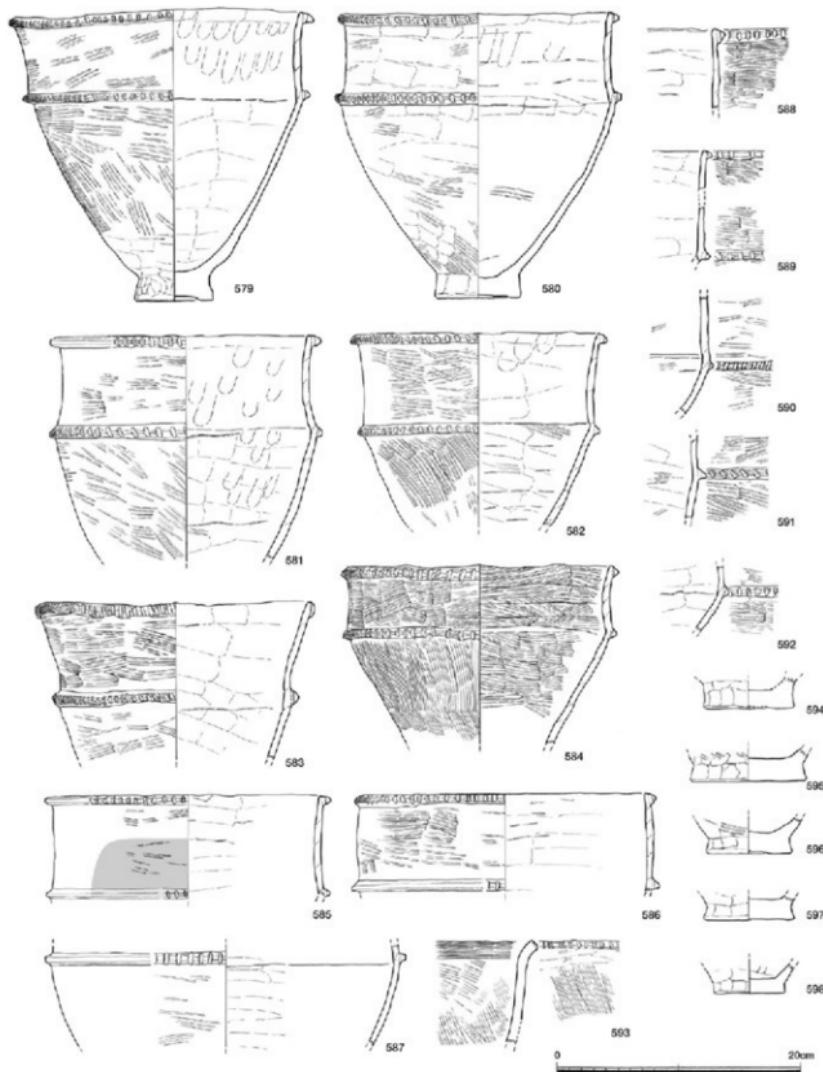


Fig.147 SK500出土土器 (1/4)

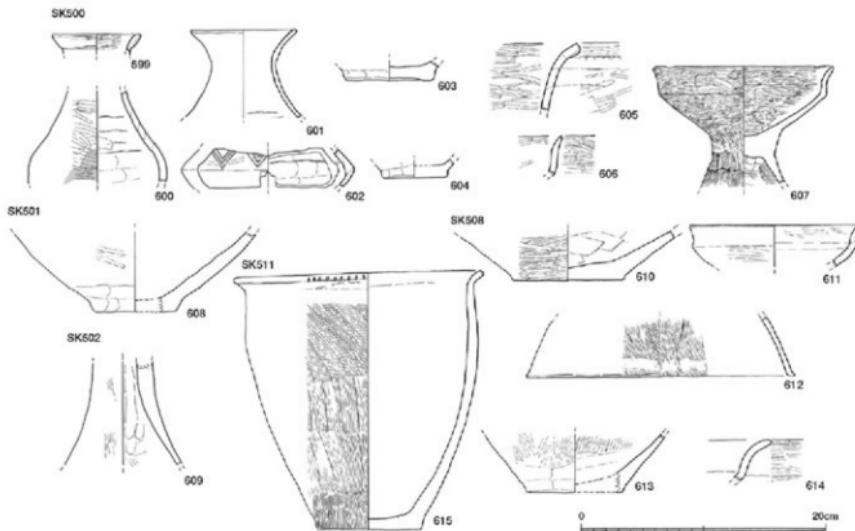


Fig.148 SK500~502・508・511出土土器 (1/4)

る。規模は長軸長1.66m、短軸長0.84mを測る。深さは浅く0.1m程度である。埋土は黒褐色粘土である。

出土遺物(Fig.148) 弥生時代後期の甌の口縁部、肩部、底部の小片が出土した。

609は弥生時代後期の高坏の脚部である。

SK503(Fig.145) O-23区、SD505の南東側で検出し、SK494に切られる。主軸を北東から南東方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長1.24m、短軸長0.8m、深さ最大0.21mを測る。埋土は軟質で灰黄色地山粘土ブロックを少量含む黒色粘土で、最下層に薄く黒色粘土が少量混じる明緑灰色地山粘土ブロック層が入る。

出土遺物 突帯文土器片、丹塗磨研土器片、甌胴部など弥生時代前期の土器小片が少量、黒曜石片が1点出土した。

SK508 Q-22区、SD505の南西側で検出した。SX529を切る。主軸は北東から南西方向に取り、不整梢円形形状プランを呈する。規模は長軸長2.86m、短軸長0.76mを測る。深さは最大で0.7mを測る。埋土は黒色粘土である。底面の形状などから見て風倒木痕か。

出土遺物(Fig.148) 弥生時代前期～後期の土器小片が多量に出土した。

610は弥生時代前期の中型甌の底部で、外面黒色磨研を施す。611は弥生時代前期の高坏の坏部である。612は高坏の脚部先端で、内外縱方向のハケメ調整。613は弥生時代後期の甌の底部。614は弥生時代後期の高坏の口縁部破片。

SK511(Fig.145、PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK596によって切られる。主軸は北東から南西方向に取り、梢円形プランを呈す。規模は長軸長1.25m以上、短軸長0.96m、深

さ最大0.28mを測る。埋土は暗灰黄色地山粘土ブロックが混じる黒色粘土で、土器は上面から出土するものが多い。

出土遺物(Fig.148、PL.100) 弥生時代前期の土器片及び黒曜石片が少量出土した。

615は如意形口縁の甕で、口唇下部から下端にヘラ状工具により浅く刻目をつける。外面は縱方向のハケメ、内面は横方向のナデ調整で、口縁部付近は内外横方向の強いナデを加え口縁を外反させる。時期は弥生時代前期後半である。

SK517(Fig.145、PL.62) O-24区、SD505の北東側で検出され、SD482と重複する土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、北東側が細くなる梢円形プランを呈する。規模は長軸長2.05m、短軸長1.16m、深さは最大0.65mを測る。埋土は黒色粘土で青灰色の地山ブロックを多く含む。また埋土中には多くの自然木が埋まり、炭化米が出土している。

出土遺物(Fig.149) 刻目を持つ甕の口縁部・胴部破片、丹塗壺の口縁部片などが弥生時代前期の土器が多量に出土した。他には黒曜石片及び磨石が一点出土した。

616は弥生時代前期の甕の肩部で赤色顔料により有軸羽状文が描かれる。617は弥生時代前期の甕の底部である。

SK519 P-20区で検出した土坑で、主軸を北から南方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長1.8m、短軸長0.94mを測る。深さは最大で0.3mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.149) 弥生土器の甕の胴部小片が少量出土した。

618は弥生時代中期の甕の底部である。

SK530 P-22区、SD505の南側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長1.76m、短軸長1.26mを測る。深さは浅く5~6cm程である。埋土は黒色粘土であるが、焼土ブロックが部分的に集中する。

出土遺物(Fig.149) 弥生時代後期~古墳時代前期の土器が出土した。甕・壺・鉢・高坏の破片など弥生時代終末から古墳時代初頭の土器が多い。他には蛇紋岩系の石片が少量出土している。

619は弥生時代後期の甕の口縁部。620は古墳時代前期の甕の頭部から胴上部。621は弥生土器の高坏の坏部と脚部の連結部。622は弥生土器の小型の鉢である。

SK531(Fig.145) 調査区中央付近、SK530のすぐ北東側で検出した。直径1.2mの円形に近い平面プランを呈し、深さ最大0.14mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物 逆L字口縁の甕の口縁部や、複合口縁壺片など、弥生時代中期から後期の土器片が少量、黒曜石薄片1点が出土した。

SK538(Fig.145) Q-21区、SC532の南西側で検出した。主軸を北から南方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長2.16m、短軸長0.82m、深さ最大0.14mを測る。埋土は灰黄褐色粗砂混じり粘土が混入した黒色粘土である。遺物は出土しなかった。

SK539 調査区南側P-20区で検出した。主軸を西から東方向に取り、梢円形プランを呈する。規模は長軸長3.16m、短軸長1.16mを測る。深さは最大で12cm程である。埋土は黒褐色粘土で地山ブロックを混入する。

出土遺物(Fig.149) 古墳時代前期の壺や甕の口縁部・胴部小片が少量、粘土塊1点が出土した。

土器623は古墳時代前期の小型丸底壺である。

SK544(Fig.145、PL.62) P-22・23区ライン境界上、SD605の東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.7m、短軸長1.2m、深さ最大0.28mを測る。埋土は灰黄褐色地山粘土小ブロックが混入した黒色粘土である。

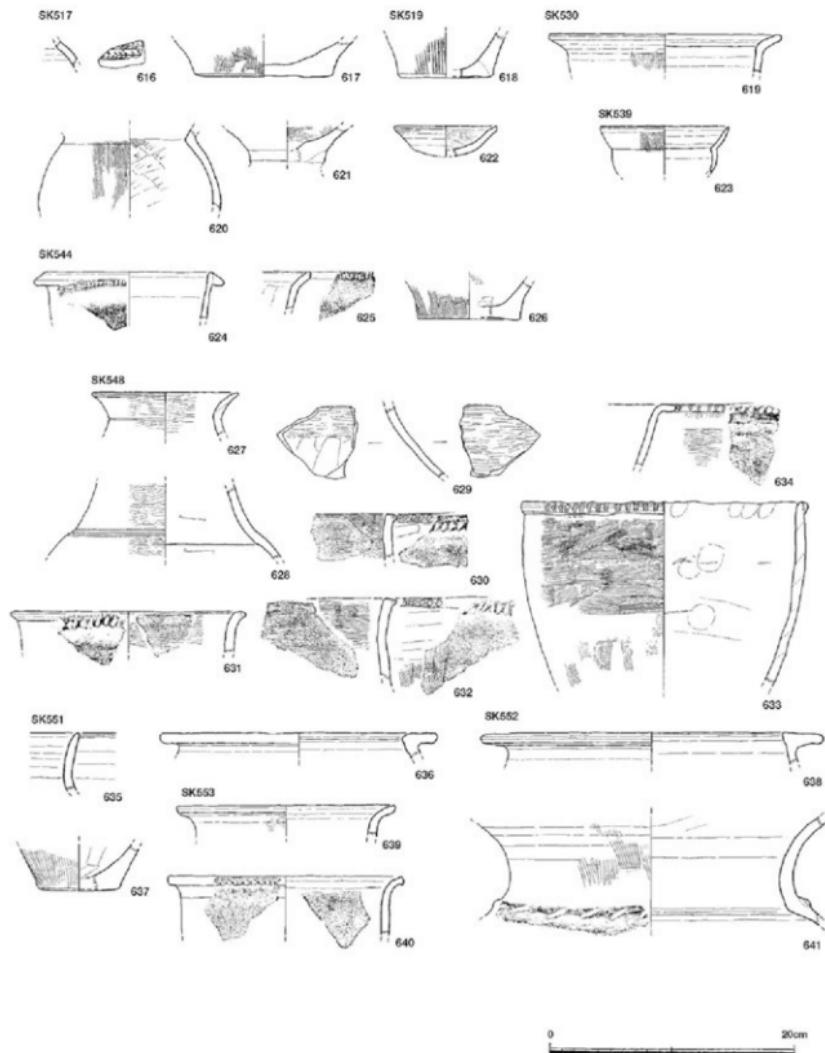


Fig.149 SK517・519・530・539・544・548・551・552・553出土土器 (1/4)

出土遺物(Fig.149) 弥生時代前期後半から中期前半の土器片が多量に出土し、黒曜石剝片・石核、粘土塊も少量出土した。

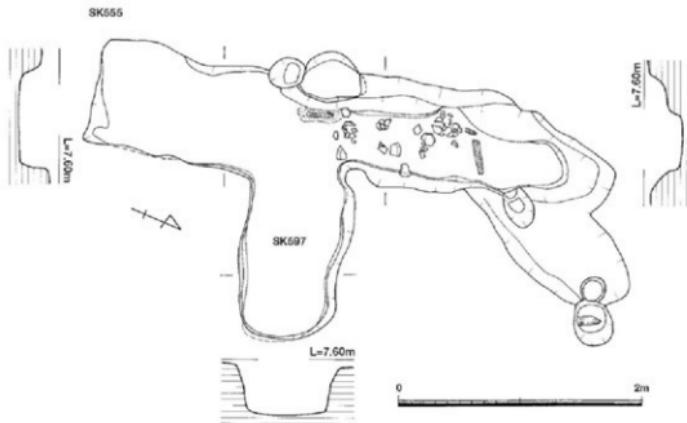


Fig.150 SK555・597 (1/40)

624は弥生時代中期初頭の甕で、口縁にやや垂れ下がり気味の突帯を付け先端に浅い刻目を入れる。625は弥生時代前期の如意形口縁甕で、口唇やや下気味にヘラにより浅めの刻目を密につける。口縁付近は内外横ナデを加える。626は弥生土器の甕の底部で、外面に縱方向のハケメを施す。

SK548 P-23区、SD505のすぐ北側で検出した。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.66m、短軸長0.72mを測る。深さは最大で0.2m程である。

出土遺物(Fig.149) 突帯文甕から弥生時代前期の土器が出土している。他に黒曜石剝片なども出土す。

627-628-629は弥生時代前期の甕の破片である。627は精製の小型甕の口縁部で頸・胴部間に沈線を入れる。628は小型甕の肩部で、頸・胴部間愛面に三本の沈線を横走させ、内面には粘土繩接合の段が残る。629は中型甕の頸部破片で、外面ヘラミガキ調整、内面下部はナデ、内面上部はヘラミガキ調整が施される。630～633は刻目突帯文土器である。630・631は外面横ナデ、内面横方向のハケメ調整、632は外面口縁付近は横ナデ、胴上部以下縱方向のハケメ、内面横方向のハケメ調整である。633は砲弾型一条突帯文甕で、外面胴上部横方向のハケメ、胴下部縱方向のハケメ、内面ナデ調整である。以上のように4点の突帯文土器全てが条痕調整ではなくハケメ調整が用いられる。突帯及び口縁部の形態についても、口縁部に接するように突帯を貼り付けた後、口縁端部と突帯上面を一緒に横方向に丁寧にならることで、水平に近い面ができるという特徴を持つ。SK460やSK488の突帯文土器よりもやや新しく位置づけられようか。634は弥生時代前期の如意形口縁甕の口縁部破片で、口唇全面にヘラによる刻目を施す。外面は口縁直下に上から下へのハケメを施し、強い横ナデを加え、外反を強くする。それより下は横方向のハケメ調整を施す。内面はナデ調整である。

SK551 O-22区、SD505の北東側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、横円形プランを

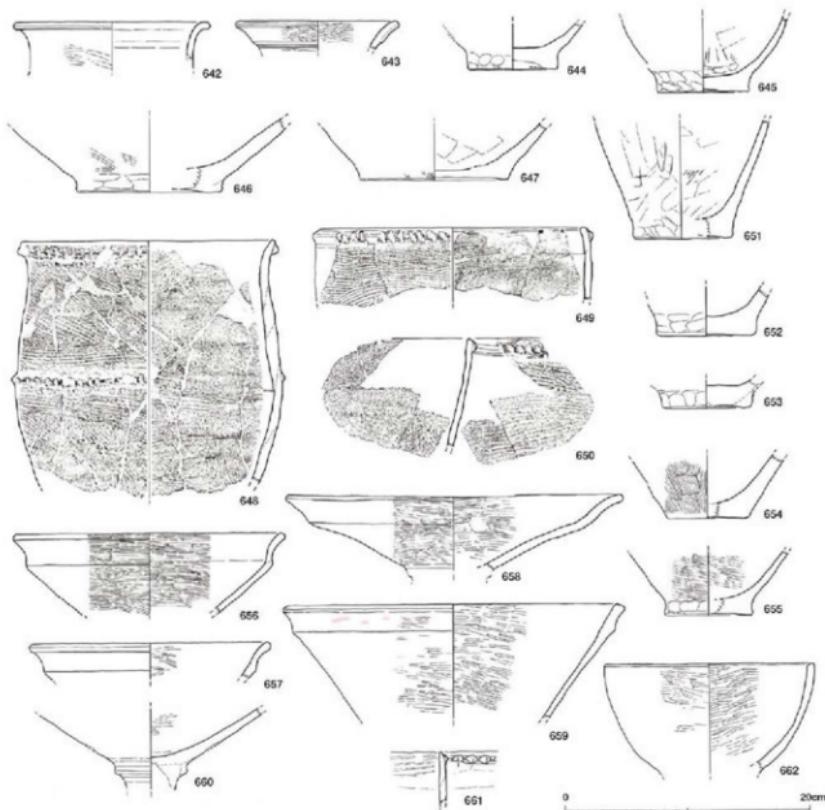


Fig.151 SK555出土土器 (1/4)

呈する。規模は長軸長2.16m、短軸長1.16m、深さは最大で0.14m程を測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物 (Fig.149) 弥生時代中期後半頃から後期までの甕・壺の破片が多く出土した。

635は弥生中期の直口甕口縁部破片。636は弥生時代中期の甕口縁。637は弥生時代中期の甕の底部で、外面ハケメ調整を施す。

SK552 O-22区、SD481の西側で検出した。SD481と重複するので正確な形状は不明であるが、不整形プランで、規模は1.6m×1.0m、深さは0.28mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物 (Fig.149) 弥生時代中期中頃～後半の甕・器台などの小片が少量、砂岩片1点出土した。

638は弥生時代中期の甕口縁部。

SK553 O-22区、SK597に西側を切られる。中央部が括れる橢円形を呈し、規模は長軸長4.4m、

短軸長最大2.2mを測る。深さは最大で0.15m程である。北壁沿いに焼土が集中する部分があった。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.149) 弥生時代前期を中心に、後期までの甕、壺の破片が多量出土した。また、黒曜石剥片、石核、硅化木片などが少量出土した。

639は弥生時代前期後半の無刻目甕の如意形口縁。640は弥生時代前期後半の甕の如意形口縁で、口唇下端部にヘラによる刻目を施す。口縁内外に横ナデを施し、外面脣上部と内面口縁部のナデ直下に斜め方向のハケメを施す。641は弥生時代後期後半の甕の頭部で、頸・脣部間に突帯を貼り付け、上からハケメ工具による刻目を施す。

SK555(Fig.150、PL.62) P-22区、SD505の南東側で検出された。主軸を北西から南東方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長5.45m、短軸長1.08m、深さ最大0.3mを測る。東側と北側で他の土坑と切り合うが、そちらからの遺物も一緒に取り上げたので、SK555の遺物としてまとめて報告する。埋土は黒色粘土で、オリーブ灰色地山粘土ブロックを混入する。

出土遺物(Fig.151-152・154、PL.100) 突帯文上器・弥生時代前期の甕・壺・鉢などの破片が多く出土し、黒曜石剥片や焼成粘土塊、炭化物も出土した。

642~647は弥生時代前期の壺である。642は刻目突帯文期～弥生時代前期前半の壺の口縁部。643は黒色磨研の小型壺の口縁部で、口縁外面に粘土を貼り付けることにより肥厚させ段をつけ、その下に一条の沈線を施す。644~645は小～中型壺の底部、646~647は大型壺の底部である。648～650は刻目突帯文の甕である。648は二条突帯文甕で、屈曲部からわずかに内湾気味に立ち上がり、屈曲部から口縁部が非常に長い。口縁部と屈曲部に突帯を貼り付け、棒状工具による刻目を施す。屈曲部内面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。いずれも外側は横向方向の貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整後ナデもしくは直接ナデを施す。649~650はいずれもヘラにより口縁部突帯に刻目をほどこす。661は口縁部よりやや下がった位置に細い突帯を貼り付け、それをつぶすように指による刻目をつける古手の様相を示すものである。651～654は弥生時代前期の甕の底部で、654は外面縱方向のハケメ調整を施す。655～659は弥生時代前期の高杯もしくは浅鉢で、いずれも精良な胎土で黒色磨研される精製土器である。655は浅鉢の底部で、内外面横方向のヘラミガキを施す。656・657は精製の浅鉢もしくは高杯で、脣部に屈曲部を持つ。658は高杯で、脣上部で緩く屈曲し外反しながら口縁部に至る。659は浅鉢で、外面口縁付近には赤色顔料の痕跡がわずかに残る。

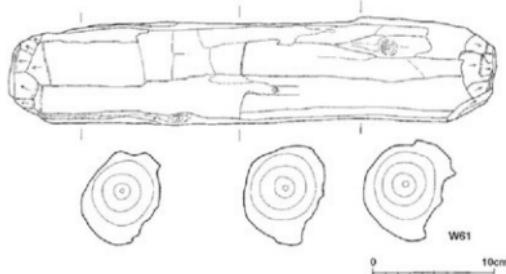


Fig.152 SK555出土木製品 (1/4)

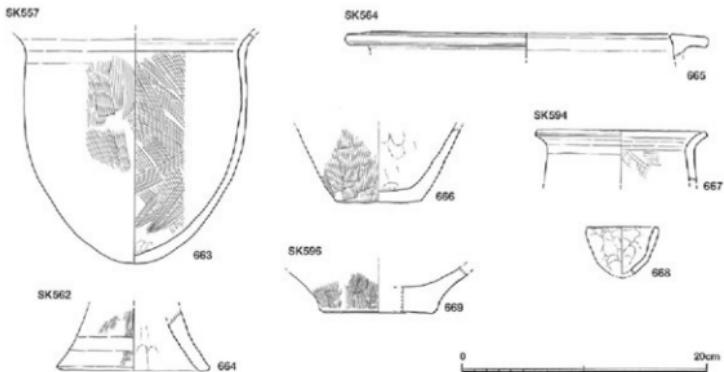


Fig.153 SK557・562・564・594・596出土土器 (1/4)

660は弥生時代前期の高杯の環部と脚部の境で、境に突帯を貼り付ける。662は弥生時代前期の鉢で、内外ヘラミガキを施す。

674は筋鉗形の土製投弾。全長4.6cm、最大径は2.3cm×2.4cmを測る。表面の欠損傷みがひどい。焼成はやや不良。

W61は両端と側面に削り加工を加えた丸太状の加工材。建物柱穴の礎板と思われる。

SK557(Fig.145、PL.63) S-22区、SX560の西側で検出した。南北方向にやや長い楕円形プランを呈し、規模は長軸長1.12m、短軸長0.87m、深さ0.23mを測る。底面は平坦で断面台形状を呈する。埋土は暗灰褐色粘土である。北壁沿いに完形の甕が横位で出土している。

出土遺物(Fig.153、PL.100) 弥生時代後期の土器が出土している。

663は底面直上から出土した弥生時代後期後半の甕で、内外ハケメ調整が施され、底部は丸底を呈す。他に、弥生時代後期の甕の副部片が1点出土した。

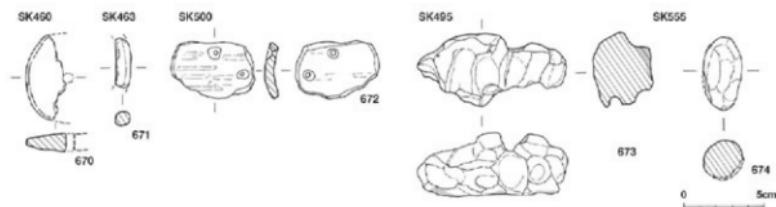


Fig.154 SK460・463・495・500・555出土土製品 (1/3)

SK562 Q-21区、SK538の西側で検出した。主軸を北東から南西方向に取り、長方形プランを呈する。規模は長軸長1.16m、短軸長0.68m、深さは10cmを測る。底面4隅で柱穴と考えられるビ

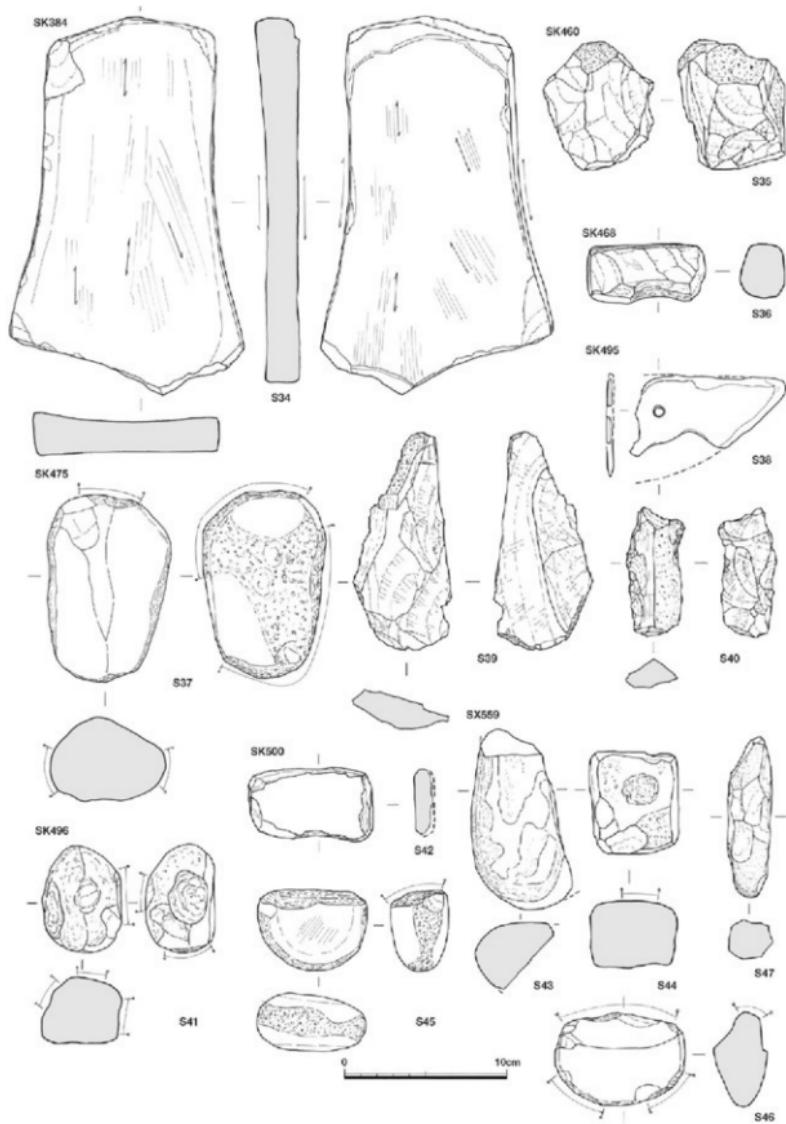


Fig.155 SK384・460・468・475・495・496・500 SX559出土石器 (1/3)

ットが検出された。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.153) 弥生時代中期～後期の土器小片が少量、黒曜石剝片1点が出土した。664は弥生土器の器台脚部片。

SK564 O-20区、SD388の北西側で検出した。平面梢円形プランを呈し、主軸は北西から南東方向に取る。規模は長軸長1.7m、短軸長1.1m、深さは0.3mを測る。埋土は黒色粘土で暗緑灰色地山粘土ブロックを含む。

出土遺物(Fig.153) 弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

665は弥生時代中期の甕の口縁部。666は弥生時代後期の甕の底部で、外面に縱方向のハケ目調整を行う。

SK594(PL.63) Q-23区、SD505の南西側で検出された不定形土坑である。主軸は南東から北西方向に取り、規模は長軸長5.8m、短軸長2.6m、深さは最大で約1mを測る。底面は狭く摺鉢状を呈す。建物柱穴を切っている。埋土は黒褐色粘土である。

出土遺物(Fig.153) 上層・下層両方から弥生時代後期を主体として前期後半から後期までの弥生土器片を多量に出土した。また下層からは黒曜石剝片が1点出土した。

667は上層から出土した「く」の字形を呈する弥生時代後期後半の甕の口縁部。668は下層から出土した小型の手握ね土器で、内外に指頭圧痕が残る。

SK596(PL.62) M-25区、SK460の東側で検出され、SK511を切る。長方形プランを呈し、主軸を北から南方向に取る。規模は長軸長0.97m、短軸長0.79m、深さは最大0.27mを測る。埋土は黒色粘土である。

出土遺物(Fig.153) 669は弥生時代前期の丹塗り壇の底部。外面縱方向のハケメ後ナデを施す。他に遺物は出土しなかった。

⑥ その他の遺構(S X)

SX434出土遺物(Fig.157-166-168, PL.101-108) 遺構はN-O-20区にかけての浅い落込みで包含層の一部か。遺物としては弥生時代初めの突帯文土器から古墳時代前期迄の遺物が出土。

675～677は古墳時代前期の甕。675は小型甕口縁から胴部片。胴部外面は叩き後ヨコナデ、口縁部はヨコナデ、胴内面はヨコハケ調整。676は布留系の甕頸頸部。外面細かいハケ目後ヨコナデ、内面へラケズリ調整。677は庄内系の河内型とタタキ方向が似る。胴外面タタキ後ハケ目、口縁部内外はヨコナデ、内面はヘラケズリ調整。678は弥生時代後期中頃の甕。外面ハケ目、口縁部内外はナデでハケ目が残る。内面はヨコナデ調整。679は後期前半の小型壇。内外面粗いハケ目。外底部にもハケ目とナデ調整。外面下半に黒斑がある。

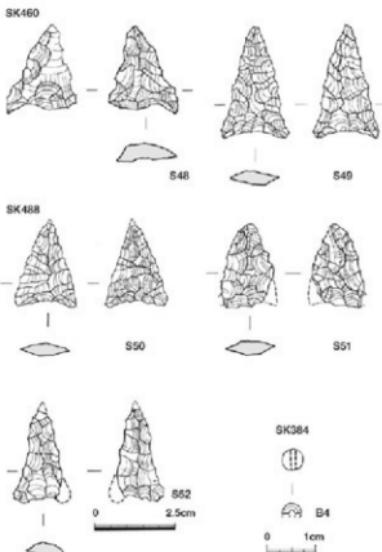


Fig.156 SK460・488出土石器 (2/3)
SK384出土玉 (1/1)

810は主要投弾。一部欠損するが全長3.7cm、最大径は2.4cmを測る。断面は円形で、やや摩滅するが丁寧なナデ仕上げ。

S53は小型の扁平片刃石斧。刃部は欠損するが、残存長3.7cm、幅1.65cm、厚み0.9cmを測る。表面は研磨仕上げ。石材は砂岩か。

SX435・436(PL.63) 調査区南東隅で検出した大型の不定形土坑。東壁にかかり全形は不明であるが、南北二ヶ所の落込みがあり、北側をSX436、南側をSX435とする。両遺構全体の確認規模は長軸長20m、短軸長9mで、最大深さはSX435で約0.86m、SX436で0.9mを測る。埋土は黄白色粗砂が主体である。第3面SD190の基盤下であり、流路の一部の可能性がある。

SX435出土遺物(Fig.157・158・167・168、PL.100・101・108) 上層から下層迄、弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器が出土している。時期的には後期のものが多く、遺構時期もその時期である。他に黒曜石剥片や筋縫車などが出土。古墳時代の遺物は上の遺構からの混入と考える。

680～689は上層出土。680は古墳時代前期の鉢口縁部断片。内外面ナデ調整。681～684は弥生上器の壺。681は後期前半の直口壺口縁部。頭部に三角突帯を貼り付ける。口縁部内外は指ナデ調整。682も後期前半の袋状口縁壺。頭部に貼り付けの三角突帯が巡る。外面ハケ目、口頭部内面上半にヨコハケ目調整。683・684は丹塗り壺。683は須玖II式中期後半の広口壺上半部。口頭部外側はナデ後ヘラによる縱方向の暗文風のミガキ。胸部はヨコヘラミガキ調整。口頭部内面は指ナデ後ヨコヘラミガキ。胸内面はナデ調整。684は底部である。別個体であるが、同形態のものである。胸外側はヘラミガキ、内面はナデ調整。683は外面から口頭部迄丹塗り、684の外側は丹塗り。685は後期の小型壺。胴部外側はハケ目後ナデ消し、その他はヨコナデ調整である。686は後期前半の鉢。口端部はやや内傾し、凹凸がある。体部外側はタテハケ目、口縁部内外面はヨコナデ、体内面はナデ調整。687は弥生時代後期中頃の高杯坏部。内外面は丁寧なヘラミガキ調整で、内面には工具痕が残る。688・689は刻目突帯文土器壺の底部で木葉痕が残る。690は中期の広口壺頭部片。内外面はナデ調整。691は中期壺の底部。底部はやや上底で、外側ヘラミガキ、内面はナデ調整。

S54は砥石片。残存長7.55cm、最大幅3.8cm、最大厚1.4cmを測る。全面砥面として使用。石材は粘板岩。S55は外湾刃半月形の石庖丁片。残存長6.1cm、幅4.2cm、最大厚0.6cmを測る。やや欠損するが研磨仕上げである。円孔は径0.7cmを測る。石材は輝緑凝灰岩。S56は筋縫車の破片。復元直径は5.8cm、孔径は0.8cm、最大厚0.7cmか。表面研磨仕上げ。石材は滑石。S57は輕石の浮子。全長7.7cm、最大幅4.4cmを測る。左側面中央に縦掛けのノッチがある。S58は大型の石鍤。石材は滑石である。長軸径13.5cm、最大厚5.9cmを測る。表面は粗い削り仕上げ。中央部にノミ状工具による穿孔がある。S59は各面剥離面の石核。下小口面には二次調整痕がある。石材は頁岩か。

692～701は下層出土。692は弥生時代中期中頃の鉢。外側はナデでハケ目が僅かに残る。内面はナデ。693・694は弥生時代中期の須玖I式の壺。693は鋸先状口縁壺口縁部。694は口が窄まる短頭壺。いずれも器表面の摩滅はひどいがヨコナデ調整か。695～697は逆L字形の口縁を持つ中型壺で、須玖I式期のもの。697の頭部には三角突帯が1条貼り付く。胴部外側はハケ目とナデ、口縁部外側から内面はヨコナデ調整。698・699は中期の壺底部。いずれも外側はタテハケ目、内面はナデ調整で指押え痕が残る。外底部はナデ。700は後期前半の鉢。上層の破片と接合している。口端部は内傾し、凹凸がある。外側タテハケで、口縁部外側から内面はナデ調整。701は突帯文土器の壺口縁部か。外側は摩滅し調整は不明、内面は板ナデ調整。

W62・63は板材。縦長16.0cm・17.7cm、横幅6.0cm・5.7cm、厚み0.8cm・0.9cmを測る。表面は丁寧な削り仕上げで、両小口は使用によるのか摩滅が著しい。スギの原木材である。W64は斜めに加工さ

れたヘラ状の薄い板材。全長17.9cm、最大幅2.2cm、厚み0.2cmを測る。W65は先端を四面から削り込んだ棒状の製品。断面楕円形の芯持材。残存長15.4cm、径は2.7cm×1.8cmを測る。頂部は欠損が著しいが斜めの削り。

SX436出土遺物 (Fig.157~159・166~169、PL.101・109) 702~713は上層出土。702・703は須恵器。702は甕口縁部で下層と接合。口縁部内外面回転ヨコナデ、体外面はタテ平行タタキ、内面はナデ調整。5世紀のもの。703は甕・胴頸部片。回転ヨコナデ調整で、外面灰力ブリする。704~706は土器器。704は古墳時代初めの小型器台。内外面ヘラミガキ調整。705は高环脚部。ナデ調整で外面ハケ目が残る。706は小型の甕。胴部外面はハケ目。口縁部外面はハケ目後ナデ、胴部内面はナデ。707は後期前半の甕口縁部。胴部外表面はハケ目、口縁部外面はハケ目後ナデ、胴部内面はナデ。708・709は中期の甕で口縁部は逆L形を呈す。胴部外表面はハケ目、口縁部外面はヨコナデ、胴部内面はナデ上げ。709は大型甕で、頭部に1条の三角突帯が付く。胴部外表面はハケ目で、口縁部外面から胴部内面にかけてはヨコナデ調整で、内面ススが付着する。710は後期前半の高环環部。内外面の調整はヘラミガキ。内面屈曲部はハケ目後ミガキ調整。711・712は中期後半の鉢で、いずれも口端部は平坦を呈す。711の口縁部は内外ヨコナデ調整で、体部外面はハケ目が残る。712は大型で復元口径は22.8cmを測る。内外面調整はヨコナデから板ナデやナデ。713は中期後半の丹塗りの蓋。直径0.5cmの円孔が両側2個1対で穿たれる。外面ヘラミガキ、口縁部外面から内面はナデ調整で、奥には指揮え根が残る。

714~725はSX436下層出土。714~716は壺。714は後期前半の袋状口縁壺。頭部には1条の三角突帯が付く。頸部外表面はタテハケ目、口縁外面から内面にかけてはナデ調整。715は小型壺胴部片。下膨れで最大胴径は13.8cmを測る。外面剥落がひどいが粗いハケ目、内面もハケ目調整で、頸部に粘土帶接合面が残る。外面黒斑がある。716は無頸壺。胴部には二条の突帯が巡る。外面突帯下はタテハケ目、内面は強いハケ目調整。口縁部外面に黒斑がある。717・718は後期中~後半の中型甕。717は内外面ハケ目調整。718は口縁から胴部片。胴部外表面はハケ目、口縁部外面はハケ目後ナデ、内面は板ナデ調整で、工具痕が残る。外面ススが付着する。719・720は後期前半の底部片。719は壺。内外面粗いハケ目。底部はナデ調整。720の胴部外表面はタテハケ目、内面はナデ上げ。外底部はナデ調整。外面黒斑がある。721~723は鉢。721は丸みを持った体部で平底。外面の調整はナデ上げ、内面は粗いハケ目調整。外面には焼成前剥落がある。722・723は手程のミニチュアの鉢。722はナデ調整で指揮え痕が残る。723は外底に黒斑がある。724は後期前半の大型の甕で頭部に突帯が巡る。内外面ハケ目調整。725は支脚で、復元底径は8cmを測る。内外面指ナデ調整。

811は紡錘車。完形で、径5.2cm×5.3cm、厚み0.7cmを測る。中央に0.6cmの円孔が空く。812は土器片を打ち欠いて利用した土製円板。径は4.2cm×5.2cm、厚み0.8cmを測る。ナデ調整である。813・814は不明粘土塊。813はハケ目調整痕がある焼成粘土塊。814は手程ねの焼成粘土塊。

S60は上層出土、他は下層出土である。S60は大型の石庖丁未製品片。両側に穿孔痕が残る。残存長は9.9cm、最大幅7.2cm、最大厚0.4cmを測る。石材は粘板岩か。S61は小型の扁平片刃石斧。全長7.1cm、幅2.6cm、最大厚0.9cmを測る。全面研磨仕上げ。刃部は使用で一部欠損する。S62は磨製石斧片。基部のみ欠損品で残存長6.85cmを測る。雜な研磨仕上げで、敲打痕が全面に残る。石材は安山岩。S63は外湾刃半月形の石庖丁片。残存長9.4cm、幅5.8cm、最大厚0.8cmを測る。円孔は2ヶ所で径は1.3cmを測る。丁寧な研磨仕上げ。石材は輝綠凝灰岩である。S64は石斧の基部片を再利用した蔽石。全長5.6cm、幅6.65cm、最大厚3.7cmを測る。表面には敲打調整痕が残るが、下小口面は使用痕である。石材は砂岩。S65は紡錘車で、直径5.1cm、最大厚0.65cm、孔径0.7cmを測る。

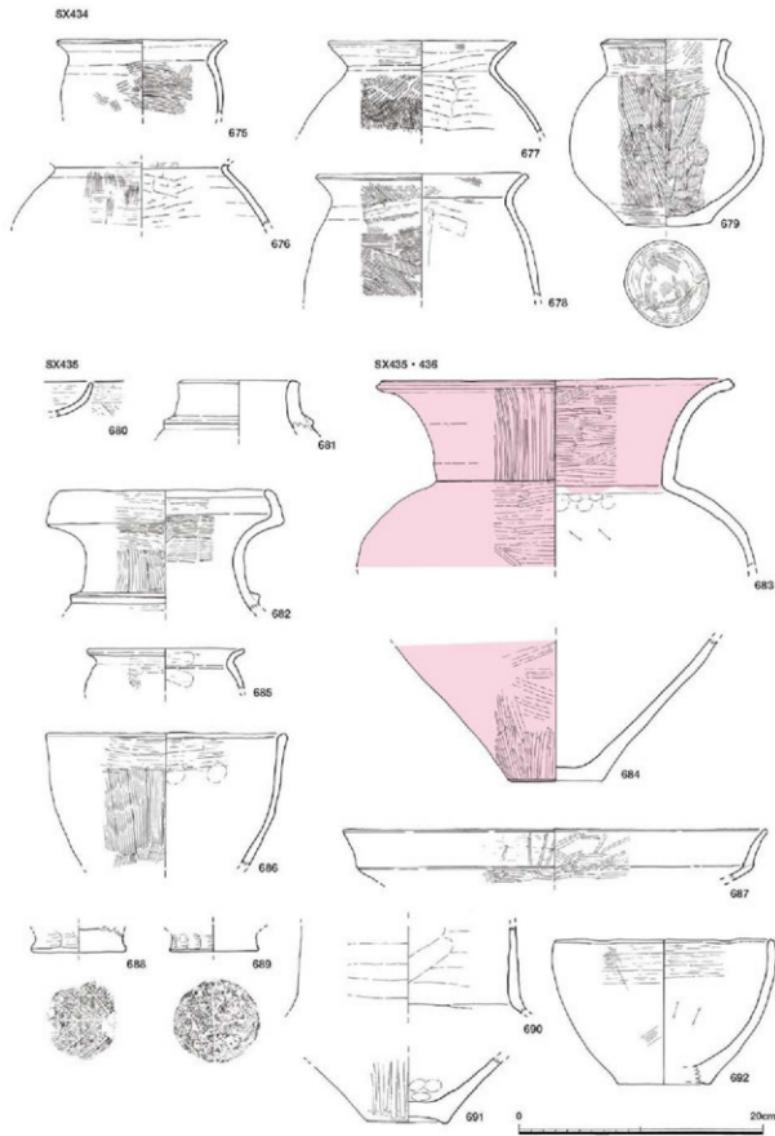


Fig.157 SX434~436出土土器 (1/4)

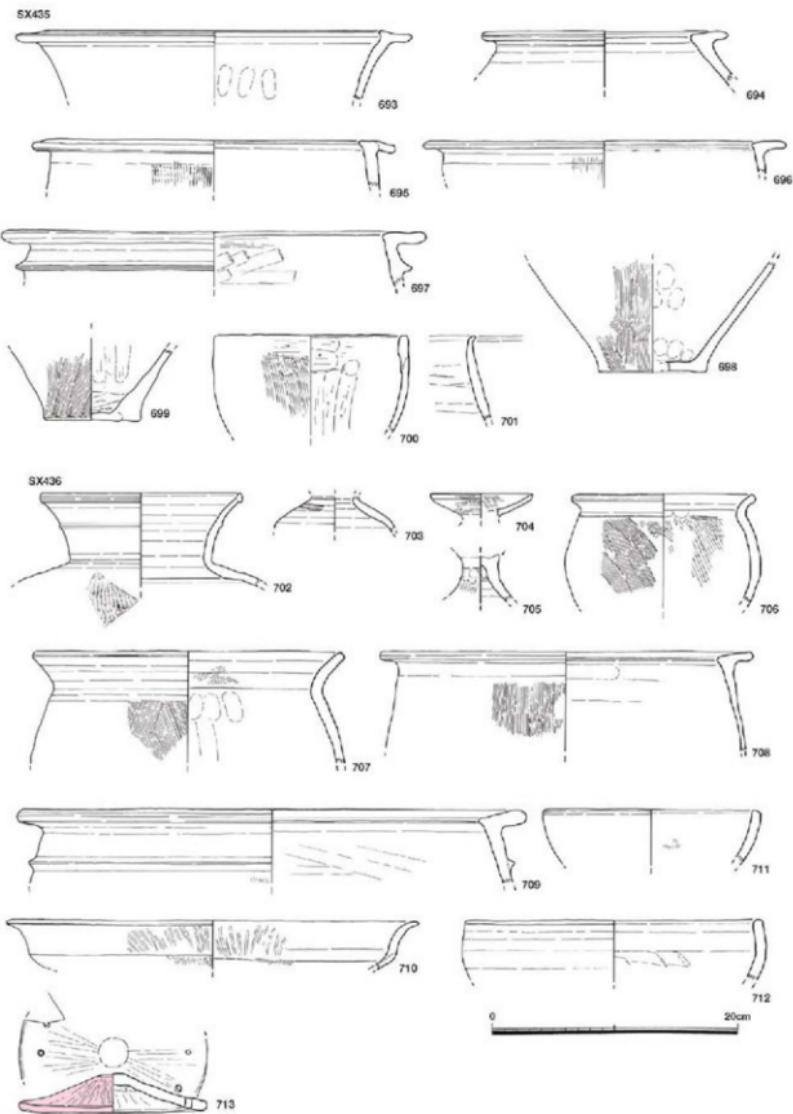


Fig.158 SX435・436出土土器 (1/4)

表面丁寧な研磨仕上。石材は蛇紋岩。S66は扁平な石錐片。左と下側面に抉りがある。石材は滑石か。S67は砥石で上端を欠損する。全長13.9cm、幅9.3cm、最大厚2.2cmを測る。上・底面、左右側面は使用面で擦痕が残る。表面には夾雜物が取れたのか窪みが多い。石材は粘板岩か。

W66は反りを持った板材で容器の一部か。残存長20.1cm、最大幅7.9cm、最大厚1.1cmを測る。樹種がムクロジの板目材である。

SX443出土遺物(Fig.159) 弥生時代前期後半の遺物が出土。

726は板付II式の如意形口縁甕片。口端部にはハケ目工具による刻目が付く。外面ハケ目後ナデ、内面はナデ調整。

SX445出土遺物(Fig.159) 弥生時代前期の遺物が出土。

727は板付II式の如意形口縁甕片。口端部にはヘラ状工具による刻目が付く。内外面はナデ調整。

SX458出土遺物(Fig.159) 弥生時代前期から中期前半までの土器が出土している。

728は板付I式の甕口縁部細片。口端部にヘラ状工具による刻目が入る。内外面はハケ目後ナデ調整。729は突帶文上器夜白II b式の甕。口縁部に工具による刻目突帯が貼り付く。内外面目殻条痕後ナデ消し。730・731は弥生時代前期の板付式土器底部片。730は円盤貼付気味の底部で、脇部外側タテハケ目、底部と内面はナデ調整。731は小型壺の底部。円盤貼付で、外面丁寧なミガキ、内面はナデ調整。外底接合痕が見える。

SX472出土遺物(Fig.159) 弥生時代前期の土器が出土している。

732は小型鉢の脇底部。外面ヘラミガキ、内面ナデ調整で丁寧な作り。内面に黒斑がある。

SX484出土遺物(Fig.159) 弥生時代前期から古墳時代前期の土器や片刃石斧片などが出土。

733は古墳時代前期の小型丸底壺片。外面丁寧なナデ、口縁内面は口縁ハケ目、内面はナデ調整。734・735は弥生土器。734は壺で、頸部に三角突帯が巡る。調整は丁寧なナデ。外面に黒斑がある。735は楕円形の鉢。外面はハケ目をナデ消し、内面はナデ調整。

SX523(Fig.160, PL.64) R-20区包含層中で検出した土器群。本来何らかの遺構に伴うものと思われるが、掘り込みは確認出来なかった。弥生時代後期中頃から終末の土器が多く、また完形の小型壺が多いことから祭祀遺構の可能性がある。

出土遺物(Fig.162・163, PL.102・103) 738~751は壺。738~740は小型壺でほぼ同形態。直口する口縁で、脇部はやや張り稜を持ち、底部は平底気味。738は完形。外面ヘラミガキ、内面と外底部はナデ調整。739は脇部から底部片。外面はやや摩滅するがナデで底部近くはハケ目が残る。内面はナデ調整。740は口縁から脇部片。口縁部は僅かに開き、脇部最大径は下に下がる。741・742は広口の壺で、口縁部は「く」字状で短く聞く。741は完形で、底部に径2cmの孔が穿孔される。脇外部はヘラミガキ、口縁部はヨコナデ、内面はハケ目、底部はナデ調整で、内面には指押え痕が残る。742の脇部外面はヘラミガキ、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで脇部下半はハケ目後ナデ調整。いずれも外面には黒斑がある。743は細頸壺の口縁部。頸部径は6cmを測る。外面タテハケ目後ナデ、内面はナデ調整でシボリ痕が残る。744・745は中期後半の広口壺。744は頸部に1条の三角突帯が付く。器表面は摩滅するがナデ調整で、内面には指押え痕とハケ目が残る。745は口縁部が外反し、口端部が跳ね上がる。頸部には2条の三角突帯が巡る。外面は口端部と突帶部がヨコナデでその他はタテ・ヨコ・ナナメのハケ目、内面もナデとナナメハケ目調整である。746~750は後期中頃の袋状口縁壺。746は復元完形。頸部と脇部中央に突帯が1条ずつ巡る。調整は外面頸部から脇部上半はハケ目、脇部下半は板ナデ、内面はハケ目後ナデ消し。外底部はハケ目後ナデ消しで、十字のヘラ記号が入る。747は口縁部。口縁内外面はナデで、外面には櫛目工具に

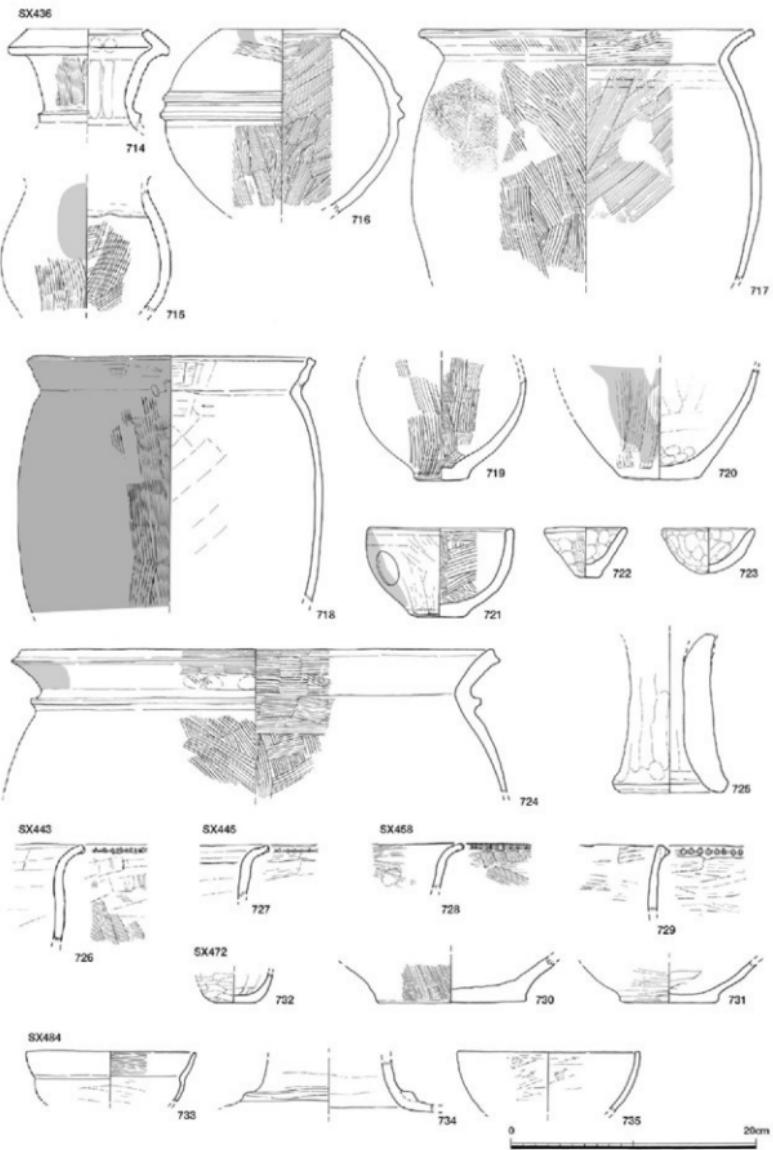


Fig.159 SX436・443・445・458・472・484出土土器 (1/4)

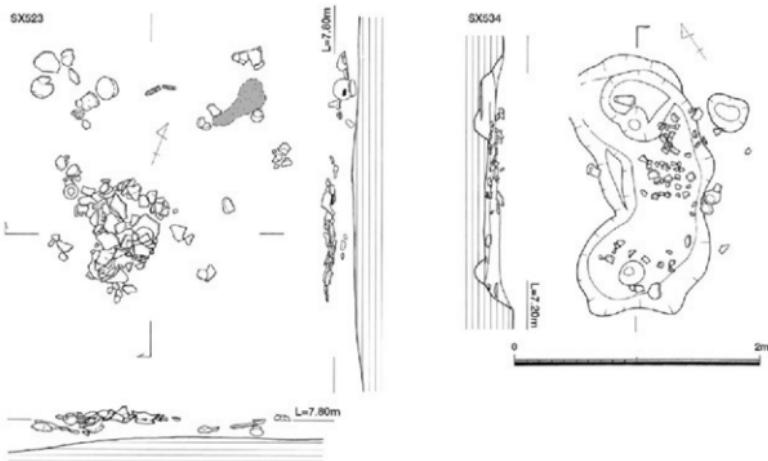


Fig.160 SX523・534 (1/40)

より円弧状の連続文が入る。748は口頸部片。頸部に1条の三角突帯が巡る。摩滅がひどいが、ハケ目後ナデ調整か。749・750は頸脣部片で、頸部と胴部に突帯が1条ずつ巡る。胴部突帯は刻目が付く。749の調整は外面胴部突带上半はハケ目、下半は板ナデ。内面上半はハケ目後ナデ、下半はナデ。底部も板ナデ。750は調整が胴部突帶下半ハケ目後ナデ、内面は粗いハケ目後ナデ、底部内外面はナデ。751は後期の大型壺又は甌の底部。調整は外面タタキ後ハケ目後ナデ、外底部にかけてナデと板ナデ、内面は板ナデで、内底には粗いハケ目が残る。752は後期後半から終末の甌。調整は外面は口縁部が粗いタテハケ目、胴部は目の細かいナメハケ目、内面は粗いハケ目。胴部外面には内容は不明だが細い線刻絵画文様が入る。又黒斑がある。753は底部。外面はハケ目とナデ、

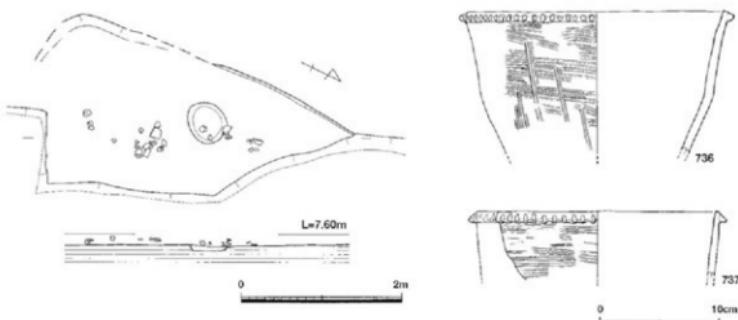


Fig.161 SX528及び出土土器 (1/60・1/4)

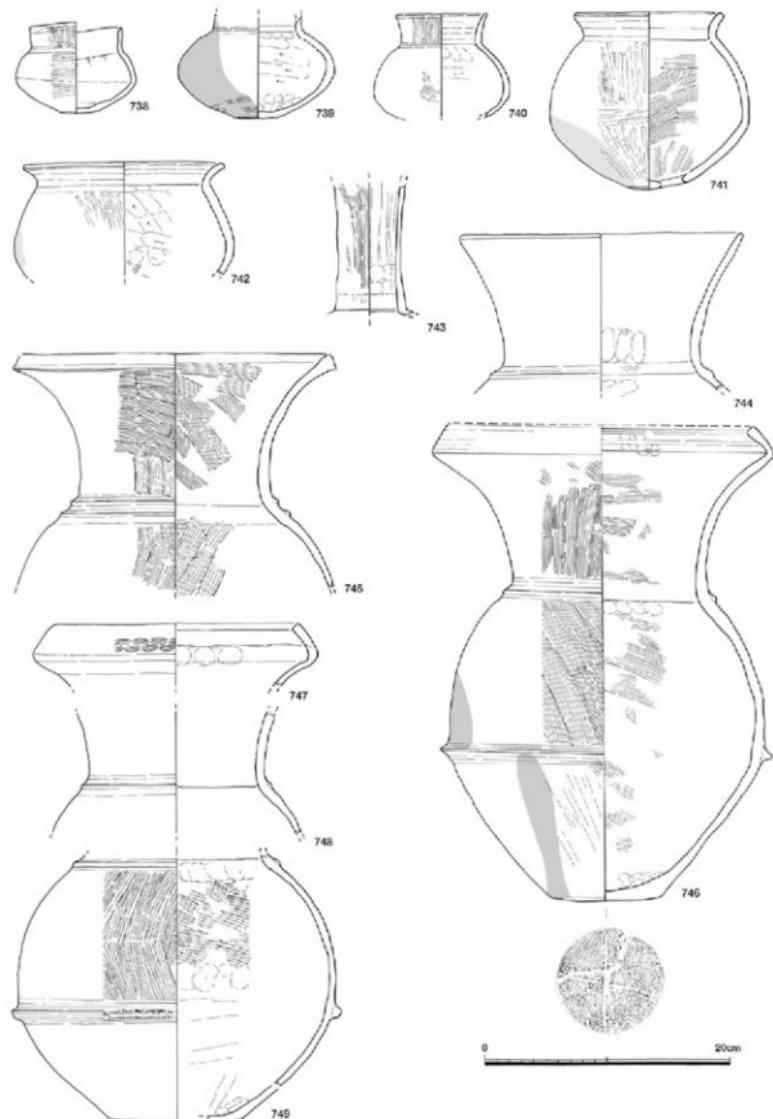


Fig.162 SX523出土土器① (1/4)

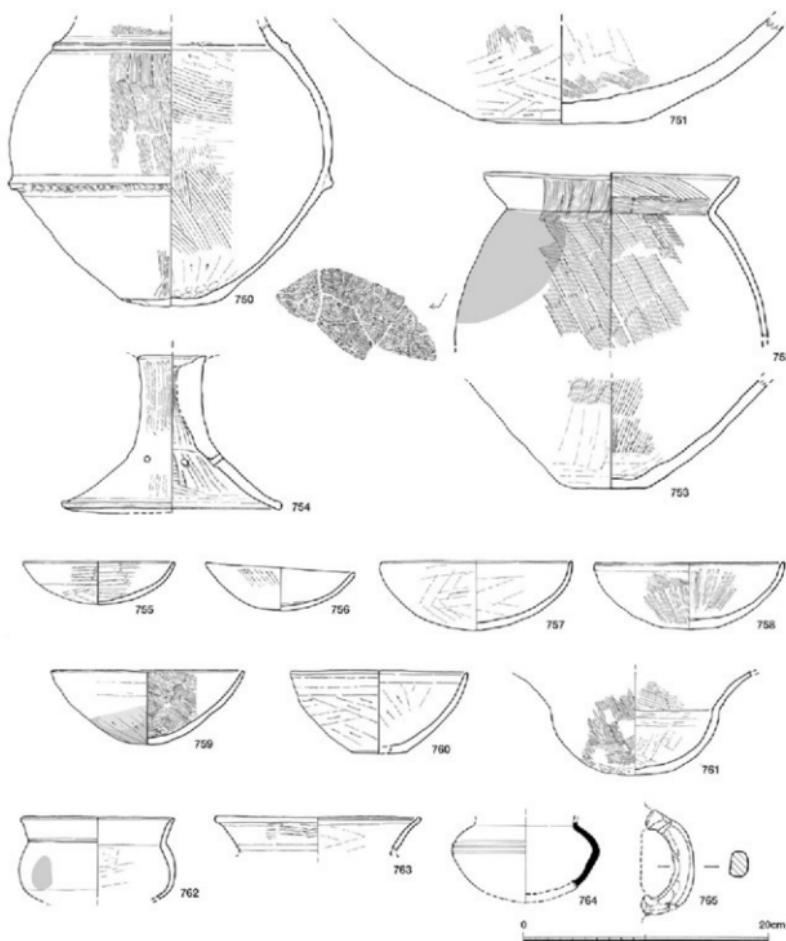


Fig.163 SX523出土土器② (1/4)

内面はハケ目後ナデ。外底はナデ調整。754は高环脚部。器部には4ヶ所直径5mmの円形透孔がある。外面ヘラミガキ、内面ハケ目後ナデ調整。755～761は鉢で弥生時代終末頃のものか。755・757は丸底のもの。755の口縁部外面から内面はヘラミガキ、外底部はナデ調整。756はナデ調整で、外面上半は粗いハケ目が残る。757は器表面の摩滅はあるがナデか。758・759はやや平底気味の底部のもの。758の調整は内外面ヘラミガキであるが、口縁部外面は細かいハケ目。759の外面上半はナデで底部はケズリ後ナデ、内面は細かいハケ目調整。外面上には黒斑がある。760は平底の鉢。内

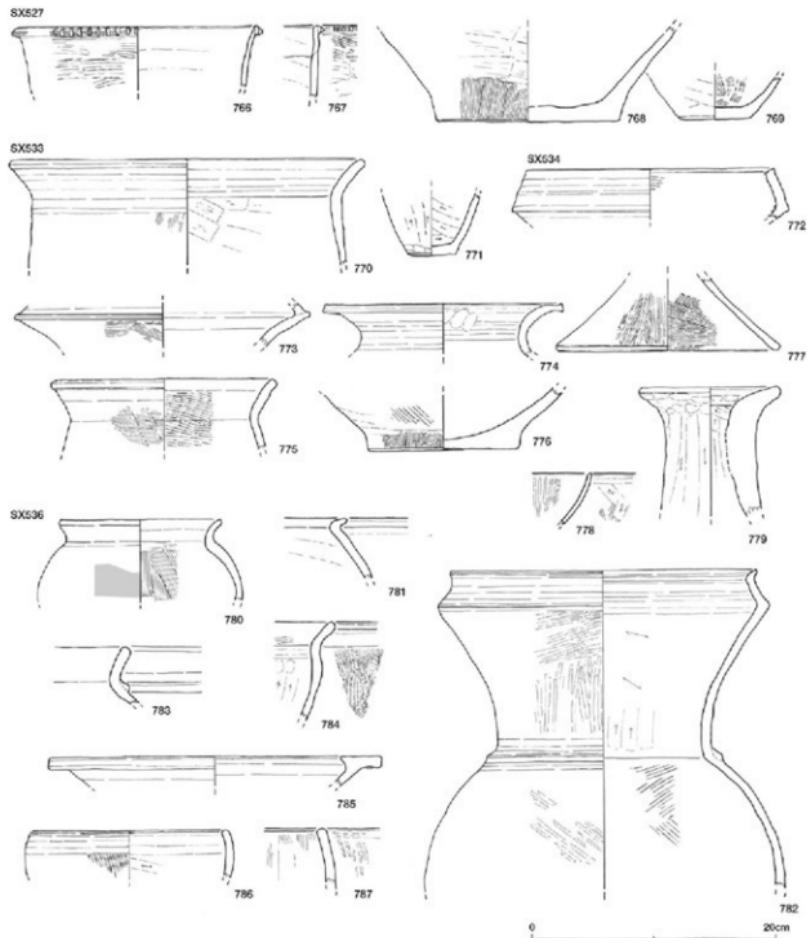


Fig.164 SX527・533・534・536出土土器 (1/4)

外面板ナデ調整。761は口縁部が体部から屈折して外に開く形態。調整は外面細かいハケ目、内面は口縁部がハケ目、底部がナデ。外底部は板ナデ。762は小型丸底壺。内外面調整はナデで、外面黒斑がある。763は口端部を上部に短く屈折させる口縁部の裏口縁部片。調整は口縁部外面はタタキ後ナデ消し。内面はナデ。筑前型の庄内甌か。764は須恵器の壺又は甌の体部片。中央に3条の沈線が巡り、内外面の調整はナデである。混入品か。765は弥生時代終末期の山陰系土器の把手か。断面は梢円形を呈し、指ナデで仕上げである。

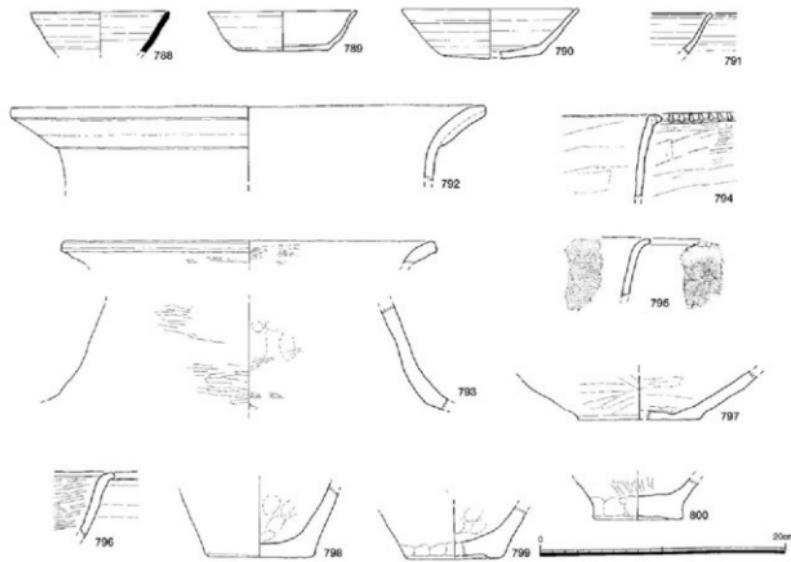


Fig.165 SX559 出土土器 (1/4)

SX527出土遺物 (Fig.164) 弥生時代前期から古代にかけての遺物が出土した。

766・767は突帯文土器の甕口縁部。いずれも口縁部突帯に棒状工具による刻目が付く。調整は外面貝殻条痕後ナデ、内面はナデで、767には粘土接合痕が残る。768・769は底部。768は前期の大口壺底部。外面はハケ目とナデ、内面は剥落がひどいがナデか。769は後期の甕底部。調整は外面はナデで黒質がある。内面は粗いハケ目後ナデ。他にも前期土器細片が出土している。

SX528 (Fig.161, PL.64) R-21区で検出した。別の遺構に切られ全体の形状は不明。遺構の残りは悪く、確認規模は長軸長で約5mを測る。埋土は黒色粘土である。当初弥生時代前期の竪穴住居としていたが、他に当該期の明確な住居がなく、他に細長い土坑がいくつか検出されているだけで、それらとほぼ同じ主軸を取るので、住居跡よりは土坑に近い性格のものとし、この項で報告する。

出土遺物 (Fig.161, PL.103) 736・737は刻目突帯文土器の甕である。口縁部に1条の刻目突帯を貼付、胴部外面には貝殻条痕を施す。刻目は736が角張った木口状の道具で施文しているのに対し、737は先端が丸い道具で施文している。

SX533 (PL.53) R-24・25区で検出した大型の溝状の土坑で、SD369と合流する。切り合いも不明で、埋土も変わらないので、その一部かもしれない。規模は長軸長12m、短軸長5.3m、最大深さ1.3mを測る。底面は砂層に達し湧水がひどい。

出土遺物 (Fig.164・169) 弥生時代前期から古墳時代前期迄の土器片や磨石が1点出土。時期は古墳時代前期頃であろう。

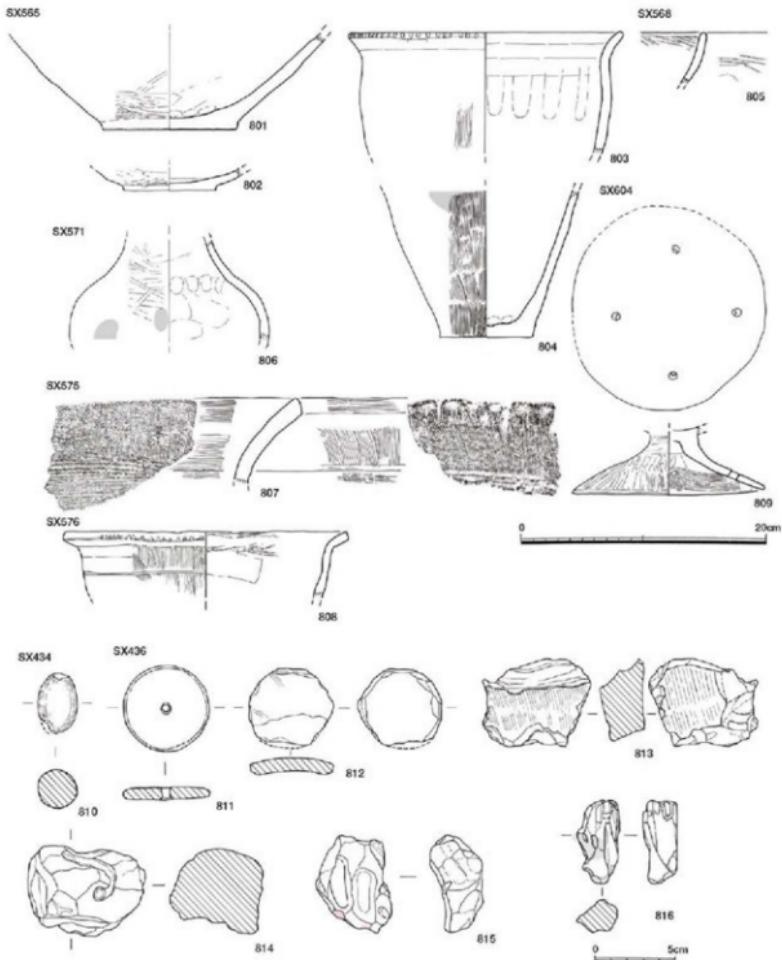


Fig.166 SX565・568・571・575・576・604出土土器 (1/4), SX434・436出土土製品 (1/3)

770は土師器の甕口縁部。外面は脛部ハケ目、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整である。771は小型の平底の鉢か。外面板ナデ、内面はナデ調整。

S72は方形形状を呈す不明石製品の一部。残存縦長2.6cm、横幅4.35cm、最大厚1.2cmを測る。全面丁寧な磨りで、赤みを帯び二次的被熱を受ける。石材は砂岩か。

SX534 (Fig.160, PL.64) S-23区で検出した、平面形が不定形状の浅い黒色粘土の落ち込

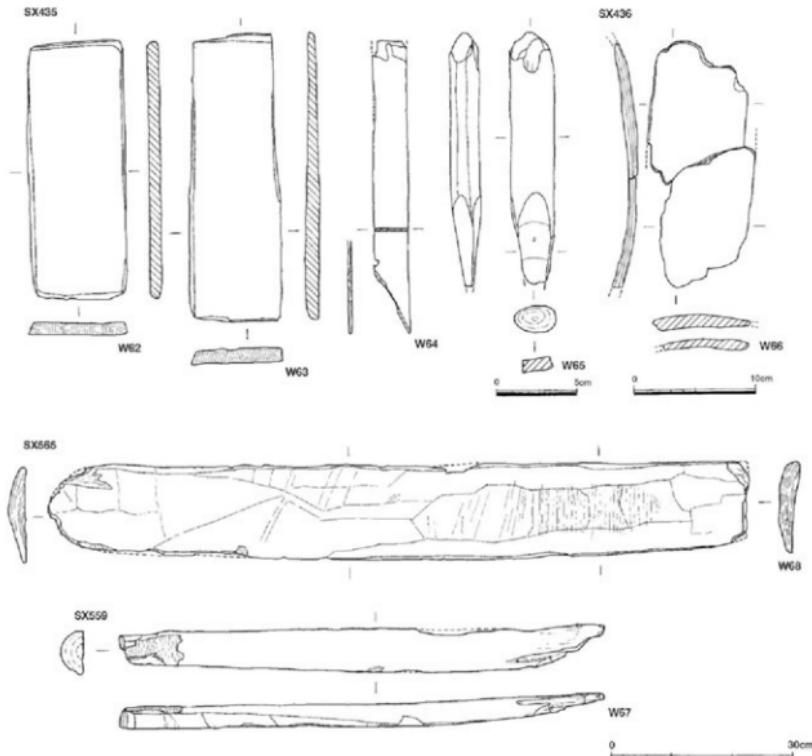


Fig.167 SX435・436・565・599 出土木製品 (1/3・1/4・1/8)

み。その南側で更に一段落ち込む。落ち込み部分で土器細片がまとまって出土した。規模は上面で長軸長6.3m、短軸長3m、深さ0.1~0.15mを測り、下層落ち込みでの規模は長軸長2.05m、短軸長0.95m、最大深さ0.32mを測る。埋土は上層は黒褐色砂質土と黒色土の混合、下層は黄灰色粘質砂、落ち込み部分は青灰色粘土ブロック混じりとなる。図は下層落ち込み部分の土器出土の状況である。

出土遺物(Fig.164-168, PL.103-109) 弥生後期~古墳時代初め迄の遺物が多い。他に黒曜石剥片や石斧・礫石片なども出土している。

772・773は後期の複合口縁壺。内外面ハケ目後ナデ。772は外面ハケ目後ナデ、内面はヨコナデ調整。774は口端部が跳ね上げ状の壺。ヨコナデ調整で、内面には指押え痕が残る。775は後期の甕口縁部で、外面は口縁部が粗いハケ目後ナデ、副部はハケ目、内面は粗いハケ目後ナデ調整。外面スヌが付着。776は壺か甕の底部片。外面ハケ目後ナデ消し、底部近くはハケ目調整、内面は摩滅で調整不明。777は高坏脚部。外面はハケ目後ヘラミガキ、内面はハケ目調整。778は鉢口縁部。

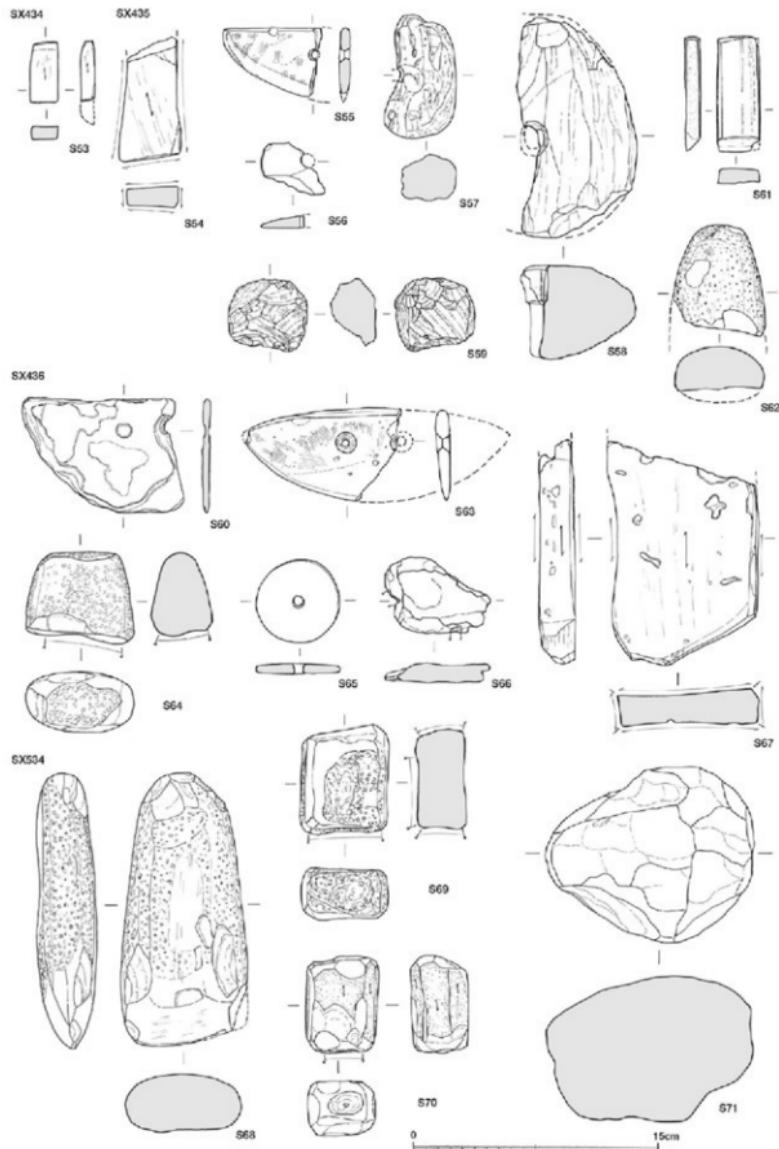


Fig.168 SX434・435・436・534 出土石器・石製品 (1/3)

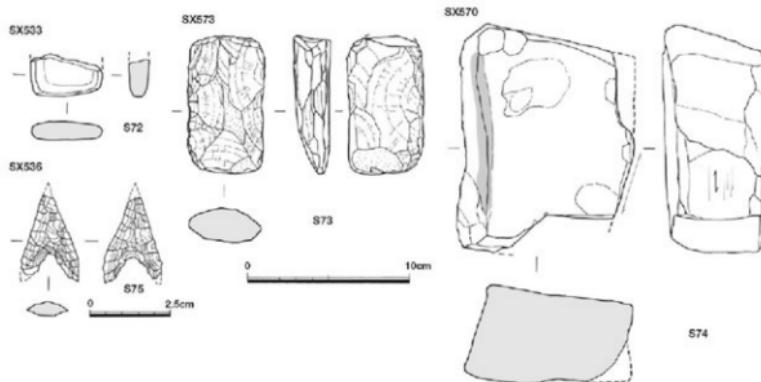


Fig.169 SX533・536・570・573 出土石器 (1/3・2/3)

外面ハケ目後ナデ、内面はヘラミガキ調整。779は筒形の器台で、口縁部は外反する。外面は板ナデ、口縁外面から内面はナデ調整。

S68は磨製石斧。全長16.9cm、最大幅7.8cm、最大厚3.7cmを測る。基部は敲打調整後研磨、刃部は研磨で、使用による摩耗・欠損が目立つ。石材は玄武岩。S69・70は方形の叩き石。S69は上面と上下両小口、左側面には使用痕が残る。S70は両小口が使用面で、各側面は擦られている。石材はS69は花崗岩、S70は砂岩である。S71は大型の円錐を椎に打ち割って成形した石鉤か敲石。縦長10.8cm、横長12.85cm、最大厚9.0cmを測る部分的に使用痕が残る。石材は練泥片岩か。

SX536出土遺物(Fig.164・169, PL.110) 弥生時代前期から後期迄の遺物が出土するが、後期のものが多い。他には黒曜石剥片や叩き石なども出土。

780は後期後半の短頭壺口縁部片。外面から口縁部内面はヨコナデ、胴部内面は粗いハケ目調整。781は中期後半の短頸壺口縁部小片。内外面ナデ調整。782は後期後半の複合口縁壺で、頭部に1条の三角突帯が巡る。783は後期前半の甕口縁部細片。頭部に三角突帯が付く。調整はナデ。784は甕か鉢の口縁部片。胴部外面はタタキ、口縁外面はヨコナデ、内面は粗いハケ目後ヨコナデとナデ調整である。785は中期後半の高環壺部片。調整はナデ。786・787は鉢口縁部片。786は外面ハケ目後ナデ、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整。787は外面タタキ後ハケ後ナデ消し、内面はハケ目後ナデ調整。

816は焼けた粘土塊。

S75は黒曜石の石礫。凹基で抉りは深い。基部と先端が欠損する。鍔身長2.65cm、幅1.8cm、最大厚0.4cmを測る。全面緻密な剥離調整である。

SX559(PL.65) S-23・24～T-24区にかけて検出した大型の不定形土坑である。主軸を北東から南西方向に取り、規模は長軸長8.7m、短軸長3.8mを測る。底面は一定しないが、深さは0.8m前後である。埋土は下層が砂層で、上層が黒色粘土層である。湧水があり、木質遺物なども出土している。下層から788～791のような古代の土器が出土しており、上の面から掘り込まれた遺構と考えられる。

出土遺物(Fig.155・165・167, PL.110) 下層からは弥生時代中期から古代前半迄の土器が、上層からは弥生時代前期の甕・壺の破片が出土。他に磨製石斧片・敲石・黒曜石剥片なども少量出土。

788は下層から出土した須恵器の壺破片。789・790は土師器の壺。いずれも外底部はヘラ切り、体部外面から内底はナデ。791は最下層から出土した土師器の椀で、体部途中以下に回転ヘラケズリを施す。792・793は弥生時代前期の大型壺口縁部片。口縁部は肥厚する。792はヨコナデ、793はヘラミガキ調整である。794は刻目突帯文土器の壺口縁部片。口縁部の突帯には棒状工具の刻目が付く。内外面ヨコナデ。795は如意形口縁の壺口縁部で、口唇下端部にヘラによる刻目を付ける。796は外反する鉢の口縁部で、外側ナデ調整、内面ヘラミガキ調整である。797は前期壺の底部。円盤貼付か。調整はナデ。798・799は壺底部。800は台形状にやや裾が外側に開く底部で、突帯文土器の壺底部と考えられる。

S43は石斧片。研磨成形であるが、表面の剥落は進む。変成を受けた粘板岩系の堆積岩か。S44～46は礫石。S44は長方形で、縱長6.3cm、横長5.5cm、厚み4.2cmを測る。上面、右側面、下小口面に敲打使用痕が残る。石材は砂岩。S45は扁平な半円形で、縱長5.0cm、横長6.5cm、厚さ3.7cmを測る。上下面是擦りで摩滅し、上小口と周縁部は敲打使用面で使用痕が残る。石材は花崗岩。S46は磨製石斧の刃部片を転用したもの。刃部と破損部に再使用痕が残る。S47は磨石片を再加工した棒状の鍤か。欠損面には粗削調整である。縱長9.9cm、横幅2.7cm、厚みは2.4cm程である。

W67は加工材で全長79.4cm、最大幅7.2cm、厚み3.2cmを測る。

SX565出土遺物(Fig.166・167, PL.65・103) 弥生時代前期の土器と黒曜石剝片が少量出土した。801・802は前期の壺底部片。801は大型壺で、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整。802は板付I式で底部は円盤貼付。調整は丁寧なナデ。803・804は壺。803は板付IIa式のもので、口端部には刻目が粗く入る。外面ススが厚く付着するがハケ目後ナデ、内面もナデで仕上げる。804は底部片。調整は外側タテの細かいハケ目、内面はナデ。

W68は辺材使用的板材。全長111.4cm、最大幅15.7cm、最大厚2.6cmを測る。

SX566(PL.66) T-24区で検出した溝状の浅い土坑。長軸長5.1m、短軸長1.15m、最大深さ0.17mを測る。流水や刻目突帯口縁部や黒色磨研土器片や磨石片などが出土した。弥生時代前期の時期か。

SX568出土遺物(Fig.166) 弥生時代中期から後期土器片と、黒曜石片が出土した。

805は後期後半から終末の鉢口縁片。内外面ナデでタタキ痕が残る。

SX570出土遺物(Fig.169, PL.66) S74は粗砥石。一部欠損するが、縱長14.1cm、横長10.9cm、最大厚6.3cmを測る。上面と底面は粗い擦り、右側面は砥面として使用。左側面上半にはススが付着する。石材は砂岩。他に弥生時代中期から後期の土器片が少量出土。

SX571出土遺物(Fig.166, PL.65) 弥生時代後期の遺物が出土した。

806は後期前半の袋状口縁壺底部片か。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。外面黒斑がある。

SX573出土遺物(Fig.169, PL.65・110) S73は小型の石斧未製品か。基部を欠損か。残存長8.5cm、幅4.8cm、最大厚2.3cmを測る。各面剥離面が残る。刃部は部分的に研磨を加える。他には弥生時代前期から中期の土器片が出土している。

SX575出土遺物(Fig.166, PL.65) 807は後期の大型壺口縁部で、同一個体の胸部もある。頭部には退化した三角突帯が付く。口縁内外面ハケ目調整。黒斑がある。

SX576出土遺物(Fig.166) 弥生時代前後半から後期の土器が少量出土した。

808は板付IIb式期の壺口縁部。口端部下端には刻目が付く。胸部上半には沈線が入る。外面はハケ目、口縁内面はハケ目、内面はナデ調整。

SX604出土遺物(Fig.166, PL.103) 弥生土器から古墳時代前期の土器や、石鏟片が出土。

809は土師器の高壺脚部。調整は外側ヘラミガキ、内面はハケ目。直径0.7cmの円孔が4ヶ所入る。

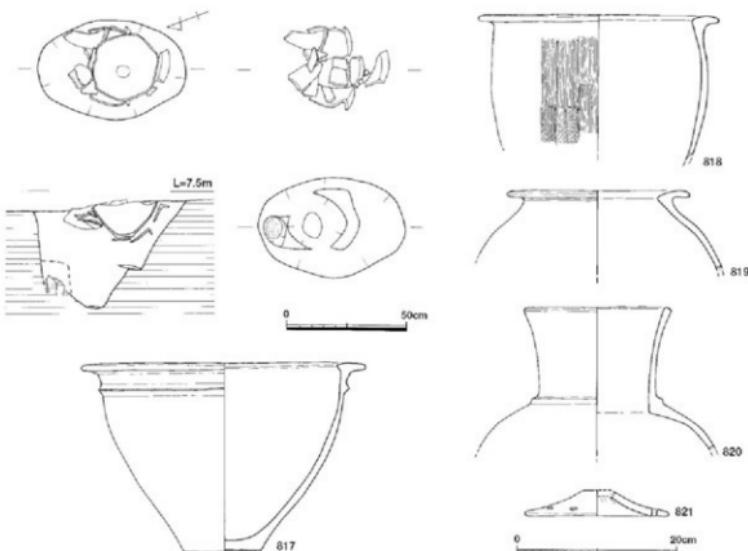


Fig.170 SP467及び出土土器 (1/20・1/6)

穿孔は焼成前で、内面黒斑がある。

⑦ ピット (SP)

SP467 (Fig.170, PL.104) N-23区で検出した。検出面で長さ0.6m、幅0.4mの楕円形プランを呈する。甕(818)の半身を横位に寝かせた上に浅く広口の甕(817)を正置していた。土器819~821はこの遺構近くの直上包含層から出土したもので、確実に本遺構に伴うものかは不明である。上器をはずして掘り下げるとき深さ45cmで底面に達し、柱根を確認した。817~819は甕である。820は壺、821は蓋である。

ピット出土遺物 (Fig.171・172, PL.104) W69は木鏨である。残存長6.0cm、最大幅1.2cmで断面三角形に加工する。822~824は弥生前期初頭の甕である。822の口縁部は1条の刻目突帯を貼り付ける。823は底面に木の葉痕跡が残る。825は壺底部である。826は丹塗の蓋で2箇所に穿孔し、外表面を磨く。827は器台。828~831は鉢。832は脚付鉢の脚部か。833・834は弥生後期の壺である。835・836は高环の环部。837・838は蓋。839~841は弥生中期の鋸先口縁の甕である。842~845は弥生後期の甕の口縁部。846・847は弥生後期の複合口縁壺の口縁部である。



Fig.171 ピット出土木製品 (1/2)

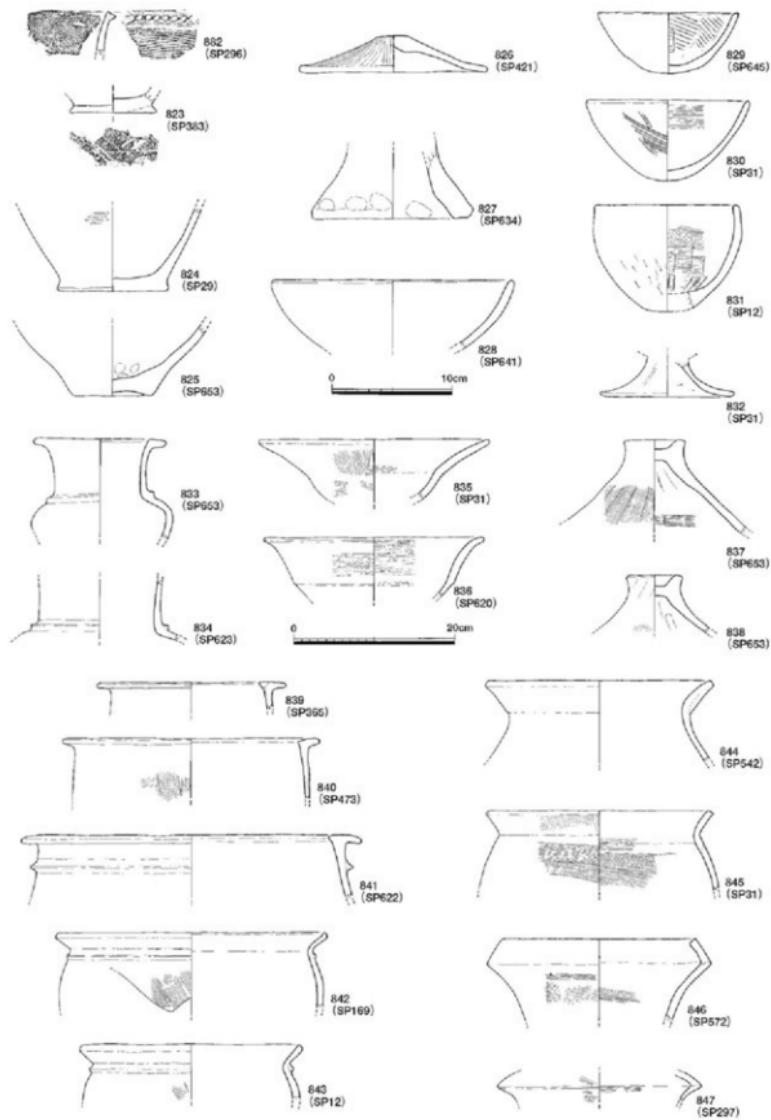


Fig.172 ピット出土土器 (1/4・1/6) 822~832は1/4、833~847は1/6

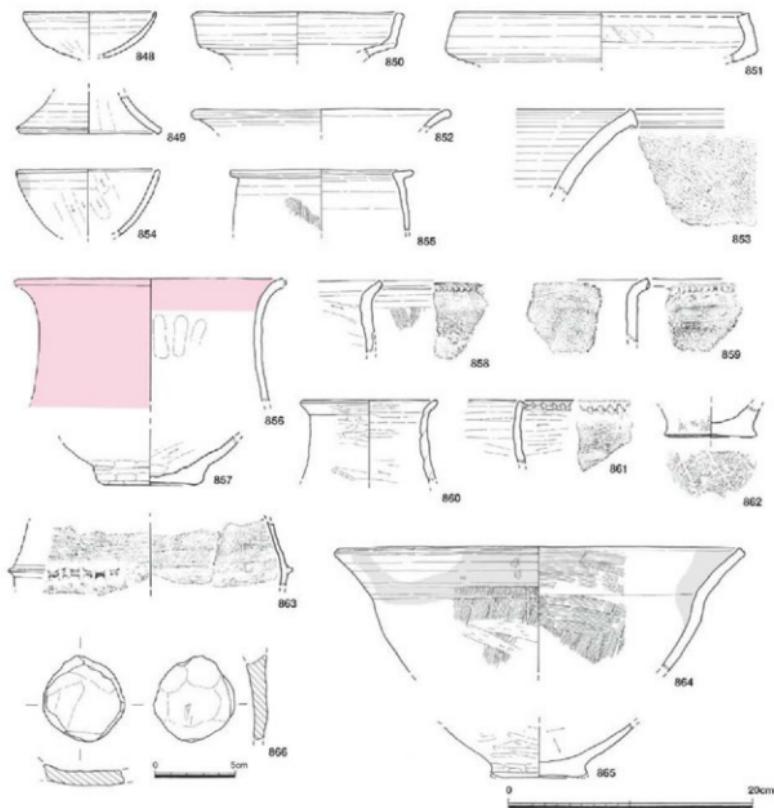


Fig.173 遺構面、攢乱出土土器 (1/4)・土製品 (1/3)

⑧ 遺構面出土遺物 (Fig. 173~175)

遺構検出時や調査中に出土した遺物で重要と思われるものについて述べる。

848・849は土師器。848はO-20区出土の鉢で古墳時代前期。調整は丁寧なナデ。849はO-24区出土の高環脚部。調整はナデである。850~854は弥生時代後期の上器。850・851は複合口縁壺の口縁部片。850はM-20区出土。口縁部はヨコナデ、頭部外面はハケ目調整。851はS-22区出土。外面はヨコナデ、内面はナデ調整でハケ目が残る。852はN-20区出土の口縁部片。調整はヨコナデでススが付着する。853はS-22区出土。大型甌口縁部細片。口縁部外面は粗いハケ目、内面はヨコナデ調整。854はM-20区出土の弥生時代終末期の鉢。外面板ナデ、内面はナデ調整で、外面に黒斑がある。855はO-23区出土の弥生時代中期初頭の甌口縁部。調整は胴部外面は細かいハケ目、口縁部外面から胴内面にかけてはヨコナデ。856・857は壺。856はQ-21区出土の板付1式の丹塗り壺

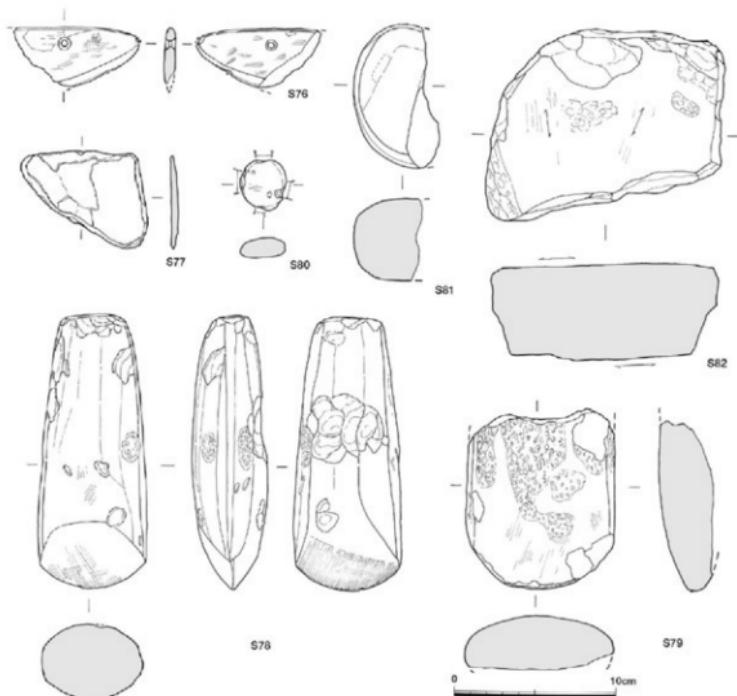


Fig.174 遺構面 出土石器 ① (1/3)

口縁部片。全体に摩滅が著しいが、外面はヘラミガキ、内面はナデ調整か。外面から口縁部内面まで丹塗りである。857はS-24区出土の壺の底部片。ナデ調整である。858-859は板付式II式土器の壺口縁部片。858はO-24区出土で、口端部下端に刻目が付く。外面細かいハケ目、内面はナデ。859はP-22区出土。口端部下端に刻目がつつく、内外面ナデとハケ目。860はO-22区出土の刻目突帯文期の壺口縁部。復元口径は10.8cmを測る。外面ヘラミガキ、内面はナデ調整。861はO-24区出土。壺の口縁部片。口縁部の突帯の刻目はヘラ状工具による。胴部内外面の調整はナデ。862はN-20区出土。底部に木葉の圧痕が残る壺の底部。胴部外面はハケ目、内面はナデ調整。863はP-21区出土。肩曲部に貼付刻目突帯を持つ甌。胴部の調整は貝殻条痕である。外面スヌが付着する。864はP-20区出土。後期後半の大型の鉢。口縁部から胴部内外面はハケ目調整。口縁部内外面黒斑がある。865はQ-21区出土。前期の壺底部。調整は胴部外面はヘラミガキ、内面はナデで、外底部はヘラナデである。866はN-24区出土の底部に近い胴部片を利用した土製円盤。径は5.0cm×5.3cm、最大厚1.1cmを測る。表面の調整はナデで、縁辺は打欠いて成形している。

S76-77は石庖丁片。S78はN-20区出土。残存長7.6cm、残存幅3.6cm、厚み0.7cm、孔径は0.7cmを測る。傷みはひどいが研磨仕上げである。S77はQ-23区出土。刃部三角形を呈す未製品である。

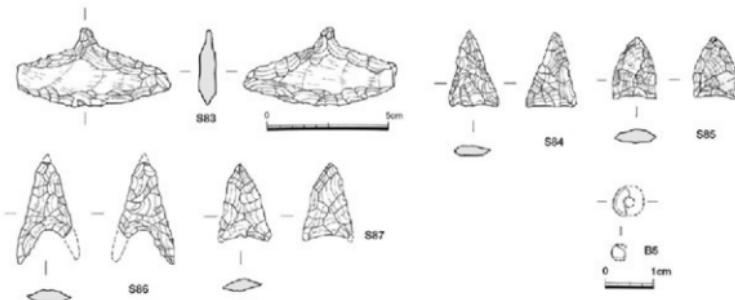


Fig.175 遺構面 出土石器 ② (1/2・2/3)・出土玉 (1/1)

全体に風化磨滅が著しい。前期の時期か。石材は粘板岩か。S78・79は磨製石斧。S78はP-22区出土。今山産の玄武岩の太形蛤刃磨製石斧ではほぼ完形。全長16.8cm、最大幅6.7cm、厚み4.7cmを測る。表面の欠損は著しいが、研磨仕上げである。S79はQ-21区出土。刃部片で残存長11.1cm、幅9.2cmを測る。研磨成形であるが、叩打調整痕が残る。石材は玄武岩か。S80はR-20区出土の扁平な円錐の四隅を打ち欠いた錘。径2.9cm×3.1cm、厚み1.3cmを測る。表面は磨かれたのかツルツルする。S81は磨石片。風化がひどく使用痕は明瞭でないが、段跡が残る。石材は火成岩か。S82はP-22区出土。側面を粗削り成形した砥石または台石。縦長14.6cm、横長11.8cm、最大厚5.8cmを測る。上面と底面は使用面か磨滅し滑らかで、擦痕が残る。S83はS-25区出土の石匙。横長6.25cm、幅3.2cm、最大厚0.7cmを測る。剥片を利用したもので、二次調整を加えて縁辺を整えている。石材はサスカイトか。S84~87は石鏃。S84はQ-21区出土で鏃身長2.35cm、幅1.5cm、厚み0.3cmを測る。石材は黒曜石である。S85は基部が平基の五角形を呈すもの。鏃身長1.9cm、幅1.3cm、厚み0.4cmを測る。剥片の周縁に丁寧な二次調整を加えている。S86はP-20区出土。抉りの深い凹基の基部。先端と基部が欠損する。鏃身残長3.15cm、幅1.7cm、厚み0.35cmを測る。石材はサスカイトである。S87は平基でS85に近い形態。鏃身長2.55cm、幅1.6cm、厚み0.3cmを測る。両面丁寧な二次調整を加えるが、風化がひどい。绳文晩期末から古墳時代前期のもの。石材はサスカイトである。

B5はP-23区出土のガラス小玉1/2片。直径6mm以上、厚み2mm以上、孔径は2mmを測る。色調はコバルトブルーを呈す。

⑨ 遺構面下確認調査

第IV面南東側高所部の調査が終了後、遺構面がシルト、又は粘土層であったので、遺構面下に遺構存在の可能性を考えて、重機で部分的に試掘トレンドを入れ、遺構のため押し確認を行った。平均としては20~30cm程掘下げた。結果として、小ピットを若干数確認したが、いずれも第IV面で掘り残したものであり、新たに下面で検出した遺構ではなかった。また更に2.3mほど深掘りした部分では、砂礫層となり、湧水もひどくなり、それ以上の掘下げは断念した。以上のことから、第IV面下には遺構面は存在しないと判断し、調査を終了した。

⑩ SK491・492追加資料(Fig.176)

SK491と492出土物で報告書作成時に新たに追加資料があったので、文末ではあるが、報告す

る。遺構の概要については④土坑での記述を参照にされたい。

867はSK491出土で、弥生時代前期の深鉢。調整は口縁部から内面はヨコナデ後ミガキ、胴部外はハケ目である。胴外面黒斑がある。板付且式古段階のものか。

868～872はSK492出土。弥生時代終末から古墳時代前期前半のものである。868は古墳時代前期初頭の二重口縁壺。調整は口縁部ハケ目後ヨコナデで、外面下部に櫛描波状文があり、頸部はタテ・ナナメハケ目、頸部にハケ目工具による刻目突帯が付く。胴部外面はヘラミガキ、内面はヨコハケ目である。869も古墳時代初頭の小型甌である。調整は口縁部ヨコナデ、外面ハケ目後ナデ、内面はハケ目である。870は前半の布留式甌口縁部。調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリである。870・871の胴部外面には炭化物が付着する。871は初頭の高环脚部。脚筒外面はミガキ、筒部内面はケズリ、胴部外面はハケ目後ミガキ、内面ハケ目後ナデで円孔が開く。872は弥生時代終末期の器台。調整は外面ナデ後タテハケ目、内面はナデである。

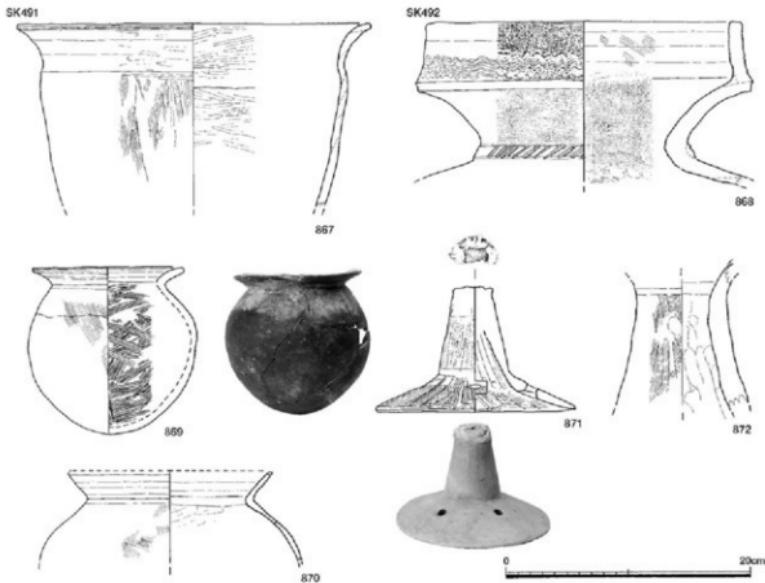


Fig.176 SK491・492追加出土遺物 (1/4)

第IV章 自然科学分析

1. 第6次調査出土のイネ種子およびその他の植物遺体の分析

佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所）

柴内佐知子（岐阜大学大学院）

那須 清郎（国際日本文化研究センター）

1.はじめに

下月隈C遺跡出土のイネ種子について形態およびDNA分析を行い、あわせて出土したその他の植物遺体について種の同定を行った。

本遺跡は御笠川の東岸、標高9~10mを測る冲積地に位置し、弥生時代から中世にわたり人の活動が認められていることが、これまでの発掘調査により明らかになっている。本報告で用いた試料は第6次調査・第4面で確認された7箇所の遺構から出土したものであり、弥生時代前期前半から古墳時代後期に対応する。これらの試料は、現地発掘担当者によって採取された試料であり、洗浄処理後、乾燥した状態で送付してきた。

本報告では、これらの植物遺体試料のうち、量的に多く出土したイネ種子について、まず長幅比の計測を行うことで形態的な特徴を調べた。さらに、DNA分析を実施することで遺伝的特徴を明らかにした。最後に随伴して出土した植物遺体についての知見を加え、既存の報告と比較することで、本遺跡における稲作の特徴を考察した。

なお、本報告では、炭化したイネの穀果について「イネ種子」という用語を用いた。これは、從来から言われている「炭化米」のことであるが、「炭化」という燃えたものという意味があるため、ここではこの語を用いないことにする。

2. 分析試料および分析方法

試料の一覧を表1に示す。イネ種子は遺構ごとに、光学顕微鏡下で完形のものをランダムに50粒（規定数に満たない場合は完形のものすべて）選抜した。ここでいう完形とは、破損がまったく見られないもの、または一部が破損していても長さと幅の計測に支障がないものをいう。選抜したイネ種子は遺構ごとに、スケールとともにデジタルカメラで写真撮影した。撮影した画像はパブリックドメインソフトのNIH Image (<http://rsb.info.nih.gov/nih-image/>) を用い、長さ (L; mm) と幅 (W; mm) の計測を行った。また、その計測値から長幅比 (L/W) を求めた。加えて、各項目の平均値および標準偏差を求めた。

次に、各遺構から選抜したイネ種子1粒ずつからNaOH法によって全DNAの抽出を行った。ただし、SP-329については完形の種子が1粒のみであったため、今回はDNA抽出を見送った。抽出した全DNAは希釈せずそのままPCR (Polymerase chain reaction) 増幅のテンプレートに使用した。PCR増幅は2回を行い、2回目のPCR増幅のテンプレートには、1回目のPCR産物を使用した。プライマーは、葉緑体DNA中のPS-ID (plastid subtype-ID, Nakamura et al. 1997) 領域を増幅するPS-IDプライマーを用いた。1回目のPCRにA4Sプライマー (5'-ATTTCCATAGCTGCCAGCAAATG-3'、柴内ら2003) およびBプライマー (5'-ATCTGGAGCATTTAAAGGGTCTGAGGTTGAATCAT-3'、Nakamura et al. 1997)、A4Lプライマー (5'-ATTTCCATAGCTGCCAGCAAATGCCATACCA - 3'、柴内ら 2003) およびB

プライマーを用いた。PCR産物は電気泳動を行い、エチジウムプロマイドで染色後、UVトランスイルミネーターを通して視覚化し、バンドの有無を確認した。バンドが確認されたPCR産物については、サイクルシークエンス法によるダイレクトシークエンスを行い、その配列を決定した。

イネ以外の植物遺体は、SK517遺構から19個体、SK477遺構から3個体、SP329遺構から7個体、SK559遺構から62個体の合計91個体が含まれていた。これらは実体顕微鏡下で形態の観察を行い、種子図鑑や現生植物標本と参照しながら、種類の同定を行い、計数した。

3. 結果

(1) イネ種子の形態分析について

本実験で用いたイネ種子には糊殻を伴ったものは確認されず、すべてが玄米であった。6つの調査区から出土したイネ種子の長さと幅の平均値、標準偏差および変動係数を表2に示す。ただしSP-329については完形のイネ種子が1粒のみであったためその計測値を示した。イネ種子の長さ・幅・長幅比の平均値はそれぞれ4.29mm～4.54mm・2.79mm～2.93mm・1.54～1.65にわたって変異した。同様に、粒長の標準偏差は0.18～0.34、粒幅の標準偏差は0.14～0.28にわたって変異した。なお、イネ種子が出土した遺構の年代は弥生時代前期～古墳時代後期の範囲に渡るが、粒の大きさや形状およびばらつきが時代とともに一定の方向に動く傾向は認められなかった。

(2) イネ種子のDNA分析について

イネ種子のDNA分析結果を表3に示す。各遺構（SP-329は除く）から出土したイネ種子のうち、弥生時代前期の遺構であるSK-517および弥生時代後期～古墳時代前期の遺構であるSX-484から出土したイネ種子各1粒づつについてPS-ID領域の配列を決定することができた。イネのPS-ID領域の最上流部分には特定数のシトシン（C）の繰り返しとアデニン（A）の繰り返し配列が確認できる。これらCとAの繰り返し数の組み合わせにより、イネ品種はjaponicaとindicaに区別することができる（Nakamura et al. 1997, 1998）。またjaponicaの場合、その配列によっては温帯japonicaと熱帯japonicaに区別することもできる。今回、配列を決定できた二つのイネ種子はどちらもjaponica品種に固有の6C7A (CCCCCCAAAAAA) の配列を示した。

(3) その他の植物遺体

イネ以外の植物遺体の同定結果および出土数を表4に示す。合計91個体のうち、栽培植物が2種類4個体、木本が8種類13個体、水田・水湿地雑草が1種類1個体、畦畔・路傍・畠地雑草が8種類51個体、田畠共通雑草が2種類10個体、炭化植物片が1個体出土した。なお、分類不可能な植物遺体が11個体あった。以下に遺構ごとの出土結果を時代順に記す。

弥生時代前期前半の遺構SK517からは、エノコログサ属の外穎が1個体、カナムグラの種子が2個体、オドリコソウ属の果実が5個体、シソ科の1種の果実が7個体の合計4種類15個体が出土した。なお、分類不能な植物遺体が4個体あった。

アワに近いと考えられるエノコログサ属の果実が産出している。正確に同定するには、電子顕微鏡による表面形態の観察を行う必要があるが、現時点では栽培アワに近いと考えられる。路傍・畠地雑草のカナムグラ、オドリコソウ属などが産出している。

弥生時代中期の遺構SK477からは、アカザ科かヒユ科の1種の種子が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、ナス属の種子が1個体の合計3種類3個体が出土した。シソ科、ナス属の畠地・路傍雑草が産出した。

弥生時代後期～古墳時代初期の遺構SP329からは、エノコログサ属の炭化して膨らんだ穎果が

1個体、ブナ科の1種の殻斗が1個体、セリ科の1種の果実が1個体、アカネ科の1種の果実が1個体の合計4種類4個体が出土した。なお、炭化植物片が1個体、分類群の不明な植物遺体が2個体あった。ほかに炭化米と炭化したエノコログサ属の穎果が産出した。このエノコログサ属の穎果も弥生時代前期前半のものと同様にアワの可能性があるが、炭化して著しく膨らんでおり、サイズだけでの同定は難しい。電子顕微鏡での観察が必要である。ツブライジイに近いと思われるブナ科の殻斗やセリ科、アカネ科の煙地・路傍雑草も産出している。

古代前期の遺構SX559からは、ザツソウメロンの種子が2個体、ヤマグワの核が2個体、カラスザンショウの種子が2個体、イスザンショウの種子が1個体、エゴノキの核が1個体、チシャノキの核が3個体、キイチゴ属の1種の核が1個体、ブドウ属の1種の核が2個体、ホタルイ属の1種の果実が1個体、カナムグラの種子が30個体、アキノタムラソウの果実が1個体、シソ科の1種の果実が1個体、カヤツリグサ科の1種のうちAタイプと分類したものが4個体、同じくカヤツリグサ科の1種のうちBタイプと分類したものが4個体の合計14種類57個体が出土した。なお、ここでも分類群の不明な植物遺体が5個体あった。またザツソウメロンの種子が2粒産出した。ここでは木本が多く、ヤマグワ、カラスザンショウ、イスザンショウ、エゴノキ、チシャノキ、キイチゴ属、ブドウ属が産出した。水田雑草はホタルイ属が1個体だけ産出した。煙地・路傍の雑草が多く、とくにカナムグラが30個体と多かった。アキノタムラソウやシソ科、田畑に共通して見られるカヤツリグサ科が産出した。

弥生時代前期前半の遺構SK517、弥生時代中期の遺構SK477および弥生時代後期～古墳時代初期の遺構SP329の3箇所の遺構から出土した植物遺体は、種類、量とともに少なかった。この出土量から遺構や遺構周辺の環境を推定することはできないが、どの遺構でも路傍や煙地などの雑草が多い傾向は認められる。

とくに、SK517とSP329の遺構では、エノコログサ属の果実外穎と炭化穎果が見つかったが、その丸みを帯びた形状からは、栽培種のアワに近いと考えられる。しかしながら、アワと祖先野生種のエノコログサとを果実の形態から識別するのは難しく、電子顕微鏡を利用した外穎の表面形態の詳細な観察が必要である。また、そのためには、より多くの果実が出土することが望まれる。今後の発掘調査では、フローテーション法なども併用した微小種実分析を行う必要があろう。周辺遺跡の状況をみると、佐賀県唐津市の菜畠遺跡では縄文時代後期からアワの出土例がある(笠原 1982)。本遺跡でも弥生時代前期前半からアワの栽培があった可能性は高い。

古代前期の遺構SX559では、木本の出土数が多かった。構成種をみると、ヤマグワ、カラスザンショウ、チシャノキなどの陽地に生える落葉樹が多い。煙地・路傍雑草のカナムグラも多く出土しており、遺構周辺には、このような開けた坂か荒れ地のような環境があったことが伺える。栽培か自生かは不明であるが、ザツソウメロンの種子も出土しており、開けた畠地のような環境もあったのかも知れない。

4. 考察

下月隈C遺跡をはじめとする御笠川周辺の遺跡は北部九州の稻作を伴った遺跡として代表的な遺跡が多く、多くの水田跡およびイネ種子の出土が確認されている。特に、土坑からまとまった量のイネ種子が出土していることから、この時期この地域の稻作がすでに近代日本列島の水田稻作社会の原型をなしていたとの推定を裏付けるものと考えられた。しかし佐藤(2002)は、弥生時代から古墳時代にかけての日本列島の稻作が雑駁で休耕を伴ういわば「縄文稻作」を引き継いだものであり、単作的、常畑的な現代の稻作とは大きく異なるスタイルを伴っていたと考えた。実際今回の分

析でも、当時の遺跡周辺が前面の水田であるというよりは木本を含む多様な植物が生息していた可能性を強く示唆しており、佐藤（2002）の主張はある程度当を得ているものと考えたい。ただしこの2つの相矛盾する見解のどちらがより事実に近いかはまだ今後の検討を要する研究課題である。

イネの粒の大きさおよび形の変異に関しては、和佐野（1993）や高橋ら（2002）の研究がある。和佐野は縄文時代晩期から弥生時代後期の九州北部に分布する12遺跡出土イネ種子の粒特性を比較している。遺跡はその分布地域により、九州北西岸域、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域の3つの群域に分けられており、イネ種子の長さについては、九州北西岸域のものは「短粒群（3.93mm～4.19mm）」、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域のものは「やや長粒の円粒性長粒群（4.46mm～4.70mm）」の2群に大別できるとしている。これに照らし合わせると、本遺跡は九州北西岸域にあたるが、出土したイネ種子の長さの平均値は4.29～4.54mm（弥生時代のデータのみ抽出）と、「やや長粒の円粒性長粒群」よりおさまり、和佐野の見解とは合致しなかった。また、本遺跡から北西へ約1kmの地点に雀居遺跡が立地する。雀居遺跡も本遺跡同様、御笠川東岸の低湿地であり、弥生から中世に渡り集落や水田跡が確認されている。その雀居遺跡から出土したイネ種子の長さの平均値は4.11～4.24mm（表5、弥生時代のデータのみ抽出）であった。弥生時代の御笠川東岸の低湿地におけるイネ種子の長さの平均値は4.11mm～4.54mmとなり、和佐野が述べている「短粒群」と「やや長粒の円粒性長粒群」のほぼ中央におさまる結果となった。この地域の値だけをみてもイネ種子の長さの値が多様であるということがうかがえる。このように出土するイネ種子の大きさに関してはまだまだ多くのデータを収集し、比較する必要があると考えられる。

また、本遺跡出土のイネ種子のばらつきに関しては、同時期の他の遺跡から出土したものと同程度であるが（表2、表6）、現在の品種における値を大きく超えていたことが明らかとなり、栽培されていたイネに遺伝的な多様性が保たれていたことがわかった。また、当時の人びとに「品種」の概念があったかどうかはわからないが、もし品種の概念があったとしても今のそれに比べてはるかに雑駁なものであったように思われる。

イネ種子のDNA分析の結果、下月隈C遺跡から出土したイネは二点とも6C7A型を示したが、これは出土したイネ種子のほとんどがjaponicaに属するというこれまでの見解と一致する。ただし、6C7A型は温帯japonicaと熱帯japonicaの両者に確認できる型であり、今回の結果からこれらがどちらのjaponicaに属するかの判定にまではいたらなかった。抽出したDNAは凍結保存が可能であるので、熱帯japonicaと温帯japonicaに細分化できるマーカを開発し、詳細に確認することが今後の検討課題といえる。

引用・参考文献

- 笠原安夫（1982）菴煙遺跡の埋藏地の分析・同定研究—古代農耕と植生の復元— 「菴煙遺跡」唐津市教育委員会 pp.354-379
- Nakamura, I., N. Kameya, Y. Kato, S. Yamanaka, H. Jonori and Y.I. Sato (1997) A Proposal for Identifying the Short ID Sequence Which Addresses the Plastid Subtype of Higher Plants. Breeding Science 47: 385-388
- 佐藤洋一郎（2002）福の日本史 角川書店: 197pp.
- 柴原佐知子・大角信介・丹野研一・中村部郎・佐藤洋一郎（2003）DNAレベルでのイネ遺存体における品種群判定の効率化 日本国文化財科学会第20回大会研究発表要旨集 日本国文化財科学会第20回大会実行委員会・編 pp.18-19
- 高橋洋子・岡村博・佐藤洋一郎（2002）登呂遺跡から出土したイネ種子の形態的遺伝的変異 育種学研究4（例1）: 119
- 和佐野喜久生（1993）九州北部古代遺跡の炭化米の粒特性変異に関する考古・遺伝学的研究 育種学雑誌43: 589-60

表1 分析試料一覧

No.		出土遺構	時期	出土遺物
1	SHC-6 第IV面	SK474	弥生	イネ種子
2	"	SK477	弥生中期	イネ種子、その他種子
3	"	SX484	古墳前期	イネ種子
4	"	SK517	弥生前期前半	その他種子
5	"	"	"	イネ種子
6	"	SX559	古代前半	イネ種子、その他種子
7	"	SP329	弥生後期～古墳初期	イネ種子、その他種子

表2 イネ種子計測値

時期	出土遺構	計測数	長さ		長さ		長さ	
			平均値 (mm)	c.v. (%)	平均値 (mm)	c.v. (%)	平均値 (mm)	c.v. (%)
弥生	SK-474	50	4.38(±0.18)*	4.07	2.81(±0.17)	6.09	1.56(±0.09)	6.01
弥生前期前半	SK-517	42	4.29(±0.25)	5.76	2.61(±0.23)	8.77	1.65(±0.15)	9.09
弥生中期	SK-477	50	4.54(±0.22)	4.90	2.93(±0.15)	5.08	1.55(±0.10)	6.71
弥生後期～古墳前期	SK-484	50	4.31(±0.19)	4.45	2.81(±0.14)	5.04	1.54(±0.10)	6.46
弥生後期～古墳初期	SP-329	1	3.97	-	2.37	-	1.68	-
古代前半	SX-559	50	4.33(±0.34)	7.95	2.79(±0.28)	9.97	1.56(±0.16)	10.03

* () 内は標準偏差

表3 現在イネおよび出土イネにおけるPS-ID領域の塗基配列

試料	PS-ID領域の塗基配列	Type
rpl IPS-ID		
現在イネ、japonica	TAACCCCCC--AAAAAAA-GTAGTATTGAAATAAAAAACCA	6C7A
現在イネ、indica	... CCCCCCCCCAAAAAAA...	8C8A
SX484	... CCCCCC-AAAAAAAA-...	6C7A
SK517	... CCCCCC-AAAAAAAA-...	6C7A

1) Nakamura et al. (1997)

表5 雀居遺跡におけるイネ種子計測値*

時期	出土区	出土遺構	長さ		長さ		長さ	
			平均値 (mm)	c.v. (%)	平均値 (mm)	c.v. (%)	平均値 (mm)	c.v. (%)
弥生前期中頃	T-32	SK-19	4.11(±0.20)**	4.81	2.66(±0.18)	6.90	1.55(±0.20)	8.66
弥生前期中頃	T-32	SK-19周辺	4.17(±0.21)	5.04	2.67(±0.18)	6.77	1.57(±0.21)	8.24
弥生前期後半	N-27	SK-16	4.22(±0.21)	4.88	2.61(±0.21)	8.17	1.63(±0.21)	8.03
弥生前期～中期前半	O-29	SK-2	4.17(±0.24)	5.78	2.57(±0.17)	6.66	1.63(±0.24)	7.67
弥生前期～中期後半	Q-24	SK-20	4.14(±0.19)	4.54	2.62(±0.18)	6.81	1.59(±0.19)	6.90
弥生～古墳	J-32	SK-28	4.24(±0.17)	3.98	2.78(±0.17)	6.25	1.53(±0.17)	6.59
古墳前期	O-28	SC-1	4.02(±0.24)	5.98	2.49(±0.28)	11.32	1.63(±0.24)	9.16
古墳前期	O-28-2	SC-2	4.21(±0.22)	5.19	2.62(±0.17)	6.56	1.61(±0.22)	8.24

** () 内は標準偏差

時期	場所	固体数	平均 (mm)	S.D.	c.v. (%)	文献
三殿台	神奈川県	10	4.71	0.16	3.40	佐藤敏也 (1988)
八女吉田	熊本県	76	4.70	0.17	3.66	和佐野 (1995)
久ヶ原	東京都	40	4.48	0.21	4.69	佐藤敏也 (1988)
飛柳	青森県	41	4.41	0.22	5.01	佐藤敏也 (1971)
豊呂	静岡県	8	4.56	0.25	5.48	佐藤敏也 (1988)
天王山	福島県	94	4.44	0.29	6.53	佐藤敏也 (1988)
長臺岩崎	熊本県	20	4.47	0.30	6.66	佐藤敏也 (1971)
岡原	山口県	10	4.19	0.28	6.68	佐藤敏也 (1988)
宇津木向	東京都	100	4.53	0.31	6.84	佐藤敏也 (1988)
準塾里	佐賀県	57	4.39	0.31	7.06	佐藤敏也 (1988)
梅坂	佐賀県	100	4.38	0.31	7.08	佐藤敏也 (1988)
原ノ辻	長崎県	18	4.79	0.34	7.10	佐藤敏也 (1988)
美乃利	兵庫県	240	4.18	0.31	7.50	和佐野 (1997)
上ノ畠	熊本県	20	4.47	0.34	7.67	佐藤敏也 (1971)
平城宮跡	奈良県	105	4.52	0.38	8.34	佐藤洋一郎 (1992)
池上	大阪府	222	4.40	0.41	9.32	佐藤敏也 (1988)
平城宮跡	奈良県	100	4.68	0.48	10.26	佐藤敏也 (1988)

高橋ら (2002) を一部改変

表4 出土した種子の種の同定

分類群	出土部位	サンプル番号	共生時代前前半			共生時代中期			共生時代後期本			古代樹木 古栽培樹 古栽培時代初期
			02-012	02-101	02-015	02-017	02-014	02-014	02-014	02-014	02-014	
穀物類	イネ エノコログサ属 (アワ近似種)	4	2	2	2	2	2	2	6	6	6	合計
	サツシウメロン			1		1		1	1	1	1	
木本	ブナ科の1種	被斗				1		2	2	2	2	
	ヤマグワ	桜果					1		2	2	2	
	カラスザンショウ	梅子						2	2	2	2	
	イスザンショウ	梅子						1	1	1	1	
	エゴノキ	梅果						1	1	1	1	
	チシャノキ	梅果						3	3	3	3	
食料用木の実	キイチゴ属の1種	桃果						1	1	1	1	
	ブドウ属の1種	桃果						2	2	2	2	
水田・水耕地跡草	ホタルイ属の1種	果実						1	1	1	1	
地耕・露地・畠地雑草	カタムグラ セリ科の1種 アカネ科の1種 アキノタムラソウ オドリコソウ科の1種 シソ科の1種 ナス科の1種	穂子 穂子 果実 果実 果実 果実 穂子	2	1	1	1	1	1	1	1	1	32
田端共通雑草	カヤツリグサ科の1種 カヤツリグサ科の1種 カヤツリグサ科の1種	Aタイプ Bタイプ Bタイプ										
不明												
既化植物												
合計	カヤツリグサ科の1種	Aタイプ	東実	19	3	9	62	93				

2. 第6次調査出土の大型植物化石

新山 雅広（パレオ・ラボ）

1. 試料

大型植物化石の検討は、No.1～No.33の合計33試料について行った。これらは、既に洗い出し後（取り上げ済み）の試料であり、タッパーに水付きないし乾燥状態で保管された試料である。ここでは、これら大型植物化石を検討し、弥生時代から中世にかけての古植生および栽培状況を推定することを試みた。

2. 出土した大型植物化石

出土した大型植物化石の一覧を表1に示した。なお、試料中には、大型植物化石以外にも炭化材、礫などが含まれており、これらは、その他・不明の欄に示した（No.18、20、22、25、26などのその他・不明は、全て炭化材である）。以下に、時代ごとに出土した大型植物化石を記載する。

1) 弥生時代（～古墳時代）

前期前半（No.19、21～23）は、No.19で草本のウキヤガラ、No.21で木本のブドウ属、草本のイネ、No.22でイネ、No.23で草本のイネ、ホタルイ属、カナムグラが出土した。

前期（No.18）は、炭化材のみであった。

中期（No.20）は、イネ炭化胚乳が出土し、塊状になったものも含まれていた。

中期～後期（No.26）は、炭化材のみであった。

後期（No.13、15、16）は、No.13で草本のイネ、アサ、No.15で木本のモモ、草本のカナムグラ、シロザ近似種、No.16でモモが出土した。

弥生時代後期～古墳時代初期（No.27、28）は、No.27でバラ科、No.28でモモが出土した。

弥生時代後期～古墳時代前期（No.28、30）は、炭化材（草本？）の細片であった。

弥生時代後期？（No.31）は、モモが出土した。

弥生時代（No.32）は、木本のイチイガシが出土した。

弥生時代？（No.29）は、モモが出土した。

2) 古墳時代

前期（No.17、25）は、No.17でモモ、No.25でブナが出土した。

前期～中期（No.14）は、木本のオニグルミが出土した。

後期（No.24）は、木本のツブライが出土した。

3) 古代

古代（No.6、7）および古代後期（No.8～12）は、いずれもモモのみであった。

4) 中世

前期試料（No.1～5）のみであり、No.1で木本のセンダン、No.2で木本のムクノキ、センダン、ブドウ属、草本のイシミカワ、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリ、No.4でモモ、No.5で木本のコナラ属、ブナ科、草本のイネ、オオムギ、キビーヒエ、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツユクサ属、サナエタデ近似種、ポンクトタデ、タテ属、シロザ近似種、ヒユ属、ナデシコ科、ノブドウが出土した。

5) 不明

時期不明のNo.33でオニグルミが出土した。

表1 大型動物化石一覧表（その1） 数字は個数、0 内は破片の数を示す

分類群名・部位/Na・遺 物期	第Ⅰ層 SD326 屏	第Ⅰ層 SD326 屏	第Ⅰ層 SE318 井戸	第Ⅰ層 SK317 土塙	第Ⅱ層 SS349-2 水田	第Ⅱ層 SX393 不明上塙	第Ⅱ層 SS395裏-25区 農耕場	第Ⅱ層 SK365R-S24K 農耕場
中世前期	中世前期	中世前期	中世前期	中世前期	古代	古代後期	古代後期	古代後期
コナラ属	果実							
ブナ科	果実							
ムクノキ	核	(1)						
モモ	核							
センダン	核	6(14)	63(48)	1	1	1	1	1
ブドウ属	種子	13						
イネ	炭化胚乳				15(3)			
オオムギ	炭化胚乳				1			
キビヒエ	炭化胚乳				1			
ウキヤガラ	果実				1			
ホタルイ属	種子				1			
ツユクサ属	果実				2(2)			
イシミカワ	果実				1			
サナエタテ近似種	果実							
ボントクタチア	果実							
タチ属	果実							
シロサ近似種	種子							
ヒユ属	種子							
ナデシコ科	種子							
ハスノハガズア	種子	15						
ノブドウ	種子	9(12)					2(3)	
カラスクリ	種子	1(2)						
その他・不明	炭化材など				(約7)			

表1 大型植物化石一覧表(その2) 数字は標本の番号を示す

[表1] 大型植物化石一覽表 (その3) 物語付個数 0 内は破片の数を示す

3. 考察

1) 弥生時代

出土したもののうち、栽培植物と考えられるものは、モモ、イネ、アサであり、モモは後期（No.15、16、28）、イネは前期前半（No.21、22、23）、アサは後期（No.13）には既に利用されていたと言える。また、No.21（SK488下層；廃棄土坑）でイネと共に炭化して出土したブドウ属は、果実が生食可能な聚果であるが、何らかの形で利用されていた可能性が考えられる。なお、中期のNo.20（SK477；貯蔵穴）では、イネが出土したが、一部頬が張り付いた状態で塊状になつたものが含まれており、その状態からイネ茎ごと貯蔵されていたのではないかと思われる。

付近の植物群については、試料別にみると、前期前半のNo.19（SK460-2区；廃棄土坑）でウキヤガラ、No.23（SK500；廃棄土坑）でホタルイ属といった湿地性草本が出土しており、水位の低い湿地の環境の存在が予想される。また、No.23では、蔓性草本のカナムグラが出土しており、付近の開けた場所に生育していたであろう。後期のNo.15（SD388東壁土層下層；溝）では、カナムグラ、シロザ近似種が出土しており、溝付近の乾き気味の場所に生育していたと予想される。

弥生時代のNo.32（T-24区；遺構面）では、常緑広葉樹のイチイガシが出土し、付近にイチイガシを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

2) 古墳時代

栽培植物と考えられるものは、初期（No.17）のモモのみである。また、前期～中期（No.14）のオニグルミも食用可能な有用植物である。

付近の植物群としては、後期のNo.24で常緑広葉樹のツブラジイが出土しており、ツブラジイを含む照葉樹林が成立していた可能性が考えられる。

3) 古代

出土したのは、モモのみであり、弥生時代後期以降利用され続けられたのであろう。

4) 中世

栽培植物と考えられるものは、No.4のモモ、No.5のイネ、オオムギ、キビヒエである。オオムギ、キビヒエの利用（栽培）開始時期については、明らかではないが、古代以前の試料では出土しないので、中世に入って栽培植物が多様化した可能性が考えられる。

付近の植物群については、樹木では、暖地に生育する落葉広葉樹のセンダン（No.1、2）や同じく落葉のムクノキ、蔓性のブドウ属（No.2）、落葉か常緑か不明のコナラ属、ブナ科（No.5）がみられたであろう。草本類については、No.2（SD326；溝）で湿地性草本のイシミカワが出土しており、溝内ないし溝付近の湿った場所に生育していたであろう。また、溝付近の樹木類には、ハスノハカズラ、ノブドウ、カラスウリといった蔓植物が絡み付いていたであろう。No.5（SK317；土坑）では、ウキヤガラ、ホタルイ属、ツユクサ属、サナエタデ近似種、ポンクトクタデといった湿地性草本とシロザ近似種、ヒユ属といった路傍ないし畠地の雑草が出土しており、土坑周辺には、幾分湿った場所と乾き気味の場所とがみられたであろう。

4. 主な大型植物化石の形態記載

イチイガシ *Quercus gilva* Blume 果実

花柱・柱頭は、欠損しているが、輸状紋のある首の立ち上がり具合からイチイガシとした。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* var. *cuspidata* (Thunb.) Schottky 果実

果実は、卵形でやや光沢のある黒褐色。上・下端が潰れているが、果実長は11mm前後と推定され

る。

コナラ属 *Quercus* 果実

破片であるが、尻(底部)が残っており、その形態からコナラ属とした。常緑か落葉かは不明である。

ブナ科 *Fagaceae* 果実

細かな破片であり、ブナ科としか判らない。コナラ属やシイノキ属が含まれていると思われるが、クリが含まれている可能性も否定できない。

モモ *Prunus persica* Batsch 核

全体としては、長さ約18~29mmで平均約23mm。時代別でのおよその長さは、弥生時代が18~27mm(平均23mm)、古墳時代(1個体のみ)が26mm、古代が22~29mm(平均25mm)、中世(1個体)が24mm。弥生時代と古代を比較すると、古代の方がやや大きい傾向はあるが、出土核をみる限りでは、必ずしも時代が下るにつれて大きくなるとは言えないようである。なお、No.15出土核のうち1個体は、げつ歯類による食害痕が認められた。

イネ *Oryza sativa* Linn. 炭化胚乳

No.20で出土したイネは、单粒のものが88個と塊状になったものが3個であった。塊状のものは、1塊が10粒位集合したものであり、一覧表中には全体で約120個とした。穎(粉殻)が残っているものが多くみられ、おそらく元は、穎果(穎)の状態であり、それがばらばらになったと思われる。

キビーヒエ *Panicum miliaceum* Linn.-*Echinochloa crus-galli* P.Beauv. var. *fumentacea* Trin. 炭化胚乳

先端は尖り氣味で背面には滑らかで光沢のある穎が残っており、胚部分は確認できない。下端は若干欠損しているが、腹面にうちわ型の溝が確認できる。

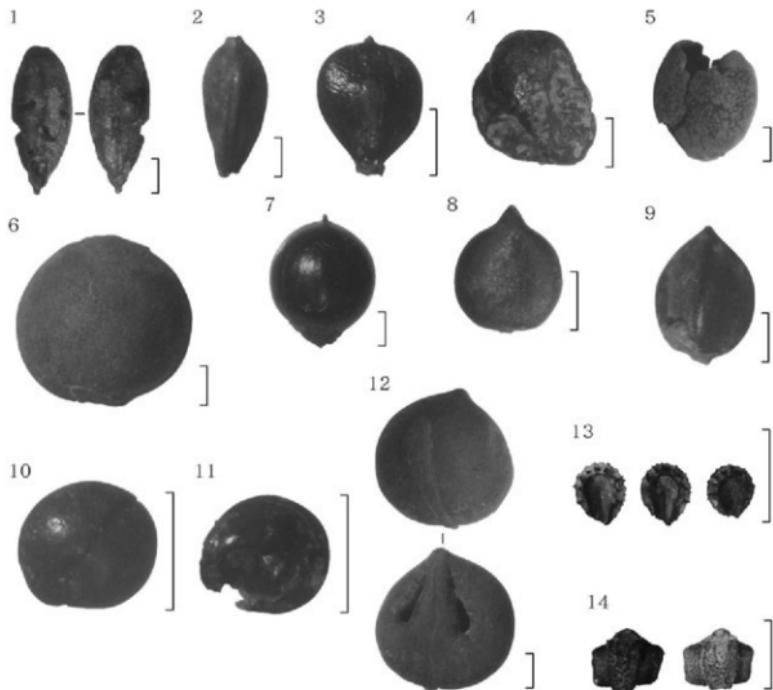
虫えい(虫こぶ)

昆蟲が産卵寄生した結果、異常発育した部分で葉などにみられる。黒色で大きさ・形は、様々である。



図版1 出土した大型植物化石 (スケールは1~10、15が1cm、11~14、16、17が1mm)

- 1.オニグルミ、核、No.14
- 2.イチイガシ、果実、No.32
- 3.コナラ属、果実、No.5
- 4.ツブライ、果実、No.24
- 5.ムクノキ、核、No.2
- 6.モモ、核、No.7
- 7.モモ、核、No.9
- 8.モモ、核、No.10
- 9.モモ、核、No.11
- 10.センダン、核、No.1
- 11.ブドウ属、種子、No.2
- 12.イネ、炭化胚乳、No.13
- 13.イネ、炭化胚乳、No.5
- 14.イネ、炭化胚乳、No.21
- 15.イネ、炭化胚乳(塊)、No.20
- 16.イネ、炭化胚乳(塊)、15.中央の拡大)、No.20
- 17.キビーヒエ、炭化胚乳、No.5



図版2 出土した大型植物化石 (スケールは1~12が1mm, 13, 14が1cm)

- 1.オオムギ、炭化胚乳、No.5 2.ウキヤガラ、果実、No.5 3.ホタルイ属、果実、No.5
 4.ツユクサ属、種子、No.5 5.アサ、炭化種子、No.13 6.カナムグラ、種子、No.23 7.
 イシミカワ、果実、No.2 8.サナエタデ近似種、果実、No.5 9.ポンクトクタデ、果実、No.5
 10.シロザ近似種、種子、No.15 11.ヒユ属、種子、No.5 12.ノブドウ、種子、No.5
 13.ハスノハカズラ、種子、No.2 14.カラスウリ、種子、No.2

3. 第6次調査出土骨片について

黒澤 一男 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

下月隈C遺跡の発掘調査において動物遺体が出土した。それらの動物遺体について分類・同定を行なった。しかし取り上げられた試料のすべてが破片であること、また焼骨であることから多くのものは同定することが不可能であった。表1に分類・同定をおこなった試料およびその内容を示す。

表1 地点別出土骨片部位観察表

試料名	種名	部位	左 右	備考
SK460 (廻粟土坑)	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK488 (廻粟土坑)	クロダイ属	前上顎骨	左	
	クロダイ属	歯骨	左	
	クロダイ属	角骨	右	
	ナマズ目ギギ科	担鱗骨		
	小型哺乳類 食肉類	中手骨	不明	テンより大
	魚類 (魚種不明)	担鱗骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	尾椎骨		タイ科?
	魚類 (魚種不明)	鰓条骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	鳥類	骨片		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK517 (土坑)	タイ科	前上顎骨	右	
	魚類 (魚種不明)	腹椎骨		
	魚類 (魚種不明)	椎骨		
	魚類 (魚種不明)	歯		タイ科?
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		
SK544 (土坑)	小型哺乳類	椎骨		ドブネズミサイズ
	小型哺乳類	椎骨		
	鳥類・哺乳類	骨片		
	魚類 (魚種不明)	骨片		

2. 魚類

本遺跡からは軟骨魚類 (真骨類) 3分類群が同定された。以下に各分類群について記載する。

ナマズ目ギギ科

担鱗骨が検出されている。ギギ科には3種が生息しているが、出土試料から種の同定は困難である。本科は本州から九州の河川や湖沼に生息する。

クロダイ属

前上顎骨、歯骨、角骨が各1点の計3点が検出されている。多くが体長33cmの現生標本とほぼ同じ大きさである。本属は全国の遺跡から多く出土しており、遺跡出土の魚類として代表的なものである。本属は北海道以南の沿岸域などに生息する。

タイ科

タイ科魚類の前上顎骨が検出されている。これらも上記のクロダイ属を含むヘダイ亜科か、マダ

イシモチ科のものと考えられるが、種の同定は困難である。なお他にタイ科に類似した椎骨や歯などが見られるが、類似した分類群が存在するため同定することは困難であり、ここでは魚種不明として扱っている。先にも述べているが、クロダイ属やマダイ亜科などのタイ科の魚類は日本の遺跡出土魚類の代表的なものである。

また分類群は不明であるが椎骨、歯や肋骨などの骨片が検出されている。椎骨はその径が6mmのものから1mm程度の小さなものまであるが、それらはすべて破片であり、同定に有効である棘や突起が残っていないため魚種不明として扱う。歯は、先に記したクロダイ属やタイ科の前上顎骨に残っていないため、おそらくタイ科のものであると考えられるが、形態的には同定が困難であるためここでは魚種は不明としている。

3. 鳥類・小型哺乳類

鳥類・小型哺乳類の骨片はいくつか見られるが、そのほとんどが骨端部を残していない為、同定および部位の特定は困難である。その中で、テンよりひとまわり大きな中手骨と、ドブネズミと同じ大きさの椎骨が検出されている。

4. まとめ

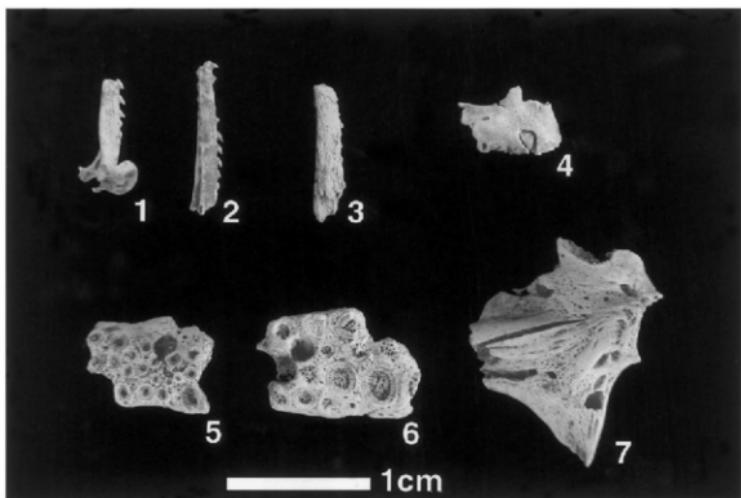
福岡市下月限C遺跡第6次調査の動物遺体を検討した結果、その多くが骨片であるため多くは同定にいたらなかった。しかしながら、日本全国の遺跡での代表的な魚種であるクロダイ属とタイ科の骨片が検出された。それと淡水のギギ科の骨片も検出されている。これらのことから博多湾や那珂川などの周辺河川で漁をしていたことが推測される。

謝辞

同定用の現生骨格標本は、国立歴史民族博物館西本研究室の所蔵標本を観察させていただいた。同定には国立歴史民族博物館の西本豊弘教授、早稲田大学の樋泉岳二博士にご教授いただいた。ここに感謝の意を表する。

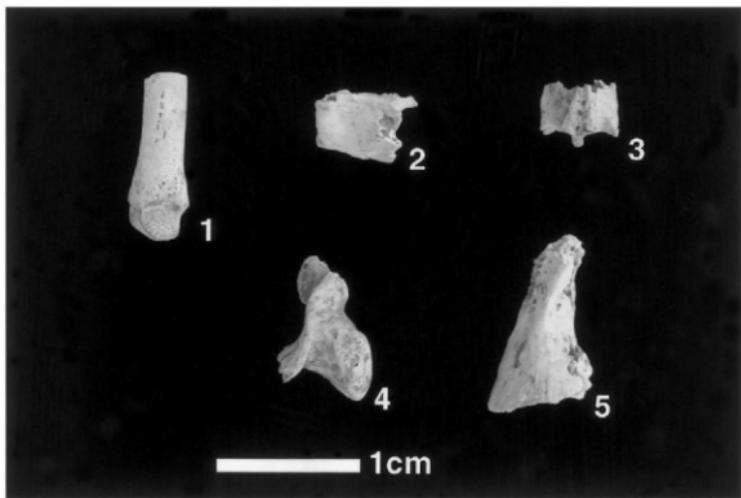
参考文献

- 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野理潤・吉野哲夫（1988）「日本海魚大図鑑（第2版）」。東海大学出版会。pp.498 + pl.370.
- 樋泉岳二（1994）遺跡産魚骨同定の手引き（I）。動物考古学、2、p.23-38.
- 樋泉岳二（1995）遺跡産魚骨同定の手引き（II）。動物考古学、5、p.11-38.



図版1

- 1~3.ナマズ目ギギ科 担鱗骨 (SK488) 4.タイ科 前上顎骨 右 (SK517)
5~7.クロダイ属 (SK488) 5.歯骨 左 6.前上顎骨 左 7.角骨 右



図版2

- 1.小型哺乳類食肉類 中手骨 (SK488) 2.小型哺乳類 椎骨 (SK544)
3.小型哺乳類 椎骨 (SK544) 4.鳥類・哺乳類骨片 (SK488) 5.鳥類骨片 (SK488)

4. 第6次調査出土材の樹種からみた木材利用

三村 昌史 (㈱パレオ・ラボ)・高橋 敏 (パリノ・サーヴェイ㈱)

1. はじめに

第6次調査に伴う出土材のうち、建物建築材144点・土木材854点・流木10点・木製品類231点の、合わせて1239点についての樹種同定結果を報告する。このうち、建物建築材は弥生時代中期～後期にあたる掘立柱建物やピット出土の柱材・礎板が中心となり、土木材には護岸杭材・矢板があるがそのほとんどが古墳および古代の護岸杭材である。また、木製品には弥生時代後期から中世に至るまで各面の試料があり、鍬・鋤・縫錐などの農具類、槽・曲物・盤・皿などの容器類、畜牛・人形・鳥形・刺形などの祭祀具のほか、戸井柱・下駄・鏡状・弓・修羅などの様々な製品が含まれる。ここでは、これらの出土材に使用された樹種を同定し、各器種の用材の特徴を明らかにするとともに、用材選択の背景にある材質をはじめとした木材特性と製作・使用法との関連性について調査を行った。

なお、この報告は㈱パレオ・ラボ及びパリノ・サーヴェイ㈱にそれぞれ委託された別個の樹種同定報告をまとめたものである。紙面が限られているため、写真図版については一般に同定困難な部類の散材を中心示し、個別の同定リストや木材組織の記載については割愛した。これらについては保管されたプレパラート試料とともに必要に応じて公開されることになっている。

2. 方法

出土木材から剥刀を用いて横断面・放射断面・接線断面の3方向の切片を作成し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作成した。検鏡は生物用の光学顕微鏡を用いて現生標本との対照により同定を行った。

3. 結果および考察

樹種同定の結果、全体で見出されたのは針葉樹が7分類群、広葉樹が64分類群の計71分類群であった。このたびの分析対象試料は時代別に見た場合に必ずしも種別の比較試料がすべて揃っているわけではないので、以下では建物関連の建築材・土木材・流木・木製品というように、性格の異なる種別ごとにまとめ、その用材傾向と選択の背景について検討する。

(1) 建物建築材の用材

a. 弥生中期～後期

弥生時代中期～後期に該当する第IV面の掘立柱建物群、竪穴住居、およびピット群から出土した建物を構成していたと考えられる出土材を表1に示す。

柱材に用いられていた樹種は、針葉樹材のマキ属・ヒノキ、および広葉樹材のクリ・スタジイ・ツブラジイ・コナラ節・クヌギ節・アカガシ属・クワ属・タブノキ属・クロモジ属・ツバキ属・サカキ・ヤマビワ・カキノキ属・チシャノキであり、全体として様々な樹種が見出されていることがわかる。これらの樹種はいずれも小高木あるいは高木にまで生長するので、柱材の法量に見合うだけの径長が得られる。特に用材の中心になっているのが51点中19点と多用されているクリであるが、クリは全国的にもこうした建築材にしばしば見出される材で、材は硬く丈夫であり耐朽性が高いことから、ことさら嗜好されて用いられたようである。そのほかの樹種もやはり硬質な材質なものが多いが、中にはタブノキ属のように硬さ中庸程度の材や、耐朽性のあまりないスタジイ・ツブ

表1. 弥生中期～後期の建物建築材の用材

樹種/樹種	柱根	礎板	組合せ 礎板	杭	軒用 机	板	木片	本片 類似?	計
針葉樹	スギ	-	1	-	-	-	-	-	1
	ヒノキ	-	1	-	-	-	-	-	1
	マキ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	針葉樹	-	1	-	-	-	-	-	1
広葉樹	クリ	19	33	5	-	-	-	1	69
	スダジイ	1	5	2	-	-	-	-	8
	ツブツブイ	4	6	-	-	1	-	-	11
	ツブツブイorコナラ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	コナラ属	3	1	-	-	-	-	-	4
	クスノキ科	1	-	-	-	-	-	-	1
	アカガシ属	5	2	1	-	-	1	-	9
	ムクノキ	-	1	-	-	-	-	-	1
	タブノキ	2	-	-	-	-	-	-	6
	タブノキ属	3	7	-	3	1	-	-	10
	タブノキ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	クスノキ科	1	1	-	-	-	-	-	2
	ツバキ属	2	-	-	-	-	-	-	2
	サカキ	1	-	-	-	-	-	-	1
	モモ	-	1	-	-	-	-	-	1
	ウメ	-	1	1	-	-	-	-	2
	ナシ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	サクラ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	ムクノキ属	-	3	-	-	28	-	-	5
	ヤマビワ	2	1	-	-	-	-	-	3
	アワガシ属	-	-	1	2	-	-	-	3
	カキノキ属	1	-	-	-	-	-	-	1
	イボタノキ属	-	1	-	-	-	-	-	1
	チシマノキ	1	-	-	-	-	-	-	1
	広葉樹	-	-	-	-	1	-	-	1
	総計	-	-	-	-	1	-	-	141
	計	51	66	9	4	3	4	3	141

*従宜上?でも一括して示したものがある。

る樹種がクリであることを含め、基本的に柱材の用材の中心になっている樹種が共通して用いられている。ただし、柱材に見出されていないスギ・ムクノキ・クスノキ科・モモ・ウメ・ナシ属・サクラ属・ムクノキ・イボタノキ属といった樹種も用いられている。全体として硬く丈夫な部類の材が多く、柱材と同様に材質への着目が窺える結果である。注目されるのは中国大陸原産で栽培される樹木のモモやウメの材が礎板に利用されていることである。栽培されていたものが枯死や収量の低下などにより活用された可能性が想起されるが、周辺に豊富に見られたであろう他の様々な樹種ではなくモ表2. 建物別にみた柱・礎板の用材

建物種類・番号	SB										SC	計							
	579	580	581	582	584	588	589	592	593	598									
ピット数	6	6	6	(4)	6	6	6	[4]	6	6	4	—							
樹種/樹種	柱	礎	礎	柱	礎	柱	礎	柱	礎	柱	柱	礎							
広葉樹	クリ	3	6	-	2	4	1	-	5	6	-	2	41						
	スダジイ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1						
	ツブツブイ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2						
	ツブツブイorコナラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1						
	コナラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1						
	アカガシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2						
	ムクノキ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1						
	タブノキ属	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	7						
	クスノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2						
	モモ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1						
	ウメ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1						
	ムクノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1						
	ヤマビワ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1						
	チシマノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1						
	計	2	6	2	1	6	4	4	6	7	5	7	2	2	5	2	1	3	67

*SB582の組み合せ礎板3点については1点として換算した。ピット数の[]は部分的な抽出を示す。なお、礎板については縦横時に残存したと推測されるものや複数枚計数しているものもあるため、ピット数と点数が一致しない建物もある。

モ・ウメの材がわざわざ選択されていることを考慮すると、何らかの祭祀的意図により利用されたのかも知れない。

また、建物ごとに柱材の用材の傾向をみてみると、比較的試料が揃っているものではひとつの建物に同一の樹種を用いる傾向が強いことがわかる（表2）。こうした傾向は他地域においても確認さ

ラジイなども用いられている上、樹種が複数であることを考えると、材質に配慮した樹種選択が窺えるものの、適度な径長が得られれば材質にはそれほど拘らずに選択されることもあったものと考えられる。全体として針葉樹材はほとんど利用されていないが、福岡市内での花粉分析結果（中村・畠中 1976；鈴木 2000）や第5次調査の花粉分析結果を参照すると、本遺跡周辺の照葉樹林中には針葉樹種が少なかったとみられ、木材資源量を反映した結果と示唆される。

礎板には、最も多用されている

れており（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社 2000）、建物の構築の際になるべく同じ材質のものでそろえようとした結果であろう。さらに、柱と礎板との関係においても、SB579,584,589などは柱材と共に通する樹種が礎板にも用いられている傾向にある。礎板には板目・柾目・追従などの板材を利用したもの以外にも比較的小径の半截材を利用したものも含まれていることを考慮すると、礎板には柱材に利用した原本の余材を効率的に活用した可能性も想定される。

b. 古墳前期～中期・古墳後期～奈良時代

表3. 古墳前期～奈良時代の植物建築材の用材

樹種/材種	古墳前～中		古墳後～奈良		
	柱	礎板	柱	礎板	
広葉樹	イヌシテ属	-	-	1	
	クリ	-	1	-	
	スダメイ	1	-	-	
計	1	1	1		

古墳前期～中期の試料にSD369から出土した柱・礎板各1点、古墳後期～奈良時代の試料に谷底西出土の柱1点がある（表3）。点数が少ないので全体を把握することはできないが、選択された背景と樹種の傾向は弥生中期～後期の試料と同様であると推測される。

(2) 上木材の用材

表4. 遺構別にみた古墳時代頃の杭の用材

樹種/材種	SD369	SD190	SX380	SX423	合	計
広葉樹	スダメイ	-	2	3	1	6
	ツバメツヅキ	-	8	2	-	10
	コナラ属	1	-	-	-	1
	クヌギ属	3	2	2	-	7
	アカマツ属	-	-	1	-	1
	エゾノキ属	-	-	1	-	1
	モクレン属	-	1	-	-	1
	シキミ	-	-	2	-	2
	クヌギ	1	-	-	-	1
	カゴヤキ	-	-	1	-	1
	ハマビワ属	-	-	1	-	1
	ツバキ属	1	-	1	-	1
	モッコク	-	1	-	-	1
	サカキ	-	1	1	-	2
	ユズリハ属	-	-	1	-	1
	ヤマビリ	-	-	2	-	2
	アワガミ属	2	-	-	-	2
	タイシシタチバナ	-	-	-	1	1
	クマノミキ属	-	-	1	-	1
	ハイノキ属	-	1	-	-	1
	クロバヒ類似属	-	-	2	-	2
	チシノノキ	-	1	-	-	1
計	8	9	27	3	1	48

* SD369が古墳前～中、SX423は古墳後～古代頃、それ以外は古墳後～奈良時代に該当する。

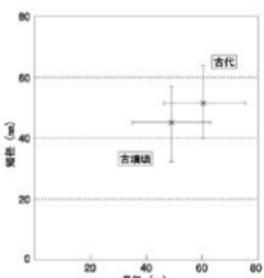


図1. 古墳・古代における丸木杭の径の分布
×は平均値、上下左右の枠線は平均値±標準偏差を示す
対象点数は古墳69点、古代67点である。

a. 沿路・溝護岸杭材

旧路沿岸杭材や堀の護岸杭材は主に第Ⅲ・Ⅳ面の古墳時代前期～中期、第Ⅲ面の古墳時代後期～奈良時代頃、および第Ⅱ面の古代後期に該当するものがある。表4.5はおおまかに古墳時代頃と古代とに分け、遺構別に杭の用材をまとめたものである。

これをみると明らかなように、各時代とも実に様々な樹種が用いられていることがわかる。また、点数の揃っているものをみると限り、ある遺構・グリッドで傾向が異なるということではなく、用いられている樹種の多少に大きな変化はない。樹種が複数であるのは弥生中期～後期の柱材にも確認された傾向であるが、杭材の方ではイスガヤ・ヒサカキ属・カマツカ・ネジキ・シャンボ・キブシ・ガマズミ属など、低木程度にしかならない樹種も利用されているのが特徴的な点である。全体としては柱材に確認されたように周辺植生を反映して針葉樹は少なく、広葉樹（常緑広葉樹が主）が用材の中心となっている。

本取りに着目すると、杭材のほとんどは樹皮付あるいは杭の打設時には樹皮が付いていたと推測される最外年輪の残存した丸木であるから、割裂等の加工の手間を省くことのできる丸木がそのまま利用されていたといえる。その丸木杭について径の太さを測定した結果をみると、それぞれの時代において杭材の径は比較的揃っている

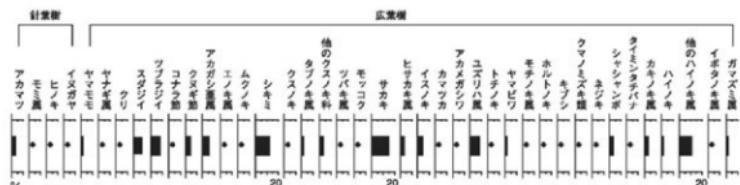
表5. 遺構・グリッド別にみた古代の杭の用材

樹種/遺構・グリッド	SX395										計	
	SX362	SX360	SX364	R25	R26	R27	R29	S24	T23-24	TU23		
針葉樹	-	-	4	5	6	2	2	-	-	4	-	
モミ属	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	
ヒノキ	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
イスガヤ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
広葉樹	-	-	-	1	2	1	3	-	2	-	9	
ヤマモチ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ヤナギ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
クリ	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	3	
スダジイ	-	-	1	9	15	10	16	-	5	-	57	
ツヅラトイ	-	-	5	15	2	20	12	3	2	1	61	
コナラ属	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	3	
クスギ属	-	2	-	3	3	-	1	15	3	1	31	
アカガシ属	1	-	2	3	11	8	9	3	1	1	39	
エノキ属	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	3	
ムクノキ	-	-	-	-	2	2	1	2	-	-	7	
シキミ	-	-	4	7	17	15	22	14	9	-	90	
クヌギ	-	-	-	1	1	-	1	-	-	2	2	
ヤブニッケイ	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	9	
タブノキ属	-	-	2	1	1	2	2	1	-	-	9	
シロダモ	-	1	-	1	1	-	1	-	1	-	6	
イヌガシ属	-	1	-	1	2	1	3	1	-	-	9	
ハマビワ属	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	3	
ツバキ属	-	-	2	-	1	2	1	-	-	-	7	
モッコク	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	3	
サカキ	-	2	1	11	25	12	23	26	7	9	4	
ヒサカキ属	-	-	-	1	6	-	9	2	-	-	18	
イスノキ	-	-	2	9	5	9	2	3	-	2	32	
カマツカ	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
スモモ属	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	2	
アカマツシワ	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	3	
ユズリハ属	-	-	4	21	7	23	2	2	-	1	60	
トチノキ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
ヤマビワ	-	-	1	1	2	5	1	2	-	1	13	
モチノキ属	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	
ホルトノキ	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	4	
キブシ	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	3	
クマノミズキ属	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	4	
ネジキ	-	2	-	2	-	1	-	-	1	-	6	
シャンシンボ	-	-	4	7	5	4	1	-	2	-	23	
タイノクチ属	1	-	-	3	1	1	1	-	-	1	7	
カキノキ属	-	-	1	4	2	4	3	2	-	-	16	
ハイノキ	-	-	-	1	1	1	1	-	5	-	8	
クロキ属	-	2	-	8	5	9	3	4	-	-	31	
クロバケ属	-	-	1	2	-	5	1	1	-	2	12	
ミミズバケ属	-	-	5	6	5	8	7	3	-	3	37	
イボクノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ヤブニッケイ属	-	-	-	3	3	2	-	-	-	-	8	
ガマズミ属	-	-	1	1	1	1	3	-	-	1	8	
広葉樹	-	-	-	1	1	2	-	4	-	-	8	
計	1	10	19	71	189	98	199	107	61	17	27	1
	801											

(図1)。したがって、杭材の採取に関しては遺跡周辺の山野にみられるありとあらゆる樹種が利用され、その都度適度な径の材が選択されていたことが推察される。

計803点と点数の揃っている古代における杭材の組成をみてみると、杭材全体ではサカキが約15%で最も多く、次いでシキミが約12%、スダジイ・ツブラジイ・ユズリハ属が約7%、アカマツ・クヌギ節・アカガシ属・イスノキ・シャンボ・ハイノキ以外のハイノキ属がそれぞれ約3~5%と続く。

(図2)。このうち、多用されているサカキ・シキミや、比較的用いられているユズリハ属・イスノキ・シャンボ、クロキやミミズバイなどのハイノキ

図2. 古代における杭材の組成割合
%は古代の杭材の総点を基準として算出。1%未満については●で示してある。

属といった樹種のなかには高木になるものもあるが、実際には照葉樹林において亜高木層や低木層を占めることも多く、小高木や低木状態でみられるので杭材に適度な径長の材が得やすかったと推察される。第5次調査で実施されている花粉分析結果からは、花粉で検出されにくい樹種の分を差し

引いてもアカガシ亜属やシイノキ属（スタジイ・ツブライ）の極古する植生が想定されるが、これらの樹種が木材資源量ほど杭材に用いられていないのは、高木層を中心に古めていたために杭材

表6. 杭材の伐採時期

時代・遺構／季節	早春	春	夏	秋・冬	合計
古墳後～ SD190	-	1	-	-	1
現段	1	3	7	2	2
古代	SD360	1	1	3	-
	SD364	-	1	-	1
	SD385 R25	2	2	11	8
	SD385 R26	8	9	26	3
	SD385 R27	2	6	1	19
	SD385 R29	9	6	7	26
	SD385 S24	-	6	14	9
	SD385 T23-24	-	2	6	13
	SD386 TU23	-	1	1	4
	SX403	2	5	-	4
計	25	43	73	112	34

*季節の指定が何箇であったもののみについて示した

としては利用可能な径長の材が得にくかったのであろう。こうした樹種は、農具や建築材などの用材とされた際に生じた枝などの余材が利用されていたのかも知れない。

また、丸木杭材の最外年輪の状態および形成層帯の活動の有無により判断した伐採季節の結果をみると、古墳後期・古代いずれの杭列も四季を通して伐採された木材から構成されていることが明らかとなった（表6）。杭材の場合、使用する木材を伐採し貯蔵しておく可能性は低いので、これらの杭列が度重なる補強・補修などを受けた事を示していると考えられる。

b. 矢板

矢板の試料は少ないので全体の傾向は把握できないが、3点の試料には硬く丈夫な広葉樹材が用いられている（表7）。

（3）流水の樹種

表8. 流木の樹種

樹種/時代	古墳後～古墳前	古墳前～中	古代	計
広葉樹	スダジイ	-	1	
	ツブライ	1	-	
	アカガシ亜属	1	-	
計	2	1	1	4

流水については時代的に古代後期（SD362）・古墳

前中期（SD369）・弥生時代後期～古墳前期（SD388-I）の試料がある（表8）。点数は少ないで本遺跡を取り巻いていた古植生について深く言及することはできないが、見出された樹種が河川や溝の近辺に生育していたものとみられる。特にこうした立地に生育するヤナギ属の材が弥生後期～前期・古墳前期～中期のものに見出されているのは周囲の環境と整合的な結果であるといえる。

（4）木製品の用材

木製品は各調査面の流路・溝から様々な器種が出土している。ここでは、第III・IV面の古墳時代前期～中期と第V面の弥生時代後期～古墳時代前期の各試料については時代が重なる部分があるので一括し、そのほか第III面の古墳時代後期～奈良時代、第II面の古代、第I面の中世というように時代区分して器種別に用材の傾向と選択の背景について考察を加えていく。

a. 弥生後期～古墳中期の木製品

表9は、弥生後期～古墳前期（SX436, 555, 559, 565, SD388, 506, SK492）、古墳前期～中期（SD369）、および古墳後期～奈良時代（SD190, 390, 398, SX389）に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鍬（先）2点があるが、いずれもアカガシ亜属の材が用いられており、耕起に耐え得るよう硬く強靭な材が用いられている。農具の用材にアカガシ亜属、いわゆるカシの材を用いるのは西日本における一般的な特徴であって、周辺の諸遺跡の結果とも共通するものである（例えば、鳴倉 1976, 1981；林・松本 1980；福岡市教育委員会 1983；伊東 1989）。容器類には槽1点と容器？とされるものがある。槽に見出されているクリの材は硬く切削は困難な部類であるが、割裂は容易で板材を割り出しやすいことから用いられたとみられる。周辺の遺跡では槽の用材としてクリ

表9. 弥生後期～古墳中期の木製品の用材

樹種/品種	鉢	鏡	容器?	蓋	蓋	皿	板	杭	台座?	加工材	計
針葉樹	ニヨウマツ類	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1
	スギ	-	-	-	1	5	-	-	-	1	6
	マツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
広葉樹	クリ	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
	スダジイ	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	クヌギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	アカガシ属	2	-	-	-	-	-	-	-	2	4
	シキミ	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	タスノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	キハダ	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	ムクロジ	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
計											
*木製品については?付であるが便宜上一括して示したものもある											

されており、残りの1点も割裂容易な広葉樹材のキハダが用いられており、器形・製作法と選択された樹種の材質との間に関連性が認められる。柱材や杭材では全体として針葉樹はほとんど用いられていなかつたが、資源として少なくともこのように割り出されることで板材・削材状の製品に効率的に利用されていたといえる。

b. 古墳後期～奈良時代の木製品

表10. 古墳後期～奈良時代の木製品の用材

樹種/品種	鉢	鏡	舟物	筒板	人形?	板材	部材	炭化材	加工材	計
針葉樹	ニヨウマツ類	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	スギ	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	ヒノキ	-	-	1	-	-	1	-	-	2
広葉樹	クリ	-	-	-	-	2	-	-	-	3
	スダジイ	-	-	-	-	-	2	-	-	2
	アカガシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	タスノキ科	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	シシャモキ	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	楓	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	計	1	1	1	1	4	1	2	4	15

ノキが用いられ、3点の板材のうち1点にスギが用いられるなど、針葉樹材が用材とされている。3点のうちの残りの2点にはクリが見出されており、割裂容易な広葉樹材も用材とされているのは弥生後期～古墳前期のものと同様である。

c. 古代の木製品

表11-1,11-2は古代 (SD362, SX364, 395, 403, SS349) に該当する木製品をまとめたものである。

農具未製品にはツヅラジイが見出されており、農具の法量に見合う大径の得られる樹種のうち硬い部類の材が選択されたとみられる。弓にはスギが見出されている。一般に弓にはイスガヤやカヤが用いられることが多い¹¹。スギの材も粘りがあるので理にかなった使用法であるといえる。挽物・削物の類では、漆塗の皿・盤や白木の皿にスギ・ヒノキ科・ケヤキ・サクラ属が見出され、回転成形の際に表面を滑らかに仕上げることができ、また割り易い均質な部類の材が用材とされている。編錐にはシキミの材が見出されている。一般に、編錐にはこれといって決まった樹種が用いられるわけではない。全体として重い材質のものが選択される傾向にあり、そうした意図のもとにシキミの材が利用されたのではないかと類推される。なお、周辺の遺跡においてアカガシ属・シキミ・ヒサカキなどの重い材質のものが用いられている (福岡市教育委員会 1983, 1989)。類例が少なく注目される修羅にはユズリハ属の材が見出されている。大径が得られ、また韌性があつて丈夫な材であり、製品の法量や使用法に鑑みて納得のいく選択がなされている。

曲物では井戸枠の曲物と容器としての曲物（蓋・側・底）があり、全体としてモミ属・スギ・ヒノキがほほまんべんなく見出されている。このような針葉樹は材・木理が通直なため割裂が容易で、板

が使われている例もあり (福岡市教育委員会 1983)、地域的な特色であるのかも知れない。容器?にはやや軟らかく切削加工がしやすいムクロジの材が用いられている。牽車にはスギが用いられており、割裂・切削加工が容易で板材からその後の細工がし易い針葉樹材が選択されている。そのほか、板材には同様にスギが6点中5点と多用

表10は、および古墳後期～奈良時代 (SD190, 390, 398, SX389) に該当する木製品をまとめたものである。

農具としては鉢が1点あり、やはり丈夫なアカガシ属の材が用いられている。農具（片）にはクスノキ科が用いられている。曲物側板にはヒノキが用いられている。曲物側板にはヒ

表11-1. 古代の木製品の用材 (1)

樹種/品種	巣長 木製品	馬	共戸舟 舟物	古物				底板	箸?	籠状	漆塗		下取	荷札 木舟	計	
				直	個	底	底蓋				長	幅				
針葉樹	モミ属	-	-	1	4	4	6	1	-	-	-	-	-	-	16	
	スギ	-	1	-	5	4	3	-	1	2	1	1	-	1	19	
	ヒノキ	-	-	-	4	2	8	-	-	-	-	-	-	1	15	
	ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	1	
	針葉樹	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
広葉樹	ツブラジイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ケヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
	シキミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
	サクランボ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
	アカガシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
	計	1	1	1	13	11	17	1	1	2	2	1	2	1	1	59

表11-2. 古代の木製品の用材 (2)

樹種/品種	幅	越端 部材	漆塗具				角材/ 角板	板材	その他	計		
			直	底	入形	角形/彎形						
針葉樹	モミ属	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	
	スギ	-	2	2	1	-	1	2	5	1	14	
	ヒノキ	-	1	1	1	-	1	-	9	-	14	
	針葉樹	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
	広葉樹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
広葉樹	ツブラジイ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ヒノキ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
	クワノキ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ツリノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	サルカキ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ユズリハ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	計	1	5	3	3	2	1	2	3	15	1	38

として針葉樹が用いられるることはごく一般的な傾向である。そのほか、底板・箸?・籠状木製品・祭祀具・角材・板材など、割り出された材や板材・削材から細部の成形を行って製作される製品には、同様に割裂性に優れ切削容易なモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材の中心となっている。

d. 中世の木製品

中世の製品はSD322、SE303,304,305,306,309、315,318,320,321,324,334,409、SK317から出土したものがあり、大半は井戸に伴うものである（表12）。

井戸枠には板材を組んだ方形のものと曲物を利用した井戸枠のものがある。井戸枠にはモミ属・ヒノキといった針葉樹材が用いられ、古代のものと同様の傾向が窺える。方形井戸枠の板材は37点中30点とスギが多用され針葉樹材が用材の中心となってはいるが、スタジイ・ツブラジイ・アカガシ亞属・アワブキ属といった硬く丈夫な部類の広葉樹材も利用されているのが特徴的である。また、方形井戸

表12. 中世の木製品の用材

樹種/品種	井戸枠			箸?	曲物	直	個	底	刺形	男張板	漆塗	下取	板材	杭	本片	加工材	計
	板	板	曲物														
針葉樹	ニロウマツ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	モミ属	2	1	-	1	2	-	-	-	-	7	-	-	-	6	-	6
	スギ	30	-	-	-	1	-	1	-	-	4	-	1	1	43	-	43
	ヒノキ	-	4	2	-	4	5	-	-	-	-	-	-	-	19	-	19
	ヒノキ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
広葉樹	スタジイ	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3
	ツブラジイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	2
	アカガシ亞属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	タワノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	3
	シキミ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1
	クヌキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	2
	ツリノキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1
	アワブキ属	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1
	ミツバツギ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	キブシ	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	カキノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1
	計	37	3	4	2	2	8	5	1	1	1	13	6	2	4	90	90

材状の製品を製作するのに適している上、曲げやすいことから用材として選択されたとみられる。底板や蓋板では曲げる必要がないので広葉樹材が希に見出されることはあるが、そもそも曲物自体が針葉樹材あっての製品であり、曲物の用材

枠の側柱と類推される杭にはスタジイ・シキミ・キブシと複数の樹種が見出されており、身近に見られる樹木が得られるものが選択されたのであろう。

井戸枠以外の曲物には、側板・底板・蓋板を問わずやはり

モミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が用材とされている。剣形やその他の板材（井戸枠の可能性もある）には器形・製作法を反映して同様にスギ・ヒノキが用いられている。男根状木製品にはミツバウツギの材が見出されているが、珍しい樹種でもなく小川の縁や林縁などにみられる低木であるので、目的とした製品の法量にかなう径長の材が採取された結果であるとみられる。

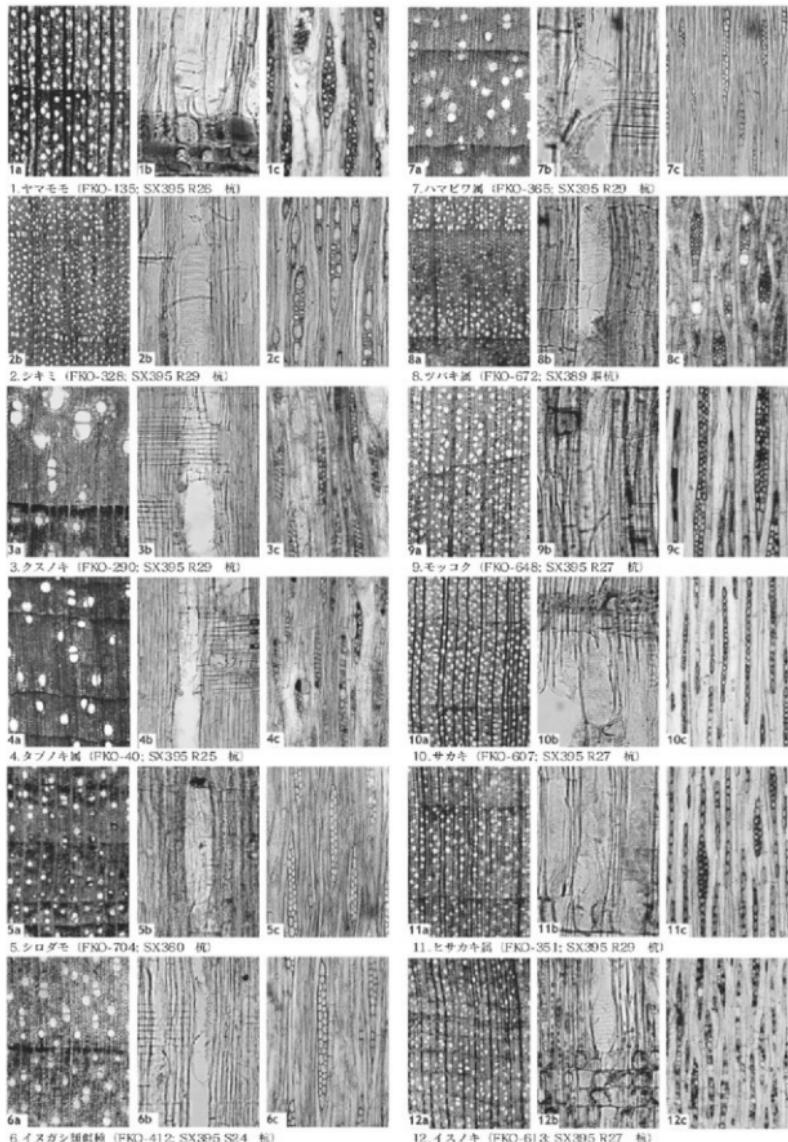
4.まとめ

本稿では第6次調査出土建物建築材・土木材・木製品について、種別に用材傾向や選択の背景について検討した。その結果、弥生中期～後期の柱材・礎板にはクリを中心として硬く丈夫な材質の広葉樹材が用いられ、古墳時代や古代の護岸杭材にはあととあらゆる樹種が調査的に利用されていたことが明らかになった。さらに、柱材にはいずれも大径が得られる樹種が選択されているのに対し、杭材では低木～小高木程度でみられる樹種の割合が高く、周辺植生としての木材資源量だけでなく各樹種の森林の階層に占める位置も木材採取に影響を与えることが推察された。また、木製品では、板材や削材から製作される製品にモミ属・スギ・ヒノキといった針葉樹材が多用され、使用や製作時に際してより特定の材質が要求される製品には、例えば櫛や歯のアカガシ亜属、皿や盤のサクラ属・ケヤキ、修羅のユズリハ属というように、それぞれに見合った材質を持つ広葉樹材も選択されていたことが明らかになった。花粉分析結果によれば遺跡周辺におけるモミ属・スギ・ヒノキの木材資源量は多くなかったが、木材資源が少なくて割り出されることで効率的に製品の数量をまかうことことができたと推察される。

以上のように、木材利用全体としては周辺にみられた様々な樹種が利用されていたといえるが、各器種の器形・法量や製作法・使用法と樹種の材質・径長などの樹木特性との間には対応関係が認められ、周辺植生にみられる木材資源の中からそれをおいて適材が使い分けられていたことが確認された。

〈引用文献〉

- 福岡市教育委員会（1983）「福岡市城原小学校建設地内遺跡調査報告書」拾六町ツイジ遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集 93-116
- 福岡市教育委員会（1989）「板付周辺遺跡調査報告書（15）－高畠遺跡第12次調査地点－」福岡市埋蔵文化財調査報告書第210集 80-85
- 林弘也・松木晶（1980）「難波遺跡から出土した木質遺物の樹種同定」、「難波－福岡市比恵台地遺跡」209-216、日本住宅公团九州支社
- 伊東隆夫（1989）「西園遺跡群23次調査河川出土木材の樹種」、「福岡市西園遺跡群－第23次調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第196集」35-38、福岡市教育委員会
- 中村純・畠中健一（1976）「板付遺跡の花粉分析学的研究」、「板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集」29-44、福岡市教育委員会
- バリノ・サーヴェイ株式会社（2000）「樹種同定その他の分析」、「新田東部遺跡群－新田東部工業団地遺跡に伴う発掘調査報告書－〔第3分冊〕」1147-1177、新田町教育委員会・群馬県企画局
- 崎倉巳三郎（1976）「木材の材質」、「板付－市営住宅建設にともなう発掘調査報告書1971～1974－福岡市埋蔵文化財調査報告書第35集」67-75、福岡市教育委員会
- 崎倉巳三郎（1981）「福岡市板付E-5・6地区出土の木質遺物の樹種」、「板付－板付会館建設に伴う発掘調査報告書－福岡市埋蔵文化財調査報告書第73集」76-77、福岡市教育委員会
- 峰木茂（2000）「博多遺跡群第112次調査土壌の花粉化石」、「博多74－博多遺跡群第112次調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書632集」17-27、福岡市教育委員会

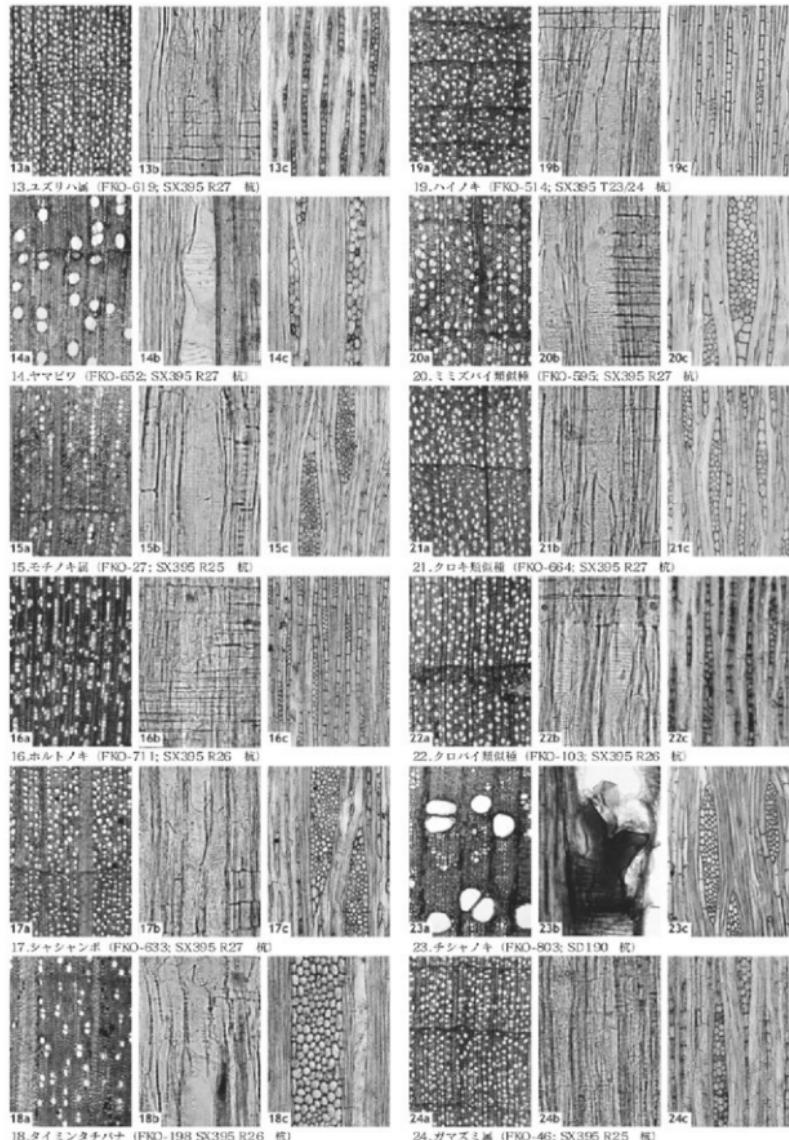


1,2,5,7-12 a-1.0mm, b-0.2mm, c-0.4mm
3,4,6 a-1.0mm, b-0.4mm, c-0.4mm

scale bar

* FKO-はプレバート保有Noを示す。
a: 横断面 b: 放射断面 c: 接続断面

写真図版：出土材・木材組織光学顕微鏡写真1



scale bar

13,15-22: a-1.0mm, b-0.4mm, c-0.4mm
14,23:a-1.0mm,b-0.4mm,c-0.4mm

a: 横断面 b: 放射断面 c: 接線断面

写真図版：出土材・木材組織光学顕微鏡写真2

5. 第6次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定

山形 秀樹（パレオ・ラボ）

1. はじめに

下月隈C遺跡（SHC-6）より検出された炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

2. 試料と方法

試料は、SC532-1区、SK460、SK488下層、SK517、SK544、およびSP329の、それぞれ第IV面から採取した炭化物6点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

3. 結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正值（基準値-25.0%）、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を曆年代に較正した年代を示す。

¹⁴C年代値（yrBP）の算出は、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、曆年代較正の詳細は、以下の通りである。

曆年代較正

曆年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を曆年代に変換することである。具体的には、年代既知の蘆木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と曆年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて¹⁴C年代を曆年代に較正した年代を算出する。

¹⁴C年代を曆年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、曆年代較正値は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の曆年代値であり、1σ曆年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1σ曆年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1σ曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

4. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および曆年代較正を行なった。曆年代較正した1σ曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それより確かな年代値の範囲

として示された。

引用文献

- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎、日本先史時代の¹⁴C年代、p.3-20.
- Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.
- Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d. Plaet, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1063.

表1. 放射性炭素年代測定および層年代校正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を層年代に校正した年代	
				層年代校正値	1σ 層年代範囲
PLD-1756 (AMS)	炭化物 No.2 SK532-I区 第IV面	-26.2	1800 \pm 35	cal AD 240	cal AD 135-180(18.9%) cal AD 170-185(19.8%) cal AD 210-255(47.9%) cal AD 300-320(13.4%)
PLD-1757 (AMS)	炭化物 No.3 SK460 第IV面	-25.3	2530 \pm 35	cal BC 765	cal BC 790-760(28.6%) cal BC 680-665(14.0%) cal BC 640-590(36.1%) cal BC 580-550(21.3%)
PLD-1758 (AMS)	炭化物 No.4 SK488下層 第IV面	-26.6	2520 \pm 35	cal BC 765 cal BC 675	cal BC 790-760(19.7%) cal BC 685-660(14.7%) cal BC 645-545(65.6%)
PLD-1759 (AMS)	炭化物 No.5 SK517 第IV面	-26.2	2455 \pm 35	cal BC 740 cal BC 725 cal BC 540 cal BC 530 cal BC 520	cal BC 760-685(37.2%) cal BC 545-480(30.2%) cal BC 440-415(13.6%)
PLD-1760 (AMS)	炭化物 No.2 SK544 第IV面	-25.0	2280 \pm 35	cal BC 385	cal BC 395-355(60.1%) cal BC 285-260(32.2%)
PLD-1761 (AMS)	炭化物 No.7 SP329 第IV面	-24.4	2005 \pm 35	cal BC 15 cal AD 0	cal BC 40-cal AD 30(90.5%)

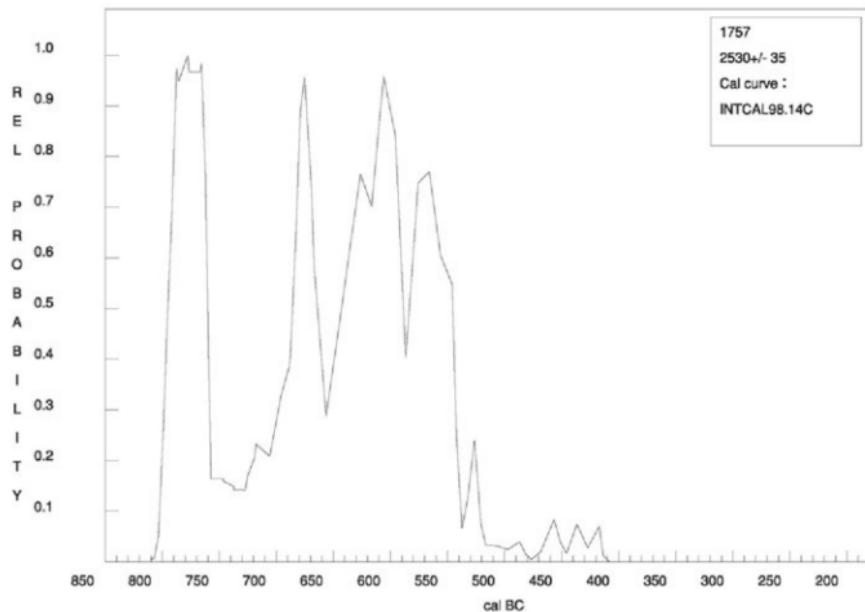
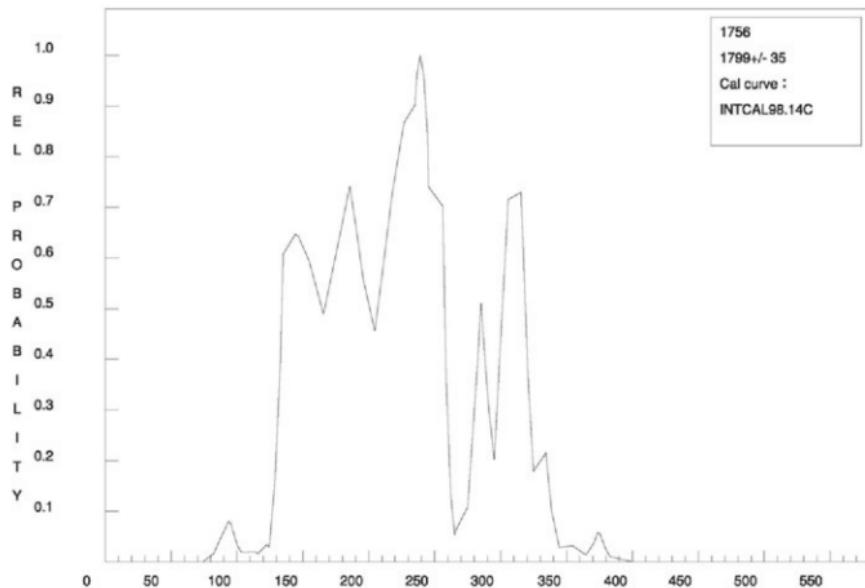


図1 曆年代較正グラフ1

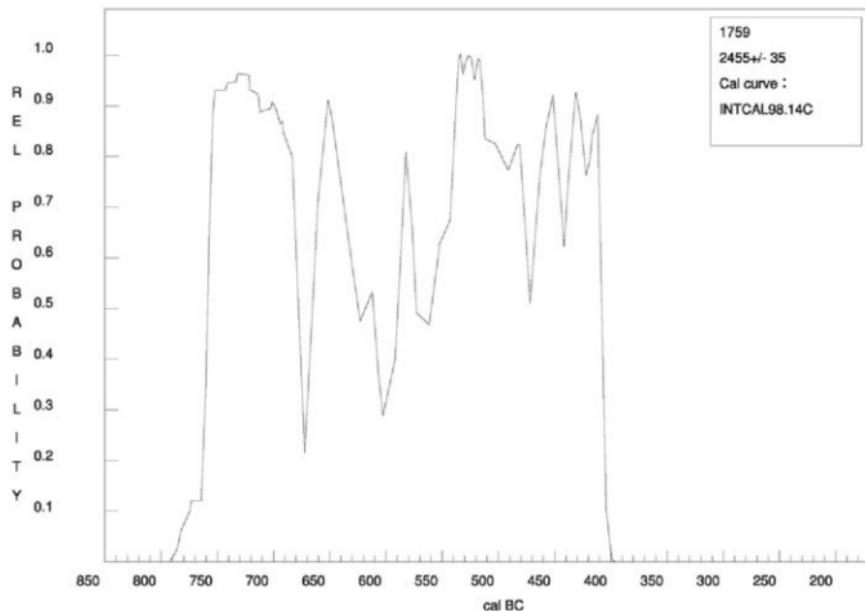
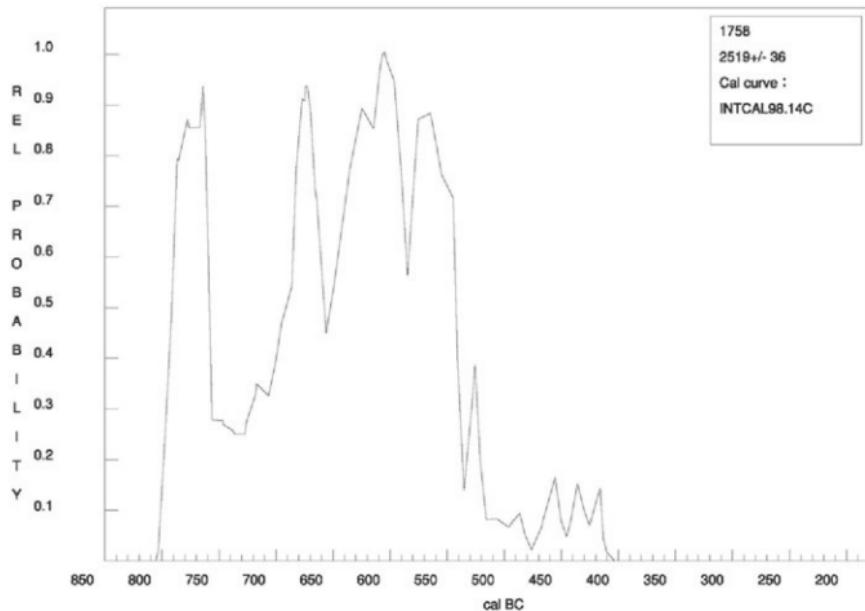


図2 歴年代較正グラフ2

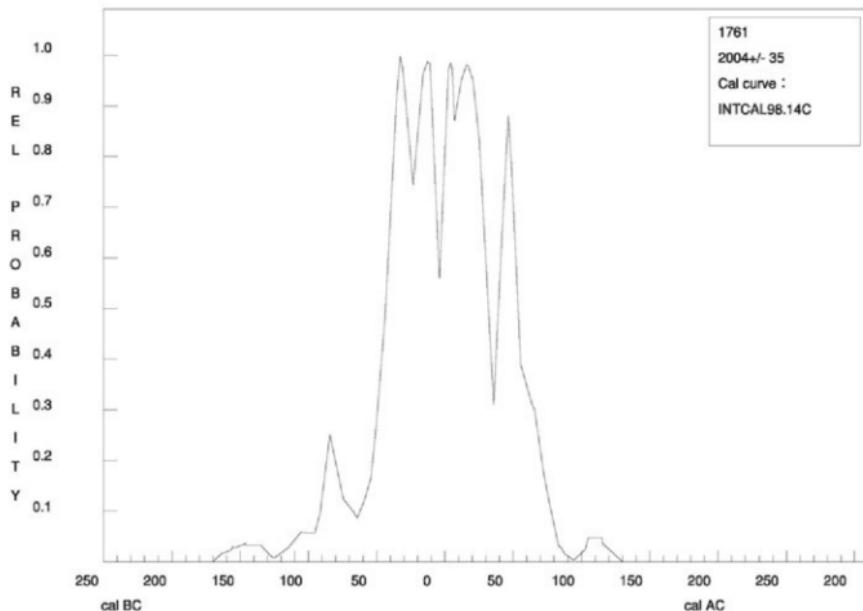
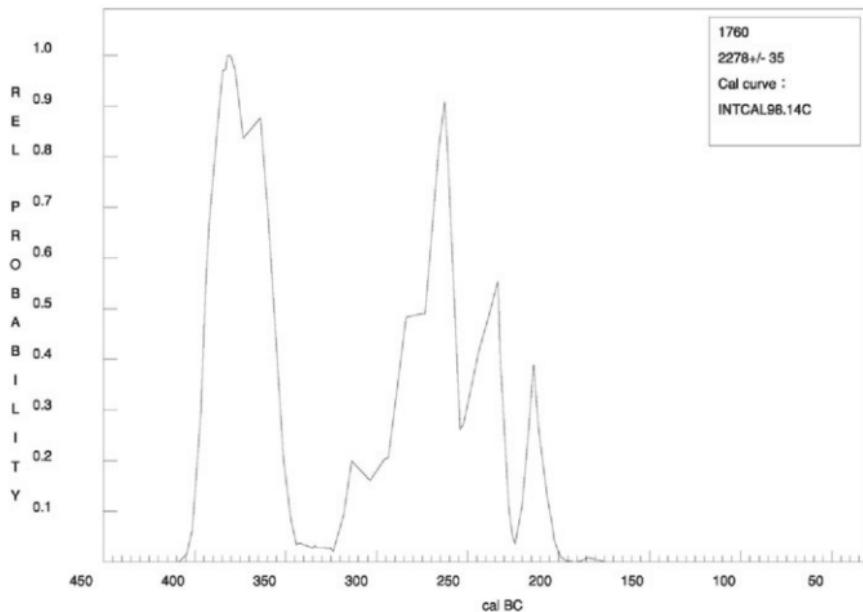


図3 歴年代較正グラフ3

6. 第6次調査出土柱根の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

福岡市博多区に所在する下月隈C遺跡は、御笠川沿いの微高地上に立地する。本遺跡では、発掘調査により、縄文時代末～弥生時代前期の河川跡や土器・石器等の遺物、弥生時代の集落跡・河川跡・水田跡、古墳時代後期の水田跡、奈良時代の河川跡や水田跡、鎌倉時代の村落跡等が確認されている。今回の分析調査は、第6次調査で出土した柱根の加速器による放射性炭素年代測定(AMS法)を実施し、年代に関する情報を得る。

1. 試料

試料は、出土した柱根16点である。試料の詳細は結果と共に表1に示した。

2. 分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、曆年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における曆年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

3. 結果

結果を、表1・2に示す。試料の測定年代(補正年代)は、いずれも約1800～2100年前の弥生時代に相当する値を示す。この結果は、発掘調査所見と調和的である。

表1. 放射線炭素年代測定結果

試料番号	遺構名	柱根番号	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code.No.
1	SB579	SP480	木材	1890±40	-26.30±0.75	1910±30	IAAA-31799
2	SB579	SP594	木材	1820±40	-26.99±0.66	1285±30	IAAA-31800
3	SB581	SP413	木材	2000±40	-25.38±1.03	2010±30	IAAA-31801
4	SB584	SP377	木材	1950±40	-30.03±0.97	2030±30	IAAA-31802
5	SB584	SP380	木材	1810±30	-24.75±0.62	1810±30	IAAA-31803
6	SB584	SP582	木材	1870±30	-25.34±0.70	1870±30	IAAA-31804
7	SB589	SP2	木材	1930±30	-26.94±0.87	1960±30	IAAA-31805
8	SB589	SP6	木材	1950±30	-28.08±0.72	2000±30	IAAA-31806
9	SB589	SP10	木材	1890±30	-24.70±0.69	1880±30	IAAA-31807
10	SB593	SP37	木材	2120±40	-27.38±0.97	2130±30	IAAA-31808
11	SB593	SP154	木材	2120±40	-23.26±0.93	2100±30	IAAA-31809
12	SB598	SP127	木材	1770±30	-23.93±0.67	1750±30	IAAA-31810
15	SB598	SP605	木材	1910±30	-25.13±0.68	1910±30	IAAA-31811
14	SB606	SP289	木材	1990±40	-23.59±0.73	1960±30	IAAA-31812
15	SB606	SP339	木材	1950±40	-26.00±0.75	1970±30	IAAA-31813
16	SB607	SP41	木材	2140±40	-24.58±0.79	2140±40	IAAA-31814

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2. 历年較正結果

試料番号	遺構名	柱板番号	補正年代(BP)	历年較正年代(cal)				相対比	Code No.
				cal AD	70	-	cal AD 134	cal BP	
1	SB579	SP480	1890±34	cal AD 159	-	cal AD 171	cal BP 1,791	-	0.080
				cal AD 196	-	cal AD 208	cal BP 1,754	-	0.087
				cal AD 169	-	cal AD 201	cal BP 1,781	-	0.342
2	SB579	SP594	1820±34	cal AD 207	-	cal AD 239	cal BP 1,743	-	0.359
				cal BC 41	-	cal AD 7	cal BP 1,991	-	0.462
				cal BC 3	-	cal AD 28	cal BP 1,953	-	0.438
3	SB581	SP413	2002±34	cal AD 41	-	cal AD 50	cal BP 1,909	-	0.100
				cal AD 23	-	cal AD 84	cal BP 1,927	-	0.851
				cal AD 104	-	cal AD 118	cal BP 1,846	-	0.149
4	SB584	SP377	1945±35	cal AD 134	-	cal AD 162	cal BP 1,816	-	0.285
				cal AD 168	-	cal AD 200	cal BP 1,782	-	0.328
				cal AD 207	-	cal AD 242	cal BP 1,743	-	0.388
5	SB584	SP380	1813±34	cal AD 85	-	cal AD 102	cal BP 1,865	-	0.183
				cal AD 121	-	cal AD 178	cal BP 1,829	-	0.583
				cal AD 190	-	cal AD 213	cal BP 1,760	-	0.234
6	SB584	SP582	1867±32	cal AD 31	-	cal AD 38	cal BP 1,919	-	0.092
				cal AD 53	-	cal AD 89	cal BP 1,897	-	0.550
				cal AD 99	-	cal AD 125	cal BP 1,851	-	0.358
7	SB589	SP2	1927±33	cal AD 4	-	cal AD 10	cal BP 1,946	-	0.057
				cal AD 19	-	cal AD 82	cal BP 1,931	-	0.943
				cal AD 71	-	cal AD 134	cal BP 1,879	-	0.850
8	SB589	SP6	1952±32	cal AD 160	-	cal AD 170	cal BP 1,790	-	0.074
				cal AD 197	-	cal AD 208	cal BP 1,753	-	0.075
				cal BC 199	-	cal AD 92	cal BP 2,149	-	0.987
9	SB589	SP10	1889±32	cal BC 66	-	cal AD 65	cal BP 2,016	-	0.013
				cal AD 200	-	cal AD 95	cal BP 2,150	-	1.000
				cal AD 231	-	cal AD 262	cal BP 1,719	-	0.377
10	SB593	SP37	2123±36	cal AD 19	-	cal AD 277	cal BP 1,673	-	0.623
				cal AD 65	-	cal AD 128	cal BP 1,885	-	1.000
				cal BC 38	-	cal AD 30	cal BP 1,988	-	0.081
11	SB593	SP154	2129±34	cal BC 21	-	cal AD 11	cal BP 1,971	-	0.122
				cal BC 1	-	cal AD 59	cal BP 1,951	-	0.797
				cal AD 4	-	cal AD 8	cal BP 1,946	-	0.037
12	SB598	SP127	1771±31	cal AD 20	-	cal AD 83	cal BP 1,930	-	0.856
				cal AD 105	-	cal AD 116	cal BP 1,845	-	0.107
				cal BC 348	-	cal AD 320	cal BP 2,298	-	2.270
13	SB598	SP605	1911±31	cal BC 227	-	cal AD 222	cal BP 2,177	-	2.172
				cal BC 205	-	cal AD 106	cal BP 2,155	-	2.056
				cal BC 227	-	cal AD 222	cal BP 2,177	-	2.172
14	SB606	SP289	1985±34	cal BC 205	-	cal AD 106	cal BP 2,155	-	0.777
				cal BC 38	-	cal AD 30	cal BP 1,988	-	1.000
				cal BC 21	-	cal AD 11	cal BP 1,971	-	0.081
15	SB606	SP339	1949±36	cal BC 1	-	cal AD 59	cal BP 1,951	-	0.122
				cal AD 4	-	cal AD 8	cal BP 1,946	-	0.037
				cal AD 20	-	cal AD 83	cal BP 1,930	-	0.856
16	SB607	SP41	2143±40	cal AD 105	-	cal AD 116	cal BP 1,845	-	0.107
				cal BC 227	-	cal AD 222	cal BP 2,177	-	0.029
				cal BC 205	-	cal AD 106	cal BP 2,155	-	0.029

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (閾定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

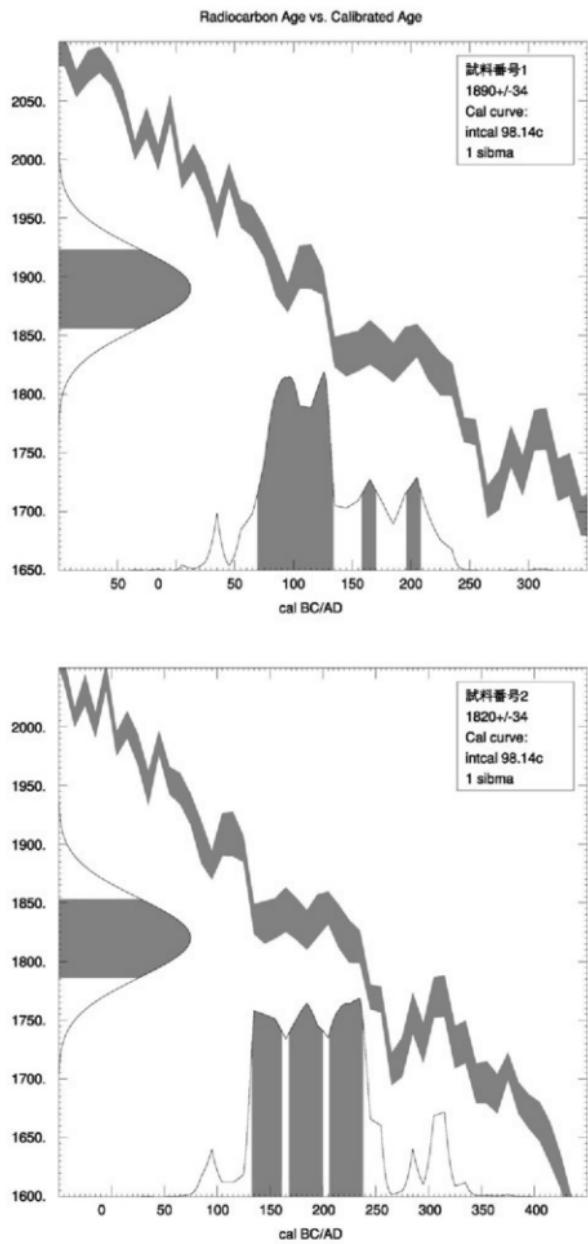


図1 歴年代較正グラフ1

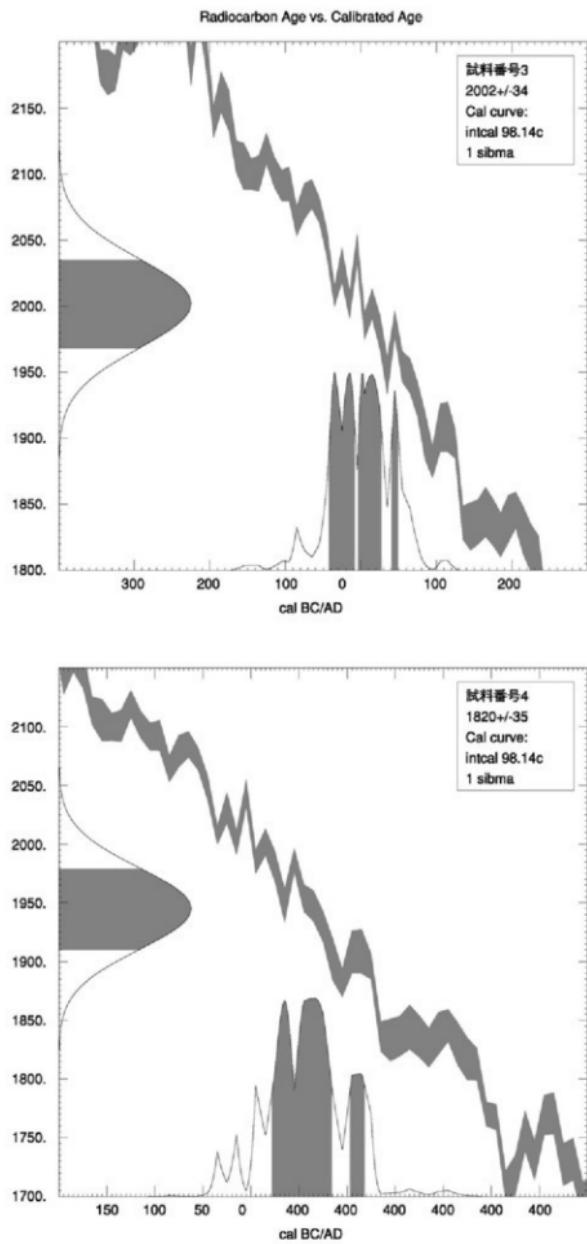


図2 曆年代較正グラフ2

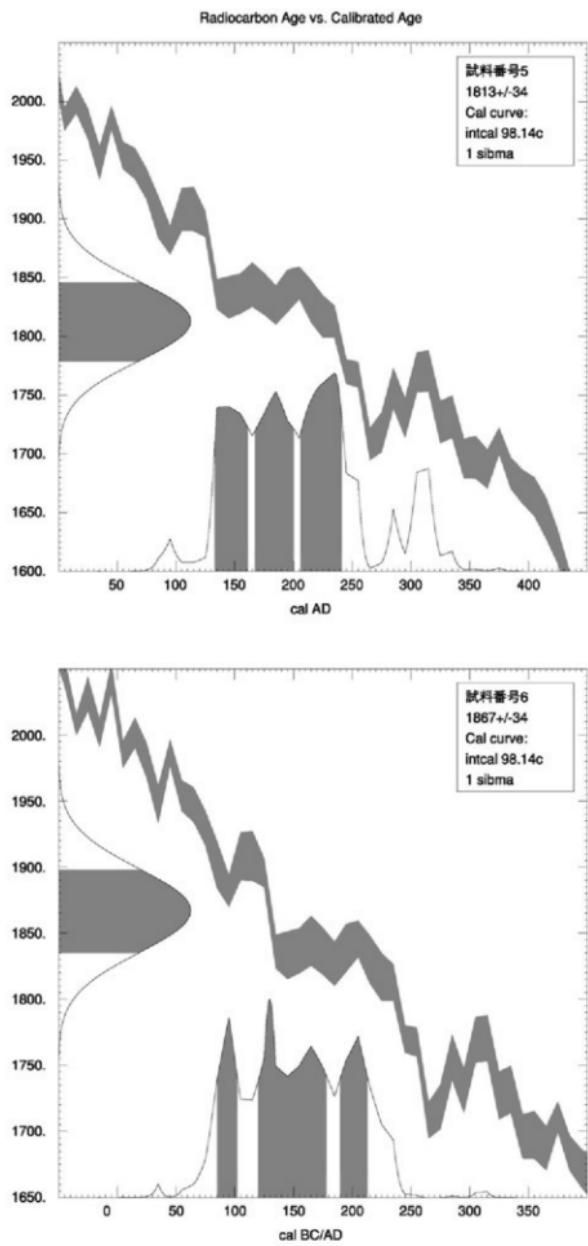


図3 歴年代較正グラフ3

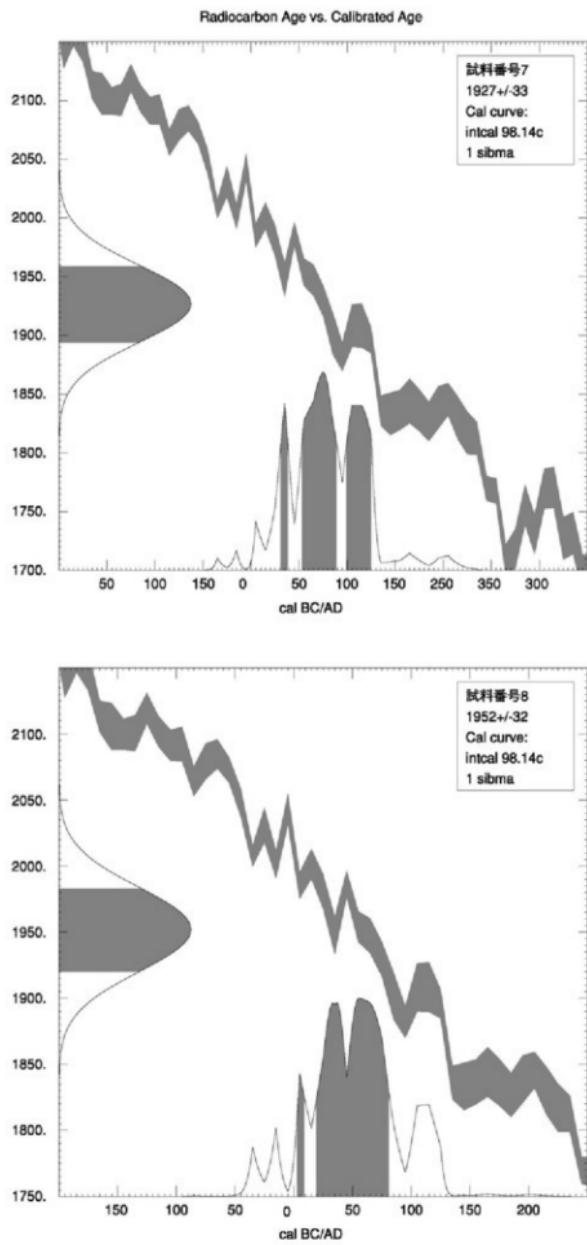


図4 曆年代較正グラフ4

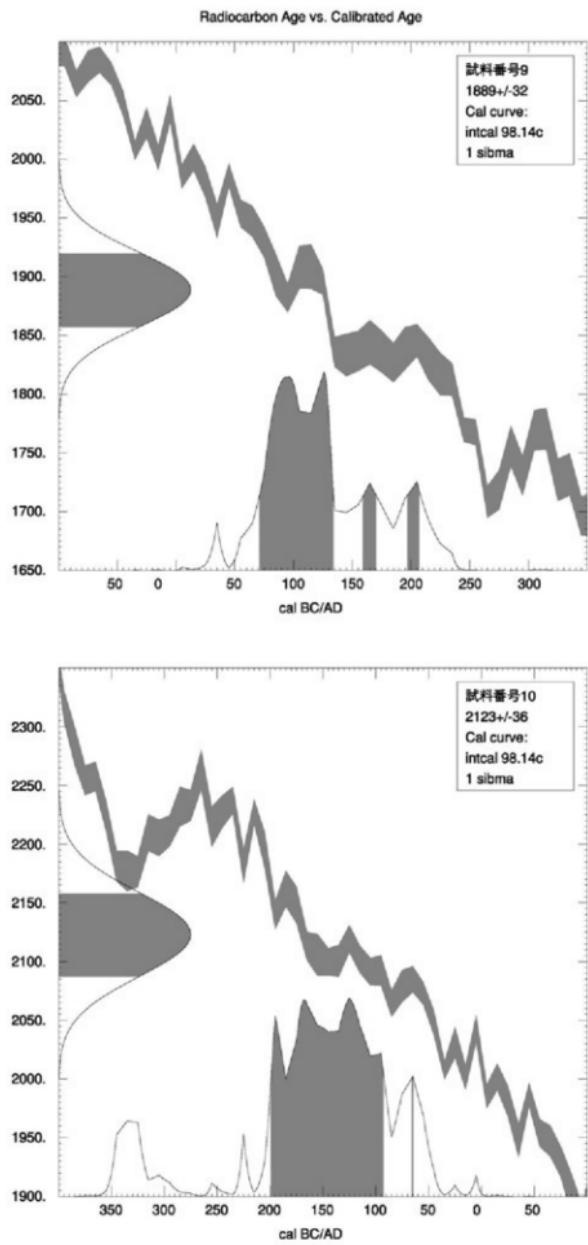


図5 歴年代較正グラフ5

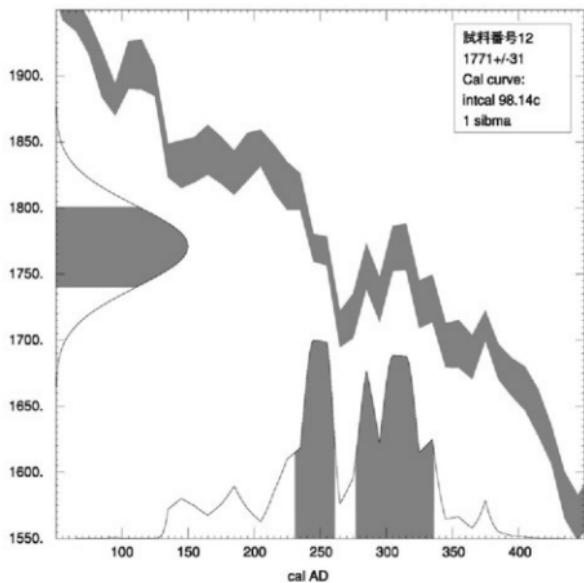
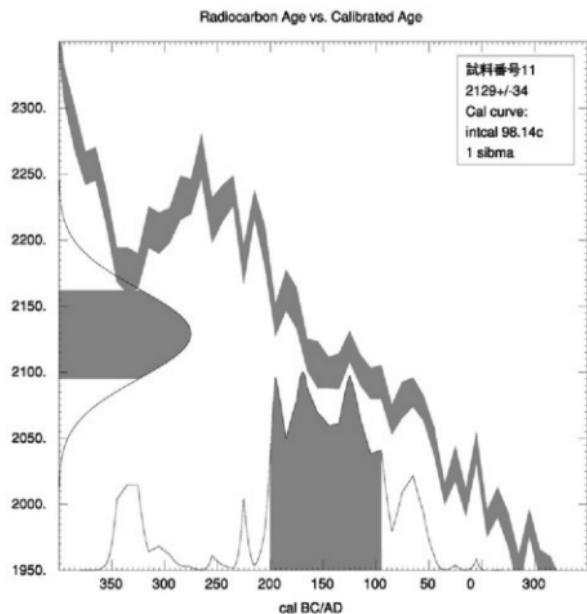


図6 曆年代較正グラフ6

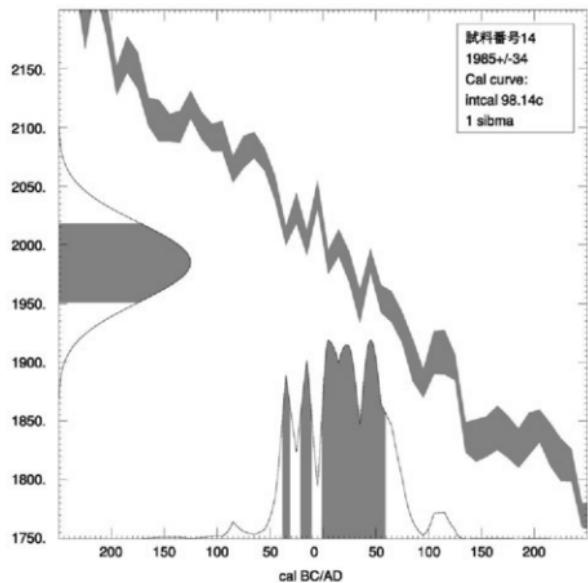
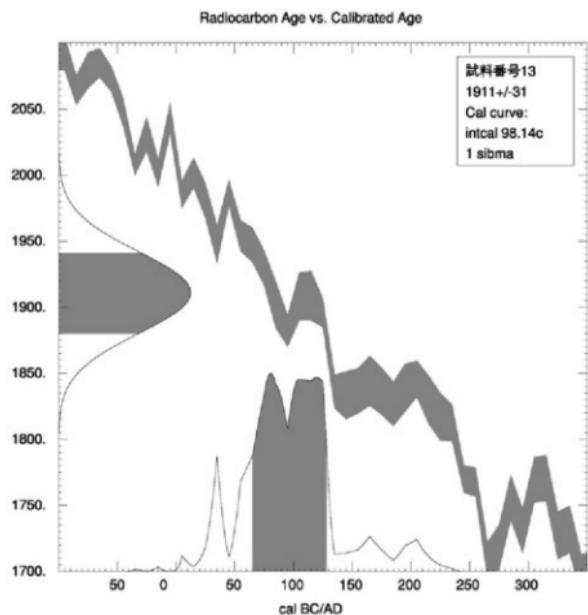


図7 歴年代較正グラフ7

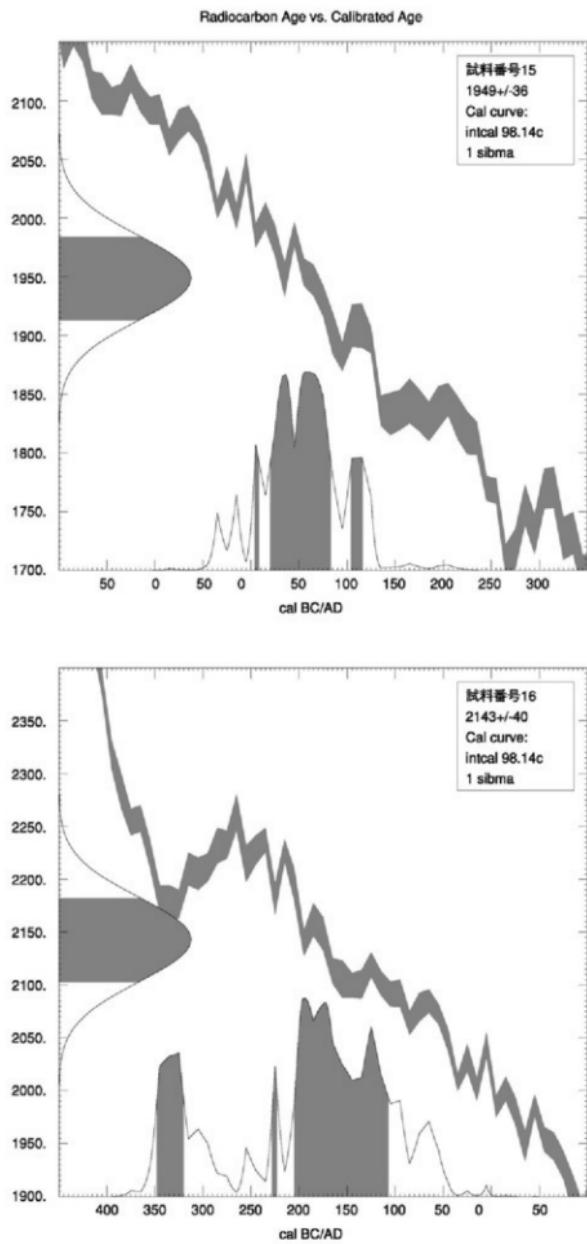


図8 曆年代較正グラフ8

第V章 総 括

1. 下月隈C遺跡第6次調査出土刻目突帯文土器の位置付けについて

所 一男（東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程）

(1) はじめに

本書で報告した下月隈C遺跡6次調査においては、第IV面で検出された遺構から、多量の刻目突帯文土器が出土した。特にSK460・SK488・SK500・SD507などにおいては、二条刻目突帯文器を中心に上器がまとまって折り重なったような形で出土しており、その中には完形近くまで復元できるものも多い。このような出土状況から、短期間のうちに廃棄されたものがそのまま埋没した一括性の高い資料と言える。当遺跡は板付遺跡の西方約800mに位置し、弥生文化の成立・展開について研究する上で非常に重要な地域に位置している。また、遺構から出土する土器の中で主体となるのは刻目突帯文土器であり、それに少量の板付I式土器が共伴するという構成を示し、刻目突帯文土器と板付式土器との関係を考える上でも貴重な資料である。本稿では、上器の様相を検討し、これまでの当該期の土器編年を参考にしつつ資料の編年的位置付けを行い、周囲の遺跡出土土器との比較等を通して弥生文化成立期における諸問題や当遺跡の特徴について考察したい。

(2) 研究略史

まず、これまでの当地域における刻目突帯文土器期から弥生時代前期にかけての土器編年の研究の流れをこく簡単に概観し、現在までの研究の到達点及びその課題を確認しておきたい。

刻目突帯文土器と板付I式土器の共伴が確認されたのは戦後の福岡市板付遺跡環濠の調査においてである（森・岡崎1961）。この成果を契機に1960年代には夜臼式土器の単純遺跡を探す作業が行われ、唐津市宇木汲田遺跡の調査（九州大学考古学研究室1962）や島原半島における日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会による調査より、突帯文土器単純期の存在が確認される。

1970年代後半から80年代前半にかけての福岡市板付遺跡・唐津市菜畑遺跡・糸島郡曲り田遺跡等の調査成果に基づき、それぞれの遺跡を調査した山崎純男氏（山崎1980）、中島直幸氏（中島1982）、橋口達也氏（橋口1985）が刻目突帯文土器期～弥生時代前期の編年を発表し、当該期の編年研究の基礎が形成される。

これらの成果に基づき、その後の遺跡の調査の進展に伴って、編年も細分化されていく（田崎1994、吉留1994、藤尾1999など）。田崎博之氏は突帯文期から弥生時代前期前半を山ノ寺式→夜臼式古段階→夜臼式新段階→板付I式古段階→板付I式新段階と編年し（田崎1994）、近年では同様に突帯文土器単純期を2時期ないしは3時期、板付I式を2時期に分けて議論することが主流となっている。

このような編年研究の深化に伴い、遺跡における突帯文土器と板付式土器との出土状況の違いから集団関係のあり方の復元に迫った研究も進められている（田崎1998、山崎1999、藤尾1999など）。また、家根洋多氏の一連の研究により朝鮮無文土器から板付I式土器が成立する過程も復元され、土器研究から弥生文化の成立過程、当該期の集団関係へと研究も深められてきた（家根1984、1987、1993、1997など）。

その一方では、土器編年や地域性の細分化・その併行関係に対する理解の仕方に研究者間の意見の相違や混乱が生じているのもまた事実である²。西日本の地域ごとの当該期の編年、併行関係の構築から弥生文化の成立過程を明らかにすることを目指した土器持寄会の一連の成果からも、研究者

間での見解の相違が大きいことが見て取れる（土器持寄会論文集刊行会2000）。このような意見の相違に対し、地域ごと、遺跡ごとの土器の検討を積み重ね、遺跡間・地域間の関係性をより具体的に明らかにしていくことで、解決していくものと考えている。

2004年2月に開催された埋蔵文化財研究会福岡大会「板付I式期の再検討」においては、北部九州における、より細かい平野・小地域ごとの土器編年・文化様相・地域性がまとめられ、相互の併行関係についての議論も深められた（埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会2004）。今後は、その成果に基づき、地域差の発現する過程、地域間の影響関係などの認識を通して、より精緻な板付I式土器の成立過程や実際の人・集団の動きといった点に検討を進める準備が整ってきていていると言えよう。

以上見てきたように、現段階において当該期の土器編年は細分化が進み、玄海灘沿岸地域においても平野単位での小地域差、さらには福岡平野内での遺跡差が指摘されてきている。それを基にしてより具体的な土器の地域間交流、地域間・遺跡間の表出と解消の過程といった問題にアプローチが可能になってきていると言え、そこからより詳細な弥生文化・弥生土器の成立過程の具体像を描けるのではないかと考えられる。本稿において扱う下月隈C遺跡6次調査の土器はこのような試みを行なうまでの貴重な一資料を提供してくれる。

(3) 出土土器の概要とその編年的位置付け (Fig177・178)¹⁾

個々の土器に関しては、本報告書の第Ⅲ章や遺物観察表において説明したので、重複する部分もあるが、出土状況の良い遺構（SK460、SK488、SK500、SK548、SD507）の土器について簡単に観察し、その特徴を指摘した上で、これまでの編年研究の成果に基づいて位置付けを行ないたい。

①SK488出土十器

届曲型の二条突帯文甕がまとまって出土し、完形近く復元できるものも多い。届曲部からの立ちあがり方によって細分するとバリエーションに富むが、届曲部から内傾して口縁部に立ち上がるものの（504・512）、届曲部から垂直方向に近く立ち上がるものの（505・506・507・511・513・514・515）、外に少し聞くものの（508・509・510）におおまかに分けられる。外面に横方向の貝殻条痕調整を施す点、口縁部突帯を口縁端部に接するように貼り付ける点、刻目は棒状工具によりやや深めにつける点、届曲がそれほど強くない点などにおいて共通性が高い。529はハケ目調整が施され、板付式甕の胴下部へ底部と考えられる。色調は赤っぽく、突帯文甕とは異なり、攢入品²⁾の可能性が高い。このような攢入品の影響を受けて515のような、ハケ目調整の技法が用いられる刻目突帯文甕が作られたことが想定できる。

また、壺については口縁外面を肥厚させるもの（530・531）、胴部の段や沈線文様（537～540）、円盤貼付形の底部（533）など板付式の特徴を持つものが多い。丹塗りの大型壺の胴部片（541）や口縁が外に聞く浅鉢・高环も出土している（542～546）。以上の様相から、板付I式古段階に位置付けられる。

1 山ノ寺式の位置付けについては従来からの議論があるが、直接的には少しあく離わないので、ここでは離れない。

2 出土歴三氏以前2000年（）や豆井和之氏（豆谷1995など）ら瀬戸内・畿内の研究者と北部九州の研究者との間で編年の併行関係や板付I式土器の成立過程に見解の相違がある。その詳しい論点についてはここでは触れない。

3 茵田の添合上、本文中に触れた土器全てをFig177・178に載せることはできなかった。また瓶も小さく、画面が見にくくなってしまった。

4 报告元は板付I式甕が板付遺跡より多いとされ、赤みがかった土器も多い板付遺跡が想定できる。ただし、板付遺跡においても刻目突帯文甕と色調・胎土が異なる状態が見られることから、さらに別の収入元を想定すべきという意見もある（出井2000など）。筆者はこの点に関してまだ明確な結論に至っていないので、ここでは明言しない。

②SK500出土土器

届曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488出土土器と近い特徴を持つが、届曲部から内側するものが多く、届曲部からほぼ垂直に立ちあがるもの（579・580・581・582・584・585・586・587など）や外側に開き気味のもの（583）が多く、より届曲部が痕跡的になる傾向が強く、SK488よりわずかに時期が下るようである。584のように外面にハケ目調整を施す突帯文甕が1点出土している。また外反の弱いハケ目を施す板付系の甕（593）が1点出土している。胎土は灰黄橙～黄橙色系で、他の突帯文甕と近く、共に当遺跡で製作・焼成されたものと考えられる。甕は板付系（599・602～604）と夜白系（600・601）が併存する。また、黒色磨研の精製高环（607）が出土している。

③SD507出土土器

届曲型の二条突帯文甕が主体となり、上記のSK488・SK500出土土器と近い特徴を持つ。ただし、届曲部における届曲が痕跡的なものが目立ち（389・391・392・394・395など）、若干時期が下ると考えられる。また、ハケ目調整を用いる突帯文甕も少量存在する（393・397）。刻目突帯文甕の中で1点他と非常に顔つきの異なる土器が出土している（399）。砲弾型の一条突帯文甕であるが、口縁に非常に薄く突帯を貼り付けているため、突帯を貼り付けたのか口縁をつまみ出し突帯風に仕上げたのか見分けがつきにくい。外面調整も具絞糸痕調整後、板状工具で縦方向に丁寧にナデを加えて消している。胎土は白っぽく、他の土器とは大きく異なっている。このような土器は唐津の菓煙遺跡の8下層（夜白期）～8上層（夜白・板付I式共伴期）に特徴的に見られるもので、9～12層（山ノ寺式期）において受容した無文土器系の甕の影響を受けて、唐津地域の在地の刻目突帯文土器が形式変化したものであると考えている⁵。唐津地域からの搬入品である可能性が高いと指摘しておく。

また完形の板付式甕（404）が1点出土している。口縁端部全面に刻目をつけ、外面は下から上へと細かいハケ目を施す板付I式の甕である。色調は明るい黄橙色を呈し、灰黄橙～黄橙色系の他の刻目突帯文甕とは胎土において共通する。また、外面胴部中程に大きな梢円形の黒斑がつき、その逆の外面に火色（藁燃料と焼成時に接触したことを示す）の痕跡も見られ、覆い型野焼きによって焼成されたことが想定される（小林他2000、長友他2004）。刻目突帯文甕についてはスヌの付着が激しく、黒斑のつき方の全体像がつかめないが、部分的に接地面黒斑や火色が確認でき、同じように覆い型野焼きで焼かれた可能性が高い。一方口縁部のみ残る板付式甕（405）は色調が赤っぽく突帯文甕と大きく異なり、搬入品と考えられる。

甕は夜白系で胴部幅が広くなった丹塗りの大型甕（407・413）と板付系の小甕（409・410）、他にも大型の鉢（406）、口縁部が大きく外に開く高环（411）、高环の脚部（412）が出土している。以上の様相からSK488・SK500よりはわずかに新しいが、板付I式古段階の範疇で取まる時期に位置付けておく。

④SK460出土土器

468～471のような刻目突帯文甕と472～475のような板付式甕が共伴している。二条刻目突帯文甕は、届曲部からほぼ垂直方向に立ちあがるもの（469、470）と、ほとんど届曲せずに外側に開

5 菓煙遺跡8下～8上層の突帯文土器は届曲型二条突帯文甕が主体だが、399に近い砲弾型のものも存在する。いずれにせよ、口縁部内面をナデて凹まして仕上げる点や胎土・測量が非常に近い。実見にあたり唐津市教育委員会の岩尾峯希氏、美浦唯二氏のお世話をいたった。

6 覆い型野焼きと黒斑の関係については、北陸学院短期大学の小林正史先生のご指導いただき、小林先生を中心とした研究チームに参加させていただいたことで多くの知見を得た。

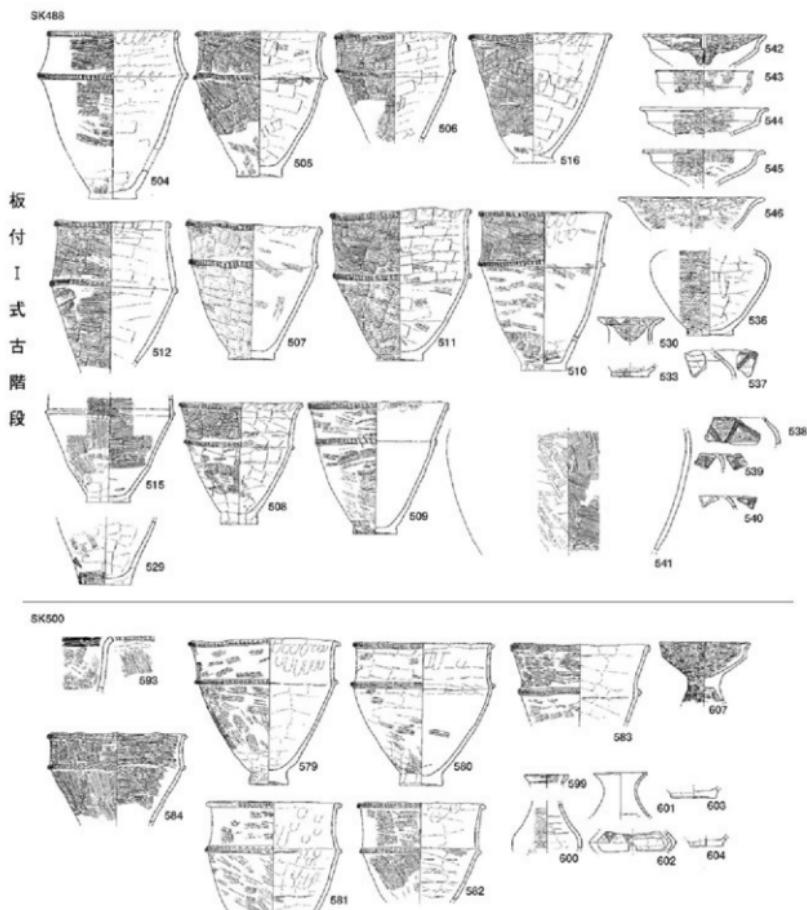


Fig.177 板付I式古階段の遺構 (SK488, SK500) 出土土器 (1/8)

くもの (468) があり、上記の遺構出土のものとそれ程大きくは変わらない。板付式甌はいずれも口唇全面に刻目を入れ、板付I式甌の範疇でとらえられるが、やや脛が張り、SD507の板付I式甌よりはわずかに時期が下ろう。また、色調は黄橙～鈍い褐色を呈し、焼成や胎土において突帯文甌と顕著な差は認められない。鉢 (476・478)、板付式の壺 (482・485～487)、高坏 (477) も出土しており、高坏の口縁部の開きが大きい点や壺の外面口縁部肥厚の段や頸胴部間外面の段が沈線に近づいている点からも板付I式の中でも新段階に位置付けられる。

⑥SK548出土土器

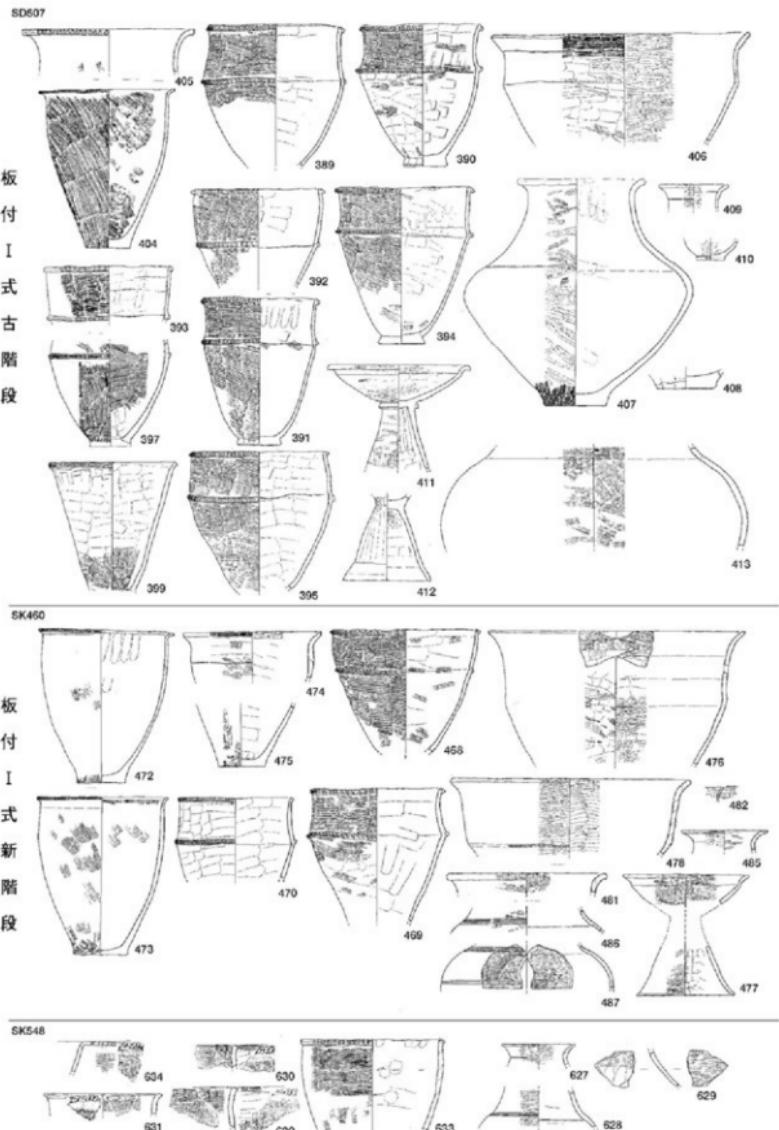


Fig.178 板付 I 式古階段の遺構 (SD507)、新階段の遺構 (SK460, SK548) 出土土器 (1/8)

出土量もそれ程多くなく、破片資料中心であるが、興味深い土器の様相が見られるので、触れておく。4点の刻目突帯文甕が出土し、633は砲弾型の一条突帯文甕の胴中部以上残存で、630～632は口縁部の破片である。4点とも外面もしくは内面にハケ目調整が見られ、貝殻条痕調整が見られないという点、口縁上部外側に突帯を貼り付けた後、突帯上部と口縁端部を非常に丁寧になでて、平らに整形し、貼り付けた痕跡を消すという点で共通点を持つ。このハケ目調整と口縁上部を丁寧に横なでし平らに仕上げる技法は、板付式甕に共通するものであり、板付式甕との強い影響・折衷関係が想定できる。また、1点口縁部の外反の強い板付式甕の口縁部破片（634）も出土している。壺については口縁部破片627は口縁外面をわずかに肥厚させ、沈線状の段をつけ、頸部間断片628は外面段はそれほどはつきりしないが、内面には粘土帶接合時の段が残るという板付I式の中でもやや新しい特徴を示す。

これらの特徴から、SK488・SK500・SD507よりは一段階新しい時期、壺・板付式甕の様相から板付I式新段階に位置付けられ、突帯文甕の様相からSK460出土土器よりも若干下ると考える。また、刻目突帯文甕が板付式甕との折衷により形式変化する様相も確認できた。

以上のように見てきたように、土器様相のわずかな違いから板付I式期という短い時間幅の中でSK488→SK500→SD507（以上、板付I式古段階）→SK460→SK548（以上、板付I式新段階）というように非常に漸移的な変化が追え、また、搬入・模倣・折衷といった現象がいくつか想定できた。

上で述べてきた形式変化の流れを編年表にして図177・178において示した。まとめると、SK488→SK500→SD507にかけては、刻目突帯文甕が圧倒的割合を占め、從来言われてきたように屈曲部が痕跡的になり、口縁が外側に広がる方向に形式変化する。それに伴って出土するごく少量の板付式甕は胎土・色調等大きく異なる搬入品と考えられるもの（529・405）と、胎土・焼成等が同じで、下月限C遺跡で製作されたと考えられるもの（593・404・472・473・634）の両者が存在する。後者も器形・製作技法等において板付I式そのものであり、単なる模倣というよりも板付I式甕の製作技法を体得した者が、下月限C遺跡で生活する集団に加わり、土器製作を行ったことが想定される。このようにして作られた板付I式甕や搬入された板付I式甕の技法を模倣することで、刻目突帯文甕の中にもわずかにハケ目調整を施すという折衷品が製作されたと考えられる。板付甕のように少量であるが絶えず搬入・製作され、在地の刻目突帯文土器の技法に影響を与えていく場合もあれば、唐津地域からの搬入を想定した刻目突帯文甕399のように単発的で他の土器への明確な技法の影響を見出せない事例もある。続くSK460→SK548にかけては板付式甕の量が増え、刻目突帯文甕と併存しつつ、突帯文甕のハケ目技法・口縁部の丁寧な横ナデ整形など板付式甕の模倣・折衷が顕著になっていく。

以上、変化を追ってきたが、これらは非常に漸移的な変化のあり方を示し、從来の編年をさらに細分しそれぞれを独立して様式（型式）として設定することは難しいが、土器の変化の方向性やその要因を考える上で有効であると考える。

(4) 小結及び今後の課題

本遺跡の土器を概観し、その位置付けを行なう中で、何点か新たな視点、これまでの議論を補強する事実等が浮かび上がってきた。これらを最後にまとめるとともに今後の課題を指摘しておきたい。

まず、良好な一括資料から、本遺跡における板付I式期という短期間ににおける土器様式の漸移的な変化の過程を追うことができ、その中の搬入・模倣・折衷のプロセスを想定することができた。刻目突帯文甕を主体とし、少量の板付I式甕が伴うというのは、従来からの山崎純男氏の指摘通りである（山崎1980、1999）。その中で、板付I式甕の搬入・模倣を通して、折衷タイプの刻目突帯文甕へと変化していく過程を確認した。

このような搬入・模倣・折衷の過程は、周囲の遺跡の様相と比較してみると必ずしも一樣ではないようである。例えば、下月隈C遺跡の北方に位置する雀居遺跡においては板付I式古段階において板付式甕が下月隈遺跡よりも多く認められ、5次調査SK188に示されるように板付I式新段階には刻目突帯文甕がほぼ見られなくなる。また、板付遺跡においては、板付I式甕が周囲の遺跡よりも多く出土することは從来から指摘されてきた（山崎1980、1999、藤尾1987）。これらの成果から板付式系の単純期として設定された板付I式新段階においても、下月隈C遺跡においては突帯文系が非常に多く残存する事実が確認でき、同じ福岡平野内でも遺跡差が大きいことが明らかになった点は重要である。今後、このような遺跡ごとの細かい搬入・模倣・折衷のあり方を分析し、詳細に比較していくことで、弥生文化成立期の地域間・遺跡間・集団間の関係のあり方により具体的に迫れるものと考えている。

当遺跡において出土した完形近く復元できる刻目突帯文甕の中で、屈曲型の二条突帯文甕が圧倒的割合を占めている。この点はかつて、藤尾慎一郎氏が板付I式との共伴期、福岡平野において刻目突帯文甕は屈曲型二条突帯文甕が主体を占めると指摘したことと補強する（藤尾1987、1991）。しかし、藤尾氏の論じるよう砲弾型一条突帯文甕の代わりに板付I式甕が広がり、屈曲型二条突帯文甕と板付I式甕が補完関係をなすという事実は当遺跡では確認できない。屈曲型二条突帯文甕の増加と板付I式甕の広がりは軌を一つにするものではないと言えよう。いずれにせよ、福岡平野において夜白期から板付I式期にかけて刻目突帯文甕の中で屈曲型二条突帯文甕が主体的になっていくという傾向は雀居遺跡や那珂遺跡などの様相と合わせても首肯できる。

壺と甕の出土様相を比較してみると、壺はSK488の段階ですでに板付系のものが出土しているが、板付系の甕は少ない。家根祥多氏は一連の研究の中で、朝鮮無文土器をセットとして受容したという点を強調し、縄文土器の器種のセットの中には壺型土器のみを選択的に受容したとする下條信行氏（下條1989）や後藤直氏（後藤1991）らをはじめとするこれまで受け入れられてきた考えに批判を加えている（家根1987、1993、1997）。この家根氏の主張は、家根氏が朝鮮無文土器の一定の存在を指摘する糸島の曲り田遺跡や唐津の菜畠遺跡の出土土器についてはあると言えよう。しかし、その周囲の地域を見ると、夜白期においては在地の系譜を引く刻目突帯文甕と無文土器の系譜を引く壺とがセットになっている遺跡がほとんどで、無文土器系の土器がセットとしては認められない。本稿で見てきた下月隈C遺跡の土器もそのような刻目突帯文甕と壺がセットになる状態を示し、周囲の板付・雀居・那珂遺跡でも無文土器系甕の出土はわずかであり、これに近い状況と言えるであろう。また、早くから壺が受容される佐賀平野の様相を見ても、壺は多く見られるが、無文土器系の甕はほとんど見られない。このような点から見ると、先に上げた選択的受容という側面も一概に否定できないのである。つまり、糸島・唐津地域にます朝鮮系無文土器のセットが受容されるが、それがそのまま周囲に波及していくのではなく、壺・甕の波及には段階差があることが指摘できる。さらには板付I式の壺と甕の広がる時期も必ずしも同時ではないと言えよう。また、このような段階差は一様ではなく、野多目遺跡のように無文土器系甕を夜白I式期から一定量受容する遺跡が福岡平野内に存在するなど、かなり複雑な様相を示すようである。このような現象

の背景には甕と壺の使用される場の違いが想定され、必ずしも無文土器文化の総体がそのまま受容され広がっていったわけではないことがうかがえる。ここではその指摘に留め、具体的な様相とその解釈については改めて詳細に論じたいと考えている。

まだ検討中の課題も多く、指摘にとどまる部分やまとまりのない部分も多くなってしまったが、今後それらの課題を深め、より具体的、包括的に論を組み立てていきたい。

本稿を書くにあたり、調査担当者の山崎龍雄氏には土器の実測から本稿を書くにあたるまで多くのご指導を受けた。福岡市での調査にあたり、福岡市教育委員会及び埋蔵文化財センターの荒牧宏之氏、池田祐司氏、加藤良彦氏、久住猛雄氏、菅波正人氏、灌本正志氏、常松幹雄氏、山口謙治氏、山崎純男氏、横山邦雅氏、吉留秀敏氏、力武草治氏、東京大学の後藤直先生にご指導・ご助言をいただき、資料の実見等で大変お世話になった。感謝いたします。本稿においてその成果の一部しかまとめることができなかつたのは、筆者の努力・力量不足によるものであり、今後の課題としたい。

また、2004年の埋蔵文化財研究会においては多くの人に実際に土器を見ていただき、有意義なご助言を頂いた。一人一人御名を挙げきれないが、感謝の意を表したい。

引用文献・主要参考文献

- 九州大学考古学研究室 1966 「北部九州（唐津市）先史集落遺跡の合同調査一昭和40年度（仮）合同調査報告」『九州考古学』第29・30号 九州考古学会
- 後藤直 1991 「弥生時代開始期の無文土器（二）日本への影響」 小川富士雄・朝倉三郎『日韓交渉の考古学』六編出版
- 小林正史・北野博司・久井建二・小島秀男 2000 「北部九州における綱文・弥生土器の剪絞き方法の変化」『青丘学術論集』第17集 韓国文化研究振興財團
- 下路信行 1989 「瑞穂の國の成立」『弥生農村の誕生』古代史復元4 講談社
- 田嶋博之 1994 「鹿皮式土器から板付式土器へ」『牟田裕二君追悼論集』牟田裕二君追悼論集刊行会
- 田嶋博之 1998 「福岡地方における弥生時代の土地環境の利用と開拓」『福岡平野の古環境と遺跡立地』九州大学出版会
- 川原恵三 2000 「四国における遠賀川式土器の成立」『安芸文と遠賀川 土器特寄会論文集刊行会』
- 上野哲哉会論文集刊行会 2000『安芸文と遠賀川』
- 長友耕子・庄田慎一・所 男・久井建二・小林正史・板尾奈緒子・中村大介・黒ヶ江賛二・渡辺誠 2004 「弥生時代における複い型野焼きの受容と展開」『日本考古学会2004年度発表要旨集』日本考古学会
- 橋山達也 1985 「日本における福作の開始と発展」『石垣島田道造』Ⅲ 福岡県教育委員会
- 藤尾信一郎 1987 「板付式形彌形土器の成立とその背景」『史蹟』124 九州大学文学部
- 藤尾信一郎 1991 「水桶四槽式・突芯形土器」『日本における初期弥生文化の成立』（柳山清「先生退官記念論文集」）
- 藤尾信一郎 1999 「福岡平野における弥生文化の成立過程—野焼き採集民と農耕民の集団関係」『明治歴史民俗博物館研究報告』第77集 国立歴史民俗博物館
- 埋蔵文化財研究会福岡大会実行委員会 2004 「埋蔵文化財研究会 板付式土器の再検討 発表要旨集」
- 豆谷和也 1995 「前期弥生土器出現」『古代』第99号
- 森賀貢次郎・岡崎敬 1961 「福岡県板付遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会
- 家根洋多 1984 「魔文土器から弥生土器へ」『從文から弥生へ』帝塚山考古学研究所
- 家根洋多 1987 「弥生土器のはじまり—遠賀川式土器の系譜とその成立」『季刊考古学』第19号 楠山閣
- 家根洋多 1993 「遠賀川式土器の成立をめぐって—西日本における農耕社会の成立—」『諫勉考古学』天山書店
- 家根洋多 1997 「朝鮮無文土器から弥生土器へ」『立命館大学考古学論叢』立命館大学考古学論集編集刊行会
- 山崎純男 1980 「弥生文化成立期における土器の誕生的研究」『猿山岳先生古希記念 古文化論収』
- 山崎純男 1999 「福岡平野・早良平野における弥生時代初期の遺跡」『板付式土器調査報告書第20集』福岡市教育委員会
- 吉留秀敏 1994 「板付式土器成立期の土器陶年」『古文化論収』32
- ＊ なお、紙数の都合により各遺跡の報告書については割愛した。

2. 調査のまとめ

月隈調査池の調査は平成10年から16年にかけての大規模な調査であったが、その全体の総括は今後に委ねることとし、本報告書では、主に第6次調査で得られた成果を中心としたまとめとしたい。今回の調査で確認した遺構の時期は弥生時代前期から中世前期にかけてであり、調査はそれを四時期に分けて調査した。各時期の調査成果について述べる。

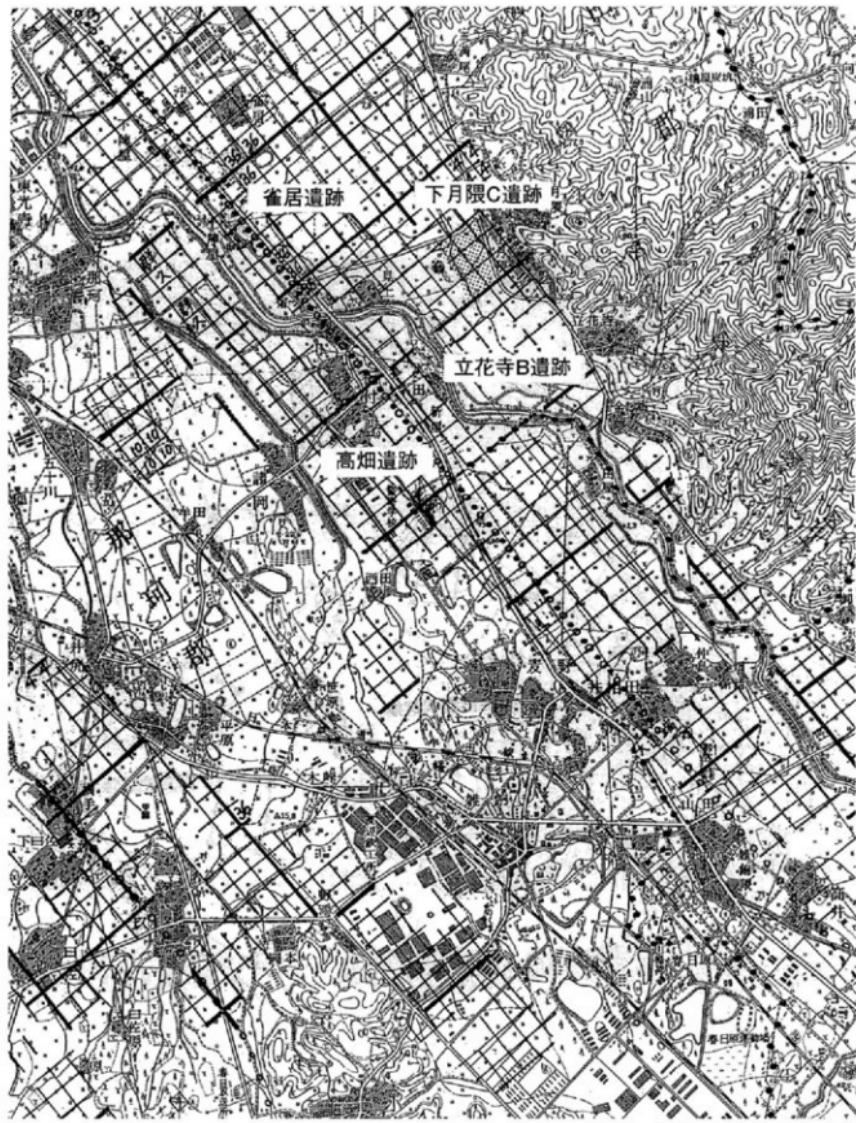
①第Ⅰ面のまとめ

第Ⅰ面は中世前期である。溝・建物・井戸・土坑などから構成される集落遺構であるが、調査の経緯から充分な調査は出来なかつたので、遺構の全容については充分に把握出来たわけではない。古代の埋没した水田や川跡上に形成された集落である。井戸や溝、土坑など遺構の時期は11～12世紀のものが主体で、集落の樹齢期間はそれ程長くはない。集落の開始は井戸SE311が10世紀と先行する時期であり、第Ⅱ面の川や水田の埋没時期が9世紀頃と思われる所以、その頃一度か数度かは分からぬが、地形が変わるほどの洪水を受けて水田や川が埋没した後、当地が微高地化して水田として再利用されることなく、其処に集落が営まれていたことが考えられる。この時期の水田は東側の第7次・8次調査区で確認されているので、第6次調査区が自然堤防状に微高地化した結果、東側が低地化し、水田が営まれたものと思われる。地形が変更するほどの洪水が何時頃起きたのであろうか。残された数少ない古代の風水害記録を見てみる（Tab.5）。中央部の京を主体とした記録なので、地方についての記録は少ない。風水害記録は9世紀34回、10世紀35回、11世紀18回残っているので、9世紀・10世紀にかなりの洪水があったことが考えられる。九州についての記述は少なく9世紀天安2（858）年の『日本文德天皇実録』の記録、貞觀11（869）年の『三代実録』の記録と2回記録されているのみであるが、この2回の記録は中央の記録に歴る程なので、かなり大規模な災害であったと思われる。全国的にみても九州は夏場の梅雨や台風で大雨が降る多雨地域であり、実際にはもっと多かったと思われる。度々洪水に見舞われていたのであろう。古代の周辺の歴史的状況を見ると、御笠川上流部では7世紀前半から始まる大宰府の造営や、大野城・水城の築造、大野城市牛頭地区での大規模な窯の操業など、平地部・山地部を問わず大規模な開発工事や生産活動によって自然破壊を行つており、その結果周辺山地部は森林が伐開され、自然破壊が進みかなり荒れていたと思われる。上流部で降った大雨は大洪水を引き起こし、それによって下流低地部に甚大な洪水被害をもたらしたことかが推察される。最近の事例では平成11年と15年の梅雨時に起きた福岡大水害がその例であろう。

福岡市周辺の沖積地で検出された主要な中世前期村落遺跡は柏原町の戸原麦尾遺跡や、早良区の田村遺跡、次郎丸遺跡、東区の多々良遺跡などがある。特に戸原麦尾遺跡や田村遺跡の開始時期が当遺跡と近く、戸原麦尾遺跡は筥崎宮の莊園、田村遺跡は能介莊と関係があり、席田郡にも席田莊があつたことから、それに関わる集落と推定する。

②第Ⅱ面のまとめ

古代8～9世紀の条里水田とそれを切る河川流路跡と護岸遺構を検出した。河川流路跡については空中写真を見ると何条かの流路跡が認められ、度々洪水によって流路が変更していたことが読み取れる。条里水田は日野氏の席田地区の条里復元図にはほぼ一致する（Fig.179）。しかも十字の交差する大畦による坪境が検出されたことが大きな成果である。坪内の地割方法（半折型か長地型）は内部の水田地割がかなり崩れていたことから不明確であったが、東側の第7次・8次調査区でも水田が確認されていることから、調査区内での地割の検討は今後の課題としたい。川跡内で検出された護



「日野尚志氏作成条里図」を転載

Fig.179 席田郡条里・官道復元図

Tab.5 古代風水害年表

世紀	西暦	年号	大雨災害
7世紀	601	推古9	5月より大雨河内肥前宮延に罰つ (日本書紀)
	623	推古31	春より秋に到るまで蘇爾大水・五穀不登 (日本書紀)
	636	貞明8	5月暴雨大風 (日本書紀)
	652	白雉3	4月20日大雨9日洪水損壞宅屋 (日本書紀) 7月豐波周辺大洪水
	666	天智5	秋7月大水 (日本書紀)
	679	天武8	8月5日自是日雨三日、大水 (日本書紀)
	691	持統5	4~6月大和・諸國暴雨
	692	持統6	諸國大水、薦貨遭災者 (日本書紀)
	707	履慶4	3月21日以来畿内霖雨 (日本史小百科)
	709	和銅2	4月河内・攝津・山城、伊豆、甲斐諸国霖雨、苗を損ず
8世紀	717	養老1	8月16日伊勢洪水 (続日本紀)
	726	神龟3	12月24日造江五都水害
	728	神龟5	5月6日左右京水漏、百姓被損七百餘家 (続日本紀)
	742	天平14	5月3日畿内水漏、是日遣使椎板百姓產糞 (続日本紀)
	750	天平勝宝2	5月25日大和・河内畿内洪水 (続日本紀)
	754	天平勝宝6	8月9日畿内に諸國一十風水、產業損傷 (類聚國史)
	769	持證安安3	8月9日尾張大水 (続日本紀)
	770	宝龟1	6月14日美濃國霖雨 (続日本紀)
	772	宝龟3	8月霖雨洪水、河内浸没 (続日本紀)
	775	宝龟6	8月22日岐阜・愛知・三重で暴風雨 (続日本紀)
9世紀	779	宝龟10	11月7日九州風雨 (続日本紀)
	784	延暦3	4月19日暴風雨 6月29日因難暴風雨洪水
	785	延暦4	7月14日靜岡郡で豪雨 (日本紀・日本紀略)
	796	延暦15	9月5日京師及河内大雨水
	799	延暦18	9月10日河内洪水 (続日本紀)
	804	延暦23	5月12日京都大雨洪水 8月6日大和暴雨、筑後水害 (日本後紀)
	806	大同1	4月9日京都建國大暴風雨 (日本後紀)
	813	弘仁4	畿内諸國霖雨洪水、損害甚 (日本後紀)
	828	天長5	6月石見・安芸兩國大水 (類聚國史) 5~6月霧雨諸國洪水、多被其害 (日本後紀)
	832	天長9	5月23日京都大雨、山崩水溢、櫻根人畜 (日本紀略・大日本史)
8世紀	834	承和1	6月23日京都大雨・山崩水溢 (大日本史)
	841	承和8	8月20日河内暴風雨洪水、堤防決壊 (日本紀略・大日本史)
	848	嘉祥1	7月12日京都洪水氾濫 (日本後紀)
	850	嘉祥3	9月8日京都大雨洪水、… (日本後紀) 出羽凱難 (日本後紀)
	851	任壽1	8月5日京畿大暴雨 (文德実錄) 7月24日京都大雨洪水 (文德実錄)
	854	齊衡1	7月27日京都大風雨洪水 (文德実錄)
	858	天安2	5月1日大暴風雨たり、九罇二島(南海道11方郡)尽く損害を受けた (日本文德天皇実錄)
	859	貞觀1	5月14日京都接雨水 (文德実錄) 5月22日京都大雨洪水氾濫… (文德実錄)
	860	貞觀2	秋加賀洪水 (文德実錄)
	861	貞觀3	9月8日京都大風雨
10世紀	862	貞觀4	9月14日京都大風雨洪水 (三大実錄) 9月15日風雨未止、都城東西兩河洪水 (三大実錄)
	867	貞觀9	7月1日京都大風雨 (三大実錄)
	869	貞觀11	4月21日京都大雨、河川漫溢、行路難通 (三大実錄)
	870	貞觀12	5月4日京都大雨洪水、往還難通 (三大実錄)
	871	貞觀13	7月14日肥後國大風雨 (三大実錄)
	872	貞觀14	夏河内洪水、堤防決壊 (三大実錄)
	873	貞觀15	8月8日伊勢大風雨洪水 (皇極年序)
	874	貞觀16	8月24日京都大風雨、拔樹斂屋… (三大実錄)
	883	天慶7	9月7日東西京被風水害、尤甚者、… (三大実錄)
	886	仁和2	3月27日大風雨水、震給東西飢民 (三大実錄) 5月10日京都自七月大雨 (三大実錄)
	887	仁和3	8月7日自去四日霖雨、 (三大実錄)
	897	寛平9	8月20日大風雨、鳴水葛西河氾濫、人馬不通 (三大実錄) 6月乃至7月京都霖雨洪水、閩京氣死多 (扶桑略記・大日本史・本朝年代記)
10世紀	907	延喜7	京都洪水、人多死 (本朝年代記)
	909	延喜9	5月19日洪水 (日本紀略・大日本史) 6月5日大雨滂沱不止、京師垣墻皆倒 (扶桑略記)
	910	延喜10	6月京都洪水 (本朝年代記)
	914	延喜14	6月京都洪水人多く死す (本朝年代記)

世紀	西暦年	年号	大 雨 災 害
	916	延喜16	5月21日京都大風雨、鴨川洪水(本朝年代記)
	918	延喜18	8月17日京都洪水、淀川大溢、…(日本紀略)
	928	延長6	大和長谷川溢、民家多壊(扶桑略記) (大日本史)
	929	延長7	7月28日京都及諸國大風雨洪水(大日本史) 8月15日京都雨水、攝穀稼、人多溺死 扶桑略記
	938	天慶1	5月26日京都大雨、河溢(日本紀略・大日本史) 6月20日鴨河、民屋多壞(日本紀略・大日本史)
	940	天慶3	秋、京都大雨、河水溢れ民屋多く壊る(大日本史) この秋黒水年穀登らず、人庶大飢(扶桑略記)
	944	天慶7	9月11日大雨河溢(日本紀略)
	945	天慶8	7月27日大風雨洪水(大日本史)
	948	天慶2	この夏早、秋風水、諸国異賛多し
	961	応和1	5月29日京師洪水、鴨河決堤(日本紀略)
	962	応和2	5月29日鴨河洪水 8月30日大雨によって大和・近江領の寺社多く破壊する
	963	応和3	8月19日京師洪水、民舍壊没(日本紀略)
	966	康保3	閏8月9日京都洪水
	968	安和1	5月20日洪水、26日河溢(日本紀略)
	969	安和2	7月22日大風雨(日本紀略)
	979	天元2	6月8日大雨河溢る(日本紀略)
	980	天元3	7月15日大雨洪水京東西京屋根源流す(日本紀略) 8月朔又洪水(日本紀略)
	988	永延2	8月13日京都及諸國大風雨洪水(日本紀略・扶桑略記・大日本史)
	991	正曆2	8月28日大風雨洪水(日本紀略) (外記日記)
	992	正曆3	5月26日東西京洪水(日本紀略) 6月1日洪水(日本紀略) 6月2日大雨洪水(日本紀略)
	998	長徳4	是歲京都大水(分類本朝年代記)
	1000	長保2	8月16日大水、鴨河溢、…(應記)
11世紀	1003	長保1	6~7月洪水凱瀧(山塊記) (大日本史) 京都大水(日本紀略・扶桑略記)
	1010	寛弘7	7月6日大雨洪水(日本紀略)
	1011	寛弘8	10月24日京都大風雨洪水(本朝年代記)
	1017	寛仁1	7月霖南京郡洪水(病院者三百余人瀕死す) (佐野記)
	1020	寛仁4	7月22日京都大南宮殿多く倒れる(大日本史)
	1022	治安2	この歲蟲中國霖雨大風。人民多餓死(立川寺年代記)
	1027	万寿4	5月24日京都大風雨洪水(日本紀略)、
	1028	長元1	9月2日京都及諸國大風雨洪水、屋舍多倒(大日本史・日本紀略)
	1030	長元3	8月京都洪水(分類本朝年代記)
	1033	長元6	正月乃至7月京都數次水、田畦多損(左經記・大日本史)
	1034	長元7	8月9日京都大風雨、社寺民屋倒れ人畜流失
	1046	承永1	5月27日京都洪水(扶桑略記)
	1059	康平2	7月12日京都大風雨洪水官舍民屋皆倒る(日本紀略)
	1069	延久1	9月7日京都大風雨
	1078	承平2	5月5日京都大雨洪水
	1079	承平3	6月27日洪水伊勢外院を漂す(扶桑略記)
	1080	承平4	6月19日洪水((扶桑略記))
	1097	承徳1	8月4日京都及諸國洪水、大山崩太多(分類本朝年代記)
12世紀	1110	天永1	6~7月洪水凱瀧(山塊記) 是歲夏秋之交洪水凱瀧
	1118	元永1	夏霖兩河水氾濫人多く溺死す(百鍵鈔) 6月霖兩河水泛滥、人多溺死(大日本史)
	1127	大治2	5月4日大雨難河氾濫(中右記) 7月19日大風雨河溢(中右記)
	1128	大治3	8月大雨(百鍵鈔)
	1129	大治4	7月霖兩河水氾濫(中右記)
	1130	大治5	霖雨洪水、九月十二日京都大風樹を抜き屋を発く(百鍵鈔)
	1133	長承2	この歲春夏早し、秋霖雨洪水す(日本凶荒史考)
	1134	長承3	是歲大水凱瀧(分類本朝年代記)
	1139	保延5	今年、天下大洪水、京中燒亡、疾瘍大凱瀧(帝王編年記) 7月京都洪水(和聲合符)
	1143	康治2	5月5日大水(百鍵鈔)
	1145	久安1	6月21日洪水(台記)
	1146	久安2	5月12日京都大洪水(興福寺年代記)
	1150	久安5	2月晦日大雨瀧茂川泛溢(台記) この歲黑水、諸國凱瀧(本朝世纪)
	1151	仁平1	7月京都大水大風(百鍵鈔)
	1153	仁平3	9月23日京師大風雨樹を折り瓦を飛ばす(台記)
	1160	永曆1	6月22日洪水壌日吉二宮十津御神殿(百鍵鈔)
	1172	承安2	5月20日長雨で洪水、六波羅の人家が壊失する(年表日本歴史)
	1175	元治1	6月7日長雨で諸国に被害甚大(年表日本歴史)
	1185	文治1	秋より冬諸國雨風水澇稼稼不就凱瀧(大日本史) (源平盛衰記)
	1188	文治4	6月5日鎌倉雷雨、洪水(年表日本歴史)

世紀	西暦年	年号	大雨災害
	1190	建久1	7月17日暴風大雨、自鳴殊太、終日不止、實茂川、桂川、各以洪水、近年少比類云々（玉葉） 諸國難観不登（東經・大日本史）
	1191	建久2	8月26日京都洪水（如是院年代記）
13世紀	1201	建仁1	8月11日京都及諸國大雨洪水、屋舎流瀧、人民失糧（分類本朝年代記）
	1214	健保2	8月7日京都洪水、鐵倉亦洪水、新御堂倒（分類本朝年代記）
	1216	健保4	8月28日諸國大風洪水、戰櫻倒樹、人畜罹死（應福寺年代記）
	1228	安貞2	7月20日京都大風雨洪水（大鏡抄・大日本史・皇帝紀）
	1230	寛喜2	8月6日關東大水、人多死（東經・大日本史）是歲天下飢饉、人民餓死無算（年代記抄節）
	1242	仁治3	6月3日京都大雨洪水（皇年代記） 6月17日～18日京都大雨洪水（皇年代記）
	1244	元祐2	11月13日鐵倉洪水（應福寺）
	1256	熙寧1	8月6日鐵倉大風雨、山崩人死（東經・大日本史）
	1258	正嘉2	8月21日京都洪水、人多死（分類本朝年代記）
	1260	文応1	6月朔日鐵倉大風雨、山崩人死（東經・大日本史）
	1280	弘安3	5月16日長谷水暴漲、居民頃頃（一代要記・東經・大日本史）
	1286	弘安9	6月京都大風雨（一代要記・大日本史）
	1287	弘安10	5月京都暴雨洪水（一代要記・大日本史）

※以上は三浦幸一郎著「日本の災害史第一巻」(1987)と小鹿島栄著「日本災異志」(思文閣 1973復刻版)を基に筆者が作成。

岸状遺構は長さ100mを超える大規模なものである。これを構築するにはかなりの労働力を必要としたであろう。杭内で出土した須恵器などが、9世紀前半頃のものであることからそれ以前に構築されたものと考えられる。場所場所で墓葬法が異なるところもあるので、洪水に見舞われ破損する度に、改修されたものと思われる。使用杭材を見ると広葉樹が多く、樹種も種多で周辺で容易に入手出来たものである。川跡内では塚跡も検出されているので、ある時期の流路では周辺水田に水を取り入れていたのである。また護岸遺構を中心に入形や舟車などの木製祭祀具が出土しており、北側第7次調査区での遺構の続き部分でも同様の遺物が出土している。律令期での地方での木製祭祀具による水辺での祓い祭りを考える上で、興味深い事例と考える。

③ 第Ⅲ面のまとめ

第Ⅲ面は古墳時代後期から古代前半期の時期の水田跡を検出した。この面で検出した高所部の水田SS410・424間の南北方向に延びる畔と溝は第Ⅱ面で検出された席田郡の条里地割方向に近いものである。条里制は古代の班田制を支える土地管理システムであり、その起源は一般的には大化の改新(645年)頃とされるが明確ではなく、福岡地区での始まりも不明である。当地周辺の地割は太宰府の水城大堤を基準とするものであり、水城は天智天皇三年(665)に築造されたことから、古くてもその時期を過らないといわれている。SD396から8世紀前半の須恵器54が出土していることや、水田SS410・424などの埋砂から7世紀後半から8世紀前半の須恵器が出土しており、上限時期が想定できる。席田郡の条里制地割の開始時期を考える上での一つの手がかりとなろう。第Ⅲ面検出時に中間層で上面に近い畔を取る水田が確認されており、水田面が複数あった可能性がある。しかし南側低地部で検出された水田SS192や200は条里地割に沿わず、むしろ地形に規制された形態であるので、継続時期に時期差が考えられる。この水田面は東側をSD190で切られているので、量はそれ程多くはないがSD190が6世紀末頃までの須恵器、SX389が7世紀までの須恵器を含むので、特に下層水田はそれ以前となる。第Ⅳ面は新しくても5世紀初め以前であり、水田の開始はそれ以後となる。

SX389は堰の可能性もあるが、SD190の水流を確定するための築造された護岸堤防と考えられる、同様の遺構は第Ⅱ面でも検出されたが、洪水が恒常的に、流路の変更が絶えなかつた当時においては、水の管理が大切なことであったのである。杭中に7世紀後半の須恵器が少量ではあるが出土しており、構築時期に近いものか。

④ 第Ⅳ面のまとめ

この面は東側の微高地上で検出した集落である。西側低地部では薄く粗砂が堆積し、僅かに畔状

に高まりを持ち、粗砂が入った小溝などもあり、水田があった可能性がある。

集落の時期は弥生時代前期初頭から古墳時代前期前半までの期間である。大きくⅠ期、弥生時代前期初頭から前半まで、Ⅱ期、中期から古墳時代前期までの二期間に分かれる。Ⅰ期は突堤文土器の夜臼Ⅱbから板付Ⅰ式併行期の時期が主体で、遺構としては土坑と溝がある。主な遺構としてはSD482・493・507、SK460・462・463・468・488・491・495・500・548・555、SX528などである。溝と土坑が主体で、土坑は廃棄土坑や貯藏窓SK517などがある。明確な住居跡や建物は確認出来ず、後世の削平で消滅した可能性がある。またこの時期の土器については前節で詳しく論考を加えているので、それを参照にされたい。実年代としてはSK460・488・517について理上内から出土した炭化物でAMS法とGPC法による放射性炭素年代測定を実施している。その結果によれば年代のピークはSK460・488がBC6~7世紀、SK517がBC7~8世紀にある。

Ⅱ期は後期後半から古墳時代前期前半が中心となる。この期間の遺構としては獨立柱建物、堅穴住居跡、方形周溝状遺構SD505、溝、土坑、多數の柱穴である。

堅穴住居跡は4棟以上検出した、いずれも平面長方形・方形の住居である。これ以外にも各所で炉跡と思われる焼土面が確認されていたので、確認出来なかった住居があったと思われる。時期としては弥生時代後期から終末期である。SC504は弥生時代後期、SC522は弥生時代後期終末であろうか。獨立柱建物は20棟であるが、建物としてはまとまらなかったが、柱根が残る柱穴がまだ複数あったので、実際にはこれより多くの建物が存在した可能性がある。建物規模は1×2間のものが15棟と多い。1×2間建物は高床倉庫と思われ、沖積地の軟弱地盤で荷重による不同沈下を防ぐための工法として、雀居遺跡や佐賀平野での例のように基礎に礎板を置いていたと思われる。柱穴と礎板の樹種は同一の場合が多く、恐らく同じ原本から作られたものと思われる。資源の有効的利用の結果であろう。台地部では腐蝕して残らないが、柱穴底面に礎板を置いて沈下を防ぐ技法は一般的であるのであろう。建物の時期は弥生時代中期から終末期にかけてであろう。

方形周溝状遺構は当初墳墓の可能性を考えたが、明確な主体部は確認出来なかった。周溝内から完形のまとまった土器類や2点の鉄斧、ガラス玉が出土している。同種遺構は市内では比恵遺跡第2次調査、蒲田水ヶ元遺跡第Ⅲ地点、有田遺跡群第116調査などでも検出されている。この種の周溝状遺構については片岡宏二氏によって注目され集成されている。氏はこの遺構の性格について1.墓地・墳墓、2.住居施設、3.祭祀遺構説に集約して検討している。本遺構は集落の中心にあり、格別な祭祀遺物はないが、完形が多く場所的にまとまって出土しているので、祭祀遺構的な性格である可能性がある。時期としては弥生時代後期後半頃である。SC522・532はこの遺構に主轄を揃える。溝はSD369と388があるが、SD369はこの面では下限の時期で古墳時代中期初め頃である。SD388は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半までの時期で、多量の土器が廃棄されていた。集落に伴うものであろう。

限られた期間内で、また低湿地での調査に余り経験なかったので、充分な調査が行えなかつたのが残念であるが、調査で得られた成果は多い。沖積地は一般に遺構・遺物の保存状況が良いので、市内での沖積地調査については今後も充分注意が必要であると考える。調査・整理にあたっては多くの方々に協力と指導・助言を賜った、末尾ではあるが感謝の意を表します。

参考文献

註1 「比恵遺跡-第6次調査・遺構編」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第94集』 1983年

註2 「蒲田・水ヶ元遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第491号』 1996年

註3 片岡宏二「周溝状遺構」の桃付(その1~4)『福岡考古』第14~17号 1989.91~94.96年

付表 遺物觀察表

本表は第Ⅰ面からⅣ面の土器・石器・木器についての觀察表である。本表の作成は担当者の他、上方高弘、木藤直子、澤玲子、所一男が主にあたった。

凡　例

1. 本表の遺物番号は、造構面毎の土器・石器・木器についてのそれぞれ通し番号であり、実測図番号・写真番号と共通である。
2. 器種の突帯文土器は夜白式土器を指す。
3. 法量の口径については口縁部の頂部で計測している。
4. 色調については外面部分のみとし、内面などに特色があるものはそれについても記した。色調は客觀性を保つため標準土色軸によっている。

Tab.1-1 I面出土土器・土製品類表

器物番号	Fig.	PL.	出土層位	出土量	器種・若形	測量 cm	I面認定・特徴	調査	胎土	外表面色	焼成	様式状況	
								口径	縦径	底径	高さ		
1	8	SD0305	土器部・杯	(12.8)	7.8	(3.8)	フリ・巻上口縁、縫合あり	稚高	7.5YR7/4赤褐色	普通	高部2/3焼成		
2	9	SD0316	土器部・小皿	(7.2)	4.6	1.1	フリ・外底中空の縫合跡	稚高	2.5YR7/1褐色	普通	1/4焼成		
3	9	SD0316	土器部・小皿	9.5	6.6	1.7	内面凹・外底無縫合	稚高	2.5YR6/2灰褐色	良好	完形		
4	9	SD0316	土器部・小皿	8.5	6.6	1.7	内面凹・外底無縫合・縫合跡	稚高	10YR7/3褐色・黄褐色	普通	高部1/2焼成		
5	9	SD0316	土器部・杯	(15.0)	2.8		今井麻穂子・外底部無縫合	稚高	10YR7/0褐色・黄褐色	普通	1/4焼成		
6	9	SD0316	土器部・杯	(14.5)	3.0		内面凹・中空無縫合・縫合跡	稚高	2.5YR6/3灰褐色	普通	1/4焼成		
7	9	SD0316	土器部・杯	(14.5)	3.0		内面凹・外底部無縫合・縫合跡	稚高	10YR7/0灰白色	普通	口縫合1/3焼成		
8	9	SD0316	土器部・杯	15.0	3.4		内面凹・外底無縫合・外底 縫合跡(少分離)	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通			
9	9	SD0316	土器部・杯	(15.4)	(2.4)		10YR7/0褐色・外底部無縫合	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	口縫合1/3焼成		
10	9	SD0316	土器部・杯	(17.0)	(3.6)		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	口縫合1/3焼成		
11	9	SD0316	土器部・碗?				外底無縫合・縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	口縫合1/3焼成		
12	9	SD0316	土器部・碗	(15.0)	(5.6)	(5.6)	内面凹・中空無縫合・縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	1/3焼成		
13	9	SD0316	土器部・碗	(15.7)	6.2	(5.6)	内面凹?	稚高	2.5YR6/2灰白色	普通	高部1/3焼成		
14	9	SD3222	R-3	土器部・小皿			内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0灰白色	普通	完形		
15	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.7)	7.4	1.8	内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0灰白色	普通	3/4焼成	
16	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.8)	7.8	1.4	内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0褐色・黄褐色	普通	3/4焼成	
17	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.7)	7.3		内面凹?	稚高	2.5YR6/2灰白色	良好	1/4焼成	
18	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.9)	7.5	1.85	内面凹・外底部無縫合	稚高	2.5YR6/2-3/4褐色	良好	1/2焼成	
19	9	SD3222	上層	土器部・小皿	10.0	7	2.2	内面凹・外底部無縫合	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	2/3焼成	
20	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(10.8)	[6.4~ 8.4]		内面凹・外底部無縫合	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	1/4焼成	
21	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.6)		(1.65)	内面凹?	稚高	2.5YR6/2灰白色	普通	完形	
22	9	SD3222	上層	土器部・小皿	(9.6)	8.1~7.7	1.85	内面凹・外底部無縫合	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	2/3焼成	
23	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.3)			内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	1/3焼成	
24	9	SD3222	上層	土器部・杯	15.0	3.7		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	1/4焼成	
25	8	SD3222	土器部・杯	(15.7)	(4.0)		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0褐色・黄褐色	普通	口縫合1/3焼成		
26	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.4)	(4.1)		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰白色	普通	1/3焼成	
27	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.8)	(3.6)		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/1灰白色	普通	1/4焼成	
28	9	SD3222	上層	土器部・杯	(14.1)			内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	1/3焼成	
29	9	SD3222	上層	土器部・杯			内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	2.5YR6/2灰褐色	普通	中中不良	高部1/3焼成	
30	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.0)	(3.0)		内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0褐色	普通	1/2焼成	
31	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.0)	(3.7)		内面凹・外底部無縫合	稚高	2.5YR6/2灰白色	普通	口縫合1/3焼成	
32	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.5)			内面凹・外底部無縫合・外底 縫合跡	稚高	10YR7/0褐色・黄褐色	普通	口縫合1/3焼成	
33	9	SD3222	上層	土器部・杯	(15.8)			内面凹・外底部無縫合	稚高	10YR7/0灰褐色	普通	1/3焼成	
34	9	SD3222	上層	土器部・杯	(14.8)			内面凹・外底部無縫合	稚高	10YR7/0褐色・黄褐色	普通	口縫合1/3焼成	
35	9	SD3222	上層	黑色土器A・板	(15.1)	(6.6)	(6.3)	内面凹・外底部無縫合・口縫合 縫合跡	稚高	内20黑色	普通	1/2焼成	
36	10	SD3222	上層	黑色土器A・板	(14.5)			内面凹・外底部無縫合	稚高	2.5YR6/2灰白色	普通	口縫合1/3焼成	
37	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(15.2)	7.2	5.8	内面凹?・高部無縫合	稚高	10YR7/1チャコ・黒色	普通	1/2焼成	
38	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(15.5)	7.6	5.8	内面凹?・外底部無縫合・内底 縫合跡	稚高	10YR7/1チャコ・黒色	普通	1/2焼成	
39	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(14.2)	7.0	6.2	内面凹?・外底部無縫合	稚高	10YR7/1チャコ・黒色	普通	1/2焼成	
40	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(14.0)	(6.6)		内面凹?・高部無縫合	稚高	10YR7/1地色	普通	口縫合1/3焼成	
41	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(15.4)	6.8	6.6	内面凹?・外底部無縫合	稚高	Nd.黑色	普通	口縫合1/3焼成	
42	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(14.3)			内面凹?・外底部無縫合	稚高	S207藍黑色	普通	口縫合1/4	
43	10	SD3222	上層	黑色土器B・板	(6.2)			内面凹?・外底部無縫合	稚高	7.5YR2/0黒色	普通	高部1/3焼成	
44	10	SD3222	1区	黑色土器B・板	(6.5)			内面凹?・高部無縫合	稚高	Nd.黑色	普通	底部	
45	10	SD3222	上層	瓦器・板	(14.9)	(6.6)	7.8	内面凹?・外底部無縫合	稚高	SYR6/2灰褐色	普通	1/2焼成	
46	10	SD3222	上層	瓦器・板	(14.9)			内面凹?・外底部無縫合	稚高	10YR7/1暗灰色	普通	口縫合1/3焼成	
47	10	SD3222	上層	瓦器・板	(15.3)			内面凹?・外底部無縫合	稚高	2.5YR6/2浅黄色	普通	口縫合1/3焼成	
48	10	SD3222	上層	白陶・板	(7.6)			体部凹・内底部無縫合・高部縫合	稚高	SYR6/1浅黄色	普通	底部	
49	10	SD335	土器部・杯	(7.8)			底部凹・縫合跡不整	稚高	Nd.灰色	普通	1/2焼成		
50	10	SD344	土器部・板	(7.4)			内面凹?・縫合跡不整	稚高	2.5YR6/2灰褐色	良好	高部1/3焼成		
51	14	SE304	上層	土器部・板	(6.6)			内面凹?・縫合跡不整	稚高	SYR6/2灰白色	普通	口縫合1/3焼成	
52	14	SE304	上層	黑色土器A・板	(6.0)			内面凹?・縫合跡不整・内底 縫合跡	稚高	SYR6/1浅黄色	普通	口縫合1/3焼成	
53	14	SE309	土器部・板	(7.6)			内面凹?・縫合跡不整・内底 縫合跡	稚高	10YR6/2灰褐色	普通	高部1/3焼成		
54	14	SE306	土器部・板				内面凹?・縫合跡不整・内底 縫合跡	稚高	SYR6/2灰褐色	普通	口縫合少焼成		
55	14	SE308	御刀刃	土器部・板	(15.8)	6.5		内面凹?・縫合跡不整・内底 縫合跡	稚高	7.5YR4/1灰色	良好	口縫合1/3焼成	

器名番 号	Fig.	P.L.	出土箇所	出土位置	器種・器形	測量 cm	口幅 肩幅 底幅 高さ	調査		断土	外色調	焼成	焼存状況
								内幅 内深幅 内底幅 内高さ	外幅 外深幅 外底幅 外高さ				
57	14	SE311	黑色土器B-瓦玉			6.7		直径約7.5、底面直角的に打ち 切ったもの	残灰	10YR1/オリーブ黒色	焼成	底形破片、瓦玉	
58	14	SE315	土器器-小皿	(9.0)			(0.8)	内外面剥離びく、外底幅約3 cmの「切」付	残灰	2.5Y9/2灰白色	焼成	1/6焼存	
59	14	SE315	土器器-小皿	(9.4)			(1.4)	口縁側面剥離びく、内底幅約3 cmの「切」付	残灰	10YR8/2灰白色	焼成	1/4焼存	
60	14	SE315	土器器-小皿	(9.4)		(7.8)	1.4	内底、底面剥離不規、口縁側 面剥離びく	灰	2.5Y9/2灰白色	焼成	1/6焼存	
61	14	SE315	土器器-杯	(5.0)			3.5	内底丁字型びく、外底部に「切」付 打たれ	粉砂少量含む	2.5Y9/2灰白色	焼成	完形	
62	14	SE315	土器器-杯	(14.5)				外側部に「切」付打たれ	残灰	10YR7/3純い黄褐色	焼成	口縁部1/8焼存	
63	14	SE315	土器器-碗			(6.8)		底面直角の平底盤	粉砂少量含む	2.5Y9/2灰白色	焼成	底部1/3焼存	
64	14	SE315	土器器-碗			6.3		内外縁びく	粗砂わざわざに含む	2.5Y7/2淡黄色	焼成	底部焼片	
65	14	SE318	井筒窓			(8.2)		内底びく、底面直角の「切」付	残灰	2.5Y9/2灰白色	焼成	底部焼片	
66	14	SE318	上蓋			(6.8)		内外面剥離びく、底面直角の「切」付	残灰	2.5Y7/2淡黄色、上端黒化	焼成	底部1/3焼存	
67	14	SE318	井筒上蓋			(26.6)		内底直角びく、外底部に「切」付 打たれ、外表面の「切」付打たれ	粉砂少量含む	9Y4/1灰色	焼成	伝統的小片 高麗時代	
68	14	SE320	井筒陶器-甕			(26.6)		内底直角びく、外底部の「切」付 打たれ	粉砂少量含む	9Y4/1灰色	焼成	底部1/3焼存 高麗時代	
69	14	SE320	土器器-小皿	9.3			1.7	口縁側面剥離びく、外底部の「切」 付打たれ直底	残灰	2.5Y9/2灰白色	焼成	完形	
70	14	SE320	黑色土器B-椀	(14.8)				内底やや底盤-1.5cm、外底部 「切」付打たれ直底	粉砂少量含む	7.5YR7/1暗紅色	焼成	口縁部1/10焼存	
71	14	SE320	黑色土器B-椀	高合 (7.0)				中空直底-1.5cm、「切」付打たれ	粉砂少量含む	2.5Y9/1墨黒色	焼成	底部1/3焼存	
72	14	SE320	瓦器-小皿	(10.1)				内底1.5-1.7cm外縁部1.2cm、「切」 付打たれ	残灰、次白色	10YR1/1橙紅色、内面黒化する 様なびく	焼成	1/4焼存	
73	14	SE320	白綬-皿					内底直角、内面剥離不規、内 底部「切」付打たれ	残灰、灰白色	9Y7/2灰白色	焼成	1/4焼存	
74	14	SE320	白綬-碗	(16.8)				内底直角、内面剥離不規、外 底部「切」付打たれ	残灰、灰白色	7.5Y9/2灰白色	焼成	口縁部1/6焼存	
75	14	SE320	白綬-碗					内底直角、内面剥離不規、外 底部「切」付打たれ	残灰、灰白色	7.5Y9/1灰白色	焼成	伴1/6焼存	
76	14	SE409	周V方	黑色土器A-椀	(14.8)		(5.8)	内底直角-1.5cm、外底部「切」 付打たれ直底	粉砂少量含む	7.5Y4/2橘紅色、底変あり 底部小切欠	焼成	1/2周埋存-高合 底久須	
77	17	SE334	土器器-小皿	8.6			1.1	「切」付打たれ口縁側面剥離びく 及び内底部「切」付打たれ	残灰	2.5Y9/3浅黄色	焼成	3/4焼存	
78	17	SE334	土器器-杯	(14.5)				磨滅が激しい「切」付打たれ	粉砂粒を含む	2.5Y9/2灰白色	中や不規	口縁部1/3焼存	
79	17	SE334	井筒内	土器器-杯	(15.5)		3.4	内底丁字型びく口縁側面剥離びく、 外底部「切」付打たれ	残灰	10Y6/5淡黃褐色	焼成	1/4焼存	
80	17	SE334	黑色土器B-椀	高合 (6.1)				内外面剥離びく、内底部 「切」付打たれ、高合部剥離びく	粉砂少量含む	10Y4.5/5暗褐色	中や不良	底部1/2焼存	
81	17	SE334	黑色土器A-椀	15.7		6.8	5.3	内底直角、二重縁口、外底部「切」 付打たれ直底	残灰	内10Y3/1オリーブ黒	焼成	1/2至3形	
82	17	SE334	黑色土器A-椀			(8.6)		内底、高合部-1.5cm、高合部剥離 びく	粉砂少量含む	内10Y3.5/1暗紅色	焼成	底部1/2焼存	
83	17	SE334	瓦器-碗	16.7		7.0	4.8-5.4	内底丁字型びく、外縁部「切」 付打たれ直底	残灰	7.5Y7/1灰白色	焼成	完形	
84	17	SE334	瓦器-碗	16.7		6.9	5.3	内底直角、二重縁口、外縁部「切」 付打たれ直底	粉砂少量含む	10Y3/1オリーブ黒	焼成	笠がて完成	
85	17	SE334	瓦器-碗	(14.0)				中空直底、「切」付打たれ	粉砂少量含む	10Y9/1灰色	中や不良	口縁部1/2焼存	
86	17	SE334	井筒内	瓦器-碗	15.8	6.4	5.3	内底不規方向の「切」付打たれ 及び内底部「切」付打たれ	残灰	9.5Y9/3灰褐色	焼成	口縁部一部欠損	
87	17	SE334	白綬-皿	(10.2)		(3.8)	(2.6)	内底直角剥離部留め、外縁 「切」付打たれ	残灰、灰白色	2.5GY8/1灰白色	焼成	1/4焼存	
88	17	SE334	白綬-碗			(5.7)- 5.8		内底直角剥離部留め、「切」 付打たれ	残灰、灰白色	2.5GY8/1灰白色	焼成	白綬	
89	21	SK302	黑色土器B-椀			(6.0)		内底やや底盤-1.5cm、「切」 付打たれ直底	残灰	5Y9/2灰白色	焼成	底部1/2焼存	
90	21	SK314	土器器-小皿	(9.1)		(7.8)	1.3	内外面剥離びく、外底部剥離 びく直底	残灰	10YR8/2灰白色	焼成	1/2周焼存	
91	21	SK314	土器器-皿	(16.2)		(13.0)	1.4	内外面剥離びく、外底部剥離 びく	残灰	7.5YR6/4純い黒色	焼成	1/6焼存	
92	21	SK314	土器器-皿	(14.9)		(12.4)		内外面剥離びく、外底部剥離 びく	粉砂粒少量含む	2.5Y9/1 黄色	焼成	1/6焼存	
93	21	SK314	土器器-皿	(14.9)		(11.0)	3.1	内外面剥離びく、内底部剥離 びく、外底部剥離びく	粉砂粒少量含む	10YR7/2純い黄褐色	焼成	1/2周焼存、内底4 片割合	
94	21	SK314	土器器-皿	(14.4)		(10.8)		内底丁字型びく、口縁部剥離 びく、外底部剥離びく	残灰	10YR8/2灰白色	焼成	口縁部1/3焼存	
95	21	SK314	土器器-皿	(15.8)			3.7	内底「切」付打たれ、中空、半円凹 部	残灰	10YR7/3純い黄褐色	焼成	1/2周埋存	
96	21	SK314	土器器-皿					内底丁字型びく、外縁部剥離 びく、内底部剥離びく	残灰	10YR7/3純い黄褐色	焼成	1/4焼存	
97	21	SK314	土器器-杯			(17.8)	(3.9)	内底砂付粘土、「切」付打たれ 及び内底部砂付粘土	残灰	2.5Y7/2灰白色	焼成	口縁部1/4焼存	
98	21	SK314	土器器-杯	(15.4)		7.6	5.6	内底砂付粘土、高合直底	残灰	10YR8/2灰白色	焼成	底部と口縁部 1/2焼存	
99	21	SK314	土器器-杯			(6.8)		内底丁字型びく、底部砂付粘土	残灰	2.5Y9/2灰白色	焼成	高合1/2焼存	
100	21	SK319	黒土器B-甕					磨滅、底部不規	粉砂粒多く含む	2.5Y5/3黒い黄褐色	中や不良	口縁部1/2焼存	
101	21	SK329	土器器-小皿	(9.8)		(7.8)	1.1	磨滅-横断手形	残灰	2.5YR8/2灰白色	焼成	1/3焼存	
102	21	SK331	土器器-小皿	(9.8)		(7.7)	(1.4)	内底不規手形、「切」付打たれ 及び内底部不規手形	残灰	2.5Y7/2灰白色	焼成	1/2焼存	
103	21	SK331	土器器-小皿	(10.8)		(8.2)	1.3	内底手形、「切」付打たれ手形 、「切」付打たれ	粉砂-赤褐色粒子多量 含む	10YR8/2灰白色	焼成	1/3焼存	
104	21	SK332	土器器-小皿	9.8- 10.0			1.4	内底手形、「切」付打たれ手形 、「切」付打たれ	粉砂粒少量含む	10YR7/2純い黄褐色	焼成	完形	
105	21	SK331	黑色土器B-椀			7.6		体積1.5-2.0、高台台形、高台内 底部砂付粘土	残灰	10Y3/1オリーブ黒色	焼成	底部片	
106	21	SK336	瓦玉(土製瓦)	9.5- 5.5				中空直底手形、「切」付打たれ	残灰	10Y3/1オリーブ黒色	焼成	黑色土器A底部片	

発見番号	Fig.	PL.	出土遺物	出土位置	器種・形態	測量 cm (山川式)	調査	地質		地土	外観色調	地成	様状状況	
								柱径	高さ	底面				
107	21	SK308	瓦玉(土師円錐)			7.2~7.6		東洋的な打吹き	粗糲	10YR2/1黒色	良好	完形		
108	21	SK308	藍色土器A-嘴			(8.6)		高威力で内面には「X」字彫り	砂物少量含む カタ	7.5YR1/2淡青褐色	普通	底部1/2側埋存		
109	23	SK317	上層	土器器・小皿	(8.2)	3.4	0.9	内面「X」、縁部切妻形、外底 直面凹み	粗糲	10YR7/3黒い黄褐色	普通	1/2埋存		
110	23	SK317		土器器・小皿	(8.6)	1.1		縁部は「X」、外底A字切妻	粗糲	10YR8/2灰白色	良好	1/2埋存		
111	23	SK309	土器器・小皿	(8.2)		(7.6)	1.1	縁部切妻形、「X」字彫り	粗糲	10YR8/1灰白色	普通	1/2埋存		
112	23	SK317		土器器・小皿	8.9	7.6	0.7	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	7.5YR2/2灰白色	良好	1/2埋存		
113	23	69	SK317		土器器・小皿	9.5	7.9	1.0	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	良好	3/4埋存	
114	23	SK317	下層	土器器・小皿	(9.5)		1.0	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	砂物少量含む カタ	2.5YR2/2灰白色	良好	2/3埋存		
115	23	SK317		土器器・小皿	(8.6)	1.4		内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	7.5YR1/2灰白色	良好	1/2埋存		
116	23	69	SK317		土器器・小皿	9.9	7.8	1.25	「X」字彫りと「X」、腹正側溝	粗糲	2.5YR1/2暗褐色	普通	底部1/2埋存	
117	23	69	SK317		土器器・小皿	9.5	8.0	1.25	縁部切妻形、「X」字彫り、側溝	砂物少量含む カタ	10YR8/2灰白色	普通	1/2埋存	
118	23	SK317		土器器・小皿	(8.6)	(7.6)	1.4	縁部切妻形、「X」字彫り、側溝	粗糲	2.5YR1/2灰白色	普通	4/5埋存		
119	23	SK317		土器器・小皿	(8.1)	(6.6)	1.3	内面「X」や縁部切妻形、「X」 字彫り	砂物少量含む カタ	2.5YR2/2灰白色	普通	1/2埋存		
120	23	69	SK317		土器器・小皿	9.6	7.1	1.3	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	良好	1/2埋存	
121	23	SK317		土器器・小皿	(8.5)	(7.4)	1.3	太縁部切妻形、「X」字彫り、側溝	粗糲	10YR8/2灰白色	普通	4/5埋存		
122	23	SK317		土器器・小皿	(8.6)	(7.6)	1.4	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	普通	1/2埋存		
123	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	9.4	7.7	1.6	内面「X」、外底半切妻形、「X」 字彫り	粗糲	10YR4/1暗灰色	良好	1/2埋存	
124	23	SK317		土器器・小皿	10.0	7.4	1.6	内面「X」、外底半切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	良好	口縁部一部欠		
125	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	9.8		1.6	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	10YR7/3黒い黃褐色	普通	3/4埋存	
126	23	SK317		土器器・小皿	9.8	7.1	1.55	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	良好	2/3埋存		
127	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	(8.6)		1.7	内面「X」、外底半切妻形、「X」 字彫り	粗糲	外2.5YR1/2灰白色	良好	1/2埋存	
128	23	SK317		土器器・小皿	(8.6)	1.7		内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	10YR8/1灰白色	普通	1/2埋存		
129	23	SK317		土器器・小皿	9.6	7.0	1.6	内面から外全体切妻形、「X」 字彫り	砂物少量含む カタ	2.5YR2/2灰白色	普通	1/2埋存		
130	23	SK317	上層	土器器・小皿	9.6	7.4	1.5	内面不規則、「X」字彫り	粗糲	6YR2/2灰白色	良好	1/2埋存		
131	23	SK317		土器器・小皿	8.8	6.5	1.4	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5YR2/2灰白色	良好	口縁部1/4埋存		
132	23	69	SK317	上層	土器器・小皿	8.0	6.6	1.4	内面「X」、縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	10YR7/3黒い黃褐色	良好	1/2埋存	
133	23	69	SK317		土器器・杯	(14.0)	3.0		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り、外底部分半切妻形、「X」 字彫り	粗糲	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2埋存	
134	23	69	SK317		土器器・杯	(14.6)	(3.0)		内面「X」、外縁部切妻形、「X」 字彫り	粗糲	7.5YR2/2暗褐色	普通	1/2埋存	
135	23	SK317	下層	土器器・杯	(14.2)	2.4		内面直面形、「X」字彫り	砂物少量含む カタ	2.5Y6/2灰黄色	普通	1/2埋存		
136	23	SK317		土器器・杯	(14.4)	2.7		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	粗糲	2.5Y7/2灰黄色	良好	口縁部1/4埋存		
137	23	SK317		土器器・杯	(14.6)	2.9		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物多く含む カタ	2.5Y6/2灰黄色	良好	1/2埋存		
138	23	SK317		土器器・杯	(16.1)	2.8		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	粗糲	10YR6/2灰黄色	良好	1/4埋存		
139	23	SK317	上層	土器器・杯	(15.0)	(10.2)	(2.5)	内面「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	2.5Y7/2灰黄色	普通	1/2埋存		
140	23	SK317	上層	土器器・杯	(16.3)			内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	10YR7/3黒い黃褐色	良好	1/4埋存		
141	23	SK317	上層	土器器・杯	16.7			内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	7.5YR8/2淡黄色	中や不良	1/2埋存		
142	23	SK317	上層	土器器・杯	(16.2)	(9.6)	(3.7)	内面「X」字彫り、「X」字彫り、体部 半切妻形、「X」字彫り	砂物少量含む カタ	7.5YR7/3黒い褐色	普通	1/4埋存		
143	23	69	SK317		土器器・杯	14.8	3.8		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2埋存	
144	23	SK317		土器器・杯	(15.0)	3.3		縁部切妻形、「X」字彫り	粗糲	2.5Y7/2灰黄色	良好	完形		
145	23	SK317		土器器・杯	(15.1)	(3.0)		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	粗糲	2.5Y7/2灰黄色	良好	1/2埋存		
146	23	SK317		土器器・杯	(15.1)	(3.7)		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	粗糲	2.5Y6/2灰黄色	良好	1/2埋存		
147	23	SK317		土器器・杯	(15.2)	3.8		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	10YR7/3黒い黃褐色	良好	1/2埋存		
148	23	69	SK317		土器器・杯	(15.3)	3.8		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	2.5Y6/2灰黄色	普通	1/2埋存	
149	23	SK317		土器器・杯	(15.2)	3.7		内面丁寧な「X」、縁部切妻形 「X」字彫り	砂物少量含む カタ	2.5Y6/2灰黄色	良好	1/2埋存		

名古屋 名号	Fig.	P.L.	出土遺物	出土位置	器種・器形	測量 cm	日本測定 cm	調整		調査	断土	外表面調	焼成	焼存状況
								口径	脚間	底面	高さ			
150	23	69	SK317		土器器・坏	(15.9)		(3.4)		内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口、外底部の外側に丁字なげ口	陶瓦、淡黄色	2.5YR5/2淡黄色	良好	1/0焼存
151	23	69	SK317		土器器・坏	15.1		3.9		内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	2.5YR5/2灰白色	良好	1/0焼存
152	23	SK317			土器器・坏	(16.0)				内面丁字なげ口、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	2.5YR5/2灰白色	良好	直角一部破壊
153	23	SK317			土器器・坏	(16.1)		(4.2)		内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR10/2灰黄色	良好	1/4焼存
154	23	SK317			土器器・坏	(15.2)		3.7		内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/4焼存
155	23	69	SK317		土器器・坏	(14.6)		(4.2)		内面丸み、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/0焼存
156	23	SK317			土器器・坏	(15.2)		(3.9)		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	7.5YR7/3灰、褐色	良好	1/0焼存
157	23	SK317			土器器・坏	(15.2)		3.9		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/0焼存
158	23	SK317			土器器・坏	(15.0)				内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/0焼存
159	23	69	SK317		土器器・坏	(14.8)		(3.8)		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	7.5YR7/3灰、褐色	良好	1/3焼存
160	23	SK317			土器器・坏	15.1		2.9		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/2焼存
161	23	上層			土器器・坏	(15.4)		(3.8)		内面丁字なげ口、底盤下平田輪打、下内輪打	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/0焼存
162	23	69	SK317		土器器・坏	(15.1)		3.9		内面丁字なげ口、口縁幅約1.5cm、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR5/2浅黄色	良好	口縁部1/0焼存
163	24	SK317		上層	土器器・陶	(14.8)	6.2	5.0		内面丸み、底盤下平田輪打、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR5/2灰白色	良通	1/2焼存
164	24	70	SK317		土器器・陶		8.4			内面丁字なげ口、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	7.5YR7/3灰白色	良好	1/0焼存
165	24	70	SK317		土器器・陶	(15.6)	6.2	5.6		内面丁字なげ口、底盤下平田輪打、下内輪打	陶瓦	10YR7/3灰、黄褐色	良好	1/0焼存
166	24	SK317			土器器・陶	(16.0)				内面丁字なげ口、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	2.5YR5/2灰白色	良通	1/0焼存
167	24	SK317		上層	土器器・陶	(16.0)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR5/3灰、黄褐色	良通	口縁部1/4焼存
168	24	70	SK317		土器器・陶	(15.1)	(7.8)	(5.7)		内面丁字なげ口、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR5/3灰、黄褐色	良好	口縁部1/0焼存
169	24	70	SK317		土器器・陶	15.2				中空壁部、内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR5/3浅黄色	良通	底盤1/0焼存
170	24	70	SK317		土器器・陶	(15.9)	6.5	4.8		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	7.5YR7/3灰白色	良好	1/2焼存
171	24	SK317		上層	土器器・陶	(16.5)	(6.0)	(5.0)		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	2.5YR7/3灰黄色	良好	1/2焼存
172	24	70	SK317		黑色土器A・陶	(15.6)	6.4	6.3		外底下丁寧打ひびき、下内輪打	粗粒吸水少含む	10YR5/2/3浅黄色	良通	口縁部1/0焼存
173	24	70	SK317		黑色土器A・陶	(15.6)	(6.4)	6.0		内面丸み、高台口、高台内	陶瓦	10YR2/1黑色	良好	1/4焼存
174	24	SK317		上層	黑色土器A・陶	(15.6)	(6.2)	(5.2)		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	2.5YR5/2灰黄色	良通	1/0焼存
175	24	SK317			黑色土器A・陶	(15.2)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR3/1F-7 黑色	良通	1/0焼存
176	24	SK317			黑色土器A・陶	(15.2)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR3/1F-7 黑色	良通	1/4焼存
177	24	SK317			黑色土器A・陶	(14.7)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR3/1F-7 黑色	良通	口縁部1/0焼存
178	24	SK317			黑色土器A・陶	6.8				内面丸み、高台部部分	陶瓦	10YR2/1黑色	良好	口縁部1/0焼存
179	24	SK317		上層	黑色土器A・陶	(6.4)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	粗粒吸水少含む	10YR3/1F-7 黑色	良通	底盤1/0焼存
180	24	SK317			黑色土器B・坏	(17.8)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR2/1黑色	良好	底盤3/0焼存
181	24	70	SK317		黑色土器B・坏	(14.3)	6.6	6.8		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦、灰色	10YR3/1F-7 黑色	良通	1/4焼存
182	24	70	SK317		黑色土器B・坏	(15.7)	6.4-6.5	6.5		内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR3/1F-7 黑色	良通	1/0焼存
183	24	SK317			黑色土器B・坏	(16.2)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦わらべに含む	10YR3/1F-7 黑色	良通	1/0焼存
184	24	SK317			黑色土器B・坏	6.6				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR1/1黑色	良好	1/0焼存・窓口部
185	24	SK317			黑色土器B・坏	(15.7)				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR3/1F-7 黑色、灰白色	良通	底盤1/0焼存
186	24	SK317			黑色土器B・坏	6.0				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR2/1黑色	良通	底盤1/0焼存
187	24	70	SK317		黑色土器B・坏	6.8-7.0				内面丸み、外底部の内側に丁字なげ口	陶瓦	10YR3/1オーライ黑色、灰化	良通	高台部1/0焼存
188	24	SK317			黑色土器B・坏	7.5				粗粒吸水少含む内面丸み、窓口	粗粒吸水少含む	2.5YR7/3灰、褐色	良通	底盤細片
189	24	SK317		上層	土器器・坏					内面丸み、窓口	陶瓦	2.5YR7/3灰黄色	良通	底盤片
190	24	SK317		下層	黑色土器B・坏	6.8				内面丸み、窓口	粗粒吸水少含む	10YR1/1黑色	良通	底盤(窓口?)
191	24	SK317			玉器?	6.7				内面丁字なげ口、高台部分	陶瓦	10YR1/1F-7 黑色	良通	高台
192	24	SK317		上層	合口・坏	(9.4)				内面丸み、窓口	陶瓦、灰白色	9GY9/1灰白色	良好	黄色土器B高台
193	24	SK317		上層	白陶・坏					内面丸み	陶瓦	7.5Y7/1灰白色	良好	口縁部1/3片
194	24	SK317		上層	合口・坏					粗粒吸水少含む内面丸み	陶瓦	2.5Y7/2灰白色	中中不良	口縁部片
195	24	SK317		上層	合口・坏					内面丸み	陶瓦	7.5Y7/1灰白色	良通	口縁部小片

器物番号	Fig.	PL.	出土遺構	出土位置	器種・形態	測量cm(山積)				調査	胎土	外表面調	焼成	焼成状況	
						高	幅	厚	底						
186	24	SK317	上層	白面・板						陶瓶	粗糲、灰白色	5Y7/2灰白色	良好	口縁部小片	
187	24	SK317	上層	白面・板						陶瓶	粗糲、灰白色	7.5Y7/2灰白色	良好	口縁部細片	
188	24	70	SK317	上層	白面・板	(7.2)				陶瓶	粗糲、灰白色	2.5Y7/1灰白色	やや不良	口縁部細片	
189	24	SK317	上層	白面・板		(6.8)				陶瓶	粗糲、灰白色	2.5Y7/1灰白色	やや不良	底部1/4焼成	
200	25	SE315	底底部・裏							内窓付・円筒形	粗糲灰白色	10Y9/6灰褐色、リ-7灰白色	半不良	粗糲1/3焼成	
201	25	70	SK317	底底部・裏		17.2~17.7	(18.0)			内窓付・円筒形	粗糲灰白色	10Y9/6灰褐色、外表面粗粒物	リ-7灰白色	良好	底と側面又は側面の内側にあり 駆逐200で同一ヶ
202	28	SP01	土師器・板			(7.1)				内窓付・直筒形	粗糲灰白色	2.5Y6/2灰白色	普通	底部焼成	
203	28	SP02	土師器・小皿	(9.6)	(9.6)	1.2				内窓付・円筒形	粗糲灰白色	10Y9/6灰白色	普通	底部焼成	
204	28	SP02	黒色土器・板	(15.4)						口縁部内窓付かく3.8cm、外窓付	粗糲	10Y3/1リ-7黒色	普通	1/8焼成	
205	28	70	SP03	土師器・小皿	(10.1)	(8.0)	(1.3)			口窓付直筒形・外表面粗粒物	粗糲灰白色	7.5Y7/0灰褐色	普通	口縁部1/3焼成	
206	28	70	直筒形	土師器・小皿	9.6	7.3	1.4			直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	2.5Y6/2灰白色	良好	1/8焼成	
207	28	包含層	土師器・小皿	(7.9)		(1.1)				内窓付直筒形・内底膨らみ	粗糲	10Y7/6灰白色	やや不良	内部	
208	28	包含層	土師器・小皿	(9.8)	(9.7)	1.9				直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	10Y7/6灰白色	良好	1/8焼成	
209	28	包含層	土師器・小皿	(9.9)	(5.1)	1.3				直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	2.5Y6/2灰白色	普通	1/8焼成	
210	28	包含層	土師器・小皿	(9.2)	(7.2)	1.9				直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	9Y9/4深褐色、二次的鉢輪	普通	口縁から底面1/4 焼成	
211	28	包含層	土師器・小皿	(9.9)		1.3				直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	2.5Y6/2灰白色	普通	1/8焼成	
212	28	直筒形	土師器・杯	(13.8)	(5.6)	(0.7)				内窓付・直筒形内窓付	粗糲	10Y7/2リ-7黄褐色	普通	1/8焼成	
213	28	70	直筒形	土師器・杯	(14.5)		3.8			内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	10Y9/2灰白色	良好	1/8焼成	
214	28	包含層	土師器・杯	(14.9)		4.8				直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	2.5Y6/2灰白色	やや不良	口縁部一部欠損	
215	28	直筒形	土師器・板	(15.8)	(6.3)	5.8				内窓付・直筒形内窓付	粗糲	2.5Y7/1~7/2灰白色	普通	1/8焼成	
216	29	包含層	土師器・板	(17.2)						内窓付・直筒形内窓付	粗糲少量含む	2.5Y7/2灰白色	普通	1/8焼成	
217	28	包含層	黒色土器・板	(6.3)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	10Y3/5リ-7黒色	普通	口縁部1/3焼成	
218	28	包含層	黒色土器・板	(8.6)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	9.5Y9/3灰褐色	やや不良	底部1/2焼成	
219	28	包含層	黒色土器・杯	(5.8)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	9.5Y9/3灰褐色	やや不良	底部1/4焼成	
220	28	包含層	黒色土器・板	(6.2)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	10Y3/5リ-7黒色	普通	底部1/2焼成	
221	28	直筒形	越州青釉青瓷・板	(8.0)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	2.5Y9/4灰褐色、赤褐色、9Y9/5リ-7 リーフ紋	良好	底部1/2焼成	
222	28	包含層	越州青釉青瓷・板	(4.8)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲、灰白色	7.5Y9/2灰褐色	良好	底部1/8焼成	
223	28	包含層	直筒形							直筒形内窓付	粗糲	2.5Y9/1灰白色	良好	底部1/2焼成	
224	28	包含層	直筒形							直筒形内窓付	粗糲	2.5Y9/1直筒形反色	良好	口縁部少しだけ	
225	28	包含層	直筒形							直筒形内窓付	粗糲	2.5Y9/1灰白色	良好	口縁部少しだけ	
226	28	包含層	直筒形							直筒形内窓付	粗糲	2.5Y9/2灰白色	良好	口縁部少しだけ	
227	28	包含層	白面・青白釉・板	(12.9)						直筒形内窓付	粗糲	N5/1少し青緑がかった灰白色	良好	口縁部少しだけ	
228	28	包含層	青白釉板	(6.1)						直筒形内窓付・内底膨らみ	粗糲	7.5Y9/1深褐色灰~7.5Y9/1灰 白色	良好	口縁部細片	
229	29	直筒形	土師器・蓋	(15.3)						外表面磨りこぼし	粗糲	7.5Y9/4灰褐色	良好	底部1/2焼成	
230	28	直筒形	口付土器・板	(7.0)付	(5.0)					内窓付・内底膨らみ	粗糲少量含む	2.5Y6/2深褐色	普通	口縁部1/4焼成	
231	29	直筒形	土師器・蓋	(14.2)						口付直筒形・外表面凹凸	粗糲少量含む	7.5Y9/2深褐色	普通	1/2焼成	

Tab.1-2 I 面出土石製品観察表

器物番号	Fig.	PL.	出土遺構	出土位置	器種	測量cm(山積)				石材	色調	調査・備考
						高	幅	厚	底			
SI	25	71	SK317	上層	織紋の跡がある	3.6	2.4	2.4	2.4	N6灰褐色	工具によるかきこむ	
SI	25	71	SK317	上層	石破片の跡がある	7.0			2.6	滑石	10Y9/8/1灰白色	外表面カリ仕上げで、スズく付着
S2	25	71	SK317	上層	石破片	(1.6)	(6)	(1.8~ 2.4)	2.6	滑石	10Y9/1褐色	外表面を削り取る
S3	25	71	SK317	上層	石破片	(1.6)	(6)	(1.8~ 2.4)	2.6	滑石	10Y9/1褐色	外表面を削り取る
S4	25	71	SK317	上層	石破片	(1.6)	(6)	(1.8~ 2.4)	2.6	滑石	7.5Y9/1褐色	外表面を削り取る
S5	25	71	SC322	上層	粘土	14.4	10.4	2.2~3.3	砂石	7.5Y9/1灰白色	上-底面磁面、側面角あり	

Tab.1-3 I 面出土木製品観察表

器物番号	Fig.	PL.	出土遺構	器種	測量cm(山積)				調査	備考
					高	幅	厚	底		
W1	13	71	SE315	井戸(曲棒脚)					(38.0)	[封蓋類]
W2	13	71	SE320	井戸(曲棒脚)					(21.5)	[封蓋類]
W3	13	71	SE319	井戸(曲棒脚)					(43.3)	[封蓋類]
W4	15	71	SE304	井戸(曲棒脚)	80.2				3.2~4.5	シラク
W5	15	71	SE304	井戸(曲棒脚)	86.5				4.6~5.8	シラク
W6	15	71	SE304	井戸(曲棒脚)	86.5				4.0~4.3	シラク
W7	15	71	SE304	井戸(曲棒脚)	94.2				3.4~3.8	シラク

保有者内面に刃物によじられ
て1枚が全体に入る

器物番号	Fig.	PL	出土遺構	器種	底面(口)面・側面				機種	木取り	測定・備考
					高	幅	厚	角			
W13	15	72	SE305	舟戸神社	(26.3)	(19.4)	2~2.2		モニ属性		方孔の小穴孔1箇所を有する、表面加工痕による直角
W13	15		SE306	舟戸神社	(46.0)				4.8~5.6 (底面)	芯材	芯材
W13	15		SE306	舟戸神社	(36.5)				5.4~5.8 (底面)	芯材	芯材板用に複数の丸穴を有する
W11	15		SE306	舟戸神支柱?	(40.0)	4.9	1.8		スギ	便入取・底面	芯材
W12	15		SE306	舟戸神支柱?	(38.3)				2.75~3.0 (アツキ属性)	小枝利用先端部を削る、直角の直角	
W13	15		SE306	舟戸神支柱?	(37.9)	4.9	3.7		スギ	樺木取・根目	直角
W14	15		SE306	舟戸神支柱?	(31.4)	3.1	1.7		(計量値)	芯材	
W15	15		SE306	舟戸神支柱?	(37.95)	4.5	3.2		スギ	樺木取・根目	直角
W16	15		SE306	馬頭板	61.6	15.4	1.5		(計量値)	樺木底リ?	表面は平滑仕上げ
W17	16		SE306	舟戸神柱(側面)	(31.4)	11.7	0.8		(計量値)		うりの板材、下端部は削り仕上げ
W18	16		SE306	舟戸神柱(側面)	(33.5)	14.2	0.8		(計量値)		うりの板材、下端部は削り仕上げ
W19	16	72	SE315	舟形底板			0.7~0.8	(32.4)	(計量値)	芯材	
W20	16		SE319	舟形底板?	(24.4)	(13.1)	0.4~0.7		ヒノキ		
W21	16		SE319	根付	(18.3)	(4.0)	0.9		スギ	根付	
W22	16		SE319	舟形底板	(17.4)	(4.1)	0.8		スギ	根付	
W23	16		SE319	舟形底板	(13.8)	(8.4)	0.7		セミ属性	根付	
W24	16		SE321	舟戸神社	(65.1)	7.4	3.0		ガシ属性	根付	両端部にハサワ、舟形長方形の根材
W25	16		SE321	舟戸神社	(60.8)	5.9	3.2		スダジイ	物語?	両端部にハサワ、舟形長方形の根材
W26	16		SE321	舟戸神社	(58.2)	4.8	2.0		ブナ属性	芯材	両端部にハサワを持つ
W27	16		SE321	舟戸神社	(57.4)	3.6	2.9		スダジイ	芯材	両端部にハサワを持つ
W28	16		SE334	舟戸神社	(33)	27.8	2.5		スギ	芯材	舟戸神社と複合
W29	16		SE334	舟戸神社	(31.5)	14.8	0.7		スギ	芯材	舟戸神社と複合
W30	16		SE334	不明神材	(25.9)	2.3	0.5		(計量値)	芯材	一側に複数の孔、表面加工なし
W31	16	72	SE334	舟戸神社	64.9	5	3		スギ	芯材?	両端部に2つの切り込み
W32	16	72	SE334	舟戸神社	66.1	5.5~6	3.5		スギ	芯材?	両端部が1.5~2cmの切り込み
W33	16	72	SE334	舟戸神社	61	5.4~6.7	3mm後		スギ	芯材	両端部に2つあるのは1cm、裏側は削り出し
W34	16	72	SE334	舟戸神社	64.5	5.6~6.2	3mm後		スギ	芯材	両端部が2つあるのは削り出し、右は幅1cm、長い4cm後
W35	16	72	SE334	舟戸神社(側面)	(51.8)	23.7	4.0		スギ	芯材	芯材使用・外側面を削りで下端部を手すりとする
W36	16	72	SE334	舟戸神社(側面)	(53.9)	21	3.8		スギ	芯材	芯材使用
W37	16	72	SE334	舟戸神社(側面)	(75.3)	22.7	2.3~3.8		スギ	芯材	芯材利用・削り出し
W38	26		SD305	倒木木製品	(17.0)	刀鉗2.4	0.75		スギ	板材	右端は欠損、左端は削り先状に削り出され、斜面は一端削り
W39	26		SD322-2SE	板材	(36.2)	(14.6)	1.4		スギ	芯材	全面に削れ、表面は欠損
W40	26		SD322-3SE	板材	50.8	14.5	1.7		スギ	芯材	同上に削れあり、裏面は刃物で削り出され、裏側は削り出
W41	26	72	SK317	男根状木製品	17.5	3.0~4.6	2.25~3.3		ミソノウツギ	芯材	はさみ形、丁寧な削り仕上げ
W42	26	SK317-上層	漆喰下板		(19.0)	(5.1)	3.1		ウスノキ科A	芯材	漆の一部
W43	26	SK317	?		(24)	0.6	0.3		ヒノキ		西寄生方面の薄く長い木材
W44	26	SK317	?		(18.5)	0.9	0.3		ヒノキ		西寄生方面の薄く長い木材
W45	26	SK317	舟形底板?		12.8	(3.6)	0.5		(計量値)	芯材	複数底板、表面は「丁」字型で複数な仕上げ、中央に直径1cmの孔あり
W46	26	72	SK317	舟形底板?		0.7	16.2		ヒノキ%	芯材	反っている
W47	26		SK317-上層	舟形底板	(17.3)	(4.0)	0.3		ヒノキ	芯材	刃物による切り込みが多く繊維が多數ある
W48	26		SK317-上層	舟形底板	(25.8)	(4.2)	0.3		ヒノキ	芯材	切り込みが多く繊維が多數ある
W49	26		SK317	舟形側板	(103.5)	(10.5)	0.9~0.4		ヒノキ%	芯材	芯材
W50	27		SK324	舟戸神社	(72.4)	11.5	3.5		スギ	芯材	漆喰が一部剥離、右端は削り出
W51	27		SK324	舟戸神社	(61.5)	12.8	5.0		スギ	芯材?	右端は削り出
W52	27		SK324	舟戸神社	(68.2)	16	2.4		スギ	芯材?	両端部が削り出され、左側は削り出
W53	27		SK324	舟戸神社	(79.6)	13.0	3.7		スギ	芯材	左側は削り出
W54	27	72	SK317	板材	124.0	4.3	0.1~0.3		ヒノキ	芯材	芯材の表面などは収蔵用

Tab.2-1 Ⅲ面出土土器・土製品観察表

標示番号	Fig.	PL	出土遺構	器形・器形	法面 cm	側面 cm	底面 cm	縫隙	塗土	外見色	焼成	機械状況	
001	30	S3349	⑦	漆喰器-高台付	(12.6)	9.2	3.4	内外面ナデ	砂粒少し含む	N7/71灰白色	良好	1/4片	
002	30	S3349	⑦	漆喰器-高台付	(13.6)	(9.6)	3.6	内外面ナデ	砂粒少し含む	N6/G灰色	良好	1/4片	
003	30	S3349	⑦	漆喰器-高台付	9.3			内外面ナデ、外底凹凸へ少しづつ	砂粒少し含む	S/YB1灰白色	中や軟質	直角	
004	30	S3349		漆喰器-高台付	(15.6)	(9.2)	8.0	内外面ナデ	砂粒少し含む	N5/G灰色	良好	1/3片	
005	30	S3349	㉙	漆喰器-高台付	(12.8)			外底凹凸へ少しつり	砂粒少し含む	N6/G灰色	良好	1/2片	
006	30	S3349	㉚	漆喰器-板	(16.2)			内外面ナデ、外底凹凸へ少しつり	鷹丸	N7/G灰白色	中や軟質	直角	
007	30	S3349	㉚	漆喰器-板	(23.0)	2.1		内外面ナデ	砂粒少し含む	N6/G灰色	良好	1/3片	
008	30	S3351	㉑	漆喰器-板	(14.4)	12.0	2.0	内外面ナデ、外底凹凸へ少しつり	砂粒少し含む	N6/G灰色	良好	1/2片	
009	37	SX395		漆喰器-盤	(14.6)	(1.2)		内外面ナデ、外底凹凸へ少しつり	砂粒少し含む	N7/G灰白色	良好	1/2片	
010	37	SX395		漆喰器-盤					砂粒少し含む	N6/G灰色	つまみ器		
011	37	SX395		漆喰器-盤				内外面ナデ	砂粒少し含む	N7/G灰白色	良好	1/3片	
012	37	73	SX395	R-1	漆喰器-杯	19.3	9.4	6.4	内外面ナデ、外底ナロ	砂粒少し含む	N4/G灰色	ほぼ完形	

参考書 Fig.	PL.	出土状況	出土位置	器種・形	測量 cm	上山深C造跡	調査		跡土	外表面色	焼成	残存状況
							口径	縦径	高さ	底径		
013	37	75	SX395	圓窓器・束合村坪	(13.7)	8.6	4.3	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	SPB01 黄褐色	良好	2.8cm
014	37	73	SX395	圓窓器・束合村坪	(14.0)	(7.8)	5.3	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR7/1灰白色	良好	1.6cm
015	37	SX395	圓窓器・束合村坪		(9.8)			内底面凹・少切欠	砂粒少し含む	N6G灰色	良好	3.0cm
016	37	SX395	圓窓器・束合村坪		(9.8)			内底ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	SPB01 黄褐色	良好	遮蔽片
017	37	SX395	圓窓器・束合村坪					内外面ナメ	砂粒少し含む	SP6/1灰白色	良好	1.8cm
018	37	SX395	圓窓器・坪	(11.8)	7.0	3.1	内外面ナメ	砂粒少し含む	N6G灰色	良好	1.8cm	
019	37	SX395	圓窓器・坪	(13.0)	(8.4)	4.0	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR7/1灰白色	良好	1.8cm	
020	37	73	SX395	圓窓器・坪	(13.4)			内外面ナメ、縁付	砂粒	10YR5/2灰褐色	破損	口縁部1.6cm、奥門部
021	37	SX395	黑色土器・坪	(9.8)			内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.8Y7/2灰褐色	良好	1.6cm	
022	37	SX395	黑色土器・坪	(6.8)			内外面ナメ	砂粒少し含む	2.8Y7/2灰褐色	良好	1.4cm	
023	37	SX395	圓窓器・束合村坪					砂粒多く含む	N5G灰色	良好	把手	
024	37	73	SX395	圓窓器・束合村坪	16.5	9.4	8.4	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り、縁付	砂粒少し含む	10YR6/2灰褐色	良好	遮蔽片
025	37	SX395	土師器・束合村坪	(8.8)			内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	表面	
026	37	SX395	土師器・束合村坪		9.0		内外面ナメ、外底面輪へ少凹り後	砂粒少し含む	7.5YR7/4C/3J-1褐色	良好	底部	
027	37	SX395	土師器・束合村坪		8.4		内外面ナメ少々ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	底部	
028	37	SX395	土師器・束合村坪	(9.2)			内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.8Y7/2灰褐色	良好	底部	
029	37	SX395	土師器・束合村坪	9.2			内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	7.5YR6/2灰褐色	良好	底部	
030	37	SX395	土師器・束合村坪	8.4			内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	底部	
031	37	SX395	土師器・坪	(14.5)	7.4	3.8	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	1.8cm	
032	37	SX395	土師器・坪	13.0	8.1	3.5	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.8Y7/2灰褐色	良好	把手	
033	37	SX395	土師器・坪	(16.0)	9.8	3.9	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	把手	
034	37	SX395	土師器・坪	(16.0)	(6.4)	3.3	内外面ナメ、内底面輪へ少凹り、外底	砂粒	10YR5/2灰褐色	良好	1.8cm	
035	37	73	SX395	土師器・坪	12.5	7.2	3.8	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR6/2灰白色	良好	把手
036	37	SX395	土師器・坪	(11.7)	2.4	3.3	内外面輪へ少凹り、磨滅	砂粒少し含む	7.5YR7/4C/3J-1褐色	中や不良	1.2cm	
037	37	SX395	土師器・坪	(12.2)	(7.8)	3.2	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰褐色	中や不良	1.2cm	
038	37	73	SX395	土師器・坪	12.7	7.8	3.7	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.8Y7/2灰褐色	良好	受影
039	37	SX395	土師器・坪	12.8	8.0	3.6	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰褐色	良好	1.2cm	
040	37	SX395	土師器・坪	(12.0)	(7.2)	3.2	内外面輪へ少凹り、外底面輪	砂粒少し含む	7.5YR6/4浅黃褐色	良好	1.2cm	
041	37	SX395	土師器・坪	12.9	7.5	3.5	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒	10YR6/2灰白色	良好	3.4cm	
042	37	73	SX395	土師器・坪	13.0	7.1	3.5	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR6/3浅黃褐色	中や不良	定期
043	37	SX395	土師器・坪	(13.0)	(7.0)	3.3	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR6/4浅黃褐色	良好	1.6cm	
044	37	SX395	土師器・坪	(12.6)	(7.0)	3.2	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黄褐色	良好	1.2cm	
045	37	SX395	土師器・坪	(12.2)	(8.2)	3.8	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰褐色	良好	1.2cm	
046	37	SX395	土師器・坪	(12.0)	(7.0)	3.7	内外面輪へ少凹り、外底面輪	砂粒少し含む	10YR6/3浅黃褐色	中や不良	1.2cm	
047	37	SX395	土師器・坪	(13.0)	7.3	3.1	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黃褐色	良好	1.2cm	
048	37	SX395	土師器・坪	(15.2)	(8.6)	3.5	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
049	37	SX395	土師器・坪	12.6	7.4	4.0	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰褐色	良好	3/4片	
050	37	73	SX395	土師器・束合村坪	13.7	7.8	3.8	内外面ナメ	砂粒	10YR6/4浅黃褐色	中や不良	4.6cm
051	37	SX395	土師器・坪	(14.0)	(10.7)	1.8	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	7.5YR7/4C/3J-1褐色	良好	1.4cm	
052	37	SX395	土師器・坪	(15.4)	(12.2)	1.4	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒	10YR7/2C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
053	36	73	SX395	圓窓器・馬頭彫				外周に自然剥離	砂粒	N7/0灰白色	良好	馬頭
054	38	SX395	圓窓器・馬頭彫		(18.2)			内外面ナメ	砂粒	SPB01 黄褐色	良好	1.4cm
055	36	SX395	圓窓器・馬頭彫		(20.0)			内外面ケツナメ、ナメ・内面ナメ	砂粒少し含む	SPB01 黄褐色	調査片	
056	36	SX395	圓窓器・馬頭彫		(16.8)			ナメ	砂粒少し含む	N4G灰色	良好	口縁部1.6cm
057	38	SX395	丸瓦				内側裏面・田舎町瓦	砂粒少し含む	2.5Y6/1灰白色	瓦質		
058	43	SX403	土師器・坪	14.0	8.8	3.2	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	N7/0灰白色	良好	3/4片	
059	43	SX421	土師器・坪	(16.0)	12.4	3.1	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR6/3浅黃褐色	良好	定期	
060	43	SX421	土師器・坪	(13.4)	(9.4)	4.9	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	2.5Y6/1灰白色	良好	1.4cm	
061	43	SX421	土師器・坪	(13.4)	7.2	3.4	内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/2C/3J-1黃褐色	良好	1.2cm	
062	43	SX421	土師器・坪	(13.6)	(8.0)	3.7	内外面ナメ・底減	砂粒少し含む	N8G灰白色	良好	1.2cm	
063	43	SX421	土師器・束合村坪		8.4		内外面ナメ、外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	7.5YR7/4C/3J-1褐色	良好	照應のみ	
064	43	SX421	土師器・鉢	(22.4)			ナメ	砂粒较少含む	7.5YR5/4C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
065	46	73	S0062	土師器・坪	15.2	8.4	3.3	内外面ナメ・田舎町瓦・外底面輪	砂粒	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.2cm
066	46	S0062	土師器・坪	(14.0)	(9.0)	3.8	内外面ナメ・田舎町瓦・外底面輪	砂粒	10YR5/3C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
067	46	S0062	土師器・坪	(13.8)	(8.7)	3.4	内外面ナメ・底減	砂粒少し含む	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
068	46	S0062	土師器・坪	(15.6)	(8.9)	4.0	内外面ナメ	砂粒	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
069	46	S0062	土師器・坪	(13.6)			内外面ナメ	砂粒少し含む	2.5Y7/2灰褐色	良好	1.6cm	
070	46	S0062	土師器・坪	(13.2)	7.0	3.7	内外面ナメ・田舎町瓦・外底面輪へ少凹り	砂粒	10YR6/3浅黃褐色	中や不良	1.2cm	
071	46	S0062	土師器・坪	(13.2)	7.8	3.1	内外面ナメ	砂粒少し含む	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.4cm	
072	46	73	S0062	土師器・坪	13.1	8.0	3.8	内外面ナメ・外底面輪へ少凹り	砂粒	2.5Y7/2灰褐色	良好	2.0cm
073	46	73	S0062	土師器・坪	13.0	7.9	3.8	内底面凹板子・外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	底部片
074	46	S0062	土師器・坪	(13.0)	(7.8)	3.2	内外面ナメ・外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.6cm	
075	46	S0062	土師器・坪	(12.8)	7.0	3.1	内外面ナメ・外底面輪へ少凹り	砂粒少し含む	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.6cm	
076	46	S0062	土師器・坪	(12.4)		3.4	内外面ナメ・田舎町瓦・外底面輪	砂粒	10YR7/3C/3J-1黃褐色	良好	1.2cm	

器名番 号	Fig.	P.L.	出土箇所	出土位置	器種・器形	測量 cm □幅 □奥行 □高さ	日本標準寸 寸法	調査	断土	外表面調	焼成	残存状況他	
								内底面	内底面	底面	高さ		
077	46	SD362	土器層・坪					外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	底部保存	
078	46	SD362	土器層・坪			8.0		外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	7.5YR7/2C-J1・黄褐色	良好	底部保存	
079	46	SD362	土器層・坪			8.0		内底面ナダ・外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	口縁保存	
080	46	SD362	土器層・高台付坪	[12.4]		(7.8)	4.1	内底面ナダ・外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR8/4D-2J1・浅黃褐色	良好	1/2片	
081	46	SD362	土器層・塗	[14.6]		2.5		内底面ナダ・外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/2片	
082	46	SD362	黒色土器A層・横			(8.8)		内底面ナダ	砂粒	N7/0E白色	良好	底部1/2片	
083	46	73	黒色土器A層・横	高台付坪	15.6	8.0	5.5	内外面ナダ・外底面ヘラ切り	砂粒少し含む	5P86/1灰褐色	良好	底部保存	
084	46	SD362	黒色土器A層・高台付坪			(8.4)		外底面ヘラ切り後ナダ	砂粒少し含む	N9/0E色	良好	1/4片	
085	46	SD362	土器層・塗					横ナダ	砂粒少し含む	2.5Y7/0灰黄色	良好	口縁保存	
086	46	SD362	丸瓦					内底面窓・塔子形孔・斜面有	砂粒少し含む	N5/0E色	良好	底面質	
087	46	SD362	平瓦					内底面窓・塔子形孔	砂粒少し含む	2.5Y9/0灰白色	良好	底面質	
088	47	74	SD402	土器層・坪	[15.4]	9.0	4.3	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/4C-J1・黄褐色	良好	2/3片	
089	47	SD402	土器層・坪	[15.1]		3.5		内外面ナダ・外底面ナダ	砂粒少し含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	3/5片	
090	47	SD402	土器層・坪	[14.4]		(8.6)	3.3	内外面ナダ	砂粒少し含む	N7/0E灰白色	中や軟質	1/1片	
091	47	SD402	土器層・坪	[13.8]		(9.2)	3.7	内底面ナダ・外表面窓	陶丸	2.5Y7/0灰黄色	良好	1/4片	
092	47	SD402	土器層・坪	[13.0]		(7.4)	3.9	内底面窓	砂粒少し含む	10YR8/4浅黃褐色	中や軟質	1/4片	
093	47	SD402	土器層・坪	13.0		3.0		内底面ナダ	砂粒少し含む	7.5YR7/4C-J1・灰褐色	良好	3/4片	
094	47	SD402	土器層・坪	12.7		7.6	2.5	磨滅で不明	砂粒少し含む	9Y7/1灰白色	良好	3/5片	
095	47	SD402	土器層・坪	[12.6]		(8.2)	3.5	内底面ナダ	陶丸	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/4片	
096	47	SD402	土器層・坪	[12.4]			3.8	内外面ナダ・外底面窓・横ナダ	陶丸	2.5Y8/0灰白色	中や軟質	2/5片	
097	47	SD402	土器層・坪	12.2			3.3	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	10YR8/4浅黃褐色	良好	1/2片	
098	47	SD402	土器層・坪			8.6		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	底面	
099	47	SD402	土器層・塗	[17.4]		2.5		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/4片	
100	47	SD402	土器層・塗	[16.3]		(13.0)	2.1	内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	7.5YR8/4浅黃褐色	良好	1/2片	
101	47	SD402	土器層・塗	[16.0]		2.0		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	2.5Y7/0灰黄色	良好	1/3片	
102	47	SD402	土器層・塗	14.8		1.9		内底面ナダ・内窓・外底面窓	砂粒少し含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	は的保存	
103	47	SD402	土器層・塗	[13.2]		2.5		内外面ナダ	砂粒少し含む	10YR8/4灰白色	中や軟質	1/4片	
104	47	74	SD402	土器層・塗	[17.2]	4.1		内外面ナダ・内底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/4片	
105	47	SD402	黒色土器A層・横	[14.4]				内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	2.5Y7/0灰黄色	良好	1/3片	
106	47	74	SD402	黒色土器・坪	[12.6]	7.6	3.5	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	7.5Y7/1灰褐色	良好	1/4片	
107	47	SD402	黒色土器・坪	[13.6]	(9.0)	3.3		内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	1/2片	
108	47	SD402	黒色土器・横	[13.4]	(10.0)	4.0		内外面ナダ	砂粒少し含む	10YR8/1灰白色	良好	1/4片	
109	47	74	SD402	黒色土器・塗	17.8	14.6	4.4	内外面ナダ・内底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	N6/0E色	良好	は的保存	
110	47	SD402	黒色土器・塗	[18.0]		1.8		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	5P86/1灰褐色	良好	1/4片	
111	47	SD402	黒色土器・塗	[19.0]				内底面ナダ	陶丸	2.5Y7/1灰白色	良好	1/4片	
112	47	SD402	黒色土器・塗	[17.6]		1.7		内底面ナダ	砂粒少し含む	2.5Y7/1灰白色	良好	1/4片	
113	47	SD402	丸瓦					内底面窓・塔子形孔・斜面有	砂粒少し含む	2.5Y7/0灰白色	良好	底面質	
114	48	SD404	土器層・坪	13.8	8.4	3.2		内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	陶丸	10YR7/4C-J1・黄褐色	良好	完形	
115	48	SD404	黒色土器・塗	[16.4]	(12.2)	3.3		内外面ナダ	砂粒少し含む	N7/0E白色	中や軟質	1/6片	
116	48	SD404	黒色土器・塗	[17.2]	(12.0)	2.5		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	N6/0E色	良好	1/5片	
117	48	SD404	土器層・塗	[13.6]	(10.2)	1.8		内底面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	中や軟質	1/4片	
118	48	74	SD411	土器層・坪	15.2	8.5	3.6	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/4C-J1・黄褐色	良好	1/2強	
119	48	SD411	土器層・塗	[14.7]		12.5	2.2	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/2片	
120	48	SD411	土器層・砂動土層					砂動土	砂粒少し含む	2.5Y7/0灰黄色	良好	片	
121	48	74	SD411	黒色土器・高台付坪	12.6	8.6	4.3	内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒少し含む	N6/0E色	良好	1/2片	
122	48	SD414	土器層・坪	11.6	8.5	2.5		内外面ナダ・外底面窓・ハラ切ナダ	砂粒多く含む	2.5Y7/0灰白色	良好	は的保存	
123	49	SX395	土器層・小壁壘	[7.4]	(9.2)	8.8		砂動土	砂粒多く含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	1/2片	
124	49	75	SX395	土器層・小壁壘	11.5	11.5	5.9		砂動土	砂粒多く含む	2.5Y7/0灰白色	中や軟質	は的保存
125	49	75	SD366	土器層・大壁壘	18.4				砂動土	砂粒少し含む	2.5Y7/0灰白色	良好	口縁
126	49	6X395	黒色土器・塗	[15.2]				標部に鉛杖文	砂粒少し含む	N5/0E色	良好	口縁	
127	49	SX412	生土土器・塗	[41.8]					砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	口縁	
128	49	SX396	生土土器・塗	[36.0]					砂粒多く含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	口縁	
129	49	6X395-1	生土土器・塗	[34.4]					砂粒多く含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	口縁	
130	49	SD402	生土土器・塗	[29.8]					砂粒多く含む	2.5Y7/0灰白色	良好	口縁	
131	49	SD402	生土土器・塗	[29.0]					砂粒多く含む	7.5YR16/4C-J1・灰褐色	良好	口縁	
132	49	75	SD411	生土土器・塗	[23.0]					砂粒多く含む	7.5YR4/2C-J1・褐色	良好	口縁
133	49	75	SD402	生土土器・塗	(7.4)				陶毛目	砂粒多く含む	10YR7/2C-J1・黄褐色	良好	口縁
134	49	75	SD362	生土土器・塗	8.2				陶毛目	砂粒多く含む	10YR6/9D-2J1・黄褐色	良好	口縁
135	49	SD402	生土土器・塗	8.2				砂動土	砂粒多く含む	2.5Y7/0灰白色	良好	底部	
136	49	75	SX415	生土土器・塗	8.1				砂動土	砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底部
137	49	SX395-1	生土土器・塗	7.7				砂動土・灰滅	砂粒多く含む	10YR6/9D-2J1・黄褐色	良好	底部	
138	49	6X415	生土土器・塗	7.6				砂動土	砂粒多く含む	2.5Y7/1灰白色	良好	底部	
139	49	75	SD362			10.4	9.4		砂粒多く含む	10YR7/3C-J1・黄褐色	良好	底部	

Tab.2-2 Ⅲ面出土石製品観察表

器物番号	Fig.	PL.	出土場所	出土位置	器種・器形	測量(mm)			石材	名稱	調査・参考
						高	幅	厚			
S1	49	75	SD067	刀劍	刀劍	19.4	5.6	0.5	10YR6/1灰褐色		
S2	49	75	SD495	刀劍	(8.7)	(4.9)	0.9	地理省6號	SYR6/2オーネー色		
S3	49		SD062	鐵劍	鐵劍	9.2	6.4	1.1	地理省6號	SYR6/1灰褐色	
S4	49		SD403	鐵劍	(4.0)	2.9	0.9	地理省6號	SYR6/1灰褐色		
S5	49	75	SD402	劍頭部	4.0	4.0	1.1	鐵劍の頭部	10YR6/1灰褐色		

Tab.2-3 Ⅲ面出土木製品観察表

器物番号	Fig.	PL.	出土場所	器種	測量(mm)①は横・②は縦			樹種	木取り	調査・参考
					高	幅	厚			
W1	39		SD355	人形	(43.6)	7.7	0.6~0.7	ヒノキ	柱目	
W2	39		SD355	人形	(41.6)	(7.2)	0.6	スギ	柱目	辺境材利用
W3	39		SD355	人形	(43.2)	(7.6)	0.6	スギ	柱目	辺境材利用
W4	39	75	SD355	骨笛	(6.6)	0.6	0.7	スギ	辺境材利用	
W5	39	75	SD355	刃	7.6	1.6	0.6	スギ		
W6	39	75	SD355	鉄削り頭部	(33.5)		1.5~2.5	北洋材		
W7	39	75	SD355	馬頭形削り	54.6	8.1	0.5	スギ	柱目	はなこ木に円筒の丸2+
W8	39	75	SD355	骨笛?	(61.3)	3.9	0.5	ヒノキ	柱目	
W9	40		SD355	骨笛	(30.7)	4.0	0.7	スギ		最高高さ35cm
W10	40	75	SD355	骨笛木筒	19.1	5.1	0.7	ヒノキ	柱目	
W11	40	75	SD355	鉄削り頭部	(14.9)	1.1	0.5	スギ		
W12	40	75	SD355	木筒	(10.0)		0.7	スギ		
W13	40	75	SD355	骨笛頭部	2.4	0.6	0.5	スギ	柱目	
W14	40	75	SD355	人形	(15.6)	7.3	1.5	スギ	柱目	
W15	40	77	SD355	骨笛 頭	(17.2)	(13.9)	1.5	(1.8)	リラク葉	柱目
W16	40	77	SD355	骨笛		26.5	1.7	モミ		
W17	40		SD395	曲物	高(3.0)	0.4~0.6	10.2~18.3	ヒノキ	板目	辺境使用ケヤク板面は4箇所で板皮織
W18	40		SD395	曲物	高(6.0)		16.5~18.0	針葉樹	板目	天板と脚側4箇所の板皮織で複合
W19	40	77	SD395	曲物	高(2.8)	16.2	0.7	ヒノキ		
W20	40	77	SD395	曲物	高(2.7)	17.0	0.7	ヒノキ		
W21	40		SD395	曲物	0.5~0.6	5.5	0.7	ヒノキ		柱皮織4箇所
W22	40	77	SD395	曲物	0.55	1.8	0.7	ヒノキ		柱皮織4箇所
W23	40		SD395	曲物	0.5	18.4	0.7	ヒノキ		柱皮織4箇所
W24	40	77	SD395	漆塗り 鉄物裏面	0.7	11.0	0.6	スギ		馬鹿の上に漆皮織
W25	40	77	SD395	曲物	0.5	(1.6)	0.7	ヒノキ		丁寧な作り
W26	40		SD395	曲物	0.5~0.7	(17.1)	0.7	ヒノキ	板目	板皮織3箇所が複合(本体は4箇所用)
W27	40	77	SD355	曲物	0.4	(18.6)	0.7	モミ	柱目?	
W28	40	77	SD355	曲物	1.0	30.4~30.9	ヒノキ	柱目	柱皮織4箇所	
W29	40	77	SD355	曲物	0~3.5	13.0~14.0	ヒノキ	柱目	柱皮織4箇所	
W30	41	75	SD355	絹織物	(25.6)			スギ	柱目	柱皮織4箇所+又傳に方筋丸
W31	44	75	SD403	人形	(91.5)	(8.2)	(8.2)	モミ	柱目	柱皮織又傳丸
W32	44		SD403	骨笛	(13.7)	1.8	0.2	ヒノキ		
W33	44		SD403	小獣形瓦器裏面	26.0	1.6~3.0	0.4	針葉樹	柱目	
W34	44		SD403	漆塗り 幅	高(4.1)	29.8	0.7	ヒノキ		
W35	44	75	SD403	曲物	0.5~0.7	18.0	0.6	モミ		柱皮織
W36	44	75	SD403	曲物	0.6	18.0	0.6	モミ		柱皮織
W37	44	78	SD403	曲物	55.4	36.0	0.3~0.7	ヒノキ	柱目	底面は2枚板からなる
W38	45	79	SD362	漆桶	高(1.0)		5.0~7.0	シラカバ	柱目	柱皮織が底面
W39	45	79	SD362	漆桶	16.0	中央幅4.3	(20.1)	ヒノキ	柱目	柱皮織が底面
W40	48		SD362	曲物	高(5.9)	0.3~0.4	17.8	モミ	柱目	側面以4箇所の板皮織(3箇所複合)
W41	48		SD362	曲物	0.8	15	ヒノキ	柱目	側面以4箇所複合	
W42	47		SD402	漆桶	(50.4)	8.3	0.5	ヒノキ	柱目	側面以4箇所複合
W43	48	76	SD398	加工材	116.8	9.3	2.1~2.3	ヒノキ		

Tab.3-1 Ⅲ面出土土器・土製品観察表

器物番号	Fig.	PL.	出土場所	断面・形態	測量(cm)			断面	胎土	外表面色	焼成	保存状況地	
					口径	底径	高さ						
1	S2	70	SD190	圓窓器・身	11.4	13.5	4.2	外直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂多く含む	7.5YR6/1黒褐色	良好	直角	
2	S2	SD190	上層	圓窓器・身	(9.9)	(12.4)	(3.2)	外直壁圓窓口付	粗砂	NS灰褐色	良好	伴存1箇所	
3	S2	79	SD190	下層	圓窓器・身	(12.9)	(14.0)	4.5	外直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂含む	NS灰褐色	良好	約1箇所
4	S2	SD190	下層	圓窓器・身	(12.0)	(12.8)	(3.4)	外直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂	7.5YR7/1灰白色	中や不良	1箇所	
5	S2	SD190	下層	圓窓器・身	(12.0)	(12.5)	(3.5)	外直壁圓窓口付、二重の腰帶状文様	粗砂	10YR6/1灰褐色、外側白粘土	良好	直角	
6	S2	SD190	下層	圓窓器・身	(12.2)	(12.0)	(3.5)	外直壁圓窓口付、腰帶状文様	粗砂	7.5YR7/1灰褐色、アーチの白粘土	良好	直角	
7	S2	SD190	土師器・蓋		(14.5)	(14.7)		内直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂及び全周部多く含む	7.5YR6/2灰褐色	普通	口縁前1箇所	
8	S2	SD190	土師器・身		(15.0)	(15.0)	(7.0)	内直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂多く含む	10YR5/2灰褐色	普通	口縁前1箇所	
9	S2	SD190	下層	土師器・身+窓基	(13.1)	(13.5)	(3.75)	内直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂や多く含む	10YR6/2灰褐色	普通	口縁前1箇所	
10	S2	79	SD190	上層	土師器・蓋	(12.12)	(12.12)	(3.8)	内直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂	7.5YR7/3灰褐色	普通	脚部網目
11	S2	SD190	上層	土師器・蓋	(2.6)	(3.4)	(2.7)	内直壁圓窓口付	粗砂	10YR7/3灰褐色	普通	脚部網目	
12	S2	79	SD190	下層	土師器・蓋	(13.4)	(8.8)	(3.8)	内直壁圓窓口付、内側斜面付	粗砂	10YR7/3灰褐色	普通	脚部網目
13	S2	SD190	土師器・合付鉢		(10.0)	(8.8)	8.7	平底付、外側斜面付、内側直面付	粗砂含む	10YR6/3灰褐色	普通	約1箇所	
14	S2	SD190	土師器・合付鉢		(10.0)	(8.4)	(3.4)	全体付、外側斜面付、内側直面付	粗砂多く含む	10YR6/3灰褐色	普通	脚部1箇所	
15	S2	SD190	上層	土師器・合付鉢	(17.8)	(17.8)	(3.9)	中や底窓、ツブテ	粗砂少含む	7.5YR6/2灰褐色	普通	脚部1箇所	
16	S2	SD190		土師器・合付鉢	(7.4)	(2.4)	(2.4)	内直壁圓窓口付、腰帶状文様	粗砂若干含む	2.5YR5/0オーラー褐色	普通	脚部2箇所	
17	S2	SD190	下層	土師器・合付鉢	5.0	(2.9)	(2.9)	脚部平行窓口付、内側や中腰窓	粗砂多く含む	5YR5/0灰褐色	良好	脚部のみ複数	
18	S2	SD190	上層	土師器・蓋	(2.8)	(2.4)	(2.4)	脚部平行窓口付	粗砂多く含む	7.5YR6/4鉛褐色	普通	直接複数	
19	S2	SD190		ミニチュア土器・鉢	3.2~3.3		2.4	脚部平行窓口付	粗砂多く含む	10YR6/2灰褐色	良好	直接複数	
20	S2	79	SD190	ミニチュア土器・鉢	3.7~4.5		2.9	脚部平行窓口付	粗砂	7.5YR7/1灰褐色、表面に鉛斑付	普通	充分	

報告書 番号	Fig.	P.L.	出土遺物	出土位置	器種・器形	測量 cm	日本標準式 口径 周長 底面 高さ	調査		断土	外表面調	焼成	推定状況
								内面	背面				
21	52	79	SD190	上層	セミ土器・鉢	3.6	3.2	内面底面丸み仁じん	細粒收多く含む	10YR45/1暗灰色	良好	安存	
22	52	79	SD190		セミ土器・鉢	(5.0)	3.7	内面底面丸み仁じん、底面 側面引目呈す	細粒收多く含む	2.5Y5/4暗・黄褐色	良好	約1/2焼成	
23	52	SD190	下層	生土器・壺	(19.6)	(8.0)	腹面がひらいたが	細粒收多く含む	SYTR6/5褐色	望遠	白壁部	約1/2焼成	
24	52	SD190		生土器・壺	(8.6)	(7.6)	内面底面丸み仁じん、口端部分 でやや厚め	細粒收多く含む	10YR5/4暗・黄褐色	望遠	口縁部小破片		
25	52	SD190	下層	生土器・壺	(9.6)	(8.6)	内面底面丸み仁じん、口端部分 でやや厚め	細粒收多く含む	10YR7/3暗・黄褐色	望遠	口縁部細片		
26	52	SD190		生土器・壺	瓶形	(8.6)	内面底面丸み仁じん、外縁部 で爪型工具痕	細粒收多く含む	2.5Y5/2暗灰黄色	望遠	瓶形一肩部1枚存		
27	52	SD190		生土器・壺		(11~ (7.0)	内面底面丸み仁じん、外縁部 で爪型工具痕	細粒收多く含む	10YR3/1黒褐色、供分付葉 ガラス等付の1枚存	望遠	底部1枚存		
28	52	SD190	下層	生土器・壺	(7.6)	(5.6)	内面底面丸み仁じん、外縁部 で爪型工具痕	細粒收多く含む	10YR4/2灰黄褐色、外縁部付 ガラス等付の1枚存	望遠	底部瓶片		
29	52	SD190		生土器・高杯	(22.7)	(5.7)	全周面凹凸感、底面不規則、口端 部内側引目付	細粒收多く含む	7.5YR7/3弱・褐色	やや不良	坪庭1枚存		
30	54	SD198	便器部・灰窓	(13.6)	(1.3)	目輪付		細粒收多く含む	BY4/1灰褐色	良好	口縁部1枚存		
31	54	SD198		生土器・鉢	8.5	(2.6)	内面丸びく、外縁部、工具痕 付	細粒收多く含む	10YR1/1黒褐色	良好	底部瓶片		
32	54	SD198	ペルト式	土器部・壺	(23.2)	(9.7)	腹面がひらいたが、内面 付	細粒收多く含む	2.5Y5/1黄褐色	望遠	口縁部1枚存		
33	54	SD373	便器部・高杯	(1.96)		全周面凹凸感、外縁部不規則 付	細粒收多く含む	N2灰白色	良好	口縫1枚存			
34	54	SD375	土器部・壺	(17.0)	(8.6)	4.4	内面底面丸み仁じん、外縁部 付	細粒收多く含む	SYTR6/4暗・褐色、口縫外縁 付	望遠	口縫1/2焼成		
35	54	SD376	ペルト式	土器部・把手	(5.6)	幅3.7	2.1	全面底面丸み仁じん	細粒收多く含む	上-5YR4/6暗褐色 下-5YR5/1黒褐色	望遠	把手部の1枚存	
36	54	SD378	便器部・壺		(11.4)	(1.95)	内面底面丸み仁じん、臺面付 内側アーチ	細粒收多く含む	N7灰白色	不良	臺面部1枚存		
37	54	SD383	土器部・壺	(11.6)			中や底面、底面内側アーチ、外 縁部下平付	細粒收多く含む	10YR7/3弱・褐色、底面2.6 瓦面	普通	頭部-底部瓶片		
38	54	SD387	生土器・壺	(15.6)	(29.8)		内面底面丸み仁じん、底面下平付 底、底面内側アーチ	細粒收多く含む	10YR6/2灰黄褐色、口縫一部 2.2付	普通	口縫-頭部瓶片		
39	54	SD387	生土器・壺	(13.6)	(10.6)		内面底面丸み仁じん、口縫 付近で下平付	細粒收多く含む	2.5Y7/5暗黄色	普通	口縫部破片		
40	54	SD390	I区	生土器・壺	(4.36)		口縫部外側引目付、内面付 近	細粒收少量含む	2.5YR5/4弱・赤褐色	普通	口縫部1枚存		
41	54	SD390	I区	生土器・壺	(4.36)		内面付近引目付、外縁部 付	細粒收多く含む	10YR5/2灰黄褐色	望遠	肩部小破片		
42	54	SD390	I区	土器部・壺	(12.0)	(3.8)	口縫部外側引目付、内面付 近、内縫付近引目付、下平工刃 付	細粒收多く含む	2.5Y7/2灰黄色	普通	口縫-側面部瓶片		
43	54	SD390	I区	生土器・壺	(15.0)		内縫付近引目付、内縫付 近上半周引目付、下平工刃付	細粒收多く含む	2.5Y7/0灰黄色	普通	口縫-底部1枚存		
44	54	SD390	I区	生土器・壺	(16.0)	(6.2)	口縫部引目付、内縫付 近、下平工刃付、口縫部内面 付	細粒收少量含む	SY5/2オリーブ黒色、以厚く付 着	良好	口縫-底部1枚存		
45	54	SD390	I区遺跡	生土器・壺	(24.0)	(13.2)	内工刃付近で口縫部引目付、 内縫部内面付近引目付、口縫部 付	細粒收多く含む	2.5GY5/1薄オリーブ灰褐色、以 厚く付着	やや良好	口縫-側面部1枚存		
46	54	SD390	I区遺跡	生土器・壺	(26.4)	(8.0)	内面引目付、脚部外側引目付、 内縫部引目付	細粒收多く含む	10YR6/2弱・褐色	普通	口縫部1枚存		
47	54	SD390	I区遺跡	生土器・壺	(27.0)	(6.65)	口縫部引目付、内縫部引目付 付	細粒收多く含む	7.5YR7/3弱・褐色	普通	口縫部1枚存		
48	55	SD390	I区	生土器・壺	(41.0)	(8.5)	口縫部引目付、内縫部引目付、 脚部引目付、口縫部脚部引目付、 内縫部引目付	細粒收多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縫部1枚存		
49	55	SD390	I区遺跡	生土器・高杯	(29.0)	(4.65)	内縫部引目付	細粒收多く含む	10YR5/2灰黄褐色	普通	口縫部1枚存		
50	55	SD390	I区	生土器・高杯	(30)		口縫部底面引目付、内面引目 付付	細粒收多く含む	10YR6/2弱・褐色	普通	口縫-腰部頂上に復元		
51	55	SD390	I区	土器部・台面	脚部高 (7.0)	(5.65)	(8.6)	内面引目付、脚部外側引目付、 内縫部引目付	細粒收多く含む	7.5YR5/2灰褐色	普通	頂部1枚存	
52	55	SD390	I区	土器部・合併鉢		(8.6)	(8.6)	内面引目付、工具痕	細粒收	7.5YR7/3弱・褐色	良好	腰台部1枚存	
53	55	SD390	I区高窓	ミニチュア土器・鉢	(4.8)	(3.2)	全周面引目付	細粒收	10YR6/2弱・褐色	普通	1/2枚存		
54	55	SD390	I区	便器部・手盆	14.2	10.85	0.6~0.8 手盆付	細粒收多く含む	SGY2/1オリーブ黒色	普通	腰台部1枚存		
55	55	SD390		土器部・鉢	(14.6)	(3.6)	腹面がひらいたが引目付	細粒收	2.5YR6/4弱・褐色	望遠	口縫部1枚存		
56	55	SD390		土器部・鉢	(2.7)	(2.7)	口縫部内面引目付後付	細粒收	2.5YR7/4弱・褐色	普通	口縫部小破片		
57	55	SD390		土器部・壺	(18.4)	(8.6)	口縫部引目付、内縫部引目付、 脚部引目付	細粒收少含む	10YR6/2灰黄褐色	普通	口縫部1枚存		
58	55	SD390		便器部・手盆	(11.0)	(3.7)	二槽型二段引目付、内縫部 引目付	細粒收	SP96/1灰褐色-SP93/1灰褐色 白色	普通	1/4枚存		
59	55	SD390		便器部・手盆	(14.0)	(8.6)	内面引目付	細粒收	10YR5/1灰褐色	良好	口縫部1枚存		
60	56	SK-418	SK345 下層	土器部・壺	(18.4)	4.5		内部底面引目付など1脚+脚部 外縁部引目付、板状	細粒收、黑色斑海苔を含む C	2.5Y7/2灰褐色	良好	1/2枚存	
61	57	SX389		便器部・手盆			[1.0] 目輪付	黑色粒子多く含む	10GB4/1暗青灰色	普通	口縫部小破片		
62	57	SX389		便器部・手盆			[2.0] 四方付	黑色粒子多く含む	N7灰白色	普通	口縫部小破片		
63	57	SX389		便器部・手盆	(13.9)	(8.65)	目輪付	細粒收少含む	SP95/1青灰色	普通	口縫部小破片		
64	57	SX389		土器部・鉢	(5.5)	(5.5)	内面引目付	細粒收少含む	10YR6/2暗・N4暗灰色	良好	口縫部1枚存		
65	57	SX389		土器部・鉢	(5.7)	(5.7)	口縫部引目付、内面引目付	細粒收少含む	2.5Y5/2灰青色	普通	新断片		
66	57	SX389		土器部・壺	(4.76)	(4.76)	腹面がひらいたが引目付	細粒收少含む	2.5YR5/2灰褐色	普通	口縫部小破片		
67	57	SD390		土器部・高杯	11.0	(8.1)	内面引目付、外縁部引目付	細粒收少含む	SYTR6/5明赤色	普通	腰部破片		
68	58	SD388		便器部・手盆		(3.1)	目輪付	細粒收	2.5Y5/1黄褐色	良好	口縫部小破片		
69	58	SD388		便器部・手盆		(4.75)	目輪付	細粒收	N3灰褐色	良好	口縫部小破片		
70	58	SD388		土器部・手盆	(12.6)	(7.2)	内面引目付、内縫部引目付	細粒收	2.5YR6/4弱・褐色	良好	1/2枚存		

参考書	Fig.	PL.	出土遺物	出土位置	器種・形態	測量 cm	寸法等	調査	胎土		外表面色	焼成	施釉状況
									口径	脚径	底径	高さ	
71	58	SX368	土器部・环	(15.0)	(7.8)	3.7	内面凹型口、外底凹型、 外底厚約3mm	焼成	10YR8/25黄褐色	良好	1段焼		
72	58	SX368	土器部・环	(14.0)	(7.0)	3.5	内面凹型口、外底凹型 外底厚約3mm	砂粒多く含む	7.5YR8/25黄褐色	良好	1段焼		
73	58	SX368	黑色土器A・楕	(14.4)	(8.6)	6.0	側面凹型口、直腹、底部凹型 外底厚約3mm	焼成	7.5YR8/25黄褐色、内面灰付着	良好	1段焼		
74	58	SX399	土器部・椭	(15.2)	(10.6)	10.3	側面V字型口、部分的に 脚付	砂粒多く含む	7.5YR8/25黄褐色	普通	上半部2段焼		
75	58	SX399	土器部・椭	(15.6)	(8.7)	7.7	側面V字型口、外底厚さ減る 外底厚約3mm	砂粒多く含む	2.5YR6/2灰黄色	普通	上部2段焼		
76	58	SX399	土器部・小型丸底 器	(15.6)	(8.6)	7.7	口縁から外側に凹型口、内面 脚付	砂粒多く含む	7.5YR8/25黄褐色	普通	上部1段焼		
77	65	S5192	①底土	土器部・直	(11.8)	(4.6)	内面V字型口の平行脚付、口縁部 内面凹	焼成	7.5YR8/25黄褐色	良好	口縫部1段焼		
78	65	S5192	②底土	土器部・合口鉢	(11.8)	(3.7)	側面V字型口、外底厚さ減る 外底厚約3mm	砂粒多く含む	SYR8/25褐色	普通	全体焼成		
79	65	S5200	④底土	土器部・环身	(10.5)	(12.6)	側面凹型口	焼成	SYR5/45黄・青褐色	普通	口縫部1段焼		
80	65	S5200	⑦底土	土器部・芦茎	(10.4)	(11.3)	側面V字型口、脚付	焼成	10YR7/35黄褐色	不良	口縫部小破片		
81	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(7.6)	(12.0)	側面V字型口、内面凹付着	焼成	N6灰色、外底灰約3mm	良好	脚部1段焼		
82	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(7.6)	(12.0)	側面V字型口、内面凹付着	焼成	N6灰色、外底白約3mm	良好	脚部1段焼		
83	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(10.9)	(8.4)	口付	焼成	5.5YR7/45黄褐色	普通	口縫部焼		
84	65	S5200	少少・直土	土器部・直	(9.2)	(8.4)	側面V字型口、脚付	砂粒多く含む	7.5YR7/45黄褐色	中や不良	口縫部1段焼		
85	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(11.7)	(8.9)	内面V字型口、一部脚付、脚部 内面厚さ約3mm	焼成	2.5YR8/45黄褐色	普通	口縫部1段焼		
86	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(13.4)	(8.9)	内面V字型口、外底厚さ減る 外底厚約3mm	砂粒多く含む	2.5YR7/2灰褐色~2.5YR7/1黒褐色	普通	口縫部1段焼		
87	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(12.7)	(8.6)	内面V字型口、外面V字型 外底厚約3mm	砂粒多く含む	7.5YR7/0黄褐色	普通	口縫部1段焼		
88	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(12.4)	(7.7)	脚付 内底外周部厚さ約3mm	焼成	SYR7/6褐色	普通	脚部1段焼		
89	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(7.6)	(8.3)	口付、内底外周部厚さ約3mm	砂粒多く含む	10YR8/15暗褐色	普通	口縫部1段焼		
90	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(13.4)	(8.4)	口付	焼成	2.5YR8/45黄褐色	普通	口縫部1段焼		
91	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(20.9)	(9.6)	内底厚さ約3mm	砂粒多く含む	7.5YR8/45黄褐色	普通	内底付着		
92	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(14.0)	(4.15)	内面V字型口、外底厚約3mm	砂粒多く含む	SYR8/25褐色	普通	脚部1段焼		
93	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(12.0)	(8.7)	脚付	砂粒多く含む	SYR7/6褐色	中や不良	脚部1段焼		
94	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(9.7)	(8.7)	内面V字型口、一部脚付、外底灰 厚さ約3mm	砂粒多く含む	10YR8/25黄褐色	普通	脚部焼		
95	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(16.0)	(8.6)	内面V字型口、一部脚付、脚部 内面厚さ約3mm	砂粒多く含む	10YR7/25黄褐色	良好	脚部1段焼		
96	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(16.0)	(8.8)	内面V字型口、外底厚さ約3mm	砂粒多く含む	10YR7/25黄褐色	普通	脚部1段焼		
97	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(17.0)	(8.6)	内面V字型口、内底工具による 擦痕、脚部	砂粒多く含む	10YR8/25褐色	良好	口縫部1段焼		
98	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(19.9)	(9.5)	口縫部内面厚さ減る状態	砂粒多く含む	10YR5/25黄褐色	普通	脚部1段焼		
99	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(9.6)	(8.4)	内面V字型口、微波状波、3脚の次 脚付	砂粒多く含む	10YR5/25黄褐色	普通	脚部1段焼		
100	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(16.0)	(8.4)	内面V字型口、外底灰 厚さ約3mm	砂粒多く含む	10YR7/25黄褐色	普通	脚部1段焼		
101	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(26.7)	(8.5)	内面V字型口、直底付	焼成	2.5YR4/2灰褐色~2.5YR3/1黒褐色	普通	脚部焼		
102	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(8.5)	(8.5)	内面V字型口、外底灰 厚さ約3mm	砂粒多く含む	2.5YR7/45黄褐色	普通	脚部1段焼		
103	65	S5200	⑦底土	土器部・直	(28.0)	(12.8)	内面V字型口、直底付、外底灰 厚さ約3mm	砂粒多く含む	2.5YR1/15灰褐色、外底黒褐色有り	普通	脚部焼		
104	65	S5200	⑦・直土	土器部・直	(21.8)	(8.2)	内面V字型口	砂粒多く含む	7.5YR8/35黄褐色	良好	口縫部1段焼		
105	66	S5200	⑦・直土	土器部・直	(13.7)	(15.3)	内面から内面下平口日、内面 厚さ約3mm	砂粒・青色粘土子多く含む	10YR5/25黄褐色、外底黒褐色	良好	1段焼		
106	66	S5200	⑦底土	土器部・直	(7.4)	(6.4)	厚さ約2mm	焼成	2.5YR4/2灰褐色~2.5YR3/1黒褐色	普通	脚部焼		
107	66	S5200	⑦底土	直手	(6.2)	(6.2)	厚さ約2mm	砂粒多く含む	2.5YR7/25黄褐色	普通	手縫部のみ焼		
108	66	S5200	⑦底土	ニチュア土器・脚	(4.6)	(8.0)	手縫ねじ上げ、指捺模様有り	砂粒多く含む	10YR8/35黄褐色	普通	1段焼		
109	66	S5200	⑦底土	ニチュア土器・脚	(5.8)	(9.8)	手縫ねじ上げ、直底付	焼成	10YR4/6褐色~10YR8/35黄褐色	普通	1段焼		
110	66	S5410	①底土	直手	(13.4)	(8.1)	内面凹型口、直底付、外底灰 厚さ約3mm	焼成	N6灰色	良好	1段焼		
111	66	S5410	②底土	直手	(15.4)	(3.8)	内面V字型口	砂粒子多く含む	7.5YR7/25明褐色	普通	口縫部1段焼		
112	66	S5410	②底土	直手	(12.2)	(8.4)	内面凹型口、直底付、内底V字 厚さ約3mm	砂粒多く含む	2.5YR8/25黄褐色	普通	口縫部2段焼		
113	66	S5410	②底土	直手	(24.4)	(25.6)	内面凹型口、V字型口、内底下 V字型、下外底V字型	砂粒・青色粘土子多く含む	10YR4/25黄褐色	良好	1段焼		
114	66	S5410	②底土	直手	(16.8)	(14.7)	内面凹型口、V字型口、直底付 内底下V字型、工具によるV字 脚付	砂粒・青色粘土子多く含む	10YR8/35黄褐色	良好	口縫部1段焼		
115	66	S5410	②底土	ニチュア土器	(4.6)	(8.0)	内面V字型口、脚付直底付	焼成	SYR8/25褐色、二次脚付	良好	口縫部1段焼		
116	66	S5424	③底土	直手	(10.8)	(13.0)	側面V字型口、脚付直底付 内底V字型	砂粒多く含む	2.5YR8/35黄褐色	良好	口縫部1段焼		
117	66	S5424	①底土	直手	(9.8)	(9.8)	内面V字型口	焼成	7.5Y5.5/1灰褐色	普通	口縫部1段焼		
118	66	S5424	①底土	直手	(10.6)	(9.0)	内面V字型口	砂粒多く含む	10YR1/15灰褐色	良好	口縫部1段焼		
119	66	S5425	④底土	直手	(11.5)	(4.0)	基盤層溝溝、調整不明	焼成	2.5YR7/45黄褐色	中や不良	口縫部1段焼		
120	67	道溝田	直手	(15.7)	(7.6)	内面凹型口、直底付	焼成	N6灰色	良好	口縫部1段焼			
121	67	道溝田	直手	(11.2)	(11.2)	内面凹型口脚付、外底V字型	焼成	10YR8/1灰褐色	良好	口縫部1段焼			
122	67	道溝田	直手	(12.0)	(9.7)	内面凹型口	砂粒多く含む	2.5YR7/2灰褐色	良好	口縫部1段焼			
123	67	道溝田	直手	(15.1)	(9.2)	内面凹型口	焼成	SYR8/1灰褐色	不良	口縫部1段焼			
124	67	道溝田	直手	(12.8)	(9.8)	内面凹型口、外底V字型	焼成	SYR8/1灰褐色	良好	口縫部1段焼			
125	67	道溝田	直手	(11.4)	(11.2)	内面凹型口、直底付	砂粒多く含む	10YR8/1灰褐色	良好	口縫部1段焼			

報告書 番号	Fg.	P.L.	出土箇所	出土位置	器種・器形	測量 cm	日付(年月日)	調査		断土	外表面調	焼成	現存状況他
								口径	周囲				
126	67	遺構面	灰窓器・坏			(2.6)	口端下、火炎部分			残存	SYR6/1灰色	良好	小破片
127	67	遺構面	土器器・坏			(8.0)	(1.8)			残存	7.5YR7/4灰・褐色	中好	直壁2段存在
128	67	遺構面	土器器・坏	(19.1)		(7.4)	3.4			残存	7.5YR7/4灰・褐色	良好	約14段存
129	67	遺構面	土器器・坏	(19.5)		(8.4)	3.4	今度窯跡・カ		SYR6/0褐色・精陶	7.5YR8/3青褐色	中好	約14段存
130	67	遺構面	土器器・坏			(4.7)		口内面から外側にかけて、竹の 骨		残存	7.5YR7/4灰・褐色	良好	口縁部小破片
131	67	遺構面	土器器・坏	(25.8)		(5.1)		口縁部分・整個内面にかけ 竹の骨		残存	10YR6/3灰・褐色・黒斑	良好	口縁部1段存
132	67	遺構面	土器器・坏	(16.0)	(13.7)	(7.6)		内面全体・外側にかけて、竹の 骨		残存	10YR7/3灰・褐色	良好	口縁部1段2段存
133	67	遺構面	土器器・坏	精陶4.8		(4.3)		内面全体・口端内面にかけ・二 重底		7.5YR8/4灰・褐色	良好	新規部1段存	
134	67	80	遺構面	土器器・坏	(17.5)	(10.2)	12.2	全体に崩壊があり調査不明		砂利・全周部被食化	EYR5/4灰・褐色	良好	河岸・斜面13段存
135	67	遺構面	土器器・坏			(11.4)	(8.1)	内面全体・外側にかけて、竹の 骨		砂利・表層少含む	10YR6/3灰・褐色	良好	海浜1段存
136	67	遺構面	土器器・坏			(12.3)	(4.7)	内面全体・外側にかけて、竹の 骨		砂利少含む	10YR6/2灰・褐色	良好	海浜断片
137	67	遺構面	土器器・坏			(5.4)		内面全体・口端内面にかけ・外 側にかけて、竹の骨		砂利多く含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部断片
138	67	80	遺構面	土器器・合付鉢		(10.2)	(3.4)	内面全体・口端内面にかけ・二 重底		砂利多く含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	河岸・斜面12段存
139	67	遺構面	土器器・体	(12.6)		(4.0)		崩壊があり調査不明		金銀粉少含む	7.5YR6/0褐色	中好	口縁部1段存
140	67	遺構面	土器器・体	(16.7)		(6.7)		崩壊されるが内側が、外側が 細部		砂利多く含む	10YR7/3灰・褐色	良好	口縁部1段2段存
141	67	遺構面	微生物土器7個	(11.9)	(17.8)	(8.8)		崩壊内面にかけ・外側に かけて、細部		砂利少含む	2.5YB/0灰褐色	良好	口縁部1段13段存
142	67	遺構面	土器器・体			(5.7)		外側に崩壊した状態		砂利多く含む	2.5YB/0灰褐色	良好	口縁部断片
143	67	遺構面	土器器・体	(15.0)		(5.7)		口端内面にかけ・外側に かけて、細部		砂利少含む	2.5YR7/2灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
144	67	遺構面	土器器・体	(17.8)		(3.9)		口端内面にかけ・外側に かけて、細部		砂利少含む	2.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
145	67	遺構面	土器器・體	(33.9)		(8.8)		内面全体・口端にかけ		砂利少含む	2.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部1段14段存
146	67	遺構面	微生物土器・體			(5.3)		内面全体・外側にかけ		砂利少含む	2.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部1段14段存
147	68	遺構面	土器器・坏	(12.4)		(7.0)	3.8	外側にかけ・内側に かけて		砂利少含む	10YR6/1灰色	良好	1段残存
148	68	80	遺構面	土器器・蓝	(15.9)	(11.5)	1.6	内面全体・外側にかけ ・内側に		砂利少含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
149	68	80	遺構面	灰窓器・堆	(20.0)	(9.8)		内面全体・外側にかけ		砂利・黑色少子少量含む	7.5YR7/1灰色	良好	口縁部1段13段存
150	68	遺構面	土器器・堆	(27.2)		(6.3)		内面全体・外側にかけ・内側に かけて、細部		砂利若干含む	10YR6/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
151	68	遺構面	微生物土器・合付鉢	(22.4)		(5.7)		崩壊がどの程度であるか		砂利多く含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
152	68	遺構面	微生物土器・合付鉢	(13.3)		(11.0)		内面全体にかけ・上仕上げ・外側に かけて		砂利多く含む	2.5Y7/3灰褐色	良好	口縁部1段13段存
153	69	80	SX429	微生物・鉢	7.2		(4.9)	内側にかけ・上仕上げ		砂利少含む	2.5YR8/4灰・褐色	良好	試掘部
154	69	SX429	微生物土器・鉢	(9.4)		(5.9)		崩壊があり調査不明		砂利・合付鉢粒子多量含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	1段残存
155	69	SX429	微生物土器・鉢	(21.4)		(9.0)		金色に崩壊があり、内面に凹凸		砂利少含む	10YR6/4灰・褐色	良好	口縁部1段14段存
156	69	SX429	微生物土器・鉢			(5.8)		内面全体崩壊・外側に凹凸		砂利多く含む	10YR6/4灰・褐色	中好	口縁部断片
157	69	SX430	土器器・堆	(18.0)		(14.7)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利多く含む	7.5YR8/4灰・褐色	中好	新規部1段13段存
158	69	SX430	土器器・堆	(18.0)		(6.8)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利・赤茶色粒子多量含む	7.5YR8/4灰・褐色	良好	新規部1段13段存
159	69	80	SX430	土器器・堆	(10.2)		(8.4)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	SYR6/4灰・褐色	良好	口縁部1段14段存
160	69	SX430	土器器・堆	(19.4)		(6.9)		崩壊があり調査不明		砂利少含む	10YR7/3灰・褐色	良好	口縁部1段14段存
161	69	SX430	土器器・堆	(16.0)		(7.7)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	2.5Y7/6灰褐色	中好	口縁部1段13段存
162	69	81	SX430	土器器・堆	(17.4)	(19.2)	(18.1)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利多く含む	SYR6/4灰・褐色	良好	約12段存
163	69	81	SX430	土器器・堆	(19.6)	(25.8)	(30.0)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利多く含む	SYR6/4灰・褐色	良好	約2段残存、黒斑大破
164	69	SX430	微生物土器・鉢	(25.8)		(7.3)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利多く含む	10YR8/2灰褐色	良好	口縁部1段13段存
165	69	SX430	微生物土器・合付鉢	(9.9)		(10.8)		全面にかけ・内面に凹凸		砂利少含む	10YR7/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存、接合せず
166	69	SX430	土器器・堆	(16.6)	(17.1)	(7.45)		全面に崩壊・内面に凹凸		砂利少含む	10YR6/3灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
167	69	81	SX430	土器器・合付鉢	(16.6)	(19.7)	(12.6)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利・砂利少含む	SYR7/3褐色	良好	2段残存
168	69	81	SX430	土器器・合付鉢	(12.0)	(10.5)	(7.1)	崩壊があり調査不明		砂利少含む	7.5YR7/4灰・褐色	良好	隕痕部・凹凸・大破
169	70	81	SX431	土器器・堆	(19.4)	(16.2)	(10.0)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	10YR6/4灰褐色	良好	口縁部1段13段存、近底部
170	70	81	SX431	土器器・堆	(14.6)	(17.7)	(11.7)	内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	2.5Y6/0灰・黄色・外側2付箋 有	良好	口縁部1段13段存
171	70	SX431	土器器・堆	(13.4)		(4.4)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	7.5YR7/4灰・褐色	良好	口縁部1段13段存
172	70	SX431	土器器・堆	(13.2)		(3.15)		内面全体にかけ		砂利少含む	10YR6/1褐色	良好	口縁部1段14段存
173	70	SX431	土器器・堆	(17.6)		(4.6)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	10YR7/4灰・褐色	中好	口縁部1段13段存
174	70	SX431	土器器・堆	(20.6)		(1.8)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利少含む	10YR5/2灰褐色	良好	新規部1段13段存
175	70	SX431	土器器・堆	(10.8)		(8.3)		内面全体にかけ・外側に凹凸		砂利・砂利少含む	2.5Y6/1灰褐色	良好	口縁部1段13段存
176	70	SX431	土器器・堆	(11.9)		5.9		内面全体にかけ・外側に中等 度・凹・凸		砂利多く含む	10YR6/2灰褐色	良好	口縁部1段13段存

参考書 等番号 Fig.	PL.	出土遺物	出土位置	器種・形形	測量 cm	寸法等	調査	断土	外表面色	焼成	施釉状況		
口径	腹径	底径	高さ										
177	70	SX431	土器器・鉢	(13.9)		(3.4)	壁面崩れびついたり	細砂多く含む	7.SYR84浅黄褐色	普通	約1/2焼成		
178	70	SX431	土器器・鉢	(22.0)		(7.0)	口縁外側に剥離・脱落	砂粒子多く含む	7.SYR73焼失・褐色	普通	外部・焼失		
179	70	SX431	土器器・鉢	(20.2)		(7.0)	上縁外側に崩れびついたり	細砂粒含む	7.SYR82浅黄褐色	普通	口縁部1/4焼成		
180	70	81	SX431	土器器・鉢	(16.0)	(16.0)	内縁に「5」字窓、外縁に「4」字窓	砂粒子多く含む	10YR8/3浅黄褐色	普通	側面焼失		
181	70	81	SX431	土器器・鉢	(16.7)	(7.0)	全縁に崩れ・脱落不規則	粗砂多く含む	7.SYR76褐色	中や不良	側面焼失		
182	70	SX431	土器器・鉢		(6.65)		内縁に「2」字窓、外縁に「4」字窓	粗砂粒多く含む	7.SYR76褐色	普通	側面焼成		
183	70	81	SX432	陶生土器・窯坪	(34.2)	(18.4)	(24.2) 砂質崩れ(3.5)砂質表面(3.5)上	砂質崩れ(3.5)砂質表面(3.5)含む	SYR73焼失・褐色	普通	1/2焼成・凹凸1cm四方かずら		
184	70	SX431	土器器・合口	(8.0)		(1.0)	崩れ・脱落不規則	粗砂粒多く含む	7.SYR73焼失・褐色	中や不良	側面・2/3焼成		
185	70	SX431	土器器・鋸歯合口	(16.8)		(3.5)	内縁に「3」字窓、「2」字窓、外縁に「4」字窓	粗砂粒多く含む	7.SYR73焼失・褐色	良好	側面・焼成・山鱗目かずら		
186	70	SX431	土器器・合口鉢		(14.0)	(4.0)	外縁に「3」字窓、「2」字窓、内縁に「4」字窓	粗砂粒多く含む	2.5YR4/1灰褐色	普通	側面・焼成		
187	70	81	SX431	陶生土器・合口	(19.6)	(11.55)	内縁に「3」字窓、「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.SYR82褐色	良好	側面・1/4焼成		
188	70	SX431	陶生土器・合口		(15.2)	(16.85)	「3」字窓、外縁に「4」字窓、内縁に「2」字窓	粗砂粒多く含む	2.5YR4/2灰褐色	良好	側面・1/2焼成		
189	70	SX431	ミニトコ・土器・器	(5.4)	(0.6)		「3」字窓、内縁に「2」字窓	粗砂粒多く含む	2.5YR72焼失・褐色	普通	側面・4/5焼成		
190	70	81	合口蓋	土器器・内蓋	(8.05)	(9.35)	厚(1.1)	白(2)	砂粒子多く含む	粗砂粒多く含む	2.5YR72灰褐色	普通	把手の小焼成
191	71	81	合口蓋	陶器器・蓋	(10.8)	(4.3)	凹凸窓、「2」字窓、内縁に「3」字窓	粗砂粒多く含む	N5灰褐色	良好	側面・焼成		
192	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(10.0)		(8.26)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	SYR5/6明るい褐色	良好	口縁部1/4焼成	
193	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(11.8)		(8.2)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.SYR82灰褐色・外縁に「1」字窓	良好	口縁部1/4焼成	
194	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(14.8)		(4.6)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.SYR73焼失・褐色・口縁部双耳付	良好	口縁部1/2焼成	
195	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(15.2)		(0.2)	全縁に崩れ・脱落不規則	粗砂粒少々含む	10YR7/2焼失・黃褐色	普通	口縁部1/2焼成	
196	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(15.0)	(18.6)	(0.6)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰褐色	良好	口縁部1/3焼成	
197	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(16.0)		(0.6)	「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰褐色	普通	口縁部1/4焼成	
198	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(16.2)		(0.6)	「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR4/1灰褐色	良好	口縁部1/2焼成	
199	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(20.4)		(7.05)	「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒少々含む	10YR7/4焼失・黃褐色	普通	口縁部1/3焼成	
200	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(13.4)		(0.6)	斜面に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/2焼失・黃褐色	普通	口縁部1/4焼成	
201	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(16.0)	(24.2)	(27.0)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR76/2焼失・褐色	良好	約1/2焼成・直線並列させず	
202	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(11.4)	(15.0)	(0.6)	「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR7/4焼失・黃褐色	普通	口縁部1/4焼成	
203	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(8.0)		(0.65)	崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	SYR6/6褐色	不良	口縁部1/5焼成	
204	71	81	合口蓋	土器器・蓋	(15.0)	(15.0)	(18.7)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR6/3焼失・褐色	普通	約1/2焼成・底面欠損	
205	71	82	合口蓋	土器器・盖	(11.4)		(6.4)	丁寧な「3」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR8/2焼失・褐色	良好	1/2焼成	
206	71	82	合口蓋	土器器・盖	(8.0)		(0.6)	崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	SYR7/6褐色	良好	1/4焼成	
207	71	82	合口蓋	土器器・盖	(11.4)		(0.6)	崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	7.5YR6/6褐色	普通	口縁部1/4焼成	
208	71	82	合口蓋	土器器・盖	(24.0)		(0.6)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/6褐色	普通	外側・底面欠損	
209	71	82	合口蓋	土器器・窯坪		(0.6)	内縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/2焼失・褐色	良好	粗砂		
210	71	82	合口蓋	土器器・窯坪		(3.7)	(0.6)	「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/6/4焼失・褐色	良好	粗砂	
211	71	82	合口蓋	土器器・窯坪		(0.3)		開口部崩れ、「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/6/4焼失・褐色	良好	粗砂	
212	71	82	合口蓋	土器器・窯坪		(0.6)		崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	SYR8/6褐色	不良	口縁部・6焼成	
213	72	82	合口蓋	土器器・合口	(9.8)	(12.0)	(8.5)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR8/4焼失・褐色	良好	1/2焼成	
214	72	82	合口蓋	土器器・合口		(14.0)	(0.6)	丁寧な「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/6/4焼失・褐色	良好	1/4焼成	
215	72	82	合口蓋	土器器・合口		(22.0)	(0.65)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR8/6/4焼失・褐色	良好	約1/2焼成	
216	72	82	合口蓋	土器器・合口		(0.6)		崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	10YR8/6/4焼失・褐色	良好	1/2焼成	
217	72	82	合口蓋	土器器・合口		(14.0)	(16.0)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4焼失・褐色	普通	約1/2焼成	
218	72	82	合口蓋	土器器・合口		(14.7)	(18.0)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR8/2焼失・褐色	良好	約1/2焼成・底面欠損	
219	72	82	合口蓋	土器器・合口		(10.5)	(11.7)	外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	SYR7/4褐色	普通	口縁部1/4焼成・背面欠損	
220	72	82	合口蓋	「3」字窓・土器・鉢	(2.8)		(0.6)	底面に「3」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR8/4浅黄褐色	普通	1/4焼成	
221	72	82	合口蓋	「3」字窓・土器・鉢	(9.8)	(2.1)	4.3	内縁に「3」字窓	粗砂粒多く含む	10YR7/3褐色・黃褐色	普通	約1/2焼成	
222	72	82	合口蓋	「3」字窓・土器・鉢	6.6		3.7	内縁に「3」字窓	粗砂粒多く含む	2.5YR6/2灰褐色	良好	1/4焼成	
223	72	82	合口蓋	「3」字窓・土器・鉢		(0.6)		丁寧な竹葉文	粗砂粒多く含む	10YR7/2褐色・黃褐色	普通	口縁部小範囲	
224	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(11.2)		内縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	10YR7/4褐色・黃褐色	普通	口縁部小範囲	
225	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(12.2)		外縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR8/2褐色	普通	225-226cm同一範囲	
226	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(32)		内縁に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4褐色	普通	側面	
227	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(19.4)		崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4褐色	中や不良	側面・1/4焼成	
228	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(22.2)		崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	SYR6/6褐色	普通	外縫隙	
229	72	82	合口蓋	土器器・小型丸底	(9.6)	(10.2)	(0.6)	口縁内側に「3」字窓、「3」字窓内側に「2」字窓	粗砂粒多く含む	7.5YR7/4褐色	中や不良	口縁部1/2焼成	
230	72	82	合口蓋	土器器・鉢		(12.4)		崩れがひどく調整不規則	粗砂粒多く含む	SYR7/4褐色	普通	口縁部1/6焼成	

図示番号	Fig.	P.L.	出土場所	出土位置	器種・器形	測量cm	小口測定cm	調整			調査	断土	外表面調	焼成	既存状況	
								口幅	開口	底面						
232	72	82	縄手中	生土土器-壺	[20.2]	(10.0)	使用するが壺壁厚J、断面J	砂粒多く含む	7.5YR7/3	赤い褐色	中火	口縁部1/3残存				
233	72		縄手中	生土土器-壺	[19.4]	(7.2)	内側円柱、外側斜面あり	砂粒少々含む	7.5YR7/3	赤い褐色	留置	口縁部1/3残存				
234	73	79	生土土器-壺	[21.4]	[25.8]	(37)	口縫合不規則、外側内凹面付	砂粒多く含む	2.8YR5/2	暗灰黄色	留置	口縫合1/2、内凹面1/4残存				
235	73	79	生土土器-壺	[30.6]	[24.05]	(34)	内側円柱、縫合部付刻印有	砂粒多く含む	2.8YR5/2	暗灰黄色	留置	口縫合1/2残存				
236	73	82	縄手中下	生土壺	[14.1~14.3]	9.9	3.7	外側斜面不規則、内凹口付	無	2.5YR7/3	浅黄色	留置	光形			
237	73	83	高土	土器類-壺	[14.3]	8.0	3.6	外側斜面不規則、外側縫合付	砂粒若干含む	10YR6/3	鈍い褐色	良好	1/3残存			
238	73	83	高土	土器類-壺	[5.1]	7.2	(6.0)	縫合するが、手捏ねで造成され	砂粒多く含む	5YR6/6	褐色	留置	口縫合欠損			
239	73		縄手中下	生土壺	[18.0]	(9.0)	内側丸付、外側斜面あり	無	10YR6/2	灰黄褐色	良好	調査1/3残存				
240	73		縄手中下	生土壺	[11.3]	[17.0]	(10.2)	外側円柱、口縫合付	砂粒少々含む	2.5YR5/6	黄褐色	留置	口縫合-縫合破片			
241	73		縄手中下	生土壺	[12.2]	(5.0)	外側斜面不規則、内凹口付	無	2.5YR7/3	褐色	留置	口縫合-縫合1/4残存				
242	73		縄手中下	生土壺	[16.5]	(5.1)	内側丸付、外側斜面あり	無	2.5YR6/2	鈍い褐色	留置	1/3残存				
243	73	82	縄手中下	生土壺	[16.4]	(9.9)	内側丸付、外側斜面あり	砂粒多く含む	5YR6/6	褐色	留置	口縫合1/2残存				
244	73		縄手中下	生土壺-高	[23.0]	(14.3)	外側円柱あり、内凹口付	無	10YR6/2	灰黄褐色	留置	口縫合1/2、内凹口1/2				
245	73	83	縄手中下	生土壺-高	[13.8]	(15.0)	外側斜面付	砂粒多く含む	10YR6/3	鈍い褐色	良好	口縫合-一部1/4残存				
246	73		縄手中下	生土壺	[12.4]	[24.6]	(12.5)	外側斜面付の平底付付、内凹口付	無	砂粒多く含む	5YR6/2	灰黄褐色	魚好	瓶-調査1/4残存		
247	73		縄手中下	生土壺	[8.0]	(8.0)	外側斜面付の平底付、内凹口付	無	10YR4/2	灰黄褐色	留置	底面1/4残存				
248	73		縄手中下	生土壺	[11.2]	(11.4)	外側斜面付の平底付、口縫合	砂粒少々含む	2.5YR4/1	暗灰褐色	留置	口縫合1/2残存				
249	73	83	縄手中下	生土壺-高	[20.8]	(12.0)	外側斜面付	砂粒多く含む	2.5YR5/4	鈍い褐色	留置	口縫合1/2残存				
250	73	83	縄手中下	生土壺	[43.6]	(19.7)	口縫合付内側斜面付	砂粒多く含む	10YR7/4	褐色-5YR6/6	良好	底面1/3残存				
251	73		縄手中下	生土壺	[7.2]	(4.4)	外側斜面付、内側付付丸底付、直縫合付	砂粒多く含む	5YR5/4	鈍い褐色	良好	底面のみ残存				
252	74	83	S5200	②埋土	土器品-投擲	底3.4	底1.8~1.9	丁寧な「井」字上げ	無	2.5YR1/1	黄色	良好	光形			
253	74	83	S5200	④埋土	土器品-鋸	[5.7]	[8.0]	腰面がひびい、「井」字上げ	砂粒少々含む	2.8YR5/6	黄褐色	不良	約1/2残存			
254	74	83	S5200	⑦-2埋土	土器品-土	[4.6]	[3.9]	厚2.4	土器盤	砂粒多く含む	2.5YR6/2	鈍い褐色	留置	ほぼ光形		
255	74	83	縄手中下	生土壺	[35.0]	(3.8)	(1.85)	丁寧な「井」	無	2.5YR7/3	灰黄色	留置	一部破損			
256	74	83	縄手中	不明土器品	[3.5]	[3.9]	厚1.4	丁寧な「井」、底土を二つ折りして成形	無	N4E灰色	2.5YR6/2	灰黄色-7.5YR6/1	魚好	欠損品		
257	74	83	縄手中下	生土壺	[4.6]	[7.7]	[4.8]	手捺付捺付仕上げ	砂粒や中少含む	10YR6/3	鈍い褐色	留置	ほぼ光形			
258	74	83	縄手中下	移動式竈	[17.1]	(23.2)	ガラス調、直い	砂粒少々含む	10YR6/2	鈍い褐色-内側付	良好	底面分か?				
259	74	83	縄手中下	生土壺	[4.8]		1.9	全面に施釉、内密接付6.8cm、縫合打ち支え	砂粒多く含む	7.5YR6/2	灰褐色	留置	裏面が瓦列現れ			

Tab.3-2 Ⅲ 両出土石製品観察表

探査番号	Fig.	P.L.	出土場所	出土位置	器種-型別	測量cm	小口測定cm	石材			色調	調査-後者	
								高	幅	厚			
S1	75	SD190	M-20区	陶石		12.5	12.7	7.5	留置灰	5YR5/1	灰色	上-下-面に使用、各面は前削、背面気泡	
S2	75	83	SD198	O-21区	石器	3.9	12.1	0.3	舞姫原灰岩	2.5YR3/2	赤褐色	立着用か全体に使用による摩耗、変化著しい	
S3	75	83	SD290		陶石	(3.0)	12.7	(5.2)	砂粒-肩方角	5YR5/2	黄色	上-下-面に使用する事多、久留瀬へ、下面欠け	
S4	75	83	SD290	I-区底	石器底-44	石器底	(8.0)	(7.0)	(4.1)	留置灰	10YR7/1	灰色	留置、左側面丁寧な磨り、上下両面結石としての擦り面
S5	75		SD290	I区底	石器底-45	石器底	2.35	(2.0)	0.6	2.5YR1/1	灰色	石器底の鉢孔部分	
S6	75	84	SD299	P-22区-壁	陶石	16.8	10.7		留置	5YR5/1	灰色	使用による船底状残る	
S7	75	84	SD432		陶石				留置	2.8YR5/1	黄色	上-下-左-右側面に使用、上-面船底状跡	
S8	75	84	SD5192	①埋土	子供布玉	10.2	(5.6)	(2.6)	陶石	2.5YR4/1	灰色	片面の欠けが多い、壁元2.8cm	
S9	75	84	SD2000	①埋土	石器	12.4	8.8		留置灰	NS5/5	灰色	船底直-使用痕跡	
S10	75	75	SD2000	③埋土	竹石底-43	竹石底	9.7	6.5	3.75	留置灰	5GYR1/1	灰色	上-左-左側面船底直使用痕、壁-右側
S11	75	84	SD424	①埋土	竹石	9.8	7.25		石夷青石	2.5YR7/3	深灰色	上-右-右側面-壁-左-右側面-壁-左-右側面	
S12	75	84	縄手中	石器底	[7.55]	4.25	0.66	舞姫原灰岩	5GYR1/4	暗灰色	丁寧な研磨仕上げ、使用痕跡多く残る		
S13	76	84	縄手中	石器底	(5.0)	4.45	0.5	舞姫原灰岩	2.5YR7/2	赤褐色	丁寧な研磨仕上げ、瓦片の背筋が焼け、瓦片底		
S14	76	84	縄手中	石器底	(5.55)			留置	7.5YR2	赤褐色	表面に十字の溝がある		
S15	76	84	縄手中	石器底	(5.55)	8.5		玄武岩	2.5YR7/1	白色	研磨-船底直用		
S16	76	84	縄手中	石器底	(9.1)	8.4	1.1	粘板岩	N7/1	灰白色	船底の形成途中で欠損		
S17	76	84	縄手中下	生土片-万力		13.6	4.5	頁岩	7.5YR1/1	白色	丁寧な研磨仕上げ、研磨-船底直用		
S18	76	85	縄手中下	生土片-2	陶石	(14.4)	9.4		砂岩	5YR1/-7/2	灰白色	右側面は礁石の使用面、他に窓、軽打痕	
S19	76		縄手中下	生土片-2	陶石	8.85	(6.25)		砂岩か硬岩	7.5YR5/1	灰色	右側面と上面は船底直用痕	
S20	76		縄手中下	P-24区-2号	陶石	(5.5)	(3.1)	0.45	粘晶斑岩?	2.5GYR1/1~5/1	灰色	研磨仕上げ、全面的に欠損が多い	
S21	76		縄手中下	P-24区-2号	陶石	(4.75)	(3.8)	0.45	粘晶斑岩?	2.8GYR1/1~7/1	灰色	研磨仕上げ、全面的に欠損が多い	
S22	76	85	SD5410	P-25区	石器	陶器	9	1.25	0.35	留置灰	N1.5	黑色	基盤に平地、剥片利用で複数回に二次調整を加え
S23	76	85	縄手中	C-24区	石器	陶器	1.05	1.0		粘晶斑	4/4	褐色	先端と基盤が一部欠損、西面は第二次調整、西面は基盤が一部欠損、西面は第二次調整
S24	76	85	縄手中	P-24区	石器	陶器	1.0	0.4	0.35	留置灰	N2	黑色-透明(?)	先端と基盤が一部欠損、西面は第二次調整、西面は基盤が一部欠損
S25	76	85	縄手中	P-21区	陶石	陶器	1.05	0.9	0.3	留置灰	N2	黑色-透明(?)	先端と基盤が一部欠損、西面は第二次調整、西面は基盤が一部欠損

Tab. 3-3 Ⅲ面出土木製品目録表

品番 番号	Fig. PL.	出土場所	器種	測量値 (cm) (高さ・直径)				種類	木取り	調査・参考
				高 さ	直 径	厚 さ	目 の			
W1	53	SD190-N-20区	二叉漆	(37.5)	(14.2)	1.2		コラマツアカガシ 風呂	板目・辺材	表面は丸く削り、裏面が方型の柄つぶあり、裏面は丁寧な仕上げ
W2	53	SD090-O-21区	矢板?	(40.0)	14.6	3.2		コラマツアカガシ 風呂	狂糞	
W3	59	85	SD190-上層	杭	(148.6)			6.7~7.3	スダジイ	芯持材
W4	59	85	SD190-上層N- 20区	杭	(141.1)			4.7	コラマツアカガシ 風呂/アザヒガラ	自然木
W5	59	SD190	板材	144.3	13.2	1.9~1.5		桐皮		桐皮が残る
W6	59	85	SD190-N-19-20区	杭	146.8			6.3~6.5	タジイ/タチバナ	杭先は丸く削り出し、頭部は丸く削って加工
W7	59	85	SDX099	矢板	(129)	13.1	4~6.3		ツツラジイ	辺材か
W8	60	SDX099	杭	(111.0)			7~8	コラマツアカガシ 風呂/アザヒガラ	自然木	
W9	60	SDX099	杭	(106.3)	7~8	4~4.8		スダジイ	樹材	
W10	60	85	SDX099-M-21区	矢板	(96.6)	14.4	2.9~3.2		ツツラジイ	杭頭部を加工 杭頭部を削り、先端は内側面から削り出す
W11	60	85	SDX23-5-21区	杭	(137.2)	7.0	6.6		スダジイ	表面三角の削材
W12	60	85	SDX23-5-21区	杭	(137.6)	8.2	3.8		ツツラジイ	先端は四方向から削りて尖らす
										先端は多方角から削りて尖らす

Tab.4-1 IV面出土土器・土製品観察表

番号 番号	Fig. PL.	出土場所	土器・土製品 種類・形態	測量 cm (はかり方・基準)			割合	土器	外表面色	焼成	推定状況	
				口径	脚付 高さ	底径						
1	86	SD095	外縁	(14.0)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに近い黄褐色	良好	14片
2	86	SD095	外縁	(14.0)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに近い黄褐色	良好	常温
3	86	SD090	外縁	(11.8)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに近い黄褐色	良好	口縁部小片
4	86	SD090	外縁	(11.8)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに近い黄褐色	良好	口縁部小片
5	86	SD090	外縁	(7.8)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	7.5YR7/2Hに黄褐色	良好	12片
6	86	SD090	外縁	(7.8)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに黄褐色	良好	口縁部小片
7	86	SD092	外縁	(33.8)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに黄褐色	良好	口縁部小片
8	86	SD092	外縁	(25.4)				外曲面刷毛・平底	砂粒・少含む	10YR7/2Hに黄褐色	良好	口縁部小片
9	91	SC502	小切妻	(13.8)	(13.4)	(12.7)		内曲面刷毛・内上平横刷毛	砂粒少し含む	10YR7/2Hに黄褐色	良好	10片
10	91	SC504	R-1	小切妻	7.1	9.5	10.5	ナメ・粗糸足	砂粒・少含む	10YR7/2Hに白灰色	良好	細胞
11	91	SC504	粗糸足					砂粒・少含む	SYTR9/2H白	良好	小片	
12	91	SC504	粗糸足					砂粒・少含む	10YR7/2H白	良好	小片	
13	91	SC504	粗糸足					砂粒・少含む	10YR7/2H白	良好	小片	
14	欠番		口縁部					外周に欠け、内外曲面刷毛	砂粒・少含む	10YR7/2L-2Hに黄褐色	良好	口縁部
15	欠番											
16	91	SC422	粗	(23.0)				外曲面刷毛・斜付耳・内曲ケズ	砂粒少し含む	5YR7/2H黒	良好	14片
17	95	SD369	1区下層 土器	直筒土器・把手 下層	(7.4)	(4.9)	(5.2)	フ	粗糸	N4/6や青緑の灰色、灰から黒 到着に青緑の灰色	良好	12片
18	95	SD369	1区	上面・小形 直筒土器	7.8	8.85	8.2	外曲面ヨリ引け・内曲面刷毛 子	砂粒・少含む	10YR8/3H浅褐	良好	常温
19	95	SD369	1区	上面・小形 直筒土器	9.0	7.65	8.1	側面外曲面/口唇・タキケ・内面 子	砂粒・少含む	7.5YR7/2H灰褐色	良好	口縁部一様火照
20	95	SD369	1区上層	上面・小形 直筒土器	(8.48)	8.0	(7.38)	頂部内外曲面押え式・溝脚	砂粒・少含む	10YR7/2H灰褐色・裏面あり 蓋合	良好	体部12面埋
21	95	SD369	1区	直筒土器・直	(19.4)		(4.68)	内曲げ・外曲げ・一部ハサウ 内曲げ	砂粒・少含む・曲面均等性や 底面から外側へ・内面凹 凸	7.5YR7/2H灰褐色・裏面あり 蓋合	良好	口縫・端部14片
22	95	SD369	1区上層	直筒土器・直	10.7		(7.0)	内曲げ	砂粒・少含む子	10YR7/2H純・黄褐色	良好	口縫・部屋は 今後
23	95	SD369	1区	直筒土器・直	(17.8)	25.95	28.8	外曲面刷毛子/ハサウ・内面ハ ク	砂粒・少含む・曲面均等性や 底面から外側へ・内面ハ ク	10YR7/2H浅褐褐色・裏面あり 蓋合	良好	口縫の次の火候、 布有
24	95	SD369	1区	直筒土器・直		3.8	(5.1)	外曲面刷毛・内面ハサウ	砂粒・少含む子	7.5YR7/2H灰白色・上部スル付 蓋合	良好	底部焼付
25	95	SD369	1区下層	口コナ・直	(4.4)	(4.9)	(3.4)	指付・行	砂粒・少含む	7.5YR7/2H明褐色・裏面あり 蓋合	良好	口縫1-2面 16片有
26	95	SD369	1区	コナ土器・直	5.9	6.75	3.95	指付・行	砂粒・少含む子や多く含む	SYTR9/2H灰褐色・一部 砂粒・少含む子や多く含む	良好	常温
27	95	SD369	2区	土器・直	(11.4)		(3.7)	フ	指付・行	10YR7/2H灰褐色	良好	口縫部10面
28	95	SD369	2区	土器・小瓶 融合			(10.8)	内曲げ・斜外腹・把手 円筒孔(既成底穿孔)・二重手筋	砂粒・少含む・全體 均等性わざわざに含む	SYTR9/2H灰褐色・一部 砂粒・少含む子や多く含む	良好	脚部18揃
29	95	SD369	2区	土器・把手 融合			(4.9)	ナメ・内面刷毛	砂粒・少含む子や多く含む 内面ハサウ	10YR7/2H灰褐色	良好	口縫部小瓶
30	95	SD369	4区下層	土器・直	(17.0)		(9.8)	内曲げ・斜外腹・把手 融合	砂粒・少含む子や多く含む 内面ハサウ	10YR7/2H灰褐色・裏面あり 蓋合	良好	口縫部12面、 32片+1個の手 布有
31	95	SD369	4区下層	土器・直	(16.8)	(22.6)	(14.2)	部外曲面・音管内・内面ハサウ	砂粒及び金属微細物 砂粒・全體均等性	10YR7/2H灰褐色	良好	口縫部18面・側部 14片有、右側有
32	95	SD369	4区下層	土器・直	(24.3)		(18.88)	外曲面刷毛・音管・内面ハサウ	砂粒わずかに含む	10YR7/1H灰白・10YR7/2H灰褐色 底面・裏面あり	良好	体部13面・30.3 同一場所7面質
33	95	SD369	4区下層	土器・小瓶 融合	(10)		(2.05)	フ	砂粒わずかに含む	7.5YR7/2H純・褐色	良好	脚部15揃
34	95	SD369	4区下層	ナマコ土器・直	(5.3)		(5.1)	内曲げ刷毛8底	砂粒・全體均等性わざ かに含む	10YR7/2H純・黃褐色	良好	14片有
35	95	SD369	4区下層	生土器・直			(2.7)	ココナ・外曲面刷毛	砂粒・全體均等性わざ かに含む	7.5YR7/2H純・褐色	良好	口縫部小瓶片
36	95	SD369	4区下層	土器・直	(23.0)		(8.39)	ハサウ・斜外腹	砂粒・全體均等性わざ かに含む	10YR7/2H純・褐色	良好	口縫部1/2面、 右側有
37	95	SD369	4区下層	生土器・直	(31.2)		(4.3)	内曲げハサウ	砂粒・全體均等性少含 む	10YR7/2H灰白	良好	口縫部1/4埋存
38	95	SD369	5区下層	土器・直	(15.8)		(3.1)	ナメ	砂粒わずかに含む	10YR7/2H灰白・5YR7/2H褐色	良好	口縫部1/4埋存
39	95	SD369	5区下層	土器・直	(18.4)		(3.45)	口盤ヨコ	砂粒・全體均等性少含 む	10YR7/2H灰白	良好	口縫部16揃
40	95	SD369	5区下層	土器・直	(12.8)		(3.4)	口	砂粒・全體均等性少含 む	7.5YR7/2H純・褐色	良好	口縫部1/3欠
41	95	SD369	5区上層	土器・直	8.0	7.85	3.0	手揉み指付さしう	砂粒・少含む	10YR7/1H灰褐色	良好	口縫部1/3欠
42	95	SD369	5区下層	土器・直	(8.4)		(5.4)	内曲げ	砂粒・少含む	10YR7/2H灰白・黄褐色	良好	口縫部17揃
43	95	SD369	5区下層	土器・小瓶 融合			(12.8)	外曲げハサウ・内曲げハサウ	砂粒・全體均等性わざ かに含む	7.5YR7/2H純・褐色	良好	口縫部17揃
44	95	SD369	5区下層	土器・直	(8.2)		(8.85)	外曲げハサウ・内曲げハサウ	砂粒・全體均等性少含 む	10YR7/1H~8/2灰白	良好	脚部9片破
45	95	SD369	5区下層	土器・直	(8.2)		(5.0)	脚部・脚部底付さしう	砂粒・少含む	10YR7/2H純・黃褐色	良好	体部下半揃

報告書 番号	FPL	出土遺物	出土位置	器種・基盤	測量 cm (日本標準)			測量	地土	表面色調	構成	既存状況
					口幅	裏幅	底形					
46 96	SD369	6区下層	土師器・合竹 鉢			8.1	(3.25)	内面+外側面縁付8.1底 (11.4)	堆積、切妻・金型用陶 瓦をすりこむ含む	10YR8/0灰白~10YR8/0 透明白	魚好	既存地帯存・堆積 1/4残存
47 96	SD369	6区上層	土師器・小型 丸底鉢		(10.0)	(4.6)	F5°~325°	堆積、丸底付・赤褐色 粒子をすりこむ含む	7.5YR8/4灰・暗色	魚好	口輪部1/5残存	
48 96	SD369	6区上層	土師器・小型 丸底鉢		(10.0)	(4.65)	F5°~325°	堆積、金型用陶瓦を 埋め込む含む	5.5YR8/6褐色	魚好	口輪部1/4残存	
49 96	SD369	6区下層	土師器・丸底 鉢		(11.6)	(12.3)	(6.95)	F5°部分的に内面縁 (11.6)	堆積、切妻・小馬糸粒 子をすりこむ含む	7.5YR7/6褐色	魚好	口輪部上1/4 残存
50 96	SD369	6区	土師器・壺		(12.5)	(3.85)	F5°、内面内縁付8.1底 外側付、内面内縁付	堆積付モザイク多色化 粒子をすりこむ含む	10YR1/1灰白色	魚好	鰐・貝上部破片	
51 96	SD369		土師器・壺		(12.1)	(14.2)	13.3	堆積、切妻・赤褐色 粒子をすりこむ含む	7.5YR7/3透明白~7.5YR7/2 褐色	魚好	1/2残存	
52 96	SD369	6区上層	土師器・壺		12	(16.5)	14.8	側面外縁付8.1、内面内縁付 底底付8.1底	堆積、切妻・丸底付 内面内縁付	10YR8/2灰白~10YR8/2灰 褐色、黒褐色	魚好	約1/2残存
53 96	SD369	6区	土師器・壺		(15.4)	(9.35)	側面外縁付8.1、内面内 縁付	堆積、丸底付・赤褐色 内面内縁付	7.5YR7/2明褐色・黑色	魚好	鰐・貝1/3残存	
54 96	SD369	6区下層	土師器・壺		(17.2)		(8.9)	口縁部切妻付、内面内縁付 内面内縁付	砂利少量含む	7.5YR5/5褐色	魚好	口縁部1/1残存 ・山系の可能性
55 96	SD369	6区下層	土師器・壺		(13.5)		(3.8)	口縫内側と頂外側ハケ目付 内面内縁付	堆積付・金型用陶瓦ごく かに含む	10YR4/1灰白色、スズ付	魚好	口輪部1/5残存、 透明白
56 96	SD369	6区上層	土師器・壺		(14.8)		(8.65)	側面外側付・内面内縁付	堆積付モザイク多色化 粒子をすりこむ含む	7.5YR8/0透明白	不透	口縁部上半 部・地表付、各 段階
57 96	SD369	6区下層	土師器・壺		(17.4)		(8.0)	側面外縁付・内面内縁付	堆積少量含む	10YR8/0透明白	魚好	口縁部1/10 残存、古式
58 96	SD369	6区	土師器・壺		(18.6)		(5.5)	口縁部切妻付、側面内縁付 内面内縁付	砂利・金型用陶瓦ごく かに含む	10YR8/0灰白色	魚好	口縁部1/4 残存、古式
59 96	SD369	6区	土師器・壺		(14.9)		(14.9)	口縁部切妻付、側面内縁付 外側付	砂利モザイク多色化 粒子をすりこむ含む	10YR8/2灰白色	魚好	口縁部1/10 残存、古式
60 96	SD369	6区上層	土師器・壺		15.8	20.55	22.0	側面外縁付8.1内面内縁付 内面内縁付	砂利・金型用陶瓦ごく かに含む	7.5YR4/1灰白色、スズ付	魚好	口縁部1/10 残存、古式
61 96	SD369	6区上層	土師器・壺		(19.5)	(18.45)	19.5	側面外縁付8.1内面内縁付 内面内縁付	砂利・金型用陶瓦ごく かに含む	10YR8/1灰白色、スズ付	魚好	口縁部1/4 残存、古式
62 97	SD369	6区下層	土師器・壺		(18.2)	(27.0)	(15.65)	側面外縁付8.1内面内縁付 内面内縁付	堆積付・金型用陶瓦ごく かに含む	10YR8/2灰白色	魚好	側面のみ残存
63 97	SD369	6区上層	土師器・壺		(28.8)	(28.2)	(13.4)	口縁部切妻付、側面外縁付 内面内縁付	堆積少量含む	10YR8/2灰白色	魚好	口縁部1/6 残存
64 97	SD369	6区上層	土師器・壺		(34.6)		(13.1)	口縫内側、内面内縁付	堆積・金型用陶瓦多く 含む	7.5YR1/1灰白色、下半部7.5YR 4/1褐色	魚好	底盤・削下平部 1/4残存
65 97	SD369	6区	土師器・壺		28.2	(28.6)	(15.5)	側面外縁付8.1内面内縁付 内面内縁付	堆積付・金型用陶瓦含 む	10YR7/2灰・黃褐色、黒斑あり	魚好	口縁部・底盤付 1/2残存
66 97	SD369	6区	土師器・壺		(18.4)		(7.6)	側面外縁付8.1内面内縁付 内面内縁付	堆積付少量含む	10YR8/2灰白色	やや不良	口縁部1/10 残存、古式
67 97	SD369	6区	陶生土器・壺	(12)	(18.4)		(13.8)	内外面付	堆積付・金型用陶瓦含 む	10YR8/3透明白	魚好	口縁部1/10 残存
68 97	SD369	6区	陶生土器・壺	(17)		(18.9)	(13.4)	内外面付	堆積付・金型用陶瓦少 量含む	5.5YR6/4灰・暗色	魚好	口縁部1/10 残存
69 97	SD369	6区	陶生土器・壺	(30.2)		(17.3)	(10.1)	口縫・底部外側付内縁付	堆積付モザイク多色化 粒子をすりこむ含む	10YR7/4灰・黃褐色	魚好	口縫上半 部・下部
70 97	SD369	6区	土師器・壺	19.8		(11.8)	12.7	口縫内側、内面内縁付	堆積・金型用陶瓦含 む	10YR7/3灰・黃褐色、黒斑あり	魚好	口縫部・底盤付 1/10残存
71 97	SD369	6区上層	土師器・壺	(18.4)		(8.05)	F5°~195°	堆積付少量含む	7.5YR7/2灰白色	魚好	口縫部1/2	
72 97	SD369	6区上層	土師器・壺	(17.8)		(7.85)	F5°~195°	堆積付少量含む	7.5YR7/3灰白色	魚好	口縫部1/10 残存	
73 97	SD369	6区上層	土師器・壺		(15.1)	(11.1)	内外面付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	口縫上半 部・下部	
74 97	SD369	6区	土師器・壺		(7.0)	外縁内縁付、内面内縁付	(4.1)	堆積付少量含む	7.5YR7/4灰白色	魚好	底盤部	
75 97	SD369	6区	土師器・小型 圓盤		(5.7)	外縁内縁付、内面内縁付	(4.1)	堆積付少量含む	7.5YR7/4灰白色	魚好	底盤部・底盤付 1/2	
76 98	SD369	6区下層	土師器・壺	(21.2)		(9.75)	外縁内縁付8.1、内面内縁付 内面内縁付	堆積付少量含む	7.5YR8/0透明白	魚好	堆積付1/10 残存	
77 98	SD369	6区下層	土師器・壺		(9.3)	外縁内縁付8.1	(9.3)	堆積付少量含む	砂利・金型用陶瓦少 量含む	7.5YR8/0透明白	魚好	堆積部のみ残存
78 98	SD369	6区	陶生土器・壺	(4.1)		(3.05)	内外面付	堆積付少量含む	7.5YR8/0透明白	魚好	口縫部1/7 残存	
79 98	SD369	6区上層	陶生土器・壺	(32.0)		(7.65)	F5°~195°	堆積付少量含む	7.5YR7/4灰・暗色	魚好	堆積部1/2	
80 98	SD369	6区	土師器・壺	(15.8)		(4.6)	内面内縁付、口縫・内面内 縁付	堆積付少量含む	10YR7/3灰・黃褐色、黒褐色	魚好	堆積部1/2	
81 98	SD369	6区上層	土師器・壺	(15.1)		(4.2)	堆積付8.1内面内縁付	堆積付少量含む	10YR7/1灰白色	魚好	口縫部1/5	
82 98	SD369	6区上層	土師器・小型 圓盤		(11.6)	8.95	側面外縁付・内面内縁付	堆積付少量含む	10YR8/2灰白色	魚好	底盤・口縫部5 欠け	
83 98	SD369	6区	土師器・合竹 鉢		(11)	(4.4)	外縁内縁付・内面内縁付	堆積付少量含む	10YR8/2灰白色	魚好	底盤1/5残存	
84 98	SD369	6区上層	土師器・壺	(5.7)		(2.6)	5.5°~195°	堆積付少量含む	10YR7/1灰白色	魚好	約1/4残存	
85 98	SD369	6区下層	生土器・支 脚	(5.8)		(9.6)	外縁内縁付8.1、内面内縁付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	上層部1/3	
86 98	SD369	6区下層	生土器・壺	(7.0)		9.1	押呑付8.1後付	堆積付少量含む	7.5YR7/6褐色	魚好	口縫部1/3・奥深 い	
87 98	SD369	6区上層	生土器・壺	(9.2)		(9.4)	内面内縁付	堆積少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	口縫部1/2	
88 98	SD369	6区上層	生土器・壺		10.6	(10.3)	内面内縁付8.1	堆積少量含む	10YR7/2透明白	魚好	口縫部1/2	
89 98	SD369	6区	土師器・壺		(13.3)	外縁内縁付	内面内縁付	堆積付少量含む	10YR7/3透明白	魚好	底盤1/10	
90 104	SD369	1区上層	土師器・小型 圓盤	(9.8)		(4.4)	外縁内縁付8.1、内面内縁付 内面内縁付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	口縫部1/2	
91 104	SD369	1区上層	土師器・壺	(14.2)		(6.25)	口縫部外縁付8.1、内面内 縁付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	口縫部1/5	
92 104	SD369	1区上層	生土器・壺	(22.2)		(10.2)	外縁内縁付8.1、内面内 縁付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	堆積部1/2	
93 104	SD369	1区上層	生土器・壺	(23.4)		(3.65)	内面内縁付8.1後付、周縁部外 縁付	堆積付少量含む	10YR7/2灰白色	魚好	口縫部1/5	

報告書番号	Fg	PL	出土場所	器種・形態	出典	cm (付属二行)	測定		地土	外色調	地成	推察状況
							寸法	測定	直形	斜形		
94	106	SD088	1区上層	生土器-壺	燒存部 底盤 最大 (30.4)	(3.2)	□縦内外面狀文-鋸削痕外露 平行文-浅波文	地砂粒-全體陶薄微少含 食	10YR6/2灰白~10YR6/3弱・黃 褐色	良好	局部1/8現存	
95	104	SD088	1区上層 底盤	生土器-壺	(2)	(5.7)	□縦内外面-「壺」内外面各1凹 目	地砂粒-全體陶薄微少含 食	7.8YR6/2灰褐色、黑斑あり	良好	口縦1/4現存	
96	104	SD088	1区上層 底盤	生土器-壺	(21.2)	(15.5)	□縦内外面-「壺」内外面各1凹 目	地砂粒-全體陶薄微少含 食	7.5YR7/4弱・黒~10YR6/2灰 褐色	良好	口縦-瓶1/4現 存	
97	104	SD088	1区上層	生土器-壺	(26.2)	(20.1)	□縦内外面-「壺」内外面各1凹 目	地砂粒-少含全、全體 可見性セミアラブ・食心 電極付子ナリ	7.8YR6/2灰白~7.5YR6/4浅黃 褐色	良好	口縦-瓶1/4現 存	
98	104	SD088	1区上層	土器器-壺	(16.2)	(3.8)	□縦内外面-「壺」内外面各1凹 目	地砂粒-全體陶薄微少含 食	2.5YR6/2灰白~2.5YR6/1黃褐色	良好	口縦-瓶1/4現 存、布底面	
99	104	SD088	1区上層	土器器-壺	(16.8)	(8.5)	開削外縫合-「壺」内外面各1凹 目、内面外側打削	地砂粒-全體陶薄微少含 食	10YR7/1灰白色、2.2付蓄 電極付子ナリ	良好	口縦-瓶1/4現 存、布底面	
100	104	SD088	1区上層	生土器-壺	(16.0)	(8.6)	□縦内外面-「壺」内外面各1凹 目、内面外側打削	地砂粒-少含全	10YR7/3弱・黃褐色	良好	口縦1/8現存	
101	104	SD088	1区上層	生土器-壺	(29.6)	(15.25)	内外面各1凹	地砂粒-少含全	10YR6/2灰褐色~10YR6/2黑 色(底)	良好	口縦1/5現存	
102	104	SD088	1区上層 下層底盤 内外	生土器-壺	(44.5) (84)	10.2~ 10.7 (78.5)	□縦外縫合-「壺」内外面各1凹 目、内面外側打削、赤 内面内側打削	地砂粒-全體陶薄微少含 食、彩色物子ナリ	7.5YR6/6弱~7.5YR6/2黄 褐色	良好	口縦-全体1/半 1/8現存(赤)口縦 底盤内側)	
103	105	SD088	1区上層	土器器-合付 器	圓錐形 4.3	(3.8)	内外面各1凹	地砂粒-全體陶薄微少含 食	7.5YR6/3灰白~7.5YR6/4浅黃 褐色	良好	口縦合付現存	
104	105	SD088	1区上層	土器器-小型 组合	圓錐形 3.2	(5.75)	開削外縫合-「壺」内外面各1凹 目、内面外側打削	地砂粒-少含全	7.5YR6/2灰白色~7.5YR6/4灰 褐色	良好	口縦外-円形孔 1/1現存	
105	105	SD088	1区上層	生土器-壺	(32)	(5.0)	内外面各1凹	地砂粒-少含全	10YR6/3弱・黃褐色	良好	牙輪1/10現存(赤 L4付)	
106	105	SD088	1区上層	生土器-壺	(12.55)	(4.5)	内外面各1凹、内面内側打削	地砂粒-少含全	10YR6/3浅黃褐色	良好	口縦1/8現存	
107	105	SD088	1区上層	土器器-壺		2.9	内外面各1凹、内面内側打削	地砂粒-全體陶薄微少含 食(赤)に付有	10YR7/1灰白色	良好	口縦全欠損	
108	105	SD088	1区上層	土器器-壺	(12.1)	(8.2)	外周縫合-「壺」内外面各1凹	地砂粒-少含全、全體 可見性セミアラブナリ	10YR7/2弱・黃褐色	良好	口縦1/10現存	
109	105	SD088	1区上層	生土器-壺	(11.7)	(8.05)	外周縫合-「壺」内外面各1凹	地砂粒-少含全	10YR7/1灰白色~7.5YR6/2灰 褐色	良好	口縦-全体1/10 現存	
110	105	SD088	1区上層	生土器-壺	(25)	(9.1)	□縦外縫合-「壺」内外面各1凹 目、内面内側打削	地砂粒-少含全	7.5YR6/3灰褐色、黑斑あり	良好	約1/4現存	
111	105	SD088	1区上層	生土器-壺	(16.3)	(7.6)	???	地砂粒-全體陶薄微多 少含	7.5YR6/3褐色	中中不良	口縦-全体上半 1/4現存	
112	105	SD088	1区上層	土器器-合付 器	圓錐形 3.7	(8.2)	縫隙外-外側打削、擦擦打 削	地砂粒-少含多く食	7.5YR7/2灰褐色	良好	縫隙外-輪厚下半 現存	
113	105	SD088	1区上層	土器器-合付 器		9.8 (4.25)	???	地砂粒-少含多く食	7.5YR6/3灰白色 子ナリに食	良好	口縦1/8現存	
114	105	SD088	1区上層	生土器-天 耳	(7.4)	(8.7) 14.3	外周縫合-「壺」内外面各1凹	地砂粒-少含多く食	7.5YR6/2浅黃褐色	良好	口縦-2-鏡面80% 欠損	
115	105	SD088	1区上層	生土器-天 耳		(9.2) (10.4)	外周縫合-「壺」内外面各1凹	地砂粒-全體陶薄微多 少含	10YR7/3弱・黃褐色	中中不良	部割1/2現存	
116	105	SD088	1区上層	生土器-壺 合		12.6 (17.7)	外周縫合打削、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	10YR7/1灰白色~10YR6/2灰 褐色	良好	口縦1/4現存	
117	105	SD088	1区上層	生土器-壺 合		(16.2) (18.15)	内面内側打削後(後)、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	10YR6/2浅黃褐色	良好	口縦-全体1/2-2 現存	
118	105	SD088	1区上層	生土器-壺 合	(11.9)	(14.6) 17.15	外周縫合打削-内面内側打 削	地砂粒-全體陶薄微少 少含	7.5YR6/1灰白色~7.5YR6/2褐 色	良好	口縦-鋼頭1/3現 存	
119	105	SD088	1区中層	生土器-壺	(32.1)	(15.7)	縫隙内-外側打削、口縫外-内 側打削	地砂粒-少含全	10YR7/2弱・黃褐色	良好	口縦-瓶1/4現 存	
120	105	SD088	1区中層	生土器-壺	(22.9)	(9.5)	縫隙外-内側打削、内面内側打 削(付)	地砂粒-少含多く食	10YR6/1灰白色、スズ付	良好	口縦-上半1/4 現存	
121	106	SD088	1区中層	土器器-合付 器	11.6	(3.75)	ローラー??	地砂粒-少含多く食	10YR6/2灰白色、黒斑あり	良好	縫隙外-輪厚1/2現 存	
122	106	SD088	1区中層	土器器-合付 器	(11.4)	(2.6)	??、内面内側打 削	地砂粒-少含多く食	10YR6/2灰白色	中中不良	口縦1/8現存	
123	106	SD088	1区中層	生土器-天 耳		(9.6) (7.9)	??、背側上半側打削内面打 削	地砂粒-全體陶薄微少 少含	10YR7/2弱・青褐色、一部擦 付	良好	口縦-部頭及び 底部1/4現存	
124	106	SD088	1区中層	生土器-壺	(32.5)	(9.7)	外側ハンドルナ-内面打 削	地砂粒-少含多く食	10YR6/2灰褐色	良好	口縦-全体1/4現 存、付有孔あり	
125	106	SD088	1区中層	生土器-天 耳		(10.0) (11.0)	??、背側尤度	地砂粒-少含全	10YR6/1灰白色~10YR6/3弱・黃 褐色	良好	約1/4現存	
126	106	SD088	1区下層	土器器-壺	15.9	(11.75)	□縦内外面狀文-凹、内面内 側打削	地砂粒-全體陶薄微少 少含	10YR6/2灰褐色	良好	口縦-部頭2-鏡面	
127	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(17)	(13.5) (8.6)	□縦内外面狀文-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含全	10YR7/2弱・黃褐色	良好	口縦-瓶1/4現 存	
128	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(11.5) (15.6)	(8.1)	□縦内外面狀文-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含全	10YR7/3弱・黃褐色	良好	口縦-全体上半 1/7現存	
129	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(14.2)	(13.6)	縫隙内-模様不明	地砂粒-墨、白-全體 少含(含)	7.5YR7/3弱・黒~7.5YR6/2灰 褐色	良好	縫隙1/3現存	
130	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(12)	15.35 5.6	内面内側打削-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	10YR6/2灰白色、黒斑あり	良好	口縦5%現存	
131	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(5.3)	(12.6)	当て真有	地砂粒-少含多く食	10YR6/2灰褐色	良好	底盤片	
132	106	SD088	1区下層	生土器-壺	7.6	(5.35)	内面内側打削-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	底盤片	
133	106	SD088	1区下層	生土器-壺	8.1	(9.0)	内面内側打削-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	7.5YR6/3弱・褐色	良好	底盤片	
134	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(42.8)	(17.1)	内面内側打削	地砂粒-少含多く食	7.5YR6/2灰褐色、黒斑あり	良好	底盤片	
135	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(25.15)	内面内側打削	地砂粒-少含多く食	10YR7/2弱・黃褐色	良好	底盤下半現		
136	106	SD088	1区下層	生土器-壺	8.85	4.6	堆積後-後	地砂粒-少含多く食	10YR7/2弱・黃褐色、黒斑あり	良好	口縦1/4現存	
137	106	SD088	1区下層	生土器-壺	(1)	(4.65)	□縦内外面狀文-凹、内面内 側打削	地砂粒-少含多く食	7.5YR7/4弱・黒・黒褐色、黒斑あり	良好	口縦1/4現存	
138	107	SD088	1区下層	生土器-壺	(33.2)	(34.8)	内面内側打削	地砂粒-全體陶薄多 少含	SYR7/8褐色	良好	口縦1/10現存 量現	
139	107	SD088	1区下層	生土器-壺	(19.4)	(4.4)	内面内側打削	地砂粒-少含多く食	10YR6/1褐灰色	良好	口縦1/12現存	

報告書 番号	Fig.	PL.	出土地層	出土位置	器種・基盤	重量(g)	測量cm	測量cm	測量		胎土	表面色調	焼成	様子状況
									口幅	裏幅				
140	107	89	SD368	1区下層	陶生土器-器合	(12.5)		13.5	18.9	外周や内面に縦溝、内面が「V」字型 内側部に凹る傾斜	粗砂少含土	10YR7/3暗褐色、黒褐色、黒斑入り 灰白色	良好	口幅2~3mm 1次焼
141	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(11.8)			(7.1)	内側部凹り、内面に凹凸があり、外 周にV字型溝	粗砂少含土	10YR8/2灰黃褐色 灰白色	良好	口幅部1/4焼存
142	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(14.8)		(9.05)	外周や内面が「V」字型、横縫合部 内側部	粗砂少含土	7.5YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	筒状1/3焼存	
143	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(19.9)			(5.3)	内側部外周に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少含土	10YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	口幅部1/4焼存
144	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(14.8)			(8.2)	外周や内面に凹り、「V」字型 内面横溝あり	粗砂少含土	7.5YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	口幅~1/2mm 1次焼
145	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(24.0)			(11.2)	内外面にV字型 内側部	粗砂多 灰白色	6YR9/1灰褐色 灰白色	良好	筒状上部1/6 焼存
146	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(20.2)			(15.2)	内外面にV字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰黃褐色 灰白色	良好	筒~調部1/9焼存
147	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合			(8.1)	(6.75)	筒部外周V字型 内面V字型 外周横溝あり	粗砂少 灰白色	7.5YR8/2灰褐色 白色、黒斑入り	良好	筒部2/3焼存
148	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(21)		(20.4)	(18.0)	内側部凹り、「V」字型 内面横溝	粗砂少 灰白色	10YR8/1灰白~10YR8/3浅黃 褐色、スス付	良好	口幅~調部1/7焼 存
149	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(31.8)			(8.15)	筒部外周に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	SYR8/3深褐色~5YR8/8橙色(片 面)7/7	良好	口幅部1/6焼存
150	107		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(40.5)			(16.7)	内外面にV字型 内側部	鐵白色砂粒 灰白色	10YR8/2灰白色 灰白色	良好	第8/112焼存
151	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(34)			(9.2)	外周にV字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	2.5YR7/2灰黃色、黒斑入り 灰白色	良好	口幅~調部1/5焼 存
152	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(30.4)			(8.2)	内側部凹り、「V」字型 内面に外周横溝	粗砂少 灰白色	7.5YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	口幅~調部1/4焼 存
153	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(42.4)			(9.45)	内側部凹り、「V」字型 内面に内側部横溝	粗砂少 灰白色	7.5YR8/4浅黃褐色 灰白色	良好	口幅~調部1/9 焼存 小片からの中元
154	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(16.8)		(4.8)	5.7	外周にV字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	SYR8/8橙色 灰白色	良好	口幅部1/12~1/13 焼存
155	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(16.8)			(7.3)	内外面にV字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR7/2灰褐色 灰白色	良好	口幅~調部1/5焼 存
156	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(10.2)			(8.2)	外周にV字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR7/2灰褐色 灰白色	良好	口幅部1/5焼存
157	108		SD368	1区下層	陶生土器-器合	(8.0)			(8.6)	口幅~1/2mm 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	上部焼存
158	108	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(20)		(10.2)		内側部外周に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	7.5YR7/2灰褐色 灰白色、黒斑入り 灰白色	良好	口幅部3/4焼存
159	108	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(24.4)			(6.5)	内面に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/8深褐色 灰白色	良好	口幅部1/4焼存
160	108	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(26)			(8.25)	内側部外周に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	7.5YR8/4浅黃褐色 灰白色	良好	口幅部1/5焼存
161	108	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(32.8)			(5.7)	内面に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色~10YR8/3灰 褐色、黒斑入り	良好	口幅部1/4焼存
162	108		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(28)			(4.6)	内面に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR7/2灰褐色 灰白色	良好	口幅部1/10焼 存
163	108		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(4.8)			(16.8)	内面に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR7/1灰褐色~10YR4/1灰 褐色	良好	筒部焼存
164	108	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(25.8)			(8.6)	内面に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色 灰白色	良好	口幅部2/3焼 存
165	109	69	SD368	1区下層 上層	陶生土器-器合	(16)		15.8	21.65	筒部外周に凹り、口縁部内面に 凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色 灰白色	良好	筒部外周2~3回 1/4文張
166	109		SD368	1区下層 上層	陶生土器-器合	(19.7)			(9.25)	筒部外周に凹り、口縁部内面に 凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	7.5YR8/3深褐色 灰白色	良好	口幅部1/4焼存
167	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(9.4)			(3.85)	内外面に凹り	粗砂少 灰白色	SYR8/2灰白~5YR4/4灰 褐色、黒斑入り 灰白色	良好	口幅部1/3焼存
168	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(13.9)			(5.45)	内側部外周に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	SYR8/8橙色 灰白色	良好	口幅部1/4焼存
169	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(15.7)			(6.8)	内側部外周に凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/3深褐色 灰白色	良好	口幅部1/5焼 成瓶
170	109	69	SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(16)			(8.9)	内側部凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/4浅黃褐色 灰白色	良好	口幅~調部1/6燒 存
171	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(10.0)			(5.45)	内側部凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	7.5YR7/2灰褐色~7.5YR7/6 褐色	良好	筒部1/4焼存
172	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(13.4)			(3.85)	内側部凹り	粗砂少 灰白色	7.5YR8/6褐色 灰白色	良好	口幅部1/5焼存
173	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(26.4)			(4.9)	内側部凹り	粗砂少 灰白色	10YR8/3浅黃褐色 灰白色	良好	口幅部1/2焼存
174	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(31.2)			(7.3)	内側部凹り	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色 灰白色	良好	口幅~調部1/12 焼存
175	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(12.0)			(3.6)	内側部凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	7.5YR8/3深褐色 灰白色	良好	筒部外近1/8焼存、 筒部内1/2土器存 筒部内1/2
176	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(21.2)			(3.75)	内側部凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色 灰白色	良好	口幅部1/6焼存
177	109		SD368	1区下層 上層	土器器-蓋	(9.0)		(2.1)	(5.4)	内側部凹り、「V」字型 内面に凹り、「V」字型 内側部	粗砂少 灰白色	10YR8/2灰褐色~7.5YR8/6 褐色	良好	約1/9焼存

相合寄 番号	Fg	PL	出土場所	器種・形態	(は)複式二重				測定	胎土	外表面色調	施成	推定状況	
					口縁	側面	底面	足						
178	109	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(15.4)	(19.4)	5.0	15.8	口縁部2cm、「側面外周部」1cm、 内面「内底付」2cm、「内面下半部」 8.5cm	粗砂粒・赤褐色粒子少 量含む	10YR7/2純・黄褐色・黒斑あり	良好	口縫部の大半と割 第1/2段を残す	
179	109	90	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(16.6)	5.8	(11.6)	外側「外縁付」、内面「内底付」2cm	粗砂粒わざかに含む	10YR8/3浅黃褐色・黒斑あり	良好	底部・側面残存	
180	109	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(18.4)		(9.05)		外側「外縁付」、内面「内底付」	砂粒・全表面無く含む	7.5YR7/2純・黄褐色	良好	側面1/4残存、外 面・底面の黑色 帶が半分	
181	110	90	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(23.8)		(21.4)	内面「内底付」	粗砂粒・少褐色粒子・黑 色斑付・白・金雲母多く含む	10YR4/2灰黄褐色	良好	口縫部1/4残 存	
182	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(16.4)		(10.1)		内面「内底付」、側面外周部直	粗砂粒・少含む	10YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部・側面残存	
183	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(18.9)		(7.8)		口縫部2cm、「側面外周部」、 内面「内底付」2cm	粗砂粒少含む	10YR7/2反灰褐色・10YR2/1黒色	良好	口縫部1/2残存	
184	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(21.4)		(12.3)		口縫部2cm、「側面外周部」内面 「内底付」2cm	粗砂粒・少褐色粒子少 量含む	10YR2/2反灰褐色・10YR2/1黒色	良好	口縫部1/5残存	
185	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(21)		(11.85)		口縫部2cm、「側面外周部」、 内面「内底付」2cm	粗砂粒少含む	10YR7/1灰白～10YR2/2灰黃 褐色	良好	口縫部1/6残 存	
186	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(20.0)		(11.3)		口縫部2cm、「内底付」2cm、「 指付」や「底	粗砂粒わざか・全表面 黒斑付・少含む	7.5YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部1/4残 存	
187	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.2)		(10.45)		側面外周部2cm、「内底付」	粗砂粒やや多く含み軽 い	10YR7/1灰白色	良好	口縫部1/5残存	
188	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	13.3		(9.2)		側面外周部2cm、「内底付」 側面突起部へ向ふる溝	粗砂粒少含む	10YR8/1灰白～10YR8/3灰黃 褐色	良好	側面1/4残存	
189	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(16)		(10.0)		側面外周部2cm、「内底付」2cm、「 指付」や「底	粗砂粒わざかに含む	10YR7/3純・黄褐色	良好	側面1/4残存	
190	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	瓶部 (19.5)		(9.5)		瓶部外周部、「側面内底付」2cm	砂粒・全表面無く含む すこし含む	10YR8/2浅黃褐色・10YR7/3 褐色(ヒマチ土)	良好	瓶部1/5残存	
191	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(29.8)		(13.45)		瓶部外周部「内底付」	粗砂粒・赤褐色粒子少 量・全表面無く含む すこし含む	7.5YR8/2灰黃褐色	良好	瓶部1/4残存	
192	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(28.5)		(11.4)		内面「内底付」	砂粒・全表面無少含む	7.5YR8/2灰褐色	良好	瓶部1/4残存	
193	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺			(6.7)	(3.8)	外側断面～底部2cm「内底付」	粗砂粒・少褐色 粒子少含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR7/2褐 色・黒斑あり	良好	底部1/2残存	
194	110	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(6.6)		(5.1)		側面外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm	粗砂粒多く含む	10YR7/2純・黄褐色・上面部分 黒斑	良好	底部断片	
195	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(17)		(7.65)		側面断面2cm、「内底付」2cm	粗砂粒・全表面無少含 む	7.5YR7/5褐～7.5YR8/2褐色	良好	口縫部1上半 1/5残存	
196	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(12.8)		(5.2)		側面外周部2cm、「内底付」2cm	粗砂粒わざかに含む	10YR8/3純・浅黃褐色・黒斑あ り	良好	口縫部1上半 1/6残存	
197	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.4)		(7.2)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 側面断面2cm	粗砂粒多く含む	7.5YR8/3純・褐色・入水付着	良好	口縫部1上半部 1/5残存	
198	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(20.9)		(8.8)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	粗砂粒・赤褐色・全表面 黒斑付・少含む	10YR7/1褐色・スズ背景 内表面・無化粧・青背景	良好	口縫部1/4残存	
199	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.1)		(9.6)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm	粗砂粒・少含む	10YR8/2灰～N1.5褐色(底) 色	良好	口縫部1上半部 1/8残存	
200	111	90	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.2)		(12.8)		口縫部外周部2cm、「内底付」 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	粗砂粒を多く含む	60Y7/1オーラー風色	良好	口縫部1上半部 1/6残存
201	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(27.2)		(19.05)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	砂粒・全表面無少含 む	10YR7/1灰白～10YR8/3灰黃 褐色・黒斑あり	良好	口縫部上半部 1/6残存	
202	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(29.2)		(10.6)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	粗砂粒・全表面無少含 む	10YR7/1純・黄褐色	良好	口縫部1/9残存	
203	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(29.4)		(9.8)		口縫部外周部2cm、「内底付」 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	粗砂粒少含む	2.5YR9/2灰色・黒斑あり	良好	口縫部1/4残存	
204	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(32.7)		(8.8)		口縫部外周部2cm、「内底付」、 内面「内底付」2cm、側面断面2cm	砂粒・全表面無少含 む	10YR8/3純・黄褐色	良好	口縫部1/5残存	
205	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(32.3)		(8.4)		口縫部外周部2cm、「内底付」 内面「内底付」2cm、「内底付」 2cm、側面断面2cm	粗砂粒・全表面無少含 む	7.5YR8/3浅黃褐色	良好	口縫部1/6残存	
206	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(36.8)		(34.5)	(13.7)	口縫部コナゴ、側面内底付 「内底付」2cm、側面断面2cm	粗砂粒やや多く含む	10YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部1上半 1/12残存	
207	111	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(32.2)		(15.1)		口縫部ハケ付後ノコナゴ、側面 ハケ付	粗砂粒・外気付後壁晶 少量含む	10YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部1/4残存	
208	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(37.4)		(9.3)		内外ハケ付後	粗砂粒わざかに含む	10YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部1/6残存	
209	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(42.5)		(15.45)		内外ハケ付	粗砂粒多く含む	10YR8/3純・黄褐色	中や不良	口縫部1/9残存	
210	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(39.5)		(7.1)		口縫部下部裂、側面内底付 「内底付」2cm	粗砂粒・全表面無少含 む	7.5YR7/2純・黄褐色	良好	口縫部1/5残存	
211	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(40)		(10.05)		口縫部コナゴテ、側面ハケ付後 ノコナゴ	粗砂粒・全表面無少含 む	7.5YR5/2反褐色	良好	口縫部1/6残存	
212	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.9)		(6.8)		外側「内底付」、「内底付」2cm	粗砂粒わざかに含む	7.5YR8/2反白色	良好	側面1/4残存	
213	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(22.9)		(35.5)	(12.7)	外側「内底付」2cm、「内底付」 2cm、側面内底付	粗砂粒やや白色	10YR9/1反白色・黒斑あり	良好	口縫部1上半部 1/4残存	
214	112	SD368	1区土器群 下層	赤土器・壺	(48.1)		(11.25)		赤帯部コナゴ・側面内底付	粗砂粒少含・角閃石 少含む	8YR7/2褐色	良好	尖端部1/1残存	

保水性 等級 番号	Fig.	PL.	出土遺物	出土位置	器種・基盤	測量 cm (日本標準)			測量	胎土	表面色調	構成	鉢内状況
							口幅	裏幅	底形	高さ			
215	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(19.9)	(11.9)		類似外側面付日焼け	粗砂粒・金銀陶器繊維や 瓦灰や含む	7.5YR4/4純・褐色	良好	割鉢破片
216	113	SD368	1区土器群	土器群7-下層		(20.6)	(9.1)		底面付日	粗砂粒・ごくわずかに含む	5YR7/4純・褐色、黒斑あり	良好	割下平・底部残存
217	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		14.4	8.0	(8.6)	低い円筒全体に入る	砂粒多く含む	2.5YSG2淡灰黄色	良好	底部破片
218	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		5.6	(4.3)		内面ハケ目・内面付	粗砂粒・金銀陶器繊維や 瓦灰含む	7.5YR7/3純・褐色、黒斑あり	良好	底部残存
219	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		7.7	(11.35)		外側ハケ目・内面付	砂粒多く含む	10YR7/2純・黄褐色・一部10YR 4/1褐色	良好	底下平下部残存
220	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		8.4	(9.1)		外側少少タキハケ目・内面ハケ	粗砂粒多く含む	7.5YR8/4純・褐色、黒斑あり	良好	底部のみ残存
221	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		7.0	(4.7)		内面ハケ目	粗砂粒多く含む	2.5Y7/2灰青色	良好	底部破片
222	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		15.3(7.7) 以上の 構造	(10.65)		内面遮蔽部底付・内面付	粗砂粒多く含む	10YR8/2灰白色、黒斑あり	良好	底付1/2残存
223	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		16.0	(14.4)		内面遮蔽部底付・内面付	粗砂粒や多く・骨質粘 質・金銀陶器繊維少含む	7.5YR8/1褐色	良好	底付1/2残存
224	113	SD368	1区土器群	生土土器7-下層	脚基盤	7.0	(10.4)		側面凹目・台形窓・内面付	粗砂粒・全表面骨質化 部・角石灰瓦灰や含む	10YR8/1E5-10YR8/2灰 褐色	良好	底下部残存
225	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付	(15.8)		(13.75)		口端部内側・側面外側の 縁部・窓内側の内側	粗砂粒・金銀陶器繊 維・瓦灰や含む	10YR8/0褐色・黃褐色(15粒)・漆 付D	良好	窓・外側面部・側面 内・口端部一部残存
226	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(15.7)	(2.45)		外側付・内面付・内面付 窓付・口端部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/0浅灰褐色	良好	窓付1/2残存
227	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(10.0)	(3.4)		内側付・側面凹目・窓付	粗砂粒・小面積瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR8/0浅灰褐色	良好	窓付下平1/2残存
228	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(21.2)		(4.95)	八字付・口端部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR8/2灰白～7.5YR8/0黃 褐色	中や不良	所持1/2残存
229	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付	脚基盤	3.7	(8.65)		八字付・口端部	粗砂粒・古褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR8/0灰白・黒斑あり	中や不良	所持脚部・円形 三方造り
230	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付	脚基盤	(4.0)	(8.7)		八字付	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR8/4浅灰褐色	良好	所持
230	113	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(17.6)	(3.45)		外側付・内面付	粗砂粒・金銀陶器繊 維・瓦灰や含む	7.5YR8/0灰白～7.5YR8/0黃 褐色	良好	口端部・底部残存
231	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付	脚基盤	(3.5)	(5.45)		外側付・内面付	粗砂粒や多く含む	7.5YR7/2灰褐色	良好	窓下平1/2残存
232	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層	脚基盤	2.1	(8.05)		内面付	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/3浅灰褐色～10YR8/1褐色	良好	窓下平半1/2残存
233	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層	脚基盤	(4.8)	(15.4)	(10.6)	外側付・内面付	粗砂粒多く混入	2.5Y6/4純・黃色	良好	脚部1/2残存
234	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(28.6)	(5.6)		外側付・内面付・口端部	粗砂粒・小面積瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/2灰白・黒斑あり	良好	口端部1/2残存
235	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(31.2)		(4.5)	外側付・内面付・口端部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/2灰褐色・黒斑あり	良好	口端部1/2残存
236	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(29.7)		(5.6)	外側付・内面付・口端部	粗砂粒・全表面骨質化 少含む	7.5YR7/2純・黃褐色・黒斑あり	良好	窓口端1/2残存
237	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(31.5)		(5.9)	外側付・内面付・口端部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/2灰白～10YR8/2灰 褐色	良好	口端部1/2残存
238	114	SD368	1区土器群	土器群・窓付		(31.6)		(6.0)	外側付・内面付・口端部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	10YR8/3浅灰褐色・黒斑あり	良好	口端部1/2残存
239	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層	脚基盤	(28.7)		(4.9)	内面付	粗砂粒・少含む	7.5YR8/2純・黃褐色・黒斑あり	良好	窓下平1/2残存
240	114	SD368	1区土器群	1.5:1土器群・ 窓付		(7.8)			全表面状況	粗砂粒や多く含む	2.5YR8/1灰白色・黒斑灰褐色	良好	約1/4残存
241	114	SD368	1区土器群	土器群・脚		(10.6)		(2.65)	"	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR7/2純・褐色	良好	口端部1/2残存
242	114	SD368	1区土器群	土器群・脚		(19.2)		(5.6)	外側付・口端部	粗砂粒・瓦灰や含む	10YR8/2灰白色・黒斑あり	良好	口端・体部1/2残存
243	114	SD368	1区土器群	土器群・脚		(18.4)		(4.9)	口端部	粗砂粒・全表面骨質化	7.5YR7/2純・褐色	良好	口端部1/2残存
244	114	SD368	1区土器群	土器群・脚		(6.2)		(2.9)	口端部	粗砂粒や多く含む	10YR7/4純・黃褐色	良好	脚部1/2残存
245	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(4.3)		(4.16)	外側付・内面付	粗砂粒少含む	10YR7/4純・黃褐色	良好	脚部1/2残存
246	114	SD368	1区土器群	土器群・脚		(17.4)		(6.8)	"・口端部外側・内底部	粗砂粒・赤褐色瓦灰や 骨質粘質に含む	7.5YR7/4純・褐色	良好	口端・体部1/2残存
247	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(16.4)		(4.9)	"・口端部外側・内底部	粗砂粒・全表面骨質化・非 瓦灰や含む	7.5YR7/4純・褐色	良好	口端・体部1/2残存
248	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(19.0)		(8.85)	外側付・内面付	粗砂粒・全表面骨質化少 量含む	10YR8/3浅灰褐色・瓦 灰(法隆)	良好	口端・体部1/2残存
249	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(14.9)		(5.0)	"・外側付・内面付	粗砂粒・瓦灰や含む	10YR8/1灰白色	良好	口端部1/2残存
250	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(15.2)		(3.8)	外側付・口端付	粗砂粒少含む	10YR8/2純・黃褐色・黒斑あり	良好	脚部1/2残存
251	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(14)		(5.4)	"・外側付・内面付	粗砂粒・全表面骨質化 少含む	10YR8/3浅灰褐色・黒斑あり	良好	約1/5残存
252	114	SD368	1区土器群	生土土器7-下層		(20.4)		(6.05)	"・外側付・内面付	粗砂粒・瓦灰や含む	10YR8/2純・黃褐色	良好	口端部1/2残存

報告書番号	Fig.	PL.	出土場所	土佐部集 谷種-植物	出雲 cm (付) 深度-性質	測定	測定		外観色調	地成	現存状況	
							CH	PH	風向	風速		
253	114	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(22.5)	[5.8]	内外三井	砂粒-鐵錆斑-赤褐色 粒子-黑色	7.5YR6/4鉄錆-褐色	良好	口縫部1/5現存	
254	114	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(25.4)	[9.2]	口目-7.5	粗砂多く含む	10YR4/1褐色-灰色、スズ材質	良好	口縫-脚部1/4現存	
255	114	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(26.2)	[8.4]	口目-7.5、外側面から30cm底	粗砂多く含む	10YR6/0鉄錆-褐色	良好	1/4現存	
256	115	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(27.4)	[3.0]	9.25	内外洗付-縫合付-7.5、内側10cm	粗砂多く含む	10YR6/2浅褐色-10YR6/3鉄錆、 黑色	良好	脚部1/2-口縫部 大半失墜
257	115	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	32.8	7.65	14.8	外側井、内側井-8.5井付	粗砂や多く含む	NB灰-10YR6/4灰黃褐色	良好	口縫部1/4後退
258	115	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(31.2)	[8.35]	外側井、内側井-8.5井付	粗砂や多く含む	10YR4/4浅褐色-10YR6/2灰白色、 黑色	良好	口縫-一部上半 1/2現存	
259	115	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(32.2)	[8.9]	外側井、内側井-8.5井付	粗砂少々含む	10YR6/2灰白色、黑色	良好	約1/3現存	
260	115	SD368	1区土器群 下層	赤生土器-鉢	(36.2)	[10.15]	外側井、内側井-8.5井付	粗砂-赤褐色強化粒子 や多く含む	7.5YR6/0浅黃褐色-5YR6/7褐色	良好	口縫部1/2現存	
261	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(7.8)	[11.2]	12.7	外側井付、内側井付-7.5井付	粗砂-鐵錆強化少々含む	7.5YR6/2灰白色-7.5YR6/4鉄錆- 褐色	良好	口縫部1/2-脚部 1/4現存
262	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	14.4	[17.3]	18.8	内側井付、赤褐色-一部内側井付	砂粒-全表面強化少々含む	10YR7/2鉄錆-褐色	良好	口縫部1/5-脚部 2/3失墜
263	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(13.7)	[7.8]	外側井付(後)、一部少々強化、 内側井付(後)	粗砂や多く含む	7.5YR7/0鉄錆-褐色	良好	口縫部1/4現存	
264	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(12.3)	[12.65]	外側井付、内側井付工具による 破壊	砂粒-全表面強化少々含 む	7.5YR5/1鉄錆-5YR6/6褐色	良好	口縫部1/7現存	
265	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(20.1)	[18.7]	外側井付強化	粗砂多く又全表面強化 赤褐色-少々含む	10YR6/2灰黃褐色	良好	口縫部全縦-脚部 3/4失墜	
266	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(15.0)	[8.4]	外側井付、内側井付強化	粗砂-全表面強化少々含 む	10YR7/2鉄錆-褐色	良好	脚部1/3現存	
267	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(2.5/7.5 割合7/3)	[11.4]	内側井付強化後	粗砂-全表面強化少々含 む	10YR7/2鉄錆-褐色-10YR5/2鉄 錆褐色、大半失墜	良好	脚-口縫全失墜	
268	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(13.0)	[9.8]	外側井付内側井付-7.5井付、細孔井付 7.5井付	粗砂-全表面強化少々含 む	10YR6/2灰白色-10YR7/2鉄錆- 褐色	良好	脚部1/34現存	
269	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(18.6)	[9.2]	外側井付	粗砂や多く含む	10YR7/1灰褐色	良好	脚部全縦-脚部 1/5現存	
270	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	(10.9)	[9.95]	内側井付強化及強化井付	砂粒-赤褐色強化少々含 む	7.5YR7/2鉄錆-5YR6/7褐色	良好	脚部1/3現存	
271	115	SD368	1区土器群-器 合	赤生土器-器 合	12.0	[7.2]	外側井付強化、内側井付強化 井付	砂粒-全表面強化少々含 む	7.5YR6/0灰白色-7.5YR6/4鉄 錆褐色、黑色	良好	脚部全現存	
272	115	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	(10.7)	[4.98]	内外井付	粗砂-全表面強化少々含 む	7.5YR6/2灰白色	良好	脚-脚部1/10現存	
273	115	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭		[3.7]	井付強化、外側井付強化井付	粗砂-強化した砂粒わずか に含む	7.5YR6/2灰白色	良好	小破片	
274	115	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器		[4.4]	井付、内側井付強化井付	砂粒わずかに含む	10YR6/2灰黃褐色	良好	脚部1/5現存	
275	115	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	(15.6)	[4.58]	内側井付強化、内側井付強化 井付、脚部小孔付	砂粒-赤褐色強化少々含 む	7.5YR6/0灰白色-5YR7/6褐色	良好	井中に良存	
276	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	16.1	[8.9]	内側井付強化井付強化井付 井付	粗砂少々含む	10YR7/1灰白色-10YR7/5灰黃 褐色	良好	口縫-脚上平部 現存	
277	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	(12.2)	[8.7]	内側井付-7.5井付、内側井付 2.5井付	粗砂少々含む	7.5YR8/1灰白色	良好	脚部1/4現存	
278	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	(10.0)	[3.4]	内側井付強化、内側井付強化 井付	粗砂-赤褐色強化少々含 む	7.5YR6/0灰白色-7.5YR6/4鉄 錆褐色、黑色	良好	下下半14/4現存	
279	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	(16.5)	[3.75]	強化井付-5.5井付強化	砂粒-赤褐色強化少々含 む	7.5YR6/4灰褐色	良好	口縫部1/12現存	
280	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-器	(2.45)	[2.45]	外側井付-7.5井付強化井付 井付	粗砂-赤褐色強化少々含 む	10YR7/0鉄錆-褐色	良好	脚部下半1/5現存	
281	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-高灰 頭	(13.7)	[5.3]	外側井付-5.5井付、内側井付 2.5井付	粗砂-赤褐色強化少々含 む	7.5YR7/0鉄錆-5.5井付-7.5YR6/8 褐色	良好	脚部1/5現存	
282	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-高灰 頭	(3.85)	[2.62]	内側井付	砂粒少々含む	7.5YR6/8褐色	良好	脚部現存	
283	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	(10.1)	[3.4]	内側井付	粗砂わざかに含む	10YR7/2灰白色	良好	脚部現存	
284	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	(14.6)	[5.8]	内側井付強化及強化井付	砂粒少々含む	10YR7/1灰白色、スズ材質	良好	約1/2現存	
285	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	(17.8)	[8.6]	内側井付-7.5井付、内側井付 2.5井付	粗砂少々含む	10YR7/2灰白色	良好	約1/6現存	
286	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	(10)	[2.6]	外側井付-内側井付強化井付、 内側井付強化井付	粗砂少々含む	7.5YR7/2灰白色-7.5YR6/2鉄 錆褐色	良好	脚-脚部1/1 現存	
287	116	SD368	1区土器群-器 合	土器群-小形 灰頭	7.6	[5.8]	内側井付強化井付、强度井付、 内側井付-5.5井付	粗砂少々含む	10YR6/2灰白色-2.5YR7/6褐色	良好	底筋-一体縮断	
288	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(7)	[15.4]	内側井付-5.5井付、内側井付 2.5井付	粗砂わざかに含む	7.5YR7/2鉄錆-褐色	良好	口縫-脚上平部 現存、奥入馬系	
289	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(16.6)	[14.5]	弱強井付-内側井付強化井付、 内側井付	粗砂わざかに含む	10YR7/2灰白色-10YR6/4灰黃 褐色	良好	脚部1/5現存	
290	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(27.6)	[15.0]	弱強井付-内側井付-粘土安裝 井付	粗砂-白粉斑-全表面 強化わざかに含む	10YR7/1灰白色-10YR7/2灰黃 褐色	良好	脚部1/6現存	
291	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(14.3)	[20.4]	中強井付-2.5井付、外側井付上 半	粗砂少々含む	10YR7/2灰白色、黑斑AJ	良好	脚縫-脚部1/2現存	
292	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(21.4)	[12.8]	強強井付-内側井付強化井付、 内側井付	粗砂わざかに含む	10YR7/2灰白色-10YR9/2灰黃 褐色、スズ材質	良好	脚縫-脚上平部1/4 ~1/3現存	
293	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(38.4)	[8.2]	中強井付-2.5井付、内側井付 2.5井付	粗砂少々含む	7.5YR6/2灰白色-7.5YR6/3褐色	良好	脚縫部1/12現存	
294	116	SD368	1区土器群-器 合	生土器-器	(25.0)	[8.95]	内側井付-4.5井付、内側井付	粗砂少々含む	10YR7/2灰白色、黑斑AJ	良好	脚縫部1/6現存、 GX426/2結合	

報告書 番号	Fg	PL	出土遺物	出土地點	器種・基準	測量 cm (測定±1cm)	測量		地質	表面色調	構成	現存状況性
							日付	測程	高さ	品目		
295	117	SD0368	生土土器-高 下層	(30.8)		(5.9)	外周部±0.1cm	無丸-全表面 無縫合少含む		7.5YR16/4淡黄褐色	良好	牙根1.4m残存
296	117	SD0368	生土土器-高 下層		椭圓4.0	(14.3)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm(底)、 厚さ+含む	無丸-赤褐色粒子や少 多含む	7.5YR16/2灰白～7.5YR16/3灰黃 褐色	良好	輪郭線複数、円筒 形3.0m残存	
297	117	SD0368	生土土器-高 下層			(12.8)	外周部±0.1cm	粗砂粒少含む	10YR17/2灰白～10YR16/1灰白 褐色	良好	口輪郭1.6m残存	
298	117	SD0368	生土土器-高 下層			(12.4)	外周部±0.1cm	粗砂粒や少多く、黒褐色 母材微粒子+少含む	GYR14/2灰褐色～GYR12/1灰褐色 (底)	良好	約1.7m残存、 内面V字型式	
299	117	SD0368	1区上層 生土土器-高 下層			1.9	手筋ね、外周部±0.1cm	粗砂粒多+含む	10YR15/1灰褐色	良好	底存のみ現存	
300	117	SD0368	1区上層 生土土器-高 下層			(10.2)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm、 厚さ+含む	少含む-全表面無縫合 多含む	10YR16/2灰黃褐色	良好	口輪郭~上半部1.0 m残存	
301	117	SD0368	1区上層 生土土器-高 下層			(9.4)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm、 厚さ+含む	粗砂粒や少含む	7.5YR17/2灰褐色～7.5YR16/2灰 褐色	良好	口輪郭1.3m残存	
302	117	SD0368	1区 土器類-小器 類			(13.9)	外周部±0.1cm	粗砂粒-全表面無縫合、黑 褐色粒子+少含む	7.5YR17/2灰褐色～7.5YR16/2灰 褐色	良好	口輪郭1.8m残存	
303	117	SD0368	1区 土器類-陶			(19.5)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒や少含む	7.5YR16/6褐色	良好	口輪郭1.9m残存	
304	117	SD0368	1区 土器類-陶			(5.3)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR17/1灰褐色、スズ付青 色	良好	口輪郭~全体1.0m残存	
305	117	SD0368	1区 土器類-陶			(5.6)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	少含む-全表面無縫合	7.5YR16/25GL白色	良好	小片状	
306	117	SD0368	1区下層 生土土器-高 下層			(7.3)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒-全表面無縫合、黑 褐色粒子+少含む	7.5YR17/2灰褐色～7.5YR17/4灰 褐色	良好	照葉?小片狀、外 輪郭前記	
307	117	SD0368	1区 生土土器-高 下層			10.5	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒-全表面無縫合、黑 褐色粒子+少含む	GYR16/2灰褐色～10YR16/2灰 褐色	良好	口輪郭1.2~2層 堆積	
308	117	SD0368	1区 生土土器-高 下層			(8.4)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒多+含む	7.5YR16/6褐色	良好	口輪郭~脚部 1.0m残存	
309	117	SD0368	1区 土器類-高 度瓦			(16.4)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒-全表面無縫合、少 含む	7.5YR16/25GL白色	良好	小片状	
310	117	SD0368	1区中層 生土土器-高 下層			(5.2)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒-全表面無縫合、少 含む	7.5YR17/3灰褐色～5YR17/6褐色 白色	良好	口輪郭1.8m残存	
311	117	SD0368	1区土器 類			2.8~3.4 不等分 内層		少含む-全表面 無縫合	10YR16/1灰白～10YR16/1灰 褐色	良好	約0.4m現存	
312	117	SD0368	1区 土器類-陶			3.2	1.6	2.3 全体押さえ	粗砂粒-全表面無縫合、少 含む	7.5YR16/1灰白～7.5YR16/4灰 褐色	良好	口輪郭S4欠損
313	117	SD0368	1区 土器類-高 度瓦			11.0	(2.95)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR16/2灰黃褐色～10YR16/2灰 白色	良好	底存5.0m現存
314	118	SD0368	1区中層 土器類-小器 類			(8.2)	8.5	8.3 全體押さえ	粗砂粒-全表面無縫合、少 含む	7.5YR16/6褐色～5YR16/3褐色 白色	良好	体積小範片
315	118	SD0368	1区土器 類			2.8~3.4 不等分 内層	(2.2)		少含む-全表面 無縫合	10YR16/1灰白～10YR16/1灰 褐色	良好	約0.4m現存
316	118	SD0368	1区 土器類-陶			3.2	1.6	2.3 全体押さえ	粗砂粒-全表面無縫合、少 含む	7.5YR16/6褐色	良好	口輪郭S4欠損
317	118	SD0368	1区 土器類-陶			15.8	25.8	28.3 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR16/2灰黃褐色～7.5YR16/2灰 褐色	良好	底存5.0m現存
318	118	SD0368	2区 土器類-陶			(14)		7.7~10.0 厚さ+含む	粗砂粒少含む-少含 少含む	10YR17/1灰褐色	良好	口輪郭~全体1.0m 現存
319	118	SD0368	2区 土器類-陶			5.95	6.1	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/6褐色～褐色	良好	頭頂上半1.4m 現存
320	118	SD0368	2区 土器類-陶			10.4	(5.6)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	少含む	10YR17/2鉛灰～黃褐色	良好	頭頂の一部~頭 頂部の一部のみ現存
321	118	SD0368	2区 土器類-陶			13.5	7.05	4.9 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む-赤褐色粒子 少含む	GYR16/2灰褐色～5YR16/3褐色 黑色	良好	口輪郭1.0m欠損
322	118	SD0368	2区 土器類-灰 土			(6.2)	(6.6)	外周部内凹-外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR16/1灰白～10YR16/3浅黃 褐色	不規	上半部1.0m 現存
323	118	SD0368	2区 生土土器-高 下層			(6.9)	9.95	10.0 外周部内凹-外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR17/4鉛灰～褐色	良好	口輪郭1.4m現存
324	118	SD0368	2区 生土土器-高 下層			(8.95)	(8.6)	7.7 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む-小粒 少含む	7.5YR16/2鉛灰～5YR16/3褐色 黑色	良好	頭頂S4頭部 欠損
325	118	SD0368	2区 生土土器-高 下層			12.0	(12.2)	12.0 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/1灰白～5YR16/3褐色 黑色	良好	頭頂S4頭部 欠損
326	118	SD0368	2区 生土土器-高 下層			(9.5)	(8.0)	5.7 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/2鉛灰～5YR16/3褐色 黑色	良好	頭頂S4頭部 欠損
327	118	SD0368	1区 土器類-陶			(20.0)		2.0 内周部内凹部-壁+柱状灰 土	粗砂粒-内周部内凹部 少含む	10YR16/1灰白～7.5YR16/2灰 褐色	良好	口輪郭S11現存
328	118	SD0368	4区 土器類-陶			(17)		5.4 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	GYR16/2鉛灰～2.5YR17/7褐色	良好	頭頂部分(S4頭部 2.0m)
329	118	SD0368	1区ベルト 上層			(10.1)	(5.76)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	砂粒少-粗砂粒少含 少含む	頭頂部分(S4頭部 2.0m)	頭頂部分(S4頭部 2.0m)	頭頂部分(S4頭部 2.0m)
330	118	SD0368	4区 (SD0542) 上層			(12.0)		2.7 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒-全表面無縫合 少含む	7.5YR16/4浅黃褐色～5YR16/6褐色	良好	口輪郭1.0m現存
331	118	SD0368	1区 土器類-高 度瓦			(13.0)	(6.2)	外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/2灰白～7.5YR16/2灰 褐色	良好	口輪郭1.0m 現存
332	118	SD0368	1区 土器類-高 度瓦			(19.0)	(5.6)	外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR16/1反白	良好	口輪郭1.0m現存
333	118	SD0368	1区ベルト 上層			(9.1)	(5.1)	7.7 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR17/2鉛灰～黃褐色	良好	上半部約1.0m 現存
334	118	SD0368	1区 土器類-高 度瓦			7.05	(5.9)	5.7 外周部±0.1cm、内面±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR17/2鉛灰～黑褐色 黑色	良好	口輪郭S1欠損
335	120	SD444	生土土器-高 下層			(4.05)	4.05 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/6褐色	良好	口輪郭S1頭部 2.0m	
336	120	SD444	生土土器-高 下層			(2.5)	5.7 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR17/4鉛灰～褐色	良好	口輪郭S1頭部 2.0m	
337	120	SD444	生土土器-高 下層			(2.25)	5.7 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/6褐色	良好	口輪郭S1頭部 2.0m	
338	120	SD444	生土土器-高 下層			(1.8)	5.7 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR17/4鉛灰～黃褐色	良好	口輪郭S1頭部 2.0m	
339	120	SD444	生土土器-高 下層			(12.4)	5.7 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	7.5YR16/4浅黃褐色-浅黃 褐色	不規	口輪郭S1頭部 2.0m	
340	120	SD444	生土土器-高 下層			(7.75)	7.75 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	10YR17/1反白～2.5YR16/6褐色	良好	口輪郭S1頭部 2.0m	
341	120	SD444	生土土器-高 下層			(2.2)	5.7 外周部±0.1cm 厚さ+含む	粗砂粒少含む	2.5YR16/6褐色	不良	頭頂突起小範片	

報告書番号	Fig.	PL.	出土場所	器種・形態	出典	cm (はく) (はく)	測定		地土	外観色調	地成	発見状況地
							横径	高さ				
341	120	SD444	安寄文土器・遺跡	縦腹部	(11.8)	(1.8)	外観黒漆面、内面は白土器の 「藍部」、内面漆付や底	砂利や中多く含む	2.5YR5/6明赤褐色～2.5YR6/4 黄褐色	良好	脚部破片	
341	120	SD444	安寄文土器・ 遺跡			(9.2)	(3.4)		SYR7/6褐色～7.5YR5/6暗褐色	良好	底盤14残存	
342	120	SD451	土師器・壺	(14.8)		(2.2)	外観細縁部、内面は白	砂利・全表面微少含む	10YR7/7褐色～7.5YR6/2灰白色 (下部)	良好	口縁部・底盤、 底戸内系	
343	120	SD451	衛生土器・煮 芋	半腰底 付(13.0)	(3.18)		所内側・口縁部「内面」が「 外面」の「内」、内面「外」	砂利・全表面微少含む	7.5YR5/6明赤～7.5YR6/2灰白 (下部)	良好	底盤14残存	
344	120	SD451	土師器・壺	縦腹4.0	(7.4)		外観内「外」、内面「内」が「 外」	砂利・全表面微少含む	SYR7/6褐色～7.5YR5/6灰白色 (下部)	良好	輪郭部残存	
345	120	SD451	土師器・壺・ 付鉢	縦腹 (3.8)	(5.0)		外観内「外」、内面「外」	砂利・少量含む	SYR6/4鉄・褐色	良好	輪郭部残存	
346	120	SD451	衛生土器・ 壺	(12.8)		(2.25)	「外」・工具痕	砂利・外・内面褐色粒子 が中多く含む	7.5YR5/6浅黄褐色	良好	口縁部・底盤	
347	120	SD451	衛生土器・壺	(15.8)		(5.0)	外観内「外」、口縁部「内面」 付鉢	砂利・全表面微少含む	SYR5/6暗赤褐色～SYR5/1黒灰 色	良好	口縁部・休憩状 態14残存	
348	120	SD451	衛生土器・壺・ 遺跡	(22.4)		(9.1)	「外」	砂利・少量含む	7.5YR7/6褐色～褐色	良好	口縁部1/2残存	
349	120	SD471	安寄文土器・ 遺跡	(10.2)		(8.1)	外観黒漆面、内面二直肩 付	砂利・全表面微少含む	7.5YR3/2墨褐色	良好	口縁部1/4残存	
350	120	SD471	土師器・壺				「外」	砂利・少量含む	7.5YR7/6褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	底盤のみ残存	
351	120	SD481	土師器・壺	(12.0)		(4.8)	外観内「外」、内面「外」	砂利・全表面微少含む	7.5YR7/6褐色～褐色	良好	口縁部1/4残存	
352	121	SD482	衛生土器・壺	(13.5)		(3.85)	内面「外」付	砂利・全表面微少含む	7.5YR5/6灰褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	口縁部14残存、 板戸式	
353	121	SD482	衛生土器・壺	(10.0)		(8.7)	外観内「外」、内面「外」・底付	砂利	7.5YR5/6灰褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	口縁部1/2残存、 板戸式	
354	121	SD482	衛生土器・壺	(24.0以上)		(7.45)	外観内「外」、内面「外」・底付	砂利・沙粒わずかに含む	7.5YR5/6灰褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	底盤15残存、 板戸式	
355	121	SD482	衛生土器・壺 付鉢			(7.0)	外観内「外」付	砂利・全表面微少含む	10YR6/2灰褐色～10YR5/1黒灰色	良好	口縁部14残存、 板戸式	
356	121	SD482	衛生土器・壺	(19.8)		(1.18)	内面「外」付、口縁部「内」の目	砂利・全表面微少含む	SYR5/4鉄・褐色	不良	底盤台	
357	121	SD482	衛生土器・壺	(23.2)		(5.8)	下端に剥離	砂利・全表面微少含む	7.5YR4/2灰褐色、スズ付葉 含む	良好	脚部1/4残存、 板戸式	
358	121	SD482	安寄文土器・ 遺跡	(23.3)		(4.15)	外観黒漆面、内面「外」	砂利・全表面微少含む	SYR5/3深褐色、スズ付葉 含む	良好	口縁部1/2残存	
359	121	SD482	安寄文土器・ 壺	(16.8)		(11.0)	脚部外縁付内面「外」	砂利・全表面微少含む	7.5YR7/6褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	脚部1/4残存、 板戸式	
360	121	SD482	安寄文土器・ 壺			(2.3)	外観黒漆面、内面「外」	砂利・少量含む	SYR6/4鉄・褐色	良好	口縁部小破片	
361	121	SD482	安寄文土器・ 壺			(19.5)	(4.55)	外観黒漆面内面「外」	砂利や中多く含む	7.5YR5/6褐色～褐色	良好	脚部1/2残存
362	121	SD482	安寄文土器・ 壺			(14.4)	(5.05)	外観内「外」・「外」、内面「外」 付	砂利・全表面微少含む	7.5YR4/2灰褐色～7.5YR5/1黒灰色	良好	口縁部脚部上半 段
363	121	SD482	衛生土器・煮 芋	(23.7)		(8.05)	内外面「外」付	砂利・全表面微少含む	7.5YR5/6褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	口縁部1/4残存	
364	121	SD482	衛生土器・壺			(12.7)	外観内「外」付	砂利・赤褐色粒子多く含む	SYR6/6褐色	不良	脚部15残存	
365	121	SD493	土師器・高 脚7			(13.7)	(2.95)	内面「外」付	砂利・沙粒など多く含む	10YR8/3浅黄褐色	良好	脚部14残存
366	121	SD493	安寄文土器・ 遺跡					砂利わざかに含む	7.5YR7/6褐色～7.5YR5/1黒灰色	良好	口縁部小破片、 夜日式	
367	121	SD493	衛生土器・壺			(5.6)	底部外縁付内面「外」	砂利・黒褐色粒子多く含む	SYR7/4鉄・褐色	良好	底盤15残存	
368	121	SD493	衛生土器・壺			(5.6)	内面「外」付、内面「外」付	砂利・全表面微少含む	SYR5/3深褐色、スズ付葉	良好	休憩用罐	
369	121	SD497	衛生土器・壺			(6.7)	(0.1)	外観内「外」付	砂利・沙粒など多く含む	7.5YR7/6褐色～褐色	良好	底盤内側罐
370	121	SD497	衛生土器・壺			(6.7)	(7.0)	外観内「外」付	砂利や中多く含む	10YR7/6鉄・褐色	不良	底盤15残存
371	121	SD510	土師器・小型 壺	(6.8)	(8.4)	(3.55)	外観・口縁部内面「外」付、内面 「外」	砂利や中多く含む	10YR7/6褐色～7.5YR7/6褐色	良好	口縁部脚部上半 段	
372	121	SD510	衛生土器・ 壺	(6)		(3.7)	口縁部外縁付内「外」付	砂利・全表面微少含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	口縁部1/4残存 6.7%水	
373	121	SD511	衛生土器・壺			(3.7)	外観内「外」付、内面「外」付	砂利・全表面微少含む	7.5YR7/6褐色～7.5YR5/2黒褐色	良好	口縁部14残存	
374	121	SD540	衛生土器・壺			(16.4)	(8.26)	内面「外」付	砂利・全表面微少含む	10YR8/4浅黄褐色	良好	脚部14残存
375	121	SD543	土師器・壺	(12.4)		(3.25)		砂利・全表面微少含む	7.5YR5/2灰褐色	良好	脚部1/4残存	
376	122	SD506	安寄文土器・ 壺	(21.8)		(8.75)	口縁部斜削	砂利や中多く含む	7.5YR7/6褐色～褐色	良好	脚部1/4残存	
377	122	SD506	安寄文土器・ 壺			(19.4)	(3.5)	外観黒漆面、内面「外」付	砂利や中多く含む	7.5YR6/4浅黄褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	不良	脚部15残存
378	122	SD506	外観内「外」付			(6.0)		砂利や中多く含む	7.5YR7/6褐色～褐色	良好	脚部小破片、 底戸内	
379	122	SD506	外観黒漆面、 内面「外」付			(8.75)		砂利や中多く含む	SYR7/6褐色、スズ付葉	良好	脚部15残存	
380	122	SD506	外観内「外」付			(8.0)		砂利や中多く含む	7.5YR5/2灰褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	脚部14残存	
381	122	SD506	外観内「外」付			(6.9)		砂利や中多く含む	7.5YR5/6褐色～7.5YR4/2灰褐色 (下部)	良好	口縁部1/4以上 15%水	
382	122	SD506	外観土器・壺			(26.8)	(3.3)	口縁部斜削付内「外」付	砂利や中多く含む	7.5YR7/6褐色～7.5YR5/1黒褐色	良好	口縁部15残存
383	122	SD506	外観土器・ 壺			(21.9)	(3.4)	外観内「外」付、内面「外」付	砂利や中多く含む	7.5YR5/2灰褐色、底戸内	良好	脚部15残存
384	122	SD506	外観土器・ 壺			(4.75)	(1.9)	外観内「外」付	砂利や中多く含む	7.5YR5/6褐色	良好	脚部15残存
385	122	SD505	外観土器・ 壺			(24.0)	(9.5)	外観内「外」付、内面「外」付	砂利や中多く含む	10YR5/2灰褐色～7.5YR5/2灰褐色 (下部)	不良	脚部15残存
386	122	SD506	土師器・壺	(20.3)		(4.4)	口縁部内面「外」付	砂利や中多く含む	SYR6/6褐色	良好	脚部14残存	
387	122	SD506	衛生土器・ 壺	(19.8)		(9.2)	内面「外」付	砂利や中多く含む	SYR7/6灰白色	良好	脚部14残存	
388	122	SD506	外観内「外」付			(4.4)		砂利や中多く含む	7.5YR5/6褐色	良好	脚部14残存	
389	124	SD507	安寄文土器・ 壺	21		23.7	外観内「外」付、内面「外」付	砂利や中多く含む	SYR7/6褐色～7.5YR4/2灰褐色	良好	脚部15残存	

報告書 番号	Fig.	PL.	出土地點	出土位置	器種・基形	測量 cm (標準±1cm)	測量		胎土	表面色調	構成	既存状況他	
							口幅	裏幅					
390	124	92	S0507	安泰文土器・ 壺	18.6	20.7	8.8	23.4	胎砂粒・赤褐色粒子・底 色黄色やや多く含む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4黃 褐色、外側上平面部スズ付葉 模様	良好	既存完形	
391	124	92	S0507	安泰文土器・ 壺	17.8	19	7.2	24.2	外面三凸肩腹縫、内面三凸肩 腹縫	胎砂粒・黑色粒子多く含 む、底・全周赤褐色粒子 多く含む	7.5YR6/4淡黃褐色～7.5YR7/4黃 褐色、底・全周赤褐色 粒子多く含む	良好	既存完形
392	124	92	S0507	安泰文土器・ 壺	(19.8)	(20.2)		(15.9)	外面具筋条痕、内面三凸肩 腹縫	胎砂粒・黑色粒子多く含 む、底・全周赤褐色粒子 多く含む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4黃 褐色、全周上平面部スズ付葉 模様	良好	既存完形
393	124		S0507	安泰文土器・ 壺	(20)	(20)		(8.2)	背面泥ハケ部、内面泥コナ テ	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	SYR2/1・3黒褐色～SYR4/1 黑 褐色、スズ付葉	良好	口端部1/7残存
394	124	92	S0507	安泰文土器・ 壺	21	22.5	7.3	26.7	外側具筋条痕が、内面三凸 肩腹縫	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	10YR7/4・6淡黃褐色、脚上 部スズ付葉・底黒褐色	良好	既存完形
395	124	93	S0507	安泰文土器・ 壺	20.8	24.2		(23.1)	外面三凸肩腹縫、下平面部 スズ付葉	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	GYR9/0褐色～GYR9/0淡 褐色、脚上部スズ付葉	良好	脚上部一度残存以 外既存
396	124		S0507	安泰文土器・ 壺	(21.8)			(4.6)	外面三凸肩腹縫、内面三凸 肩腹縫	胎砂粒わざかに含む	7.5YR6/4淡黃褐色、スズ付葉	良好	口端部1/4残存
397	124	93	S0507	安泰文土器・ 壺	(18)			(5.5)	外面具筋条痕が、内面泥コ ナテ	胎砂粒多く含む、底 色黄色やや多く含む	GYR9/0褐色～淡褐色、スズ付葉 模様	良好	口端部1/1残存
398	124		S0507	安泰文土器・ 壺			(18.6)		外面泥ハケ部、内面下平面部 スズ付葉	胎砂粒少量化	7.5YR7/4淡黃褐色、脚底黒褐色 模様	良好	口端部・底部外 既存
399	124	93	S0507	安泰文土器・ 壺	19.8			(21)	外側上平面部三凸肩、下平面部 スズ付葉	胎砂粒・黑色粒子や赤褐色 粒子多く含む	7.5YR6/4淡黃褐色、外側底部 黒褐色	良好	底部以外既存
400	124		S0507	安泰文土器・ 壺	(18)	(9.4)			背面三凸肩腹縫、内面泥コ ナテ	胎砂粒や多めに含む	7.5YR6/4淡褐色、スズ付葉	良好	口端部1/6残存、一 次実形
401	124	93	S0507	安泰文土器・ 壺	14.4			(11)	外側具筋条痕、内面三凸肩 腹縫	胎砂粒・黑色粒子や赤褐色 粒子多く含む	GYR9/0褐色～淡褐色、大口付葉 模様	良好	口端部4/5、底部 外既存
402	124		S0507	安泰文土器・ 壺			(11.2)		外側具筋条痕、内面泥コ ナテ	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	7.5YR6/4淡褐色、スズ付葉 模様	良好	口端部既存
403	124		S0507	安泰文土器・ 壺	(7)	(6.6)			外側面三凸肩腹縫	胎砂粒や多めに含む	7.5YR6/4淡褐色～淡褐色、スズ付葉	良好	底部一側下部1/2 残存
404	125	93	S0507	拘生土器・ 壺	21.8	19.8	7.2	26	外面ハケ部、内面ハケドリ 部	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	7.5YR6/4淡褐色～7.5YR4/3 褐色、脚上部上半・近足	良好	口端部完形
405	125	93	S0507	拘生土器・ 壺	(27)		(6.6)		外側ハケドリ部・消え、内面 ハケ・口端部既存	胎砂粒多く含む、底 色黄色やや多く含む	SYR9/0褐色～5YR10/3淡 褐色、一底部	良好	口端部1/6残存、 既存
406	125	93	S0507	安泰文土器・ 壺	(40.4)	(39.4)		(17.9)	外側の泥ハケ部、脚上部 スズ付葉	胎砂粒・黑色粒子多く含 む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4淡 褐色、スズ付葉	良好	口端部一側1/3 既存
407	125	93	S0507	拘生土器・ 壺	19.8	37.3	10	37.1	外側ハケドリ部	胎砂粒や多めに含む	7.5YR6/4淡褐色～淡褐色、 スズ付葉	良好	底部一側下部1/2 残存
408	125		S0507	拘生土器・ 壺	(9.2)	(3)			外側面ハケ、底部ハケ底部 カマ	胎砂粒	SYR7/3淡褐色～淡褐色	良好	底部、大型板付式
409	125	93	S0507	拘生土器・ 壺		(4)			外側面ハラミガキ	胎砂粒・白色粒子多く含 む	7.5YR7/4明灰褐色、内面 脚上部	良好	口端部1/6残存、 板付式
410	125	93	S0507	拘生土器・ 壺		(4.4)	(3.2)		外側面ハラミガキ	胎砂粒・白色粒子多く含 む	10YR7/4褐色～黃褐色、底部付 近・脚底黒褐色	良好	底部短付、板付式
411	125	93	S0507	拘生土器・ 壺	(22)	(8.8)		(17.1)	背面ハケ・打ハケ・ヘラハケ 部、脚上部ハラミガキ・脚底 ハラミガキ	胎砂粒や多めに含む、 底・全周白色	7.5YR6/2淡褐色～7.5YR6/2深 褐色	良好	口端部半分以下、 底部下部外既存
412	125	93	S0507	拘生土器・ 壺		(14.4)			周外側面ハケ	胎砂粒非常に多く含む 者、白色・淡褐色・白色粒子 混在する	7.5YR6/2淡褐色～7.5YR6/3 褐色、全周上・人字口付葉 模様	良好	開口部1/6既存
413	125		S0507	拘生土器・ 壺	(50)		(21.4)		外側ハケドリ部・内面 ハケ部	胎砂粒・赤褐色粒子多く含 む	7.5YR6/4淡褐色～2.5YR5/5 褐色・5YR6/5白色	良好	脚面一側1/3既 存
414	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	5.4	12.85	4.8	12.6	口縁外側面三凸肩、脚上部 スズ付葉	胎砂粒・白色粒子多く含 む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4淡 褐色、スズ付葉	良好	口端部一部久く 既存
415	127		S0505	拘生土器・ 壺	(13.0)	(6.95)			外側ハケドリ部、内面ハ ケ部	胎砂粒少量化	SYR7/4淡褐色～7.5YR7/4淡 褐色	良好	体部1/6既存
416	127		S0505	拘生土器・ 壺	(12.1)	(6.5)			外側ハケドリ部、内面ハ ケ部	胎砂粒少量化	7.5YR7/4淡褐色～7.5YR7/4 褐色	良好	体部1/6既存
417	127	94	S0505	2区下層 拘生土器・ 壺	11.4	18.0	(3.6)	14.7	外側ハケドリ部・内面ハ ケ部	胎砂粒・全周赤褐色粒子 多く含む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4淡 褐色、底・足底黒褐色	良好	口端部1/2・底部3/4 既存
418	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	13.7	17.2	3.8	17.7	外側に泥ハケ部、脚上部ハ ケ・ハケドリ部、内面ハケ 部	胎砂粒・黑色粒子含む	10YR1/6黄褐色・底黒褐色	良好	口端・一直到1/2既 存
419	127	94	S0505	3区上層 拘生土器・ 壺		(10.0)			外側ハケドリ部・泥ハケ 部、脚上部ハケドリ部、 内面ハケドリ部	胎砂粒・全周泥黒褐色 粒子多く含む	7.5YR6/4淡褐色・丹青り 色	良好	口端・一直到1/2既 存
420	127	94	S0505	青山部 拘生土器・ 小壺	13.7	18		16.45	外側口縁部三凸肩、脚上部 泥ハケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒含む	10YR5/2・3・4・5黃褐色、黑褐色 模様	良好	口端から底部1/3既 存
421	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	(16)	(19.1)		(14.2)	小壺部の外側面泥ハケ部、 脚上部泥ハケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒少量化	10YR5/2淡褐色、黒褐色 模様	良好	口端・体部1/3既 存
422	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	19.4	25.3	(7.4)	26.1	泥ハケ部、脚上部泥ハ ケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒少量化	GYR9/4淡褐色、黑褐色	良好	口端1/2・底部1/2既 存、開口部付近に 泥黒褐色
423	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	25.5	7.0		(26.0)	上面泥ハケ部、下面泥ハ ケ部	胎砂粒ばかりに含む	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4淡 褐色、底・足底黒褐色	良好	口端～脚部欠 損
424	127		S0505	3区上層 拘生土器・ 壺	(20)		(8.2)		小壺部の泥ハケ部、脚上部泥 ハケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒・全周泥黒褐色 粒子多く含む	7.5YR5/4褐色～7.5YR5/3淡 褐色	良好	脚上部1/1既存
425	127		S0505	寄出付 拘生土器・ 壺	(27.8)		(11.7)		外側泥ハケ部、脚上部泥 ハケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒少量化	2.5YR5/6明灰褐色	良好	脚部板片
426	127	94	S0505	拘生土器・ 壺	14.6	15.9	4.55	20.2	外側泥ハケ部・泥ハ ケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒少量化	7.5YR7/3褐色～7.5YR7/4淡 褐色、スズ付葉	良好	脚部1/2既存
427	126	95	S0505	拘生土器・ 壺	17.3	18.9	4.75	24.35	外側泥ハケ部・泥ハ ケ部、内面泥ハ ケ部	胎砂粒少量化	7.5YR7/4褐色～7.5YR7/4淡 褐色、スズ付葉	良好	口端・一直到1/2既 存
428	126		S0505	2区	(18.2)		(4.5)		小壺部の泥ハケ部、内面 泥ハケ部	胎砂粒少量化	7.5YR6/4淡褐色	良好	口端部1/6既存
429	126	94	S0505	拘生土器・ 壺	20.4	23.0	8.55	32.7	小壺部の泥ハケ部、脚上部 泥ハケ部	胎砂粒少量化	7.5YR6/2淡褐色(上)～10YR7/2 淡褐色(下)・黒褐色(中)	良好	脚部1/2既存
430	126	94	S0505	拘生土器・ 壺	20.8	23.1	7.6	(30)	小壺部の泥ハケ部、脚上部 泥ハケ部	胎砂粒少量化	7.5YR6/6淡褐色(上)～10YR6/4 淡褐色(下)	良好	口端1/2・脚上部 1/4既存

番号	Fig.	PL.	出土地名	出土位置	器種・形態	出典	（注）発見状況	測定		地土	外観色調	地成	推存状況
								寸法	測位				
431	128	85	SD505	海生土器-盤		(20.0)	8.1	(23.2)		砂利少々含む	7.SYR6/4暗褐色~7.SYR6/4(暗)褐色、黒褐色	良好	脚部1/3残存
432	128	85	SD505	海生土器-盤	14.2	23.5	(28.0)		砂利少々含む	7.SYR6/3(暗)褐色~7.SYR6/4(暗)褐色、黒褐色	良好	底部が焼成時に被覆し文様を保つ使用的の痕跡なし	
433	128	SD505	2区下層	海生土器-盤	(22.4)		(10.4)		砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色~7.SYR6/4(暗)褐色、黒褐色	良好	口縁一部上半1/12残存	
434	128	85	SD505	海生土器-盤	27.1		7.9	7.3	砂利少々含む	7.SYR6/6褐色	良好		
435	128	SD505		海生土器-盤合		(16.5)	(14.1)		砂利少々含む	7.SYR6/5(暗)褐色~7.SYR6/3(暗)褐色	良好	脚部1/3残存	
436	128	SD505	2区下層	海生土器-盤合	(9.8)		(7.5)		砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色	良好	口縁一部上半1/12残存	
437	129	85	SD505	4区上層	海生土器-盤	17		4.9		砂利少々含む	7.SYR6/6褐色	良好	
438	129	SD505	4区上層	海生土器-盤	13.6	4.2	4.5	内側左	砂利少々含む	10YR6/4(暗)褐色	良好		
439	129	SD505	底面	海生土器-盤	13.4	5.1	内側左		砂利少々含む	7.SYR6/8(暗)褐色	良好		
440	129	SD505	底面	海生土器-盤		(3.2)			砂利少々含む	7.SYR6/8(暗)褐色	良好	脚部破片。	
441	129	SD487		海生土器-盤		(3.2)			砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色	良好	底部小破片	
442	129	SD505	3区上層	海生土器-盤	(27.1)		(6.3)		砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色~5YR6/3(暗)褐色	良好	口縁部1/12残存	
443	129	SD505	3区上層	海生土器-盤	(19.1)		(12.0)		砂利少々含む	7.SYR6/3(暗)褐色~7.SYR6/3(暗)褐色	良好	口縁一部上半1/12残存	
444	129	SD505	3区下層	安泰文土器-盤鉢	(23.4)		(8.6)		砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色~7.SYR6/2(暗)褐色	良好	口縁一部上半1/12残存、脚部1/3破片	
445	129	SD505	3区上層	安泰文土器-盤鉢	(23.4)		(4.35)		砂利少々含む	7.SYR6/3(暗)褐色	良好	口縁部1/12残存後口縁部1/3	
446	131	85	SD388	1区北部上層	土製品-杓子	(7.3)	砂部分7.4	7.4	sondage	砂利少々含む	2.5YS/2(暗)褐色	良好	口が欠けるが底面完形
447	131	85	SD388	1区北部上層	土製品-杓子	(9.0)	砂部分	(5.3)	sondage	砂利少々含む	10YR6/2(暗)褐色	良好	内部が半欠け、短い柄が付く。
448	131	SD388	1区北部下層	土製品-杓子	(5.3)				砂利少々含む	10YR6/2(暗)褐色	良好		
449	131	SD388	1区下層	不明土器-鉢	8.16	46.8	2.55		砂利少々含む	9YR7/1灰色	良好		
450	131	SD388	1区土器群下層	不明土器-鉢	8.745	45.6	底4.8		砂利少々含む	7.SYR6/3(暗)褐色	普通	黒化する	
451	131	SD471		土製品-鉢	(2.6)	4.9	孔径0.6	2.7	sondage	砂利少々含む	10YR6/2(暗)褐色	普通	2/3底在
452	131	SD507		土製品-鉢	4.65	0.45	孔径1.5	丁寧な手付	砂利少々含む	2.5YS/2(暗)褐色	良好	底は完形	
453	136	SK384		海生土器-萬形					砂利少々含む	10YR6/3(暗)褐色	普通	脚部2/3	
454	136	SK384		土器器-合		(14.2)			砂利少々含む	7.SYR7/3(暗)褐色	普通	脚部2/3	
455	136	SK384	土器器-合		(11.4)				砂利少々含む	7.SYR6/5(暗)褐色	普通	脚部1/3	
456	136	SK384	海生土器-萬形						砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色	脚部		
457	136	SK384	底下層	土器器-萬形		(13.1)			砂利少々含む	10YR7/2(暗)褐色	良好	脚部2/3	
458	136	SK384	土器器-萬形		(10.2)		(4.3)		砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色	良好	口縁部1/3	
459	136	SK384	土器器-萬形		(2.6)				砂利少々含む	7.SYR6/5(暗)褐色	良好	口縁部1/4	
460	136	SK384	底下層	土器器-萬形	(13.2)		(4.2)		砂利少々含む	7.SYR7/2(暗)褐色	良好	口縁部1/4	
461	136	SK384	底下層	土器器-萬形	(2.6)		(0.4)		砂利少々含む	7.SYR7/2(暗)褐色	良好	脚部1/2	
462	136	SK384	底下層	海生土器-鉢	(11.5)		(6.7)	(11.8)	砂利少々含む	7.SYR6/1(暗)褐色	良好	完形	
463	136	SK384	底下層	土器器-萬形	(19.2)		(10.8)		砂利少々含む	2.5YS/3(暗)褐色	良好	1/8	
464	136	SK384	底下層	土器器-萬形	(17.7)		(21.4)		砂利少々含む	10YR7/2(暗)褐色	良好	口縁一部1/8	
465	136	SK384	底下層	土器器-萬形	(11.4)				砂利少々含む	10YR7/2(暗)褐色	良好	口縁部1/4	
466	136	SK448		海生土器-萬形					砂利少々含む	10YR6/3(暗)褐色	普通	底1/2	
467	136	SK448		海生土器-萬形					砂利少々含む	SYR6/2(暗)褐色	普通		
468	136	SK448	海生土器-萬形		(23.2)		22.8	20.3	砂利少々含む	SYR6/2(暗)褐色	良好	口縁部~脚部下部	
469	136	SK448	海生土器-萬形		(21)		23.2	22	砂利少々含む	10YR6/4(暗)褐色~10YR7/3(暗)褐色	良好	口縁部~脚部下部	
470	136	SK448	海生土器-萬形		(18)		(20)	(13.5)	砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色~7.SYR6/5(暗)褐色	良好	口縁部~脚部上半1/2	
471	136	SK448	海生土器-萬形						砂利少々含む	10YR7/2/3(暗)褐色	良好	口縫隙	
472	136	SK448	海生土器-萬形		22	20.6	7.8	25.5	砂利少々含む	10YR6/3(暗)褐色~10YR6/5(暗)褐色	良好	内窓用、板付1式	
473	136	SK448	海生土器-萬形		21	20.4	8.8	26	砂利少々含む	7.SYR7/2(暗)褐色	良好	内窓用、板付1式	
474	136	SK448	海生土器-萬形		(22.6)		(20.2)	(7.8)	砂利少々含む	10YR7/3(暗)褐色	良好	内窓用、板付1式	
475	136	SK448	海生土器-萬形						砂利少々含む	7.SYR6/4(暗)褐色	良好	内窓用、板付1式	
476	139	SK480	海生土器-萬形		(41.6)		(36.3)	(21.8)	砂利少々含む	10YR7/3(暗)褐色	良好	口縫隙	
477	139	SK480	海生土器-萬形		(20.4)		(15.8)	(17)	砂利少々含む	10YR7/3(暗)褐色	良好	口縫隙1/5、断端1/4残存、板付1式	
478	139	SK480	海生土器-萬形		(38.4)		(33.4)	(12.4)	砂利少々含む	2.5YS/2(暗)褐色~2.5YS/2(暗)褐色	良好	口縫隙~脚部上部1/5残存	

報告書 番号	Fig.	PL.	出土地點	出土位置	器種・基盤	測量 cm (±1cm)	測量 方法	測量 基準	調査		歴土	表面色調	構成	現存状況他
									内面	外側				
479	139	SK460	安南文土基・ 臺环灰陶鉢	(26)		(2.6)	内外面高色磨擦		黑色粘土少量含む	10YR5/1黒褐色～10YR5/1 黑褐色	良好	口縁部S3残存		
480	139	SK460	安南文土基・ 鉢		(23.6)	(6.6)	内外面(4.8°), 脱附		粗砂粒や多量の含む 黑色粘土少量含む	10YR5/1/3黒褐色～10YR5/0 黑褐色	良好	阮山郡/10残存		
481	139	SK460	衛生土器・鉢	(25.9)		(3.3)	内外面磨擦痕		粗砂粒多く含む、黑色 粘土少量含む	10YR5/1/3黒褐色～10YR5/0 黑褐色	良好	口縁部S1/7残存		
482	139	SK460	衛生土器・鉢		(3.1)		内外面(4.9°)		粗砂粒	10YR5/1/3黒褐色～10YR4/1 黑褐色	良好	口縁部壁付、小環 鉢1式		
483	139	SK460	衛生土器・鉢		(3.2)		内外面(4.7°)		粗砂粒	10YR5/2/2 黑褐色	良好	口縁部壁付		
484	139	SK460	衛生土器・(1.7°)鉢		(7.2)	(2.6)	内外面(3.0°)		粗砂粒	10YR5/1/3黒褐色～10YR2/0 黑褐色	良好	底然1.7厚1/2 残存		
485	139	SK460	衛生土器・(1.7°)鉢			(3.4)	内外面(3.1°)		粗砂粒	10YR5/0/2 黑褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	口縁部S1/4残存 鉢1式		
486	139	SK460	衛生土器・唐		(2.7)		内外面(3.7°)		粗砂粒	10YR5/1/3黒褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	買出鉢片、鉢台 1式		
487	139	SK460	衛生土器・唐		(2.1)		内外面(3.0°)		粗砂粒	2.5YR6/0/4黒褐色～2.5YR6/0 黑褐色	良好	買出一側上壁 1式、蓋1式		
488	139	SK460	衛生土器・唐		(2.2)		内外面(3.0°)		粗砂粒	10YR5/1/3黒褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	買出鉢片、鉢台 1式		
489	139	SK460	衛生土器・唐		(2.1)		内外面(3.0°)		粗砂粒	10YR5/2/2 黑褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	買出鉢片、鉢台 1式		
490	140	SK462	衛生土器・鉢		(2.1)		内外面(3.0°)		粗砂粒	10YR5/2/2 黑褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7残存		
491	140	SK463	安南文土基・ 盤		(3.7)		内外面(3.0°)		粗砂粒や多量に含む 黑色粘土少量含む	10YR5/0/2 黑褐色～10YR4/2 黑褐色	良好	口縁部壁付		
492	140	SK463	安南文土基・ 盤		(10.4)	5.4	8.6	内外面	粗砂粒含む	7.5YR6/4/2 黑褐色	良好	口縁部S4/3鉢 1次水洗		
493	140	SK463	衛生土器・盤	(23)	(21)	(10.8)	内外面(3.0°)		粗砂粒、黑色粘土少 量含む	8YR7/0/6 黑褐色～10YR7/0 黑褐色	良好	底然1.5厚1/2 残存		
494	140	SK463	衛生土器・盤		(11.4)	(6.2)	内外面(4.1°)		粗砂粒、黑色粘土少 量含むや多量に含む	8YR7/0/6 黑褐色～10YR7/0 黑褐色	良好	底然1.5厚1/2 残存		
495	140	SK463	衛生土器・盤		(2.1)		内外面(3.0°)		粗砂粒	10YR5/2/2 黑褐色～10YR5/2/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7残存		
496	140	SK463	衛生土器・盤		(3.7)		内外面(3.0°)		粗砂粒や多量に含む 黑色粘土少量含む	7.5YR6/4/2 黑褐色	良好	口縁部壁付		
497	140	SK468	衛生土器・唐		(4.6)	(2.5)	内外面(3.0°)	叶目	沙粒少量含む	10YR5/1/3 黑褐色～10YR3/1 黑褐色	良好	口縁部壁付、 鉢1式		
498	140	SK468	安南文土器・ 盤鉢		(32)	(4.6)	内外面(3.0°)		粗砂粒	7.5YR6/4/2 黑褐色	良好	口縁部壁付		
499	140	SK468	衛生土器・唐		(2.6)		内外面(3.0°)		粗砂粒	2.5YR6/2 淡黄色	良好	脚部鉢片1脚残		
500	140	SK468	衛生土器・唐		(30.4)	(9.2)	内外面(3.0°)		粗砂粒や多量に含む 黑色粘土少量含む	10YR5/0/2 黑褐色～10YR3/1 黑褐色	良好	口縁部壁付、 鉢1式		
501	140	SK468	衛生土器・唐		(11.6)	(6.6)	内外面(3.0°)	内面	粗砂粒	10YR5/0/2 黑褐色～10YR6/0 黑褐色	良好	底然1.6厚1/2 残存		
502	140	SK468	衛生土器・唐		(10)	(2.2)	外縁横方向(3.0°)	内面	粗砂粒	10YR5/0/2 黑褐色	良好	口縁部壁付、 鉢1式		
504	142	SK488	安南文土基・ 盤	20	23.4	7.8	(19)	内外面(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
505	142	SK488	安南文土基・ 盤	19.8	20	7.8	23.6	内外面(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
506	142	SK488	安南文土基・ 盤	19	18		(17.6)	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7中部 残存		
507	142	SK488	安南文土基・ 盤	21	19.8	7.5	22.8	内外面(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
508	142	SK488	安南文土基・ 盤	19	18.3	(5.9)	20	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
509	142	SK488	安南文土基・ 盤	22	18.2	7.2	21.6	内外面(3.0°)	粗砂粒少量含む	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
510	142	SK488	安南文土基・ 盤	20	18.8	7.4	(26)	外縁(3.0°)	粗砂粒多く含む、黑色 粘土子や白色粘土子含 む	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	試掘的実形		
511	142	SK488	安南文土基・ 盤	22	20.5	7.2	25.2	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	試掘的実形		
512	142	SK488	安南文土基・ 盤	18	19		(24.6)	小切口(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	底然1.6厚1/2 鉢1式		
513	143	SK488	安南文土基・ 盤		(19.2)	18.4	(16.1)	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7上部 残存		
514	143	SK488	安南文土基・ 盤		(18.8)	20.5	(13.6)	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7上部 残存		
515	143	SK488	安南文土基・ 盤		(18.4)	7	(17.2)	外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色	良好	口縁部S1/7 残存		
516	143	SK488	安南文土基・ 盤		(20.5)			外縁(3.0°)	粗砂粒多く含む、黑色 粘土子や白色粘土子含 む	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	試掘的実形		
517	143	SK488	安南文土基・ 盤		(22.3)			外縁(3.0°)	粗砂粒多く含む、黑色 粘土子や白色粘土子含 む	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部S1/7中部 1/4		
518	143	SK488	安南文土基・ 盤		(10.4)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部S1/7明礬層 1/2		
519	143	SK488	安南文土基・ 盤		(20)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
520	143	SK488	安南文土基・ 盤		(20)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
521	143	SK488	安南文土基・ 盤		(18)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
522	143	SK488	安南文土基・ 盤		(20.2)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
523	143	SK488	安南文土基・ 盤		(18.8)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
524	143	SK488	安南文土基・ 盤		(20)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
525	143	SK488	安南文土基・ 盤		(17)			外縁(3.0°)	粗砂粒多く含む	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
526	143	SK488	安南文土基・ 盤		(5.2)			外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		
527	143	SK488	安南文土基・ 盤		9.1	(2.3)		外縁(3.0°)	粗砂粒	7.5YR6/0/4 黑褐色～7.5YR6/0 黑褐色	良好	口縁部壁付		

番号等	Fg	PL	出土遺物	出土地	器種・形態	測量	(は)測定一式		測定	地土	外表面色	地成	種状況地	
							寸法	測定	直形	屈形				
526	145	SK486	安寄又土器・縁		(7)	(2.1)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	5YR3/6暗褐色	良好	底部繊維			
529	145	SK486	御生土器・縁		(8.4)	(10.4)	外周口内面横板口	赤褐色粒子・粗砂多く含む、底面に凹凸有り	2.5YR7/6暗褐色～2.5YR7/5底色、黒褐色、黒褐色	良好	脚下部・腰壁下部、底付外			
530	144	99	SK486	御生土器・縁	(10.6)	(3.9)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	7.5YR2/7黑色、内面黒褐色	良好	口縁部繊維			
531	144	99	SK486	御生土器・縁	(4.9)		内面口横板口	粗砂多く含む	7.5YR1/6暗褐色、黑色整面	良好	口縁部繊維片、板付式			
532	144	SK486	御生土器・縁		(3.7)		内面口横板口	砂粒や少々含む	2.5YR5/6暗褐色、内外刃面含む	良好	口縁部繊維			
533	144	SK486	御生土器・縁		6	(1.8)	内面口横板口	粗砂、粗砂わずかに含む	5YR1/1灰白色	良好	底付、板付式			
534	144	SK486	御生土器・縁	直部	(14.6)	(6.1)	外周口内面横板口	粗砂、砂粒わずかに含む	7.5YR6/4灰褐色、黑色あり	良好	腰壁繊維片1/4側面存			
535	144	SK486	御生土器・縁		(12.1)		内面口横板口	砂粒や少々含む	7.5YR6/6暗褐色～7.5YR6/5底色	良好	口縁部・翼部・底部、板付式			
536	144	99	SK486	御生土器・縁	19.5	7.4	(13.6)	外周口内面横板口	粗砂やや少々含む	10YR6/1底色、脚部に黒褐色あり	良好	底部・底付側存		
537	144	SK486	御生土器・縁		(4.4)		外周口内面横板口	粗砂、砂粒・黑色粒子わずかに含む	5YR7/2底色～5YR7/0底色	良好	翼部繊維、板付式			
538	144	99	SK486	安寄又土器・縁		(4.8)	内面口横板口	粗砂、黑色粒子を多く含む	7.5YR2/7黑色、黑色磨耗	良好	翼部繊維			
539	144	99	SK486	御生土器・縁	(2.5)		外周口内面横板口	粗砂、砂粒わずかに含む	7.5YR6/6底色～7.5YR5/7底色	良好	翼部繊維			
540	144	SK486	御生土器・縁		(1.9)		外周口内面横板口	粗砂、砂粒わずかに含む	7.5YR7/2暗褐色～7.5YR6/2底色	良好	翼部繊維			
541	144	SK486	御生土器・縁		(40)	(20.7)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR5/6底色、丹色あり	良好	調査1/4残存、			
542	144	99	SK486	安寄又土器・縁	(18.6)	(17.8)	内面口上半横板口	粗砂、砂粒・黑色粒子を多く含む	7.5YR2/1底色、内面黒褐色	良好	翼部繊維			
543	144	SK486	安寄又土器・縁		(15.8)	(15.4)	内面口横板口	粗砂や少々含む	5YR5/1灰黑色	良好	口縁部・脚上部1/2側存			
544	144	99	SK486	安寄又土器・縁	(21)	(18.4)	内面口横板口	粗砂や少々含む	10YR7/2底色、灰黑色	良好	口縁部・翼部、高さの可能性あり			
545	144	99	SK486	御生土器・基	(16.4)	(18)	内面口横板口	粗砂や少々含む、赤褐色、黄色子を含む	10YR5/2灰褐色～7.5YR6/2底色	良好	口縁部・1/4柱棒、板付式			
546	144	99	SK486	御生土器・基	(22.4)	(18.4)	内面口横板口	粗砂、砂粒を多く含む	10YR6/1底色	良好	口縁部・1/4柱棒、板付式			
547	146	SK482	御生土器・縁		(13.4)		外周口内面横板口	粗砂・黑色粒子を多	5YR7/4底色～5YR7/0底色	良好	口縁部1/5残存			
548	146	SK482	御生土器・縁		(13.6)		内面口横板口	粗砂や少々含む	5YR7/6底色～5YR6/4底色	良好	口縁部1/10残存			
549	146	SK484	御生土器・縁			(3.2)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR6/0底色	良好	口縁部繊維、板付式			
550	146	SK484	御生土器・縁			11.2	外周口内面横板口	粗砂多く含む	7.5YR6/0底色	良好	底盤、大盤型、板付式			
551	146	SK484	安寄又土器・縁			(5)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR3/1底色	良好	口縁部繊維			
552	146	SK484	安寄又土器・縁			(2.3)	内面口横板口	粗砂多く含む	10YR6/1底色	良好	口縁部・脚上部1/2側存			
553	146	SK484	上層		(9.4)	(2.9)	内面口横板口	粗砂多く含む	10YR6/0底色～2.5YR6/0底色	良好	武器			
554	146	SK484	上層	御生土器・縁	(8.9)	(2.2)	内面口横板口	粗砂や少々含む	10YR6/0底色～10YR7/2底色	良好	底部1/8残存			
556	146	SK484	上層	御生土器・縁	(6.4)	(3.8)	内面口横板口	粗砂や少々含む	7.5YR7/0底色～7.5YR6/4底色	良好	底盤、板付式DP			
556	146	SK485	安寄又土器・縁			(5.8)	内面口横板口	砂粒少量含む	10YR0/1底色	良好	口縁部1/10残存			
557	146	SK485	安寄又土器・縁			(0.8)	内面口横板口	粗砂多く含む	5YR5/1灰白色	良好	口縁部繊維			
558	146	SK485	安寄又土器・縁			(3.7)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	10YR6/1底色	良好	口縁部繊維片			
559	146	SK485	安寄又土器・縁			(4.5)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	7.5YR7/0底色～7.5YR7/3底色	良好	腰壁繊維片			
560	146	SK485	安寄又土器・縁			(2)	内面口横板口	粗砂・黑色粒子を多	10YR6/0底色	良好	口縁部繊維片			
561	146	SK485	安寄又土器・縁			(0.3)	内面口横板口	粗砂や少々含む	10YR0/1底色	良好	口縁部繊維片			
562	146	SK485	安寄又土器・縁			(0.8)	内面口横板口、内面口内面口横板口	粗砂多く含む	5YR7/0底色	良好	口縁部繊維片			
563	146	SK485	安寄又土器・縁			(0.2)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	7.5YR2/1底色～7.5YR7/3底色	良好	腰壁繊維片			
564	146	SK485	安寄又土器・縁			(4)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	7.5YR7/0底色～7.5YR6/2底色	良好	口縁部繊維片			
565	146	SK485	安寄又土器・縁			(2.9)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR2/1底色	良好	調査実習繊維片			
566	146	SK485	御生土器・縁			(3.1)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR6/1底色	良好	口縁部繊維片			
567	146	SK485	御生土器・縁			(0.8)	内面口横板口	粗砂多く含む	5YR5/1灰白色	良好	口縁部繊維片			
558	146	SK485	御生土器・縁			(3.7)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	10YR6/1底色	良好	口縁部繊維片			
559	146	SK485	御生土器・縁			(4.5)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	7.5YR7/0底色～7.5YR7/3底色	良好	腰壁繊維片			
560	146	SK485	御生土器・縁			(2)	内面口横板口	粗砂・黑色粒子を多	10YR6/0底色～2.5YR6/0底色	良好	口縁部繊維片			
561	146	SK485	御生土器・縁			(0.3)	内面口横板口	粗砂や少々含む	10YR0/1底色	良好	口縁部繊維片			
562	146	SK485	御生土器・縁			(0.8)	内面口横板口、内面口内面口横板口	粗砂多く含む	5YR7/0底色	良好	口縁部繊維片			
563	146	SK485	御生土器・縁			(0.2)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	7.5YR2/1底色～7.5YR7/3底色	良好	腰壁繊維片			
564	146	SK485	御生土器・縁			(4)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	7.5YR7/0底色～7.5YR6/2底色	良好	口縁部繊維片			
565	146	SK485	御生土器・縁			(2.9)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR2/1底色	良好	調査実習繊維片			
566	146	SK485	御生土器・縁			(3.1)	外周口内面横板口	粗砂や少々含む	10YR6/1底色	良好	口縁部繊維片			
567	146	SK485	御生土器・縁			(0.8)	内面口横板口	粗砂多く含む	10YR6/0底色	良好	口縁部繊維片			
568	146	SK485	御生土器・縁			(2.1)	外周口横板口	粗砂多く含む	7.5YR7/0底色～7.5YR4/1底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存、板付式			
569	146	SK485	御生土器・縁			(5.2)	外周口内面横板口	砂粒・黑色粒子を少	7.5YR4/1底色～7.5YR6/0底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存、板付式			
570	146	SK485	御生土器・縁			(8.5)	内面口横板口	砂粒少々含む	10YR6/0底色、黒褐色	良好	腰壁・脚上部1/2側存、板付式			
571	146	SK485	御生土器・縁		(24)	(21.5)	外周口内面横板口	粗砂多く含む	2.5YR6/0底色～2.5YR6/4底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存、板付式			
572	146	SK485	御生土器・縁		(20)		内面口横板口	粗砂多く含む	5YR7/0底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存、板付式			
573	146	SK485	御生土器・縁			7.4	外周口横板口	粗砂少々含む	7.5YR6/6底色～7.5YR7/0底色	良好	腰壁繊維片、城壁の城壁			
574	146	SK485	御生土器・縁			(1.6)	外周口内面横板口	粗良好	5YR7/6底色～7.5YR7/0底色	良好	腰壁繊維片、城壁の城壁			
575	146	SK485	御生土器・基		7	(3.2)	外周口内面横板口	粗良好	10YR7/2-7.5-6.5YR6/1底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存			
576	146	SK485	御生土器・基			(6.4)	外周口内面横板口	粗良好	10YR6/6底色～5YR6/4底色	良好	腰壁・脚上部1/2側存			

参考書 名	FG	PL.	出土遺物	出土地質	器種・基準	測量 cm □北・東北・西 △南・西南・西北 ○西・西北・東 △北・東	測量 cm □北・東北・西 △南・西南・西北 ○西・西北・東 △北・東	測量 cm □北・東北・西 △南・西南・西北 ○西・西北・東 △北・東	測量		地土	表面色調	構成	現状状況	
									内面△北	内面△東					
577	146	SK496	陶生土器・壺			(1.6)			粗砂多く含む		SYR9/3鉛・黒~10YR9/3鉛・ 黄褐色	良好	口縁部破片、圓筒 1式		
578	146	SK496	陶生土器・壺			(6)	(5.5)		粗砂・黒色粒子多く含む		10YR9/2浅黄褐色~10YR7/3鉛・ 黄褐色	良好	底面1/4残存、埴 の範囲		
579	147	99	安善文土器・ 壺	23.7	23.6	8.5	24	外面△北残存条痕△東△	粗砂・黒色粒子多く含む		SYR9/4浅黄褐色~SYR7/4鉛・ 黄褐色	良好	はがき形		
580	147	99	SK500		(21.4)	(20.4)	5.8	23.4	外面△北残存条痕△東△	粗砂と少量含む	SYR9/4鉛・黒~5YR9/3鉛・ 黄褐色、全体△ス付層	良好	口縁部~底部		
581	147	100	SK500	安善文土器・ 壺	(19.8)	(22.4)		(18.4)	外面△北残存条痕△東△	粗砂・黒色粒子多く含む	10YR9/3鉛・黄褐色、高斑、大 ス付層	良好	口縫部1/10~胴 部1/4残存		
582	147	100	SK500	安善文土器・ 壺	(19.8)	(20)		(15.8)	外面△北残存条痕△東△	砂粒・黒色粒子多く含む	7.5YR9/3浅黄褐色~7.5YR7/3鉛・ 黄褐色、スス付層・埴底あり	良好	口縫部~胴部1/4残 存		
583	147	100	SK500	安善文土器・ 壺	(21.8)	(20.2)		(12.8)	内面△北残存条痕△東△	粗砂・黒色粒子多く含 む	7.5YR7/4鉛・褐色、スス付層	良好	口縫部~中部 1/3残存		
584	147	100	SK500	安善文土器・ 壺	21.4	22.6		(14.7)	外面△北残存条痕△東△	粗砂少々含む	10YR9/2鉛白~10YR9/3鉛・ 黄褐色、スス・黒斑に多く含む 黒斑	良好	口縫部~胴部2残 存		
585	147	SK500	安善文土器・ 壺		(21.8)	(23.4)	(9.5)	外面△北残存条痕△東△	粗砂多く含む	7.5YR9/4浅黄褐色・黒斑あり	良好	口縫部~上部 1/6残存			
586	147	SK500	安善文土器・ 壺		(22)	(25.2)	(9)	外面△北残存条痕△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	7.5YR9/2鉛・褐色・大部分にス ス付層	良好	口縫部~上部 1/4残存			
587	147	SK500	安善文土器・ 壺			(20.8)	(9.4)	外面△北残存条痕△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	7.5YR9/2鉛・黒~5YR9/3鉛・ 褐色、スス・スコロ付層	良好	調査実測~中 部破片			
588	147	SK500	安善文土器・ 壺			(6.8)		外面△北残存条痕△東△	粗砂少々含む	10YR9/1-4/1残灰~10YR9/1黑	良好	口縫部破片			
589	147	SK500	安善文土器・ 壺			(9.3)		外面△北残存条痕△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	10YR9/2浅黄褐色、スス付層	良好	口縫部~中部 1/4残存			
590	147	SK500	安善文土器・ 壺			(9.8)		外面△北残存条痕△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	7.5YR9/2鉛・褐色、スス付層	良好	調査実測~帯 破片			
591	147	SK500	安善文土器・ 壺			(6.8)		外面△北残存条痕△東△	粗砂少々含む	7.5YR9/1-4/1残灰~10YR9/1黑 褐色	良好	調査実測~中 部に一部他の破 片あり			
592	147	SK500	安善文土器・ 壺			(5.8)		外面△北残存条痕△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	7.5YR9/3鉛・褐色・大部分にス ス付層	良好	調査実測~中 部破片			
593	147	SK500	陶生土器・ 壺			(8.3)		内面△北残存条痕△東△	粗砂多く含む	7.5YR9/2鉛・褐色・スス付層	良好	口縫部破片			
594	147	SK500	安善文土器・ 壺			(7.4)	(2.2)	内面△北△東△	粗砂粒・黒色粒子や少 多く含む	7.5YR9/4鉛・黒~5YR9/3鉛・ 褐色、スス付層	良好	直部			
595	147	SK500	安善文土器・ 壺			(4.5)	(2.7)	外面△北ノメ残存条痕△東△ F	粗砂粒・赤褐色粒子・少 多く含む	7.5YR9/4鉛・黒~5YR9/4鉛・ 褐色、スス付層	良好	直部1/2残存			
596	147	SK500	安善文土器・ 壺			7	(3)	外面△北残存条痕△東△	粗砂粒多く含む	7.5YR9/5反褐色	良好	直部			
597	147	SK500	安善文土器・ 壺			7.2	(2)	外内△北△	粗砂粒多く含む	7.5YR9/1褐色	良好	直部2/3残存			
598	147	SK500	安善文土器・ 壺			5.8	(2.6)	外内△北△	粗砂粒や少めに含む	7.5YR9/4浅黄褐色~7.5YR9/4鉛・ 褐色	良好	直部、板付式			
599	148	SK500	陶生土器・ 壺			(7)		外内△北△	粗砂粒や少めに含む	7.5YR9/8浅黄褐色	良好	口縫部破片、板 付式			
600	148	SK500	陶生土器・ 壺			(11.4)		外内△北△	粗砂粒や少めに含む	10YR9/2灰白色、元々は泥灰 風化	良好	調査実測~上部 1/3残存			
601	148	SK500	陶生土器・ 壺			(6.5)		外内△北△	粗砂少々含む	10YR9/3浅黄褐色	良好	口縫部破片、直 部1/4残存			
602	148	SK500	陶生土器・ 壺			(14.2)	(3.5)	外内△北△	粗砂	2.5YR7/7-6-8鉛・内黒、黒斑あ り	良好	調査実測、板付式			
603	148	SK500	陶生土器・ 壺			7.2	(1.6)	外内△北△内面△	粗砂粒・赤褐色粒子多 く含む	10YR7/3鉛・黃褐色	良好	直部、板付式			
604	148	SK500	陶生土器・ 壺			5.2	(1.5)	外内△北△	粗砂粒少々含む	7.5YR7/4鉛・褐色	良好	直部、板付式			
605	148	SK500	安善文土器・ 壺			(8.7)	(2.5)	外内△北△	粗砂粒少々含む	10YR9/2鉛白~10YR7/3鉛・ 褐色	良好	口縫部破片			
606	148	SK500	安善文土器・ 壺			(3.3)		外内△北△	砂粒少々含む	10YR9/1黑褐色、黑色斑駁	良好	口縫部破片			
607	148	100	SK500	安善文土器・ 壺	14.8	5.3	(9.9)	内面△北残存△東△	清灰、褐色・赤褐色粒子多 く含む	10YR9/1-3/2黒褐~7.5YR9/4 鉛・褐色	良好	直部2/3・直部上 1/3残存、板付式			
608	148	SK501	陶生土器・ 壺			(8.6)	6.6	外内△北△	粗砂粒多く含む	8YR5/5鉛・褐色	良好	直部、板付式			
609	148	SK502	陶生土器・ 壺			(8.4)		外内△北残存△東△	粗砂粒多く含み、赤褐色 粒子・黒色粒子も含む	10YR9/2鉛・黃褐色	良好	脚部2/3~1/2残存			
610	148	SK502	陶生土器・ 壺			(9)	(3.6)	外内△北△	粗砂粒や少めに含む	10YR9/2鉛・黒褐色	良好	直部1/2・板付 式			
611	148	SK502	陶生土器・ 壺			(13.8)	(3.5)	外内△北△	粗砂粒や少めに含む	10YR9/2鉛・褐色	良好	口縫部1/5 残存、外縫の可 能性あり			
612	148	SK502	陶生土器・ 壺			(22)	(4.6)	外内△北△	粗砂粒・赤褐色粒子多 く含む	8YR5/5鉛・赤褐色	良好	脚部下部1/2残存			
613	148	SK502	陶生土器・ 壺			(7.8)	(4.7)	外内△北△内面△	粗砂・黒色粒子多く含 む	10YR9/3鉛・黃褐色~10YR9/2鉛・ 黃褐色	良好	直部1/2残存			
614	148	SK502	陶生土器・ 壺				(3.4)	外内△北△	砂粒・黒色粒子少 多く含む	7.5YR9/5鉛・褐色~7.5YR7/3鉛・ 褐色	良好	口縫部破片			
615	148	SK511	陶生土器・ 壺			(19.7)	18	8.5	21.3	外内△北△	粗砂・黒色粒子非常に 多く含む	10YR9/6鉛・褐色~10YR7/6鉛・ 褐色	良好	口縫部~底部、 板付式	
616	149	SK517	陶生土器・ 壺				(2.2)	外内△北△	粗砂	2.5YR9/1赤褐色、7.5YR4褐色	良好	直部小片、板付 式(彩文土器)			
617	149	SK517	陶生土器・ 壺				(3.0)	外内△北△	粗砂粒・全表面黒褐色 や少く含む	10YR9/2反褐色	良好	直部1/2残存			
618	149	SK519	陶生土器・ 壺				(7.9)	(2.7)	外内△北△	粗砂粒や少く含む	7.5YR9/1反白色	良好	直部1/2残存		

番号	Fg.	PL	出土遺物	出土位置	器種・形形	出典	cm (注記は横二段)	測定		胎土	外表面色	施成	保存状況
								横幅	縦幅				
819	149	SK530	供生土器・壺		(19.0)		(3.2)	外側内凹、内面凹口		砂利少量含む	7.5YR6/4緑・褐色	良好	口縁1/2横存
820	149	SK530	土器片・壺		(19.6)	(14.4)	(7.0)	外側内凹、内面凹口		砂利多めに含む	7.5YR8/3灰褐色…7.5YR1/1黒褐色	良好	頭部削一側上半1/2残存
821	149	SK530	供生土器・壺		(8.4)	(2.95)	外側内凹、内面凹口	指輪		砂利多めに含む	2.5YR5/5明赤褐色	良好	頭部合掌1/2残存
822	149	SK530	供生土器・壺		(8.4)	(2.45)	外側内凹口、内面凹口	指輪	砂利多めに含む	7.5YR8/3灰褐色…5YR1/2白	良好	口縁1/2横存	
823	149	SK539	土器片・小壺		(10.5)	(8.5)	(4.0)	内面凹口、外側内凹口		粗粒	7.5YR6/4緑・褐色…7.5YR1/2褐色	良好	口縁一部上半1/2残存
824	149	SK544	上面	供生土器・壺	(16.8)		(4.0)	外側内凹、指輪		砂利少量含む	10YR7/2黄・黄褐色	良好	口縁1/2横存
825	149	SK544	供生土器・壺			(3.25)	口縁附近内外凹口		砂利少量含む	7.5YR6/4緑・褐色	良好	口縁小破損、板付1/2	
826	149	SK544	上面	供生土器・壺		(8.4)	外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR7/2暗褐灰色	良好	裏面1/2横存	
827	149	SK548	供生土器・壺		(12.0)		(3.6)	内面凹口		砂利多めに含む	7.5YR5/4緑・褐色	良好	口縁1/2横存、板付式
828	149	SK548	埋存量 供生土器・壺	(18.0)				内面凹口、内面凹口		砂利多めに含む	7.5YR6/4緑・褐色…7.5YR1/2褐色	良好	埋存1/2横存、板付式
829	149	SK548	供生土器・壺			(4.9)	外側内凹口、内面下部分	上	砂利・黒褐色や多く含む	8YR5/4緑・赤褐色	良好	肩部小片、板付式	
830	149	SK548	埋存文土器・壺			(3.8)	外側内凹口、内面横方向凹口		砂利多めに含む	7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁小破損	
831	149	SK548	埋存文土器・壺		(19.2)		(0.4)	外側内凹口、内面凹口		砂利多めに含む	2.5YR6/2灰白・皮膚物付着によじらせる	良好	口縁1/2横存、直付式
832	149	SK548	埋存文土器・壺			(7.3)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	7.5YR3/2黒褐色	良好	口縁少しお片、直付式	
833	149	SK548	埋存文土器・壺		(23.7)		(15.0)	外側内凹口、内面凹口、内面凹口		砂利少量含む、金銀母粒混入	7.5YR3/1黒褐色…7.5YR2/2灰褐色	良好	口縁一部1/2横存、直付式
834	149	SK548	供生土器・壺		(5.1)		外側内凹口、内面凹口	一端	砂利多めに含む	2.5YR1/1灰褐色…5YR2/5褐色	良好	口縁少しお片、板付式	
835	149	SK551	供生土器・壺			(4.85)	外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR7/2緑・褐色…5YR6/6褐色	良好	口縁小破損	
836	149	SK551	供生土器・壺		(22.0)		(2.1)	外側内凹口		粗粒、砂利・全銀母粒含む	7.5YR8/8灰褐色	良好	口縁1/2横存
837	149	SK551	供生土器・壺		(6.5)	(3.85)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	8YR1/6褐色	良好	直付式	
838	149	SK552	供生土器・壺		(28.1)		(2.7)	外側内凹口		砂利少量含む	10YR2/1灰白…7.5YR3/3黒褐色	良好	口縁1/2横存
839	149	SK553	供生土器・壺		(17.0)		(2.65)	口縁附近内凹口、内面凹口		砂利少量含む	10YR2/2灰白色	良好	口縁1/2横存
840	149	SK553	供生土器・壺		(19.3)		(4.8)	内面凹口附近内凹口		砂利少量含む	7.5YR3/1黒褐色…7.5YR1/1褐色	良好	口縁1/2横存、板付式
841	149	SK553	供生土器・壺		(23.8)		(0.95)	内面凹口		粗粒、砂利・全銀母粒含む	7.5YR1/1灰褐色	良好	頭部1/2横存
842	151	SK555	埋存文土器・壺		(16.1)		(0.8)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む、全銀母粒含む	7.5YR5/1灰褐色	良好	口縁一部1/2横存、直付式
843	151	SK555	供生土器・壺		(13.4)		(2.4)	内面凹口、外側内凹口、口縁附近		砂利少めに含む	10YR5/3灰褐色…10YR3/2黒褐色	良好	口縁1/2横存、板付式
844	151	SK555	供生土器・壺			(7.3)	(3.8)	内面凹口		砂利少量含む	10YR3/3浅褐色	良好	直付式
845	151	SK555	供生土器・壺			7.5	(8.2)	内面凹口		砂利少量含む、全銀母粒含む	7.5YR6/4緑・褐色、黒褐色	良好	直付式
846	151	SK555	供生土器・壺			(11.8)	(5.1)	内面凹口、外側内凹口		砂利少めに含む	5YR2/1灰褐色…5YR1/1褐色	良好	口縁1/2横存
847	151	SK555	供生土器・壺			12.2	(4.6)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR5/1灰褐色	良好	頭部の少しお片
848	151	SK555	埋存文土器・壺			(21.3)	(20.2)	外側内凹口、内面凹口		砂利少しお片子	10YR5/1灰褐色	良好	口縁1/2横存、直付式
849	151	SK555	供生土器・壺			(5.9)	(5.95)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	7.5YR4/1黒褐色…7.5YR4/2黒褐色	良好	口縁1/2横存、直付式
850	151	SK555	埋存文土器・壺			(9.9)	(5.9)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	5YR1/1灰褐色	良好	口縁小破損、直付式
851	151	SK555	供生土器・壺			(8.3)	(9.65)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR1/1灰褐色…10YR1/1褐色	良好	直付式
852	151	SK555	供生土器・壺			12.2		内面凹口		粗粒、全銀母粒含む	10YR7/2緑・褐色	良好	頭部の少しお片
846	151	SK555	埋存文土器・壺			(19.1)		外側内凹口、内面凹口		砂利少しお片子	7.5YR5/1灰褐色	良好	口縁1/2横存、直付式
853	151	SK555	供生土器・壺			(13.4)		内面凹口、外側内凹口		砂利少めに含む	10YR5/3灰褐色…10YR3/2黒褐色	良好	口縁1/2横存、板付式
854	151	SK555	供生土器・壺			(7.3)	(3.8)	内面凹口		砂利少量含む	10YR3/3浅褐色	良好	直付式
855	151	SK555	埋存文土器・壺			(9.9)		外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	5YR1/1灰褐色	良好	口縁小破損、直付式
856	151	SK555	供生土器・壺			(8.3)	(9.65)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR1/1黒褐色…10YR1/1褐色	良好	直付式
857	151	SK555	供生土器・壺			12.2		内面凹口		粗粒、全銀母粒含む	10YR7/2緑・褐色	良好	頭部の少しお片
846	151	SK555	埋存文土器・壺			(19.9)	(19.9)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	5YR7/4緑・褐色、外側内凹口	良好	1/2横存、直付式
848	151	SK555	埋存文土器・壺			(23.0)	(5.95)	外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	7.5YR4/1黒褐色…7.5YR4/2黒褐色	良好	口縁1/2横存、直付式
850	151	SK555	供生土器・壺			(9.9)		外側内凹口、内面凹口		砂利少量含む	5YR1/1灰褐色	良好	口縁小破損、直付式
851	151	SK555	供生土器・壺			(8.3)	(9.65)	内面凹口		砂利少量含む	7.5YR1/1黒褐色…10YR1/1黒褐色	良好	直付式
852	151	SK555	供生土器・壺			12.2		内面凹口		粗粒、砂利・全銀母粒含む	7.5YR5/3灰褐色	良好	直付式
853	151	SK555	供生土器・壺			(7.2)	(2.35)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	2.5YR7/6褐色	良好	直付式
854	151	SK555	供生土器・壺			(6.0)	(5.2)	内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	10YR1/1反白色	良好	直付式
855	151	SK555	供生土器・壺			7.2	(4.6)	内面凹口、外側内凹口		粗粒、砂利・全銀母粒含む	7.5YR1/1灰褐色	良好	直付式
856	151	SK555	埋存文土器・壺			(21.4)		内面凹口、外側内凹口		砂利少しお片子	10YR3/1黒褐色…10YR2/1黒褐色	良好	頭部の少しお片
857	151	SK555	供生土器・壺			(19.8)		内面凹口、外側内凹口		砂利少めに含む	2.5YR7/1反白色	良好	口縁1/2横存
858	151	SK555	供生土器・壺			28.7		内面凹口、外側内凹口		砂利少量含む	7.5YR5/3灰褐色…7.5YR3/1黒褐色	良好	外側内凹口、口縁1/2横存
859	151	SK555	供生土器・壺			(20.0)		内面凹口、外側内凹口		粗粒、砂利・全銀母粒含む	2.5YR7/4深赤褐色	良好	口縁1/2横存
860	151	SK555	供生土器・壺			(6.15)		内面凹口		砂利少しお片子	10YR8/2反白色	良好	頭部の少しお片
861	151	SK555	埋存文土器・壺			(4.6)		内面凹口、外側内凹口		砂利少しお片子	2.5YR8/1反白色	良好	口縁小破損
862	151	SK555	供生土器・壺			(17.2)		内面凹口		砂利少しお片子	10YR1/1反白色…10YR1/2黒褐色	良好	直付式
863	153	SK557	供生土器・壺			(18.2)	(18.0)	内面凹口		砂利少しお片子	7.5YR8/1灰褐色…変化物付着	良好	1/2横存、口縁1/2横存
864	153	SK562	供生土器・壺			(12.5)	(5.2)	内面凹口、外側内凹口		砂利少しお片子	10YR8/2反白色	良好	直付式
865	153	SK564	供生土器・壺			(29.8)		内面凹口		砂利少しお片子	10YR7/2緑・褐色	良好	直付式
866	153	SK564	供生土器・壺			7.0	(5.1)	外側内凹口、内面凹口		砂利少しお片子	2.5YR8/1反白色	良好	直付式
867	153	SK564	供生土器・壺			(14.1)		内面凹口		砂利少しお片子	2.5YR5/5明赤褐色	良好	口縁1/2横存
868	153	SK594	上層	供生土器・壺		(5.0)	(3.95)	内面凹口		砂利少しお片子	5YR7/4緑・褐色…10YR8/2反白色	良好	口縁1/2横存
869	153	SK596	供生土器・壺			(9.5)	(3.05)	内面凹口		砂利少しお片子	7.5YR8/3緑・褐色	良好	直付式
870	154	SK460	土製品・瓶			(4)	(1.1)	内面凹口		砂利少しお片子	5YR4/1灰褐色…5YR8/1黒褐色	良好	直付式
871	154	SK463	ショットキ製品 壺の手形			直付式	(3.0)	内面凹口		粗粒	10YR6/2灰褐色	やや不良	把手の一部

俗名・学名	Fig.	PL.	出土地點	出土位置	器種・基形	測量 cm (標準±1cm)	調査		出土	表面色調	構成	保存状況		
							口幅	裏幅	高さ	品目				
672	154	100	SK500	025	土器群・工具	5.0x5.2	外底+1.3cm(内縁付)	縦長	10YR4/2黄褐色	普通	削片			
673	154	SK495	125	土器群・工具	縦長板(3.8)	厚さ3.85	縦長	10YR7/1灰黑色	良好					
674	154	SK355	225	土器群・工具	縦長板(2.8)	2.8	縦長	10YR5/2黄褐色	中等	不直				
675	157	SX434	土器群・陶	(13.0)	縦長板(1.1.9)	(6.3)	縦長板+内縁付(2.2cm)、口縁部 内縁付(1.1cm)、内縁付(1.2cm)	縦長板+少子含む 内縁付+少子含む	7.9YR17/4灰黑色~7.5YR16/5 灰、底下+2.1cm付近	良好	口縁~上部1/5 残存			
676	157	SX434	土器群・陶		縦長板(1.4)	(5.3)	縦長板+少子含む、内縁付 内縁付(1.9cm)	縦長板+少子含む 内縁付	7.5YR7/2灰褐色~8.5付近	良好	底~上部1/4残存			
677	157	SX434	土器群・陶	(15.4)	縦長板(12.1)	(7.6)	縦長板+内縁付(1.9cm)、口縁部 内縁付(1.1cm)	縦長板+少子含む 内縁付+少子含む	7.5YR17/4灰褐色、ズレ有り 底付近	良好	口縁~側面1/4 残存			
678	157	SX434	陶生土器・陶	(16.8)	縦長板(14.6)	(10.2)	外底+内縁付(2.0cm)、内縁付 内縁付(2.0cm)	縦長板+少子含む 内縁付+少子含む	GYR9/2褐色、スス付葉 内縁付	良好	口縁~側面1/4 残存			
679	157	100	SX434	陶生土器・陶	9.4	縦長板(9.5)	8.8	15.3	内外両面+内底付(1.9cm)、内底付 内底付(1.9cm)	縦長板+少子含む 内底付+少子含む	2.5YR17/4灰褐色	良好	側面~底端1/2残存	
680	157	SX435	上層	土器群・鉢			(2.9)	内外両面	縦長板+少子含む	2.5YR9/9橙色	良好	口縁~側面1/4 残存		
681	157	SX435	上層	陶生土器・陶	(8.4)		(4.4)	外底+内縁付	砂利やサナセの含む	10YR7/3 7.4灰褐色~黄褐色	良好	口縁~側面1/4残存		
682	157	100	SX435	上層	陶生土器・陶	(16.3)	縦長板(15.6)	(9.9)	外底+内縁付(2.0cm)、口縁部 内縁付(2.0cm)	砂利やサナセの含む 内縁付+少子含む	10YR5/2灰褐色~10YR7/3灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存	
683	157	SX435-436	上層	陶生土器・陶	(30.0)	(19.6)	(15.0)	口縁部内縁付(2.0cm)~内縁付 内縁付(2.0cm)	砂利+底付近~底付近 少子含む	10YR5/2灰褐色~10YR5/3灰褐色	良好	口縁~側面1/3 残存		
684	157	SX435	下層・上層	陶生土器・陶		7.4	縦長板(11.7)	縦長板+少子含む、内縁付 内縁付(1.9cm)	縦長板+少子含む 内縁付+少子含む	10YR6/5灰褐色~10YR5/5灰褐色	良好	底部~側面1/4		
685	157	SX435	上層化	陶生土器・陶	(12.0)	縦長板(11.2)	(4.6)	縦長板+内縁付(2.0cm)~内縁付 内縁付(2.0cm)	砂利+底付近~底付近 少子含む	10YR7/1灰褐色~2.5YR1/1灰褐色	良好	口縁~側面1/5 残存		
686	157	SX435	陶生土器・陶	(18.2)		(11.0)	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む 内縁付+少子含む	10YR5/2灰褐色~10YR6/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存			
687	157	SX435	上層化	陶生土器・陶	(34.4)	縦長板(32.7)	(4.2)	外底+内縁付(2.0cm)~内底付 内底付(2.0cm)	砂利+底付近~少子含む 内底付+少子含む	10YR5/2灰褐色~10YR6/2灰褐色	良好	側面~底端1/2 残存		
688	157	SX435	上層	史文器・骨		(9.2)	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR5/2灰褐色~10YR6/2灰褐色	良好	底端~底端1/2 残存			
689	157	100	SX435	上層	史文器・骨		7.0	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	2.5YR7/1灰褐色~2.5YR1/1灰褐色	良好	底端~底端1/2 残存		
690	157	SX435	陶生土器・陶		縦長板(19.0)	(7.2)	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~10YR8/2灰褐色	良好	側面~底端1/4 残存			
691	157	SX435	陶生土器・陶			8.8	(5.4)	外底+内縁付~内底付	砂利+底付近~底付近 少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	底端		
692	157	101	SX435	陶生土器・陶	(17.2)	(7.8)	11.9	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	1/2面残存		
693	158	SX435	下層	陶生土器・陶	(32.5)	(6.6)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
694	158	SX435	下層	陶生土器・陶	(20.2)	(4.45)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
695	158	SX435	下層	陶生土器・陶	(23.8)	(4.1)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
696	158	SX435	下層	陶生土器・陶	(29.7)	(2.9)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
697	158	SX435	上層	陶生土器・陶	(27.8)	(4.6)	鋼頭外縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存			
698	158	SX435	下層	陶生土器・陶		(8.8)	(9.05)	外底+内縁付~内縁付	砂利+底付近~少子含む	GYR7/8褐色	普通	底端		
699	158	SX435	下層	陶生土器・陶		7.8	(5.8)	外底+内縁付~内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	底端		
700	158	SX435	下層・上層	陶生土器・陶	(14.8)	(8.0)	外底+内縁付~内底付+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/3 残存			
701	158	SX435	下層	陶生土器・陶		(6.4)	内底付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
702	158	101	SX436	下層・下層	陶器類・骨	(10.5)	外底+内縁付(2.0cm) 内底付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	1/2面残存			
703	158	SX436	上層	陶器類・骨	(3.8)	(3.15)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
704	158	SX436	上層	土器群・小型 器具	(8.4)	(1.85)	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
705	158	SX436	下層	土器群・小型 器具	(2.9)	(4.0)	外底+内縁付	砂利+底付近	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁			
706	158	SX436	上層・下層	土器群・陶	(15.0)	(8.25)	鋼頭外縁付+外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	7.5YR7/1灰褐色~7.5YR7/1灰褐色	良好	口縁上半1/6残存			
707	158	SX436	上層	陶生土器・陶	(25.0)	(9.2)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色	良好	口縁1/2残存			
708	158	SX436	上層	陶生土器・陶	(30.7)	(8.05)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	7.5YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/3 残存			
709	158	SX436	上層	陶生土器・陶	(41.8)	(6.4)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	GYR7/8褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁1/2残存			
710	158	SX436	上層	陶生土器・陶	(33.8)	(3.95)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	GYR7/8褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁1/2残存			
711	158	SX436	下層	陶生土器・陶	(13.0)	(4.8)	[口縁付]	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存			
712	158	SX436	上層	陶生土器・陶	(22.8)	(4.8)	外底+内縁付~内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存			
713	158	101	SX436	上層	陶生土器・陶	(15.3)	3.3	外底+内縁付	砂利+底付近~少子含む	7.5YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存		
714	158	101	SX436	下層	陶生土器・陶	(9.6)	(8.4)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	2.5YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存		
715	158	SX436	下層	陶生土器・陶	(13.6)	(10.25)	内底付+内縁付	砂利+底付近~少子含む	2.5YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	普通	側面1/3残存			
716	158	101	SX436	下層	陶生土器・陶	(9.8)	(20.0)	(15.2)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存	
717	158	101	SX436	下層	陶生土器・陶	(27.4)	(20.6)	(20.5)	内底付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存	
718	158	101	SX436	下層	陶生土器・陶	(23.5)	(24.7)	(20)	鋼頭外縁付+口縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存	
719	158	SX436	下層	陶生土器・陶	(13.0)	(4.8)	(8.4)	内底付+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色	良好	口縁~側面1/4 残存		
720	158	SX436	下層	陶生土器・陶	(9.5)	(9.3)	内底付+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存			
721	158	101	SX436	下層	陶生土器・陶	(12.0)	4.8	7.3	内底付+上縁+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存	
722	158	101	SX436	下層	(13.0)	6.5	2.0	4.1	口縁付+内縁付	砂利+底付近~少子含む	10YR7/2灰褐色~2.5YR7/2灰褐色 (赤土質剥離)	良好	口縁~側面1/4 残存	

報告書番号	FQ	PL	出土遺物	器種・形態	出典	記述	(付)測定一二型		測定	胎土	外観色調	施成	焼存状況他		
							寸法	測定	直形	扁形	施成	寸法	焼存状況他		
725	159	101	SX456	下層	内面裏側有さ線縫	8.9		3.7	相鉄社・黒色粒子多く含む 石	10YR8/1灰白～10YR7/2灰 色、黒斑あり	良好	口縁部現存僅か			
726	159	101	SX456	下層	陶生土器・壺	(24.0)	(11.8)		砂粒多く含む	2.5SY1/1灰褐色	良好	口縁部1/4焼存			
726	159	101	SX456	下層	陶生土器・壺		(9.4)	(13.0)	相鉄社や多く含む	10YR8/2灰褐色	良好	1/2焼存			
726	159	SX443	陶生土器・壺			(9.2)			相鉄社・黒色斑多く含む 石	10YR9/2灰褐色	良好	口縁部現存			
727	159	SX445	陶生土器・壺			(4.4)			相鉄社多く含む、黒色 斑多く含む	10YR7/2灰褐色	良好	口縁部現存			
728	159	SX458	陶生土器・壺			(3.7)			相鉄社・黒色粒子多く含む 石	10YR7/4灰褐色	良好	口縁部現存			
729	159	SX458	陶生土器・壺			(5.4)			相鉄社・黒色粒子や少 少含む、含む	10YR7/2-7/3灰褐色、スズ付 青	良好	口縁部現存			
730	159	SX458	陶生土器・壺			10.0	(3.8)		相鉄社・黒色粒子多く含む 石	10YR8/8灰褐色、円筒部分に指 痕有り	良好	大型壺1個			
731	159	SX458	陶生土器・壺			(5.0)	(3.4)		相鉄社多く含む、黒色 斑多く含む	10YR7/4灰褐色～10YR7/3灰 色、黒斑あり	良好	小形壺2個現存			
732	159	SX472	陶生土器・壺			3.8	(2.3)		相鉄社	7.5YR7/4灰褐色	良好				
733	159	SX464	土器類・壺・ 鉢			(13.4)	(12.2)	(4.2)	内面裏側有	相鉄社・赤褐色粒子少 量含む	7.5YR8/4浅黃褐色	良好	口縁部現存		
734	159	SX464	陶生土器・壺			(13.5)	(4.5)		相鉄社多く含む、赤褐色 粒子少、黒色粒子多く含む	10YR7/3灰褐色	良好	到着箇所1/4焼存			
735	159	SX464	陶生土器・壺			(15.0)			相鉄社多く含む	GYR8/5灰褐色～GYR5/5赤褐色	良好	口縁部1/7焼存			
736	161	103	SX528	青磚文土器・ 壺		(22.8)			相鉄社	5YR16/6青褐色	良好	口縁部1/2焼存			
737	161	103	SX528	青磚文土器・ 壺		(21.2)		(5.4)	内面凹突筋条痕	相鉄社半ばに含む	10YR8/2灰褐色	良好	口縁部1/2焼存		
738	162	102	SX523	陶生土器・壺		7.8	8.9	3.0	内面凹口・内・外底端縫	堆疊	10YR7/3灰褐色	良好	彫形		
739	162	102	SX523	陶生土器・壺		(12.9)	3.7	8.5	内面凹口・底端有	相鉄社多く含む、赤褐色 粒子少、黒色粒子多く含む	7.5YR8/4浅黃褐色	良好	口縁部欠損		
740	162	102	SX523	陶生土器・壺		(7.4)	(11.3)	(8.5)	内面凹口・内・底端縫	相鉄社少量含む	7.5YR8/4灰褐色～7.5YR8/4灰 色	中中不良	口縁部1/4焼存		
741	162	102	SX523	陶生土器・壺		11.4	16.4	3.9	内面凹口・内・口縁端縫・内 底端縫	相鉄社少量含む	7.5YR7/4灰褐色～7.5YR7/3灰 色、黒斑あり	中中不良	彫形		
742	162	SX523	陶生土器・壺			(16.5)	(11.8)	(9.3)	内面凹口・上・口縁端縫・内 底端縫	相鉄社わずかに含む	7.5YR8/2灰褐色～7.5YR8/2灰 色、黒斑あり	良好			
743	162	SX523	陶生土器・壺			8.0			内面凹口・内・底端縫	相鉄社、赤褐色粒子少 く含む	10YR8/2灰褐色	良好	頭部の2/3焼存		
744	162	102	SX523	陶生土器・壺			(12.8)			内面凹口・内・底端縫	相鉄社、赤褐色粒子少 く含む	10YR7/3灰褐色	良好	口縁部1個	
745	162	102	SX523	陶生土器・壺		(20.2)			内面凹口・内・底端縫	相鉄社含む	10YR7/3灰褐色	良好	口縁部2個		
746	162	102	SX523	陶生土器・壺		(24.0)	(27.25)	(5.8)	内面凹口・内・底端縫	相鉄社少量含む	7.5YR8/4浅黃褐色	中中不良	頭部の1/2焼存		
747	162	SX523	陶生土器・壺			(12.0)		(5.2)	口縫端縫	相鉄社多く含む	2.5YR8/2灰褐色、黒斑あり	良好	口縁部1/4焼存		
748	162	SX523	陶生土器・壺			(14.3)		(10.55)	口縫端縫	相鉄社少量含む	7.5YR8/4浅黃褐色～7.5YR8/4灰 色	良好	彫形1/1焼存		
749	162	SX523	陶生土器・壺			(14.9)	(27.0)	(11)	内面凹口・全底に施すT字	相鉄社少量含む	7.5YR8/4浅黃褐色～7.5YR8/4灰 色	良好	彫形1/1焼存		
750	162	102	SX523	陶生土器・壺			(26.4)	(8.4)	(20.2)	内面凹口・内・底端縫	相鉄社や多く含む	7.5YR7/4灰褐色	良好	頭部1/2・底 部1/2焼存、頂上 部灰化	
751	162	SX523	陶生土器・壺				(14.0)	(8.8)		内面凹口・内・底端縫	相鉄社・金屬物像複数少 少含む	7.5YR8/4灰褐色～7.5YR8/4灰 色	良好	頭部1/2焼存	
752	162	102	SX523	陶生土器・壺		(21.0)		(13.25)	口縫端縫・外縫端縫	相鉄社少量含む	10YR7/3灰褐色	普通	口縫端縫・頂上		
753	162	SX523	陶生土器・壺			5.8	(9.1)		内面凹口・内・底端縫	相鉄社や多めに含む	10YR7/4灰褐色～7.5YR7/4灰 色、黒斑あり	良好	底部1/2焼存		
754	162	SX523	陶生土器・壺			(18.0)	(13.0)		内面凹口・内・内底端縫	相鉄社や多く含む	7.5YR8/4浅黃褐色～7.5YR8/4灰 色、赤色斜面挑出	良好	頭部1/2・底 部1/2焼存、頂上 部灰化		
755	162	103	SX523	陶生土器・壺		(12)			内面凹口・内・底端縫	相鉄社含む	10YR7/2灰褐色	普通			
756	162	SX523	陶生土器・壺			(12)		(3.85)	内面凹口・上半部・底端縫	相鉄社・金屬物含む	10YR8/2灰褐色	普通			
757	162	SX523	陶生土器・壺			(15.4)		(5.7)	内面凹口	相鉄社・赤褐色粒子多 く、黒斑少含む	10YR7/3灰褐色	普通	口縫端縫・1H頭 部現存		
758	162	SX523	陶生土器・壺			(14.6)	4.2	5.45	内面凹口・内・底端縫	相鉄社・金屬物・黒斑少 少含む	7.5YR8/4灰褐色～7.5YR8/4灰 色	良好	頭部1/2焼存		
759	162	SX523	陶生土器・壺			(14.6)	3.2	6.1	内面凹口・上半部・底端縫	相鉄社や多く含む、赤褐色 粒子少含む	10YR7/2灰褐色	普通	口縫端縫・頂上		
760	162	SX523	陶生土器・壺			(14.4)	(4.7)	(5.7)	内面凹口	相鉄社や多く含む	10YR7/4灰褐色	良好	1/3焼存		
761	162	SX523	陶生土器・壺			(13.8)		(8.55)	内面凹口・中・底端縫	相鉄社や多く含む	SYR5/5赤褐色	良好	底部1/2焼存		
762	162	SX523	陶生土器・壺			(12.2)		(7.7)	内面凹口	相鉄社や多め、金属 物・赤褐色粒子少含む	7.5YR7/2灰褐色～10YR7/2灰 色	良好	口縫端縫・頂上		
763	162	SX523	陶生土器・壺			(16.8)		(2.6)	口縫端縫・外縫端縫	相鉄社・赤褐色粒子・金属 物少含む	10YR8/1-5SY8/1灰白色	良好	口縫端縫・棒柱 状黒斑少含む		
764	162	SX523	陶生土器・壺			(12.0)		(5.5)	内面凹口	相鉄社	ND灰色	良好	頭部1/4焼存		
765	162	SX523	陶生土器・壺			(15.4)		(2.1)	内面凹口	相鉄社	10YR7/2灰褐色	普通	手斧斜面現存		
766	162	SX527	青磚文土器・ 壺			(3.4)		(5.1)	内面裏側有	相鉄社や多く、赤褐色 粒子少含む	7.5YR7/2灰褐色	良好	口縫端縫1/8焼存		
767	162	SX527	青磚文土器・ 壺				(8.0)		内面裏側有	相鉄社や多く、赤褐色 粒子少含む	10YR7/4灰褐色	良好	口縫端縫		
768	162	SX527	青磚文土器・ 壺				(15.0)		内面凹口・内・底端縫	相鉄社や多く、赤褐色 粒子少含む	2.5YR8/4灰褐色～2.5YR8/4灰 色	良好	底部		
769	162	SX527	青磚文土器・ 壺			8.0	(3.5)		内面凹口・内・内底端縫	相鉄社や多く、赤褐色 粒子少含む	10YR8/2灰褐色～10YR8/2灰 色	良好	底部		
770	162	SX533	下層			(24.6)		(8.95)	外縫端縫・中・口縫端縫・内 底端縫	相鉄社や少含む	10YR8/3浅黃褐色、黒斑あり	良好	口縫端縫1/3焼存		
771	162	SX533	下層			(25.4)		(5.05)	外縫端縫・内・内底端縫	相鉄社や少含む に含む	7.5YR7/2灰褐色	良好	底部1/2下半 焼存		

品種番号	F1	生土連続	出土位置	器種・基準	測量 cm (標準±1cm)			測量	歯土	表面色調	構成	株内状況	
					口幅	翼幅	底形						
772	164	SX554	野生土-苔	曾 (20.4)		(4.2)	内面側(目付側)	砂粒や多く含む	10YR7/2(暗)-黄褐色(口端)~10YR7/2(黒面)	良好	口輪部1/16複数		
773	164	SX554	野生土-苔	曾 (24.2)		(3.45)	内面側(目付側)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	7.5YR7/2(暗)-褐色	良好	口輪部1/16複数		
774	164	SX554	野生土-苔	曾 (19.8)		(4.4)	外側(口端側)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	10YR7/2(深褐色)	良好	口輪部1/16複数		
775	164	SX554	野生土-苔	曾 (18.6)		(5.85)	内面(口端側)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	7.5YR7/2(灰黒)-10YR7/2(黒面)	良好	口輪部1/16複数		
776	164	SX554	野生土-苔 苔付			12.6	(5.6)	外側(口端側)付(削)、底部付	砂粒や多く含む	7.5YR7/2(灰黒)	良好	表面1.0複数	
777	164	SX554	野生土-苔 苔付			(14.4)	(6.05)	外側(口端側)付(削)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	7.5YR7/2(暗)-褐色	良好	表面1.0複数	
778	164	SX554	野生土-苔 苔付			(4.15)		外側(口端側)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	10YR7/2(暗)-黄褐色	良好	口輪部1/16複数	
779	164	103	SX554	野生土-苔 苔付		(11.8)	(10.7)	外側(ミズ)、口輪部(根出)付(削)	砂粒多く含む	5YR7/2(灰)~7.5YR7/2(灰白色)	良好	上部複数	
780	164	SX556	野生土-苔	曾 (13.4)	(10.8)	(6.6)	内面(心臓葉網内面)付(削)、削(付)	砂粒少含む	2.5YR7/2(灰)~5YR7/2(暗)	良好	口輪部1/16複数		
781	164	SX556	野生土-苔	曾		(4.9)	内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(浅灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部少部分		
782	164	103	SX556	野生土-苔 苔付		(25.3)	(28.3)	内面(削)付(削)、外側(ミズ)	砂粒少含む	7.5YR7/2(浅褐色)	中等不良	口輪部1/16複数	
783	164	SX556	野生土-苔 苔付			(4.6)		砂粒多く含む	10YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部少部分		
784	164	SX556	野生土-苔 苔付			(7.9)	(7.9)	外側(心臓葉網内面)付(削)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	5YR7/2(暗)-10YR7/2(灰)	良好	口輪部1/16複数	
785	164	SX556	野生土-苔 苔付			(2.6)		砂粒少含む	10YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部1/16複数		
786	164	SX556	野生土-苔 苔付			(3.95)		外側(口端後)付(削)、内面(ミズ)	砂粒少含む	7.5YR7/2(灰白)~7.5YR7/2(暗)	良好	口輪部少部分	
787	164	SX556	野生土-苔 苔付			(4.9)		外側(口端後)付(削)、内面(ミズ)	砂粒や多く含む	2.5YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部少部分	
788	165	SX559	下層-苔 苔付			(11.3)	(3.4)	外側(削)	砂粒少含む	7.5YR7/2(灰白)	中等不良	口輪部1/12複数	
789	165	SX559	下層-苔 苔付			(7.3)	3.3	内面(削)付(削)、体部外側-内面(削)	砂粒多く含む	10YR7/2(灰白)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部少部分	
790	165	SX559	化粧鉢 土器部-苔			(8.0)	4.1	内面(削)付(削)、体部外側-内面(削)	砂粒少含む	10YR7/1(灰白色)	良好	1/2輪複数	
791	165	SX559	下層-苔 土器部-苔			(3.4)		外側(削)付(削)、外側(削)以下 削(付)付(削)	砂粒少含む	2.5YR7/1(灰白色)	良好	口輪部小範囲	
792	165	SX559	化粧鉢 野生土-苔	曾 (8.6)		(6.2)		砂粒少含む	10YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部1/10複数		
793	165	SX559	黑色土器 野生土-苔	曾 (30.7)		(30.7)	内面(削)付(削)、内面(ミズ)	砂粒少含む	5YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部1/16複数		
794	165	SX559	黑色土器 野生土-苔	曾 (6.9)		(6.9)		砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部小範囲		
795	165	SX559	黑色土器 野生土-苔			(4.85)		外側(削)、内面(ミズ)	砂粒少含む	7.5YR7/2(灰)~7.5YR7/2(暗)	良好	口輪部小範囲	
796	165	SX559	黑色土器 野生土-苔			(5.45)		外側(削)、内面(ミズ)	砂粒少含む	10YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	口輪部小範囲	
797	165	SX559	化粧鉢 野生土-苔			(8.0)	(4.0)	外側(削)、内面(ミズ)	砂粒少含む	10YR7/1~2.5YR7/1(灰白色)	底盤1.0複数		
798	165	SX559	黑色土器 野生土-苔			9.0	(6.1)	外側(削)、内面(削)付(削)	砂粒少含む	7.5YR7/2(灰)~7.5YR7/2(暗)	普通	底盤のみ複数	
799	165	SX559	黑色土器 野生土-苔			(8.1)	(4.25)	外側(削)、内面(削)付(削)	砂粒や多く含む	10YR7/2(灰)~10YR7/2(暗)	良好	底盤1.0複数	
800	165	SX559	黑色土器 野生土-苔			7.4	(3.8)	外側(削)、内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	底盤のみ複数	
801	166	SX565	野生土-苔			11.0	(18.0)	内面(削)付(削)	砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	底盤のみ		
802	166	SX565	野生土-苔			7.5	(1.8)	内面(削)付(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	底盤、斜付1式		
803	166	SX565	野生土-苔			(10.0)		外側(削)付(削)、内面(削)付(削)	砂粒や多く含む	10YR7/1(3)~10YR7/1(3)	良好	口輪部1/4複数	
804	166	103	SX565	野生土-苔		7.6	(12.0)	外側(削)、内面(削)	砂粒や多く含む	10YR7/1(3)~10YR7/1(3)	底盤1.0複数		
805	166	SX568	野生土-苔			(4.2)		外側(削)付(削)	砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部少範囲	
806	166	SX571	野生土-苔			(16.4)	(8.4)	内面(削)付(削)、内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部1/4複数	
807	166	SX575	野生土-苔			(7.0)		内面(削)付(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部小範囲	
808	166	SX576	野生土-苔			(5.5)		外側(削)付(削)、内面(削)付(削)	砂粒や多く含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部小範囲	
809	166	103	SX604	土器部-裏剥		17.5	(4.05)	内面(削)付(削)、内面(削)	砂粒少含む	5YR7/2(暗)-褐色	良好	底盤	
810	166	101	SX434	土器部-社壇 曾 (2.4)					砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	口輪部少範囲	
811	166	101	SX436	下層 土器部-鉢		5.935.3	厚0.7	内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	斜付1式	
812	166	101	SX436	上層 土器部-鉢		4.235.2	厚0.8		砂粒少含む	10YR7/1(1)~10YR7/1(1)	良好	口輪部1/4複数	
813	166	SX436	下層 鉢底軋土			厚0.8		砂粒少含む	10YR7/2(暗)	良好	口輪部		
814	166	SX436	下層 不明軋土			厚0.5.7		砂粒少含む	10YR7/2(暗)	普通			
815	166	SX463	下層 植生土			厚0.3.2		砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)	良好			
816	166	SX536	植生土			2.1		砂粒少含む	10YR7/1(3)~10YR7/1(3)	良好			
817	170	104	SX467	便		(34.8)	22.8	外側(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)	良好	口輪部1/2複数	
818	170	104	SX467	便		29.0		外側(削)付(削)、内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)	良好	上半面	
819	170	104	SX467	便		22.0		砂粒少含む	10YR7/2(暗)	良好	口輪部		
820	170	104	SX467	便		17.8		外側(削)付(削)、内面(ナ)	砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	傾斜より上半面	
821	170	104	SX467	便		17.6	3.1	外側(削)	砂粒少含む	2.5YR7/2(暗)	良好	3/4片	
822	172	105	SP0296	便				内面(削)付(削)付(削)、外側(削)付(削)	砂粒少含む	10YR7/1(3)~10YR7/1(3)	良好	口輪部小範囲	
823	172	105	SP0363	便			(7.2)	便に木の裏剥離	砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)	良好	裏剥離	
824	172	105	SP0362	便			8.2	外側(削)底面、内面(ナ)	砂粒少含む	7.5YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	底面	
825	172	105	SP0653	便			6.2	内面(ナ)、内面(削)	砂粒少含む	10YR7/2(3)~10YR7/2(3)	良好	底面	
826	172	105	SP0421	便		19.4		内面(削)付(削)、内面(ナ)	砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	1/2片	
827	172	105	SP0641	便		13.3		砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	1/2片		
828	172	105	SP0641	便		(20.0)		砂粒少含む	10YR7/2(暗)-10YR7/2(暗)	良好	1/4片		
829	172	105	SP0645	便		11.5	9.0	外側(削)底面、内面(ナ)	砂粒少含む	2.5YR7/2(暗)	良好	2/3片	
830	172	105	SP0631 R-3	便		13.4	8.6	外側(削)底面、内面(ナ)	砂粒少含む	10YR7/4(3)~10YR7/4(3)	良好	底面	

番号	Fg.	PL	出土遺物	出土位置	器種・形態	出典	（注）複数一括	測定		測定	測定	外色調	測定	現存状況
								寸法	測定					
631	172	SP0012	鉢		(11.0)				内面ケズリ後段より、内面浅細 ナメ	砂粒少し食む	7.5YR6/2に少い褐色	良好	1/3片	
632	172	SP0031 R-1	縁付鉢				11.0		内面黒カスリ後段より、内面 浅細	砂粒少し食む	7.5YR6/6褐色	良好	同上	
633	172	SP0655	壺		26.0	17.0			内面ナグ、内面、内面底より ナメ	砂粒少し食む	10YR7/3に少い青褐色	良好	割削3~4欠損	
634	172	SP0562	壺						ナグ	砂粒少し食む	7.5YR6/6褐色	良好	1/2片	
635	172	SP0033	壺		(28.0)				内面生地粗目	砂粒少し食む	7.5YR6/2に少い褐色	良好	1/2片	
636	172	SP0659	壺		(28.0)				内面粗目	砂粒少し食む	7.5YR6/2に少い褐色	良好	1片	
637	172	SP0653	壺						内面粗目、内面底より ナメ	砂粒少し食む	7.5YR6/4に少い褐色	良好	下端部欠損	
638	172	SP0653	壺						外側粗目、内面ナグ	砂粒少し食む	10YR7/2に少い褐色	良好	上端部欠損	
639	172	SC0095	壺		(23.0)				砂粒少し食む	7.5YR6/4Lに少い褐色	良好	口縁部小片		
640	172	SP0473	壺		(21.0)				砂粒少し食む	10YR7/2に少い褐色	良好	口縁部		
641	172	SP0622	壺						砂粒少し食む	10YR7/2に少い褐色	良好	口縁部		
642	172	SP0189	壺		(33.0)				粗目、内面ナグ	砂粒少し食む	5YR6/6褐色	良好	口縁部	
643	172	SP0012	壺		(27.0)				粗目に少い突起	砂粒少し食む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部	
644	172	SP0542	壺		(27.5)				内面粗目、内面ナグ	砂粒少し食む	7.5YR7/3に少い褐色	良好	口縁部	
645	172	SP0572	壺		(27.0)				内面粗目	砂粒少し食む	7.5YR6/6褐色	良好	口縁部	
646	172	SP0572	壺		(27.0)				内面粗目	砂粒少し食む	10YR7/2に少い褐色	良好	口縁部	
647	172	SP0572	壺		(24.0)				内面粗目	砂粒少し食む	10YR7/2に少い褐色	良好	口縁部	
648	173	遺構面	西側	上縁部7-鉢	(10.0)		(3.0)		7"					
649	173	遺構面	O-24区	上縁部-東側	(11.0)		(3.15)	7"	全盤周縁強化がなからて 重石	砂粒少し食む	7.5YR4/2灰褐色	良好	口縁部	
650	173	遺構面	M-20区	生土上-苔	(16.0)		(3.0)		内面一口縁強化内面凹凸、強化 重石	砂粒少し食む	7.5YR7/1灰白色	良好	口縁部1/4残存	
651	173	遺構面	S-25区	生土上-苔	(24.0)		(4.0)		内面凹凸、内面凹、付目	砂粒少・内沢石粘土少 量重石	10YR4/2灰白色、一部2.5YR6/6 褐色(赤色風化)	良好	口縁部1/4残存	
652	173	遺構面	N-20区	生土上-苔	(20.0)		(1.7)	7D"		砂粒少すこから重石	7.5YR4/2灰褐色-7.5YR3/1灰褐色	良好	口縁部1/4残存	
653	173	遺構面	S-22区	生土上-苔			(7.0)		口縁部外側強化凹凸、内面凹 7"	砂粒少すこから重石	7.5YR6/6褐色	良好	口縁部小破片	
654	173	遺構面	M-20区	生土上-苔	(11.0)		(5.0)		外側強化、内面凹	砂粒少やや多く含む	5YR7/4灰褐色-5YR6/6褐色 風化	良好	約1/8残存、遮蔽 全大き	
655	173	遺構面	O-25区	生土上-苔	(19.0)		(5)		内面外側強化かくら、口縁部 外側-内面凹凸	砂粒少・全盤強化やや 多く含む	5YR6/4褐色	良好	口縁部1/4残存	
656	173	遺構面	O-21区	生土上-苔	(21.0)		(1.0)	7D"	内面凹凸	砂粒少すこから重石	2.5YR6/6褐色、内側凹 槽	良好	口縁部1/4残存	
657	173	遺構面	S-24区	生土上-苔			(8.7)	(4.0)	7"	砂粒少・内沢石粘土多 く含む	7.5YR6/6褐色	中や不良	直立3/4残存	
658	173	遺構面	O-24区	生土上-苔			(6)		内面強化かくら、内面凹	砂粒少・全盤強化やや 多く含む	5YR3/1灰褐色-5YR5/3灰褐色 風化	良好	口縁部小破片	
659	173	遺構面	P-22区	生土上-苔			(5.15)		内面凹凸	砂粒少・全盤強化や 多く含む	7.5YR6/6灰褐色	良好	口縁部小破片	
660	173	遺構面	O-22区	生土文-土器	(10.0)				内面凹凸	砂粒少・全盤弱化やや 多く含む	2.5YR6/6褐色	良好	口縁部1/2 柱	
661	173	遺構面	O-24区	生土文-土器			(5.0)		内面外側凹凸	砂粒少・内沢石粘土少 量重石	SYR3/1灰褐色(口縁)・良や青褐 ~SYR4/1褐色	良好	口縁部小破片	
662	173	遺構面	N-20区	生土上-苔			(7.5)	(2.7)	内面外側凹凸	砂粒少・内沢石粘土少 量重石	10YR7/2灰褐色	良好	直立1/4残存	
663	173	遺構面	P-21区	生土文-土器	(21.0)		(5.0)		貝殻集成	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	7.5YR7/3灰褐色-7.5YR2/3黑 色(風化)	良好	斜面寄倚付立1/6 残存	
664	173	埋瓦	P-20区	生土上-鉢	(20.0)		(10.0)		口縁部-側面内凹外凹小孔	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	7.5YR6/6灰白色、黒斑入り	良好	口縁部1/4残存	
665	173	埋瓦	Q-21区	生土上-苔	(20.0)		7.9	(4.45)	内面外側凹凸	砂粒少・内沢石粘土-全 盤弱化	7.5YR4/2灰褐色-2.5YR3/1灰褐色	良好	直立3/4残存	
666	173	遺構面	N-24区	上腹品-円錐	(50.0)		1.1		砂粒少	砂粒少・全盤弱化や 多く含む	7.5YR5/3灰褐色	良好	土器外利用	
667	176	SK491	生土上-苔		(20.0)		(15.0)		外側強化-内面凹凸	砂粒少・全盤弱化や 多く含む	10YR7/2-10YR7/4灰褐色、黄褐 色	良好	屑1/4残存	
668	176	SK492	R-6	生土上-苔	(24.0)		(13.05)		内面ニコロ-葉筋外側内面小孔 凹凸	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	10YR6/6淡黃色-5YR7/6褐色	良好	口縁部1/4残存	
669	176	SK492	R-2	生土上-苔	12.3	13.85	(13.65)		内面ニコロ-葉筋外側内面小孔 凹凸	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	10YR6/2灰褐色-10YR7/2褐色	良好	口縁部上半 1/4欠損	
670	176	SK492	R-4	土器-側	(16.0)		(7.05)		口縁部ニコロ-葉筋外側内面小孔 凹凸	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	10YR6/2灰褐色-10YR7/2褐色	良好	斜面1/4残存	
671	176	SK492	R-5	土器-高脚	輪形3.2	16.4	(10.2)		外側ヘリカガタ-葉筋外側内面小孔 凹凸	砂粒少・全盤弱化やや少 量重石	10YR7/2灰褐色-10YR9/2淡 黃褐色	良好	既然金銀	
672	176	SK492	R-1	生土上-苔		(12.0)			外側ナグ-内面小孔、内面ナグ	砂粒少・やや多く含む	10YR7/2-10YR7/3淡 黃褐色	良好	伴1/4残存	

Tab.4-2 N面山石群地質概要

地質番号	Fg	Fl	山地名	出土位置	岩種-西面	測量cm			石材	名詞	調査-参考
						高	幅	厚			
S1	88	S8579	SP0454	山石丁	(4.6)	4.7	0.7	0.7	砂輪切石	研磨場	
S2	132	S0268	轟下層	轟石-轟石	8.8	6.4	8.3	0.8	花崗岩	677/9/29青色	上部と底面は「草」を剥り
S3	132	S0269	轟面	轟石-轟石	5.9	7.2	4.7	0.8	花崗岩	677/1/反白色	1/4片
S4	132	S0269	轟下層	轟石	4.9	5.8	-	-	花崗岩	10/19/29/4/6青色	底面が削る
S5	132	S0269	下層	轟石	轟石12	2.6	2.6	0.8	花崗岩	677/1/反白色	上-底面削り、鉄打削、底に小口面で底削する
S6	132	S0269	石筋	長軸5.2	0.6	0.6	0.6	0.8	花崗岩	7.5/9/1灰色	研磨面削る
S7	132	S0269	轟下層	浮子	4.7	4	3.1	0.7	轟石	677/1/反白色	斜のけひし子切
S8	132	S0268	N21区	石灰米脂岩	14.6	7.2	4.4	0.8	花崗岩	60/4/1/鋸リーフ灰色	斜面底面が全面削る
S9	132	S0268	上層	轟石-轟石	7.5	9.5	6.15	0.8	花崗岩	N5/6灰色	上-底面削り全面削る
S10	132	S0268	轟面	轟石-轟石	8.25	9.9	3.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	上部削り全面削る
S11	132	S0268	下層	山石	10.3	6.1	3.8	0.8	花崗岩	2.5/9/29/4/6青色	底面削り、上-底面削りによる底みぞ
S12	132	S0268	N21区	轟石	(7.65)	10.5	6.0	0.8	花崗岩	10/19/29/4/6灰色	底面削り、上-底面削る
S13	132	S0268	轟面	轟石	2.5	8	1.5	0.8	花崗岩	10/19/1灰色	上-底面削る
S14	132	S0268	轟面	轟石	19.2	(11.7)	6.4	0.8	花崗岩	677/1/反白色	ト-底面-底面をT-C削は彌用
S15	132	S0268	N21区	石筋丁	(7)	4.15	0.6	0.8	花崗岩	2.5/3.5/4/6青み灰色	研磨で、外斜面用意用
S16	133	BD471	八ヶ岳	石筋丁-多脂岩	8.1	7.2	0.7	0.7	花崗岩	60/4/1/鋸リーフ灰	底面1/3の未溝直孔
S17	133	S0265	轟削石	轟石	(9.75)	6.5	-	-	花崗岩	10/19/1反白色	使用にこだわる直孔
S18	133	S0265	上層	山石丁	8.7	5.9	0.4	0.8	花崗岩	677/1/反白色	研磨仕上げで光沢化が美しい
S19	133	S0265	上層	轟石-石膏	5	5	4.4	0.8	花崗岩	10/19/1灰色	使用の船で削る
S20	133	S0265	上層	泥炭	5.9	6.2	4.7	0.8	花崗岩	677/2/8白色	研磨面有
S21	133	S0265	上層	有機石墨	(6)	(2.1)	0.7	0.8	花崗岩	10/19/2/8白色	研磨仕上げなし
S22	133	S0265	上層	轟石	5.7	6.7	8.2	0.8	花崗岩	10/19/1/6青み灰色	上-底面-大孔面と小口面が黒面
S23	133	S0265	上層	轟石	5.7	6.7	8.2	0.8	花崗岩	10/19/1白色	1/2欠損
S24	133	S0265	山石	孔径9.9	轟石4.3	4.6	4.5	0.8	花崗岩	10/19/1白色	研磨と下孔に削り船削成
S25	133	S0265	石膏	轟石	12.7	9.2	4.5	0.8	花崗岩	677/9/7-7黄色	表面と底面削成
S26	133	S0265	石膏	(5.2)	4.4	0.4	0.8	花崗岩	60/6/1/青色	表面の削りがひび	
S27	133	S0262	轟石	山石	8.8	13.8	4	0.8	花崗岩	2.5/9/1反白色	上部面と下口-側面に削打痕
S28	134	S0268	1区土塁群付近	轟石	2.2	1.3	0.4	0.8	花崗岩	677/1/光沢仕立った黒色	表面が白面で黒面は欠損
S29	134	S0268	轟石	2.1	2.65	0.9	0.8	花崗岩	677/1/光沢仕立った黒色	研磨仕上げなし	
S30	134	S0268	轟石	1.7	3.5	1.6	0.8	花崗岩	677/1/光沢仕立った黒色	研磨仕上げ無	
S31	134	S0268	轟石	2.8	1.9	0.2	0.8	花崗岩	7.5/4/1/5灰色	内斜丁等の二次調整	
S32	134	S0268	不規石器	山石	2.1	2	0.3	0.8	花崗岩	677/1/光沢仕立った黒色	全丁等と鋼鉄削成
S33	134	S0267	片割	山石	3.9	2.9	1.1	0.8	花崗岩	調査面がいかにも風化する	
S34	135	S0264	轟石	23.25	14.4	1.9-5	0.8	花崗岩	677/1/反白色	仕上げはまくら	
S35	158	SK460	轟石-石織			61/8/7.8			花崗岩系	10/19/2オリーブ黒色	打撃による側面削あり
S36	155	SK468	投入柱-片岩	石織	3.7	7.3	-	-	花崗岩	50/4/1/鋸リーフ反白色	研磨仕上げ
S37	155	SK475	山石		11.5	7.5	5.1	0.8	花崗岩	677/1/オリーブグリーン	上-下小口面-側面に削打痕有
S38	155	SK495	山石丁		5.5	5.1	0.4	0.8	花崗岩	2.5/19/1反白色	底の7.5mの孔(?)所陥る
S39	155	SK496	片割		13.8	8.05	4.2	0.8	花崗岩	10/19/1白色	人骨削成
S40	155	SK496	スクリュー-バー		7.95	3.6	-	-	花崗岩	7.5/5/1/特級反白色	研磨の削成に一次調整で刃削とする
S41	155	SK496	轟石	孔径4.3	61/4/4.8	4.9	1~	0.8	花崗岩	7.5/9/1/5灰色	研磨仕上げ削成
S42	155	SK496	轟石		7.45	4.9	-	-	花崗岩	10/19/1反白色	内斜丁等の二次調整
S43	155	SK496	轟石-片岩		11.2	6.2	4.2	0.8	花崗岩	7.5/4/1/5灰色	研磨仕上げ削成
S44	155	SK496	轟石-轟石		5.5	6.25	4.2	0.8	花崗岩	2.5/5/1/5黄色	上-右側面-下小口面で削打使成
S45	155	SK496	轟石-轟石		6.5	5	3.7	0.8	花崗岩	677/1/反白色	上-左側面で削打使成
S46	155	SK496	轟石		8	5.7	2.5	0.8	花崗岩	677/1/反白色	轟石の右斜面を削成したものの削成仕上げ
S47	155	SK496	轟石-轟石		2.7	9.9	2.4	0.8	花崗岩	677/1/反白色	轟石片が削成したものの削成
S48	155	SK496	轟石		2.2	2.7	0.5	0.8	花崗岩	2.5/9/1/光沢仕立った黒色	底の削成
S49	155	SK496	轟石		2	3.45	0.4	0.8	花崗岩	2.5/9/1/光沢仕立った黒色	上-左側面-奪取面削成
S50	155	SK496	轟石		2.7	1.85	0.4	0.8	花崗岩	677/1/反白色	削成仕上げ-黒面
S51	155	SK496	轟石		2.8	1.6	0.4	0.8	花崗岩	677/1/反白色	底面がぐるぐる。頭部と底
S52	155	SK496	轟石		2.8	1.45	0.35	0.8	花崗岩	677/1/反白色	削成仕上げ-黒面
S53	155	SK496	轟石-片岩		1.85	3.7	0.8	0.8	花崗岩	10/19/1/6青色	内斜丁等で削成
S54	155	SK496	轟石		1.6	4.8	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜丁等で削成
S55	155	SK496	轟石		1.6	4.9	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜丁等で削成
S56	155	SK495	上層	轟石	(7.55)	3.6	1.4	0.8	花崗岩	10/19/2/8白色	全斜面底面削成して使用
S57	155	SK495	上層	山石丁	(8.1)	4.2	0.6	0.8	花崗岩	677/1/光沢仕立った黒色	2.5mの円柱は7.5m
S58	155	SK495	上層北	新鉄筋柱	孔径0.7	6/10/8.6	0.8	0.8	花崗岩	2.5/5/1/反白色	
S59	155	SK495	上層	浮子	7.7	4.4	-	-	花崗岩	2.5/5/1/反白色	1/4片
S60	155	SK495	上層	轟石	2.7	1.85	0.4	0.8	花崗岩	2.5/5/1/反白色	削成仕上げ-黒面
S61	155	SK495	上層	轟石	2.8	1.6	0.4	0.8	花崗岩	2.5/5/1/反白色	表面は削成仕上げ-月角削成
S62	155	SK495	上層	轟石	2.8	1.45	0.35	0.8	花崗岩	2.5/5/1/反白色	削成仕上げ-黒面
S63	155	SK495	上層	轟石	1.85	3.7	0.8	0.8	花崗岩	10/19/1/6青色	内斜面削成
S64	155	SK495	上層	轟石	1.6	4.8	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S65	155	SK495	上層	轟石	1.6	4.9	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S66	155	SK495	上層	轟石	1.6	4.9	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S67	155	SK495	上層	轟石	1.8	4.2	0.8	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S68	155	SK495	上層	轟石	16.9	7.8	3.7	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S69	155	SK495	上層	轟石	6.7	5.5	3.25	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S70	155	SK495	上層	轟石	5.9	4.4	3.6	0.8	花崗岩	677/1/反白色	内斜面削成
S71	168	SK334	山石丁		10.8	12.85	9	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	内斜面削成
S72	169	SK333	不規石器		5.6	6.65	3.7	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	内斜面削成
S73	169	SK336	鉄鉋		9.05	4.8	2.5	0.8	花崗岩	2.5/9/1/1反白色	丁字等の研磨仕上げ
S74	169	SK337	山石丁		9.05	4.7	6.4	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	内斜面削成
S75	169	SK337	轟石		13.9	6.3	2.2	0.8	花崗岩	2.5/5/1/1反白色	上-側面を削す
S76	169	SK334	轟石		16.9	7.8	3.7	0.8	花崗岩	677/1/反白色	基盤仕上げ-削打削成
S77	174	過境南	山石		6	7.8	0.4	0.8	花崗岩	677/1/1反白色	内斜面削成
S78	174	過境南	轟石		16.8	6.7	4.7	0.8	花崗岩	677/1/1反白色	内斜面削成
S79	174	110	轟石		(11.1)	9.2	3.4	3.4	花崗岩	10/19/1/1反白色	太削成仕上げ
S80	174	110	過境南	石織		10/19/1/1.3	1.3	1.3	花崗岩	10/19/1/1反白色	太削成仕上げ-ばね形
S81	174	過境南	轟石		5.3	6	5	0.8	花崗岩	677/1/1反白色	削成仕上げによる被削が残る
S82	174	過境南	轟石		14.6	11.8	5.6	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	削成仕上げ
S83	175	110	過境南	石織	3.2	6.25	0.7	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	削成仕上げによる被削が残る
S84	175	110	過境南	石織	1.5	2.35	0.2	0.8	花崗岩	677/1/1反白色	少しき物を削む
S85	175	110	過境南	石織	1.3	1.9	0.4	0.8	花崗岩	677/1/1反白色	少しき物を削む
S86	175	110	過境南	石織	3.15	1.7	0.35	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	先端と各部をケン引する
S87	175	110	過境南	石織	2.55	1.6	0.38	0.8	花崗岩	7.5/9/1/1反白色	内斜面に1等二次調整

Tab.4-3 3/面出土製品目録

器名番号	Fig.	PL.	出土場所	器種	測量(日本尺・厘米)				種類	木製?	備考
					高	幅	厚	目			
W1	86	SB579	柱根	(19.2)				(14.7)	クリ		
W2	86	SB579	櫛板	28.2	17.5	3.8			クリ		板状
W3	86	SB579	柱根	(15.7)				(14.7)	クリ	芯持材	
W4	86	SB579	櫛板	32.3	14.1	5.3			クリ		板状
W5	86	SB579	櫛板	29.8	12.5	3.8			クリ		板状
W6	86	SB579	櫛板	29.2	(18.5)	4.6			クリ		板状
W7	86	SB579	櫛板	31.5	19.2	2.8			クリ		板状
W8	86	SB579	櫛板	30.9	17.4	4.3			クリ		板状
W9	86	SB579	櫛板	30.4	(15.9)	3.8			クリ		板状
W10	86	SB594	柱根	(16.5)				18.8	ウスハラ製A	芯持材	
W11	86	SB594	櫛板	36.3	17.2	7.3			クリ		板状
W12	86	SB594	櫛板	29.4	14.5	4.5			タブノハ萬		板状
W13	86	SB594	櫛板	30.9	20.8	4.3			タブノハ萬		板状
W14	86	SB594	柱根	(28.2)				18.7	芯持材		
W15	86	SB594	櫛板	32.1	17.5	2.7			タブノハ萬		板状
W16	86	SB594	柱根	(21.6)				18.4	クリ	芯持材	
W17	87	SB598	櫛板	34.8	16.3	3.5			クリ		板状
W18	87	SB598	櫛板	29.1	18.9	4.3			クリ		板状
W19	87	SB598	櫛板	31.8	16.5	4.1			クリ		板状
W20	87	SB598	櫛板	32.5	15.6	2.7			クリ		板状
W21	87	SB598	櫛板	32.9	16.4	3.8			クリ		板状
W22	87	SB598	櫛板	26.7	23.8	4.2			クリ		板状
W23	87	SB598	櫛板	35.5	12.8	6.9			ウメ		半圓
W24	87	SB598	櫛板	32.5	15.7	2.7			モモ		半圓
W25	87	SB598	柱根	(46.0)	7.7	2.7			板材		半圓
W26	87	SB598	櫛板	(60.1)	18.0	4.7			クリ		半圓
W27	87	SB592	櫛板	36.5	16.3	5.5			組合せ式		
W28	87	SB592	櫛板	43.8	11.2	6.9			組合せ式		
W29	87	SB592	櫛板	59.2	13.0				組合せ式		
W30	87	SB592	櫛板	56.0	8.8	6.1			組合せ式		
W31	87	SB592	櫛板	44.7	13.9	7.7			組合せ式		
W32	88	SB592	柱根	(39.9)				12.0	クリ	芯持材	組合せ式
W33	88	SB592	櫛板	42.7	11.2	6.8			クリ		組合せ式
W34	88	SB592	櫛板	52.0	12.5	6.8			クリ		組合せ式
W35	88	SB592	柱根	(26.9)				15.3	クリ	芯持材	組合せ式
W36	88	SB592	櫛板	38.3	16.7	7.1			クリ		組合せ式
W37	88	SB592	柱根	(18.3)				12.3	クリ	芯持材	組合せ式
W38	88	SB592	櫛板	(36.8)	(7.8)	3.1			クリ		組合せ式
W39	88	SB592	柱根	(38.8)				13.4	クリ	芯持材	組合せ式
W40	88	SB589	櫛板	39.5	11.4	5.8			コナラ属ナツ系属 コナラ把		組合せ式
W41	88	SB589	柱根	(23.1)				10.4	(クリ)	芯持材	組合せ式
W42	88	SB589	櫛板	(36.0)	8.0	4.5			クリ		組合せ式
W43	88	SB589	柱根	(31.7)				18.7	クリ	芯持材	
W44	88	SB507	柱根	(40.7)				18.0	(アカガシ系属)		新部分欠落
W45	96	SD588	一輪	(87.9)	刀幅(17.9)	刀部長30.4					
W46	96	SD588	櫛板	50.0	13.0	10.9					
W47	99	SD589	櫛板	60	14.2	1.9			板材		
W48	100	SD589	板材	(136.1)	16.5	2.7					
W49	100	SD589	櫛板	(78.6)	(21.6)	9.3			クリ	刃材	一段削けている
W50	101	SD589	板材	(98.7)					8.2X4.8cm	芯持材	一段削けた刃材、欠け込み
W51	101	SD589	板材	(98.2)					6~8cm	芯持材	一段削けた刃材、欠け込み
W52	101	SD589	櫛板	183.7					6.2~7.8cm	芯持材	下端に机紋に彫られ、上端は丸く削けた刃材
W53	101	SD589	板材	161.4				6.2~7.3		柳皮が削られた芯持材	両端に削り加工された棒状のものか?
W54	101	SD589-4E	板	(175.6)				6.2~9	ツバキ属	白桐木	
W55	102	SD589	板材	(116.8)				12.8~13.1	芯持材	両穴6.8X13.8	
W56	102	SD589	櫛板	(166.6)				裏坪100cm~	芯持材		
W57	102	SD589	板材	245.7				5.8~8.5		板材か	
W58	102	SD589	板材	264.6				7.5~9		板材か	
W59	118	SD588	又歯	(33.0)	[3.8]	0.6			コナラ属ナツカシ 葉属	板材	刃部破片
W60	119	SD588	奥具	(13.6)	(13.0)	1.2			コナラ属ナツカシ 葉属	板	弧形V字
W61	152	SK555	櫛板?	40.1		7.6~8.3			マツ属	芯持材	両刃を削いた丸太の端部削る
W62	167	SK435	板材	18.0	8.0	0.8			スギ	板材	削毛孔削除?
W63	167	SK435	板材	17.7	9.7	0.9~1.0			スギ	板材	削毛孔削除?
W64	167	SK435	板材木製品?	(17.9)	2.5	0.2			針葉樹?	芯持材	
W65	167	SK435	板	(15.4)	2.5	1.2			山松?	芯持材	先端部丸み
W66	167	SK435	板	(15.4)	2.5	1.2			ヒノキ?	芯持材	先端部丸み
W67	167	SK435	板	(15.4)	2.5	1.2			スギ?	板材	
W68	167	SK435	板	79.4	7.2	3.2			スギ?	芯持材	
W69	167	SK435	板材	113.4	15.7	2.6			スギ?	板材	
W70	104	SP290	木棒	9.0	1.2	0.9					

報告書抄録

書名ふりがな	しもつきぐましいいせきV		
書名	下月限C遺跡V		
副書名	福岡空港周辺整備工事に伴う下月限C遺跡6次発掘調査報告 本文編		
巻次	V		
シリーズ書	福岡市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	839		
編著者名	山崎龍雄・上角智希		
著者名	黒澤一男・佐藤洋一郎・高橋敦・所一男・新山雅広・三村昌史・山形秀樹・上角智希・山崎龍雄		
編集機関	福岡市教育委員会(埋蔵文化財課)		
発行機関	福岡市教育委員会		
機関所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目6番1号		
発行年月日	20050331		
遺跡名ふりがな	しもつきぐましいいせき		
遺跡名	下月限C遺跡V	北緯(日本測地系)	33°34'02"
所在地ふりがな	ふくおかげんふくわかはしかたくつきぐま	東經(日本測地系)	130°27'47"
遺跡所在地	福岡県福岡市博多区月限4丁目	北緯(世界測地系)	33°34'13"
市町村コード	40135	東經(世界測地系)	130°27'38"
遺跡番号	022625	調査期間	20000401~20010330
調査原因	調節池工事	調査面積	10,710m ²
種別	集落 条里 水田 河川		
主な時代	弥生時代 古墳時代 奈良時代~中世		
主な遺構	竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑・樹列・杭列・河川・溝・堤・護岸遺構・水田		
主な遺物	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・鉢斧・土製品・石製品・木製品・挂軸部材		
特記事項	弥生時代集落・条里水田・古代祭祀遺物・中世集落		

下月限C遺跡

V

-本文編-

福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書
(第839号)編集・発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1
平成17年3月31日
☎ 092 (711) 4667印 刷 株式会社マリックス
福岡市西区油水2-11-1 マリックスビル